

日野市在宅療養体制構築のための基本方針策定にかかる

アンケート調査報告書

平成 30 年（2018 年）3 月

日 野 市

# 目次

1	アンケート調査の実施概要	1
1.1	調査の背景と目的	1
1.2	調査の方法	1
1.3	調査項目	2
1.4	回収結果	6
1.5	集計の方法	7
2	市民アンケート調査結果	12
2.1	調査結果の概要	12
2.2	回答者の属性	15
2.3	市民の受療に関する意識と動向	24
2.4	市民の在宅療養に関する意見	70
3	医療機関アンケート調査（診療所）	112
3.1	調査結果の概要	112
3.2	回答者の属性	116
3.3	診療体制について	131
3.4	患者数等の状況について	162
3.5	他の医療機関との連携状況について	170
3.6	在宅療養の取組み状況	190
3.7	訪問診療の取組み状況	205
3.8	往診の取組み状況	220
3.9	看取りの取組み状況	224
3.10	在宅療養への意見	229
4	医療機関アンケート調査（病院）	236
4.1	調査結果の概要	236
4.2	回答者の属性	239
4.3	診療体制について	243

4.4	患者数等の状況について	250
4.5	退院支援の取組み状況について	252
4.6	在宅療養の取組み状況	256
4.7	訪問診療の取組み状況	258
4.8	往診の取組み状況	260
4.9	看取りの取組み状況	261
4.10	在宅療養への意見	262

# 1 アンケート調査の実施概要

## 1.1 調査の背景と目的

日野市は「住み慣れた地域で生き、看取られる、暮らし・福祉・医療の展開」を市政の基本姿勢として、在宅療養（住み慣れた自宅や地域で、医療・看護・介護などの支援を受けながら療養生活をする）の支援体制を構築し、地域包括ケアシステムの充実を目指しています。

今般、市民の方々、市内の医療機関の方々の意識、実態、ニーズ等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

今後、本調査結果を踏まえて、市民の皆様が安心して地域で暮らし続けられるまちづくりを進めるための関係者間における共通の指針となる「日野市在宅療養体制構築のための基本方針」の策定に向けた検討を進めてまいります。

## 1.2 調査の方法

「日野市在宅療養体制構築のための基本方針策定にかかるアンケート」として、市内の各関係主体向けに以下の3種類の調査票を作成し、アンケート調査を実施しました。

- ①市民アンケート調査
- ②医療機関アンケート（診療所向け）調査
- ③医療機関アンケート（病院向け）調査

### ① 市民アンケート調査

- ・対象者：平成30年1月1日時点で市内在住の40歳以上の方から、年齢階層及び中学校区ごとに無作為に抽出した2,760名
- ・配布方法：郵送にて配布・回収
- ・調査期間：平成30年2月23日～3月9日

### ② 医療機関アンケート（診療所向け）調査

- ・対象施設：市内で一般診療を行っている全ての診療所及び歯科診療所（計195か所）
- ・配布方法：郵送にて配布・回収
- ・調査期間：平成30年2月23日～3月9日

- ③ 医療機関アンケート（病院向け）調査
- ・対象施設：市内全ての病院（7か所）
  - ・配布方法：郵送又は直接配布・回収
  - ・調査期間：平成30年2月23日～3月9日

### 1.3 調査項目

各アンケートにおける調査項目は、それぞれ下記のように設定しました。  
個々の設問や選択肢については各調査票をご参照ください。

#### ◆市民アンケート

区分	調査項目
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢</li> <li>・性別</li> <li>・居住地域（中学校区、日常生活圏域）</li> <li>・要支援・要介護度</li> <li>・世帯人数、世帯構成</li> </ul>
医療に関する経験等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医やよく受診する病院の所在地</li> <li>・かかりつけ医やよく受診する病院への通院手段、所要時間</li> <li>・充実して欲しい診療科</li> <li>・独力で通院困難となった場合の希望</li> <li>・在宅看取りの経験、意識</li> <li>・最期を迎えるときの場所や延命治療の希望</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
在宅療養に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養を知っているか</li> <li>・訪問診療、往診、訪問歯科診療を知っているか</li> <li>・訪問診療、往診、訪問歯科診療の利用実態</li> <li>・在宅療養という選択肢に対する意見</li> <li>・在宅療養への不安</li> <li>・在宅療養の支援体制の充実に対する意見・要望</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

◆医療機関アンケート（診療所向け）

区分	調査項目
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地域（中学校区、日常生活圏域）</li> <li>・開業年数</li> <li>・事業承継の予定</li> <li>・標榜診療科</li> <li>・併設施設、連携施設</li> <li>・レセプト電算化、電子カルテ導入の状況</li> <li>・遠隔診療の実施状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
診療体制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療体制、時間</li> <li>・医師・歯科医師の年代別の人数</li> <li>・医療従事者の職種別の人数</li> <li>・常勤医師・歯科医師の居住地</li> <li>・医師・歯科医師、医療従事者の過不足状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
患者数等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者数</li> <li>・外来患者に占める高齢者の割合</li> <li>・患者数の動向</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
他の医療機関との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の診療所に患者を紹介する頻度</li> <li>・患者をよく紹介する病院</li> <li>・逆紹介の実態</li> <li>・紹介元の実態</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
在宅療養の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養のニーズの動向</li> <li>・在宅療養への考え方、取組み</li> <li>・在宅療養への対応状況</li> <li>・在宅療養支援（歯科）診療所の届出状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
訪問診療の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療の実施状況</li> <li>・訪問診療実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
往診の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・往診の実施状況</li> <li>・往診実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

区分	調査項目
看取りの取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看取りの実施状況</li> <li>・在宅看取りの対応方針</li> <li>・在宅看取り実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
在宅療養への意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職との連携の取りやすさ</li> <li>・在宅療養関係者との連携において困難に感じていること</li> <li>・在宅療養支援体制の充実に向けて、どのような立場の関係者に全体のコーディネートを期待するか</li> <li>・在宅療養の支援体制の充実に対する意見等</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

◆医療機関アンケート（病院向け）

区分	調査項目
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地域（中学校区、日常生活圏域）</li> <li>・病床数</li> <li>・開業年数</li> <li>・標榜診療科</li> <li>・併設施設、連携施設</li> <li>・レセプト電算化、電子カルテ導入の状況</li> <li>・遠隔診療の実施状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
診療体制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療体制、時間</li> <li>・医師・歯科医師の年代別の人数</li> <li>・医療従事者の職種別の人数</li> <li>・常勤医師・歯科医師の居住地</li> <li>・医師・歯科医師、医療従事者の過不足状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
患者数等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者数</li> <li>・外来患者に占める高齢者の割合</li> <li>・入院受入れ患者数</li> <li>・入院患者に占める高齢者の割合</li> <li>・患者数の動向</li> </ul>

区分	調査項目
	等
退院支援等の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介率、逆紹介率</li> <li>・ 病診連携の傾向</li> <li>・ 退院患者の総数、退院先の構成</li> <li>・ 退院時カンファレンスを実施した患者割合</li> <li>・ 退院時カンファレンスに参加するスタッフの範囲</li> <li>・ 退院支援担当者の配置人数、過不足感</li> </ul> 等
在宅療養の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅療養のニーズの動向</li> <li>・ 在宅療養への考え方、取組み</li> <li>・ 在宅療養への対応状況</li> <li>・ 在宅療養支援病院の届出状況</li> </ul> 等
訪問診療の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問診療の実施状況</li> <li>・ 訪問診療実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> 等
往診の取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 往診の実施状況</li> <li>・ 往診実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> 等
看取りの取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅看取りの実施状況</li> <li>・ 在宅看取りの対応方針</li> <li>・ 在宅看取り実施上の困難・不安、実施していない理由</li> </ul> 等
在宅療養への意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職との連携の取りやすさ</li> <li>・ 在宅療養関係者との連携において困難に感じていること</li> <li>・ 在宅療養支援体制の充実に向けて、どのような立場の関係者に全体のコーディネートを期待するか</li> <li>・ 在宅療養の支援体制の充実に対する意見等</li> </ul> 等



## 1.4 回収結果

アンケートの種類	配布枚数	回収枚数	有効回答数*1	有効回答率
市民アンケート	2,760	1,278	1,252	約 45%
医療機関アンケート (診療所向け)	195	76	76	約 39%
医療機関アンケート (病院向け)	7	4	4	約 57%

\*1：有効回答については、集計日（平成 30 年 3 月 12 日）までに提出があったものの中から、以下の基準を満たすものを算出。

- ・市民アンケート…年齢・居住地に関して回答されていたもの
- ・医療機関アンケート…設問に 1 つでも回答されていたもの

### 【市民アンケートにおける中学校区・年代別の有効回答率】

中学校区	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代～	合計
大坂上	33%	26%	51%	58%	48%	43%
日野第一	26%	36%	45%	52%	57%	43%
日野第二	26%	41%	42%	64%	70%	48%
日野第四	30%	33%	43%	65%	61%	47%
七生	25%	36%	58%	72%	62%	51%
三沢	33%	48%	58%	68%	52%	52%
日野第三	28%	22%	26%	46%	48%	34%
平山	30%	42%	48%	49%	55%	45%
合計	29%	36%	46%	59%	57%	45%

※各中学校区に該当する住所地

大坂上	新町 1～5 丁目、栄町 1～5 丁目、大坂上 1～4 丁目、神明 1～4 丁目、日野台 1～3 丁目、多摩平 7 丁目
日野第一	日野本町 1～7 丁目、日野、万願寺 1～4 丁目、上田、宮
日野第二	日野台 4～5 丁目、多摩平 2・4～6 丁目、豊田、東豊田 2～4 丁目、豊田 1～4 丁目
日野第四	さくら町、多摩平 1・3 丁目、富士町、旭が丘 1～6 丁目、東平山 3 丁目、西平山 3～5 丁目
七生	川辺堀之内、東豊田 1 丁目、南平 1～9 丁目
三沢	万願寺 5～6 丁目、石田、石田 1～2 丁目、新井、高幡、三沢、三沢 1～3 丁目、百草、落川
日野第三	三沢 4・5 丁目、程久保、程久保 1～8 丁目
平山	平山 1～6 丁目、東平山 1～2 丁目、西平山 1～2 丁目

## 1.5 集計の方法

多肢選択式の設定における各選択肢の構成比率は、当該設問に対する有効回答者数を母数として算出しています。なお、小数点以下第1位を四捨五入して記載しているため、各選択肢の構成比率を合計しても100%とはならない場合があります。また、当てはまるものを複数選択する設問については、各選択肢の構成比率の合計は100%とはなりません。

市民アンケートについては、日野市における年齢階層別・中学校区別の人口構成比率と、アンケート回答者の年齢階層別・中学校区別の人数構成比率で差が見られたため、より正確に日野市の実態を反映した分析を行うために、「ウェイトバック集計」と呼ばれる手法を用いて集計を行いました。

ウェイトバック集計とは、回答者の構成比率をアンケート対象者の構成比率に合わせるために補正を行う手法です。以下で、例を用いて説明します。

### 1) 補正係数の導出

#### ■ 実際の人口構成

	40代	50代	合計
A町	100人	150人	250人
B町	300人	250人	550人
合計	400人	400人	800人

#### ■ 回答者の人数構成

	40代	50代	合計
A町	10人	10人	20人
B町	20人	40人	60人
合計	30人	50人	80人

#### ■ 補正係数の導出

	実際の人口	実際の人口構成比	人口構成比に基づく理想的な回答者数	実際の回答者数	補正係数 (理想的な回答者数÷実際の回答者数)
A町40代	100人	12.5%	80人×12.5%=10人	10人	10人/10人=1.00
A町50代	150人	18.6%	80人×18.6%=15人	10人	15人/10人=1.50
B町40代	300人	37.5%	80人×37.5%=30人	20人	30人/20人=1.50
B町50代	250人	31.3%	80人×31.3%=25人	40人	25人/40人=0.63
合計	800人	100%	80人	80人	—

※四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合があります。

## 2) 補正係数を用いた集計値の補正

### ① 複数の選択肢から1つを選ぶ設問の場合

#### ■ 補正前

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	合計
A 町 40 代	5 人	2 人	3 人	10 人
A 町 50 代	3 人	3 人	4 人	10 人
B 町 40 代	10 人	5 人	5 人	20 人
B 町 50 代	12 人	15 人	13 人	40 人
合計	30 人	25 人	25 人	80 人
比率	37.5%	31.3%	31.3%	100%

#### ■ 補正後

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	合計
A 町 40 代	5 人×1.00= 5 人	2 人×1.00= 2 人	3 人×1.00= 3 人	10 人
A 町 50 代	3 人×1.50= 5 人	3 人×1.50= 5 人	4 人×1.50= 6 人	15 人
B 町 40 代	10 人×1.50=15 人	5 人×1.50= 8 人	5 人×1.50= 8 人	30 人
B 町 50 代	12 人×0.63= 8 人	15 人×0.63= 9 人	13 人×0.63= 8 人	25 人
合計	32 人	23 人	25 人	80 人
比率	40.0%	29.2%	30.8%	100%

※四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合があります。

なお、問ごとの回答者の合計が N=100 未満の場合で各年代・地域の回答者が四捨五入の結果 N=0 となる場合、切り上げて N=1 として処理をしています。

(問 3 - 5 該当)

② 複数の選択肢から当てはまるもの全てを選ぶ設問の場合

■ 補正前

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	回答者計
A 町 40 代	3 人	3 人	8 人	2 人	10 人
A 町 50 代	5 人	5 人	3 人	2 人	10 人
B 町 40 代	12 人	15 人	8 人	5 人	20 人
B 町 50 代	30 人	20 人	15 人	18 人	40 人
合計	50 人	43 人	34 人	27 人	80 人
比率	62.5%	53.8%	42.5%	33.8%	—

■ 補正後

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	回答者計
A 町 40 代	3 人×1.00 = 3 人	3 人×1.00 = 3 人	8 人×1.00 = 8 人	2 人×1.00 = 2 人	10 人×1.00 = 10 人
A 町 50 代	5 人×1.50 = 8 人	5 人×1.50 = 8 人	3 人×1.50 = 5 人	2 人×1.50 = 3 人	10 人×1.50 = 15 人
B 町 40 代	12 人×1.50 = 18 人	15 人×1.50 = 23 人	8 人×1.50 = 12 人	5 人×1.50 = 8 人	20 人×1.50 = 30 人
B 町 50 代	30 人×0.63 = 19 人	20 人×0.63 = 13 人	15 人×0.63 = 9 人	18 人×0.63 = 11 人	40 人×0.63 = 25 人
合計	47 人	46 人	34 人	24 人	80 人
比率	59.1%	56.9%	42.3%	29.7%	—

※小数点の四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合があります。

なお、問ごとの回答者の合計が N=100 未満の場合で各年代・地域の回答者が四捨五入の結果 N=0 となる場合、切り上げて N=1 として処理をしています。  
(問 2 - 1 2 該当)

(3) 補正済みの集計値を用いた分析

上記(2)の処理によって補正した集計値に対して、単純集計、クロス集計等の分析を行います。

■ 日野市の40代以上の人口構成比率

	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
大坂上	4.2% (4,487人)	3.2% (3,394人)	2.9% (3,111人)	2.6% (2,763人)	1.6% (1,754人)	14.4% (15,509人)
日野第一	5.2% (5,629人)	3.5% (3,781人)	2.8% (2,983人)	2.4% (2,636人)	1.6% (1,694人)	15.5% (16,723人)
日野第二	3.6% (3,918人)	2.4% (2,601人)	2.5% (2,706人)	2.3% (2,513人)	1.8% (1,958人)	12.7% (13,696人)
日野第四	4.0% (4,354人)	3.2% (3,500人)	2.5% (2,735人)	2.1% (2,218人)	1.4% (1,486人)	13.3% (14,293人)
七生	2.8% (2,983人)	2.4% (2,542人)	2.1% (2,292人)	2.2% (2,372人)	1.3% (1,424人)	10.8% (11,613人)
三沢	5.0% (5,374人)	4.2% (4,495人)	3.7% (3,945人)	3.7% (3,953人)	2.4% (2,585人)	18.9% (20,352人)
日野第三	1.2% (1,325人)	1.1% (1,206人)	1.2% (1,339人)	1.4% (1,481人)	0.9% (1,023人)	5.9% (6,374人)
平山	2.0% (2,168人)	1.5% (1,566人)	1.6% (1,720人)	2.1% (2,256人)	1.3% (1,427人)	8.5% (9,137人)
合計	28.1% (30,238人)	21.4% (23,085人)	19.3% (20,831人)	18.7% (20,192人)	12.4% (13,351人)	100.0% (107,697人)

出所：日野市「男女別町名別人口統計 平成30年1月1日」

■ 回答者の構成比率

	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
大坂上	1.8% (23人)	1.4% (18人)	2.8% (35人)	3.2% (40人)	2.6% (33人)	11.9% (149人)
日野第一	1.4% (18人)	2.0% (25人)	2.5% (31人)	2.9% (36人)	3.1% (39人)	11.9% (149人)
日野第二	1.4% (18人)	2.2% (28人)	2.3% (29人)	3.5% (44人)	3.8% (48人)	13.3% (167人)
日野第四	1.7% (21人)	1.8% (23人)	2.4% (30人)	3.6% (45人)	3.4% (42人)	12.9% (161人)
七生	1.4% (17人)	2.0% (25人)	3.2% (40人)	4.0% (50人)	3.4% (43人)	14.0% (175人)
三沢	1.8% (23人)	2.6% (33人)	3.2% (40人)	3.8% (47人)	2.9% (36人)	14.3% (179人)
日野第三	1.5% (19人)	1.2% (15人)	1.4% (18人)	2.6% (32人)	2.6% (33人)	9.3% (117人)
平山	1.7% (21人)	2.3% (29人)	2.6% (33人)	2.7% (34人)	3.0% (38人)	12.4% (155人)
合計	12.8% (160人)	15.7% (196人)	20.4% (256人)	26.2% (328人)	24.9% (312人)	100.0% (1,252人)

■ 本調査で用いた補正係数

	40代	50代	60代	70代	80代以上
大坂上	2.2679	2.1920	1.0333	0.8030	0.6179
日野第一	3.6355	1.7582	1.1186	0.8512	0.5050
日野第二	2.5304	1.0799	1.0848	0.6640	0.4742
日野第四	2.4103	1.7691	1.0598	0.5730	0.4113
七生	2.0399	1.1821	0.6661	0.5515	0.3850
三沢	2.7163	1.5835	1.1465	0.9778	0.8348
日野第三	0.8107	0.9347	0.8648	0.5380	0.3604
平山	1.2002	0.6278	0.6059	0.7714	0.4366

## 2 市民アンケート調査結果

### 2.1 調査結果の概要

#### <回答者属性について>

- 高齢者層を中心として、各地域から概ね満遍なく回答が得られている。
- 要支援又は要介護の認定率は、40歳代から60歳代までは1~2%程度、70歳代で7%程度、80歳代以上で35%程度となっている。
- 世帯人数は、単身世帯・2人暮らし世帯の割合は60歳代以上で大きく増加し、年代が上がるほど増加している。一方で、80歳代以上においても、約3割は3人以上の世帯で暮らしている。
- 高齢者の34%は、20歳以上の子どもと同居している。

#### <市民の受療に関する意識と動向について>

- 健康や治療上の不安についてかかりつけ医に相談する割合について、年代が上がるにしたがって高くなっており、70歳代以上の約8割がかかりつけ医に相談するとしている。
- かかりつけ医について、約8割の回答者が内科を挙げており、次いで約4割の回答者が歯科を挙げている。
- 地域の中でかかりつけ医を持っている人の割合は、概ね自身が居住する中学校区内にかかりつけ医を持つ割合が最も多くなっているものの、地域によってばらつきが生じている。中学校区ごとの高齢者の地域完結率を見ると、三沢（70%）が最も高く、日野第三（29%）が最も低くなっている。市外にかかりつけ医を持つ割合は14%、かかりつけ医がいない割合は8%となっている。
- かかりつけ医への通院手段は徒歩が最も多く、次いで自動車となっている。自転車、バス、電車の利用割合については、地域差が比較的大きく見られる。
- かかりつけ医への通院の所要時間については、8割以上の人が30分以内に通院することができている。
- よく受診する病院については、日野市立病院が約2割となっており最多である一方、市外の病院も約2割となっている。
- 病院への通院手段は自動車が最も多く、次いで徒歩となっている。その他の通院手段については、地域差が比較的大きく見られる。

- 病院への通院の所要時間については、全市的に見ると 65%の人が 30 分以内で通院することができているが地域差は大きく、最多の大坂上では 85%であるのに対して最少の平山では 46%となっている。また、通院に 1 時間以上を要する人も各地域に一定割合見られる。
- 入院先の病院については、市外の病院が市内の病院を大きく上回っており、入院経験者の 65%が市外の病院に入院している。
- 退院時に自宅近くの診療所を紹介される割合は、全市的に見ると 12%となっているが、年代や地域による差が大きくなっている。
- 退院時の不安については、特になしが大半であるが、不安として挙げられた事項の中では、通院時の移動の不便さが最多となっている。
- 診療科の充実に関する要望について、多い順に、内科、整形外科、耳鼻咽喉科となっている。
- 独力で通院困難になった場合の希望については、今の自宅のまま通院しなくてもよい療養生活をしたいという回答が 64%となっている。
- 自宅生活を継続する場合に求めるサポートについては、医師や看護師による自宅訪問の希望が約半数を占めている。
- 在宅看取りの経験は 10%となっており、その経験から困ったこと、良かったこと等について同程度のコメントが寄せられている。困ったことについては家族の疲労・負担、サポート体制が不十分であったことに関するコメントが多く、良かったことについては最期まで近くで一緒に過ごせたことに関するコメントが多くなっている。
- 家族を在宅で看取ることについて、何らかの看取りの意向がある人が 55%、自宅では看取れないと思う人が 45%となっている。
- 自身の最期を迎える場所の希望については、全市的に見ると病院で最期を迎える希望と自宅で最期を迎える希望が同程度となっているが、高齢者の方が病院で最期を迎える希望が多くなっている。延命治療の希望については、全年代を通して、積極的な延命治療の希望はほとんどなく、緩和ケアを希望する人が大半となっている。



## ＜市民の在宅療養に関する意見について＞

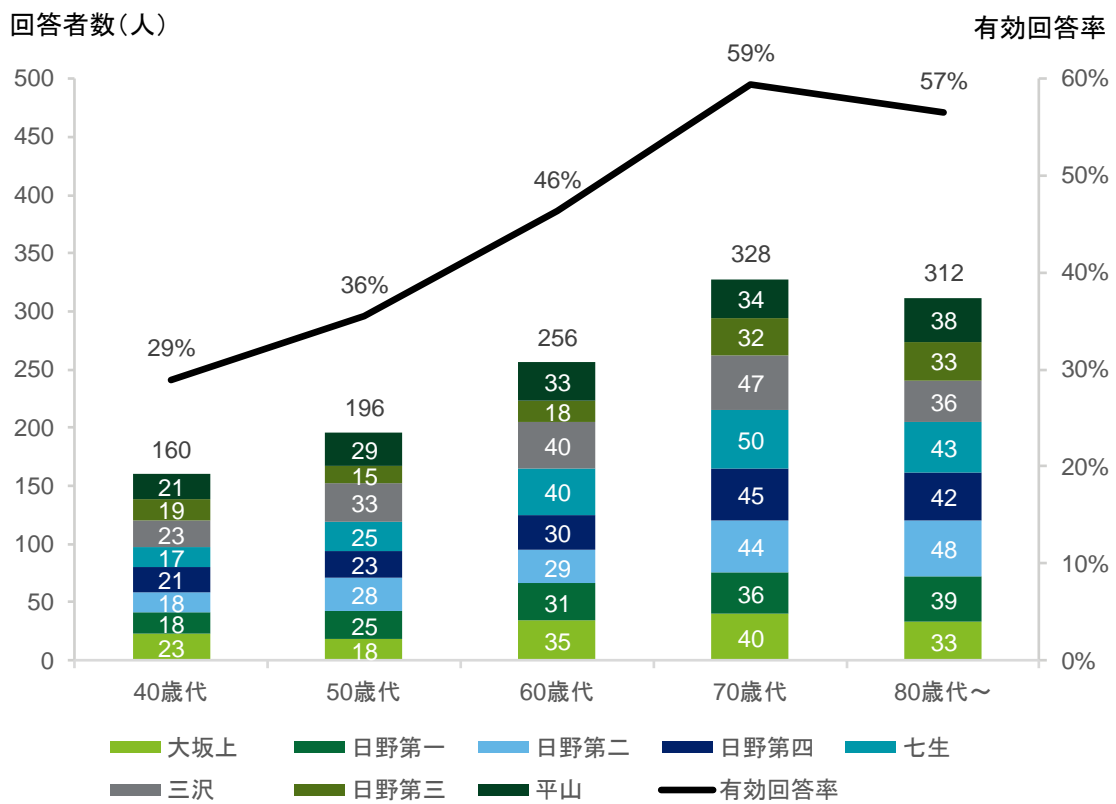
- 全市的に見ると、在宅療養を知っている人が40%、よく知らないが35%となっている。また、在宅療養をしたいという人が42%、したいとは思わないという人が33%となっている。
- 訪問診療、往診、訪問歯科診療いずれについても、利用したことがないという回答がほとんどとなっている。その理由については、必要がないという理由を除くと、対応してくれる医療機関を知らない、どこに相談したらいいかわからないという理由が多くなっている。
- 自宅で急に具合が悪くなったときの対応については、様子を見て医療機関へ向かうという回答が大半となっている。かかりつけ医や訪問看護師に連絡したケースにおいては、電話の指示で対応できたという回答が半数以上となっており、往診してくれたという回答も3割程度となっている。救急車を呼んだ場合の搬送先については、市内への搬送と市外への搬送が同程度となっている。
- 生活支援サービスの利用状況については、利用しているサービスはないという回答が大半を占めている。
- 在宅療養という選択肢に対する意見については、賛成、どちらかという賛成の合計が42%、反対、どちらかという反対の合計が15%となっており、残りの43%はどちらでもよい、わからないとなっている。
- 在宅療養に関する不安については、介護者の負担が重い、介護者が体調を崩すと生活できないという不安が多く、次いですぐにかかりつけ医が来てくれるかわからない、お金がかかるのではないかという不安となっている。
- 日野市の「在宅療養の支援体制の充実」に対する意見については、賛成寄りのコメントが145件（33%）、反対寄りのコメントが50件（11%）、どちらでもないコメントが252件（56%）となっている。

## 2.2 回答者の属性

問1-1 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

- 回答者の年齢構成は、回答者数・回答率ともに70歳代が最も多くなっている。

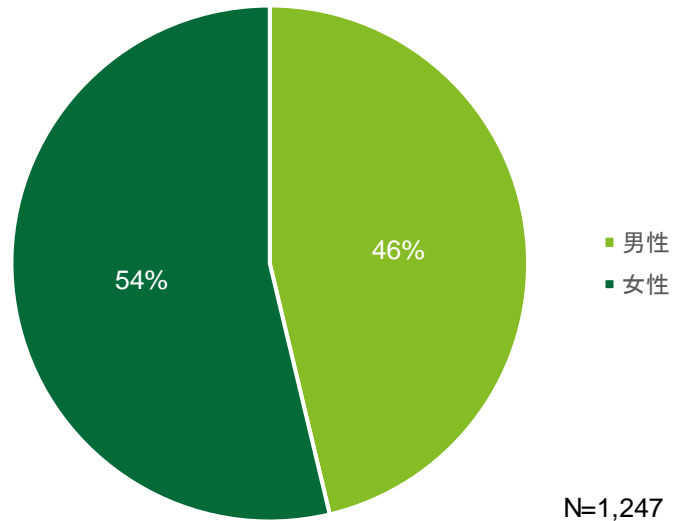
図表 2-1 回答者数と有効回答率（年代別）



問 1 - 2 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

■ 回答者の構成は、男性 46%、女性 54%であった。

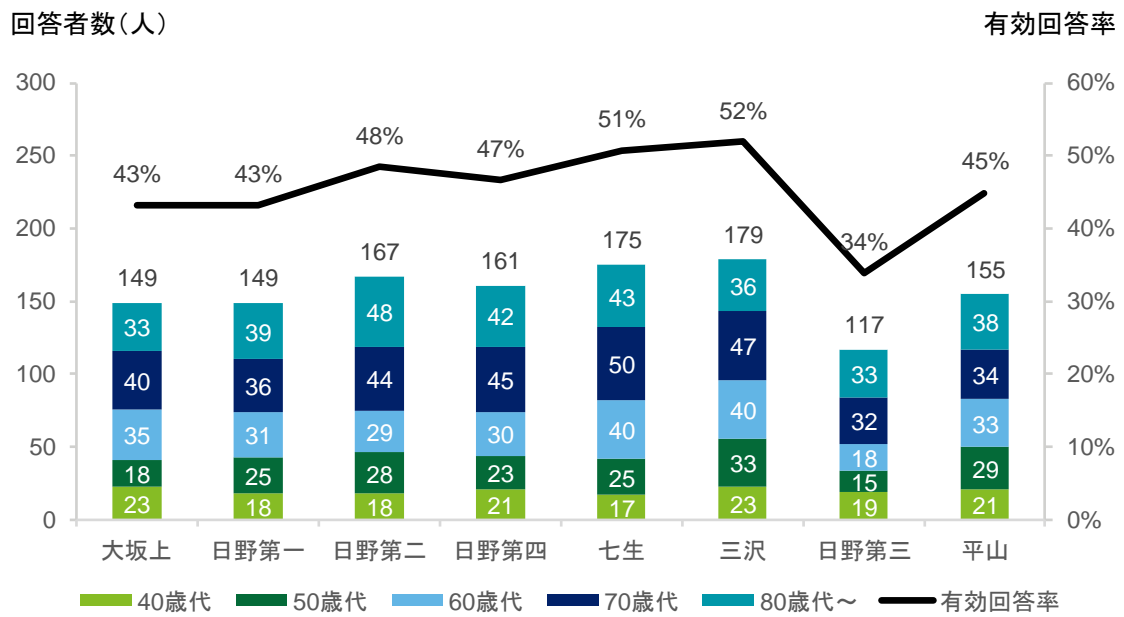
図表 2-2 回答者の性別



問1-3 あなたのお住まいが該当する中学校区を教えてください。  
(1つに○)

- 日野第三中学校区を除く7中学校区において、概ね半数近い回答が得られた。日野第三中学校区においては回答率が34%であった。

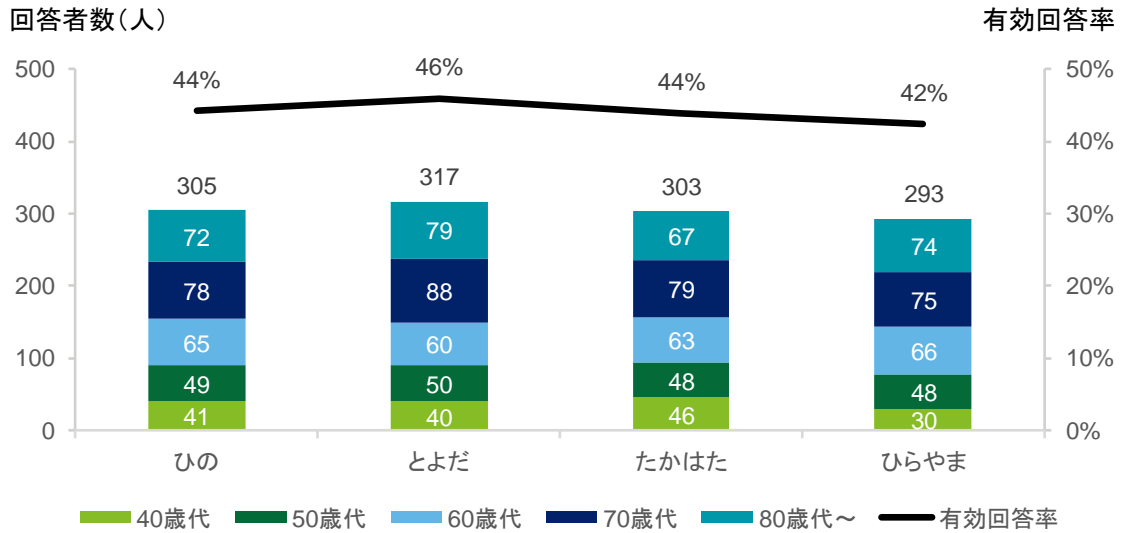
図表 2-3 回答者数と有効回答率（中学校区別）



問1-4 あなたのお住まいが該当する日常生活圏域を教えてください。  
(1つに○)

- 日常生活圏域別に見ると、4つの圏域において概ね満遍なく回答が得られている。

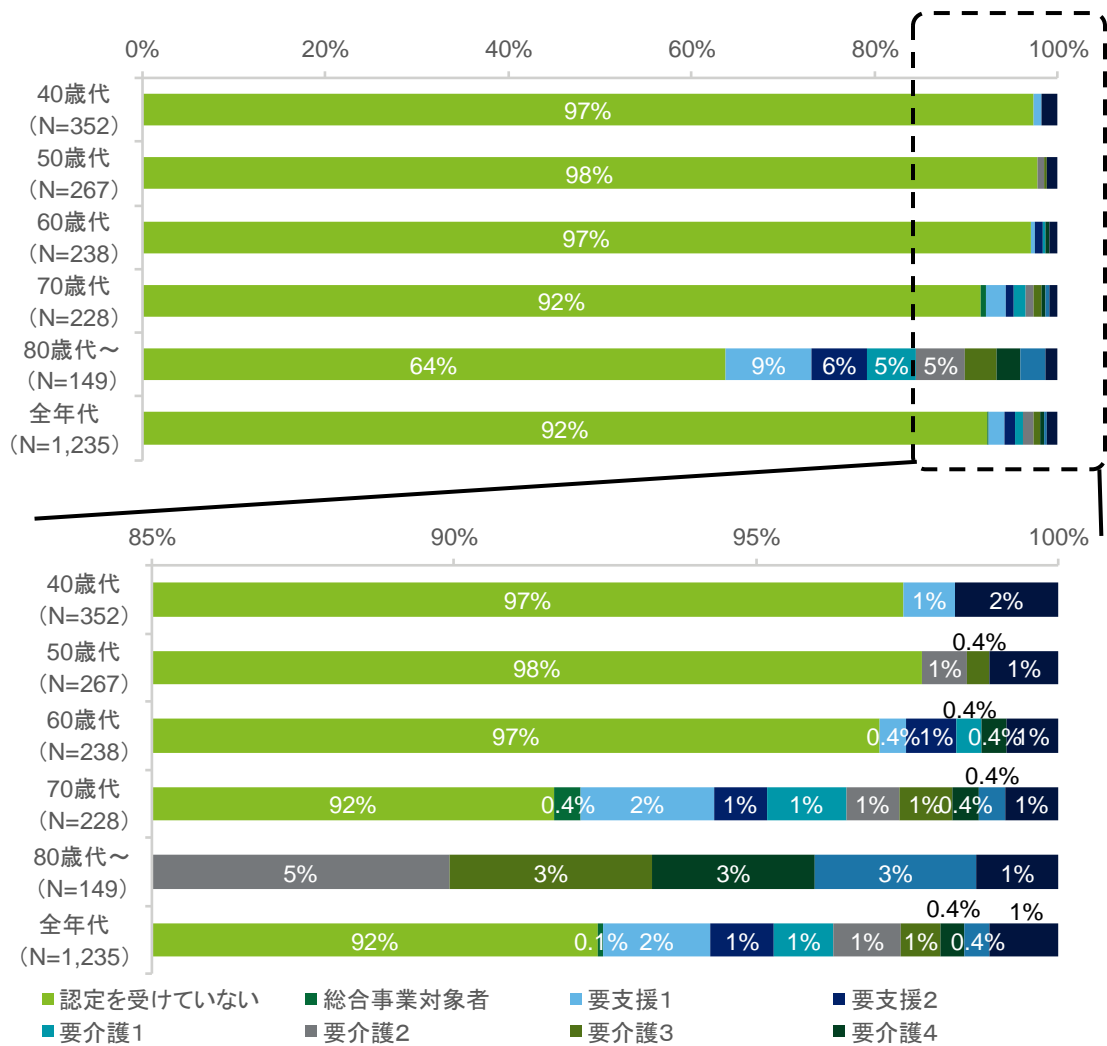
図表 2-4 回答者数と有効回答率（日常生活圏域別）



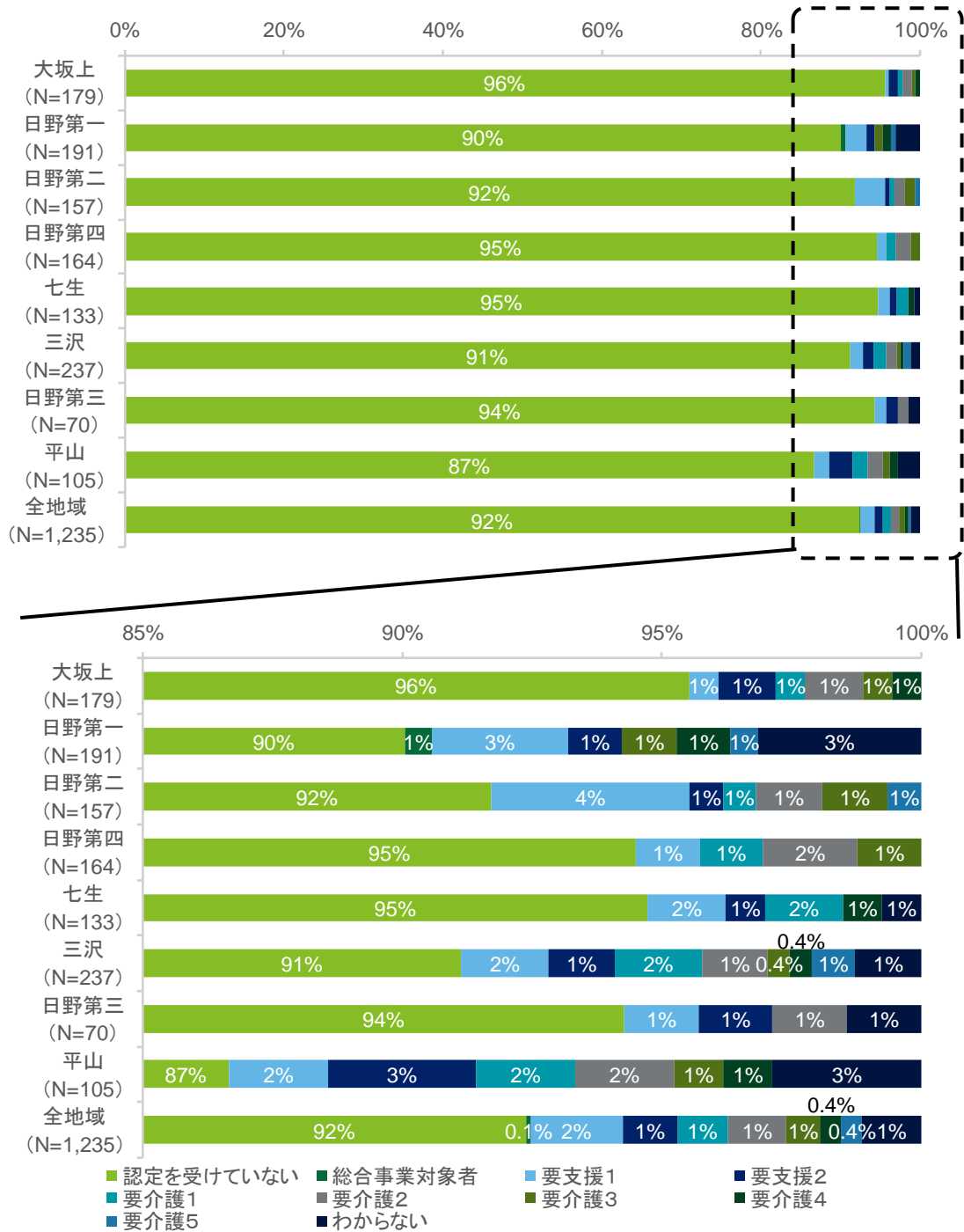
問1-5 あなたの要支援・要介護度を教えてください。(1つに○)

- 回答者の要支援又は要介護の認定率は、40歳代から60歳代までは1~2%程度、70歳代で7%程度、80歳代以上で35%程度となっている。
- 中学校区別に見ると、認定率が高い順に、平山(10%程度)、三沢(8%程度)、日野第一(7%程度)となっている。

図表 2-5 要支援・要介護度 (年代別)



図表 2-6 要支援・要介護度（中学校区別）



問1-6 あなたを含めた世帯人数と世帯構成（同居している人）を教えてください。（該当するもの全てに○）

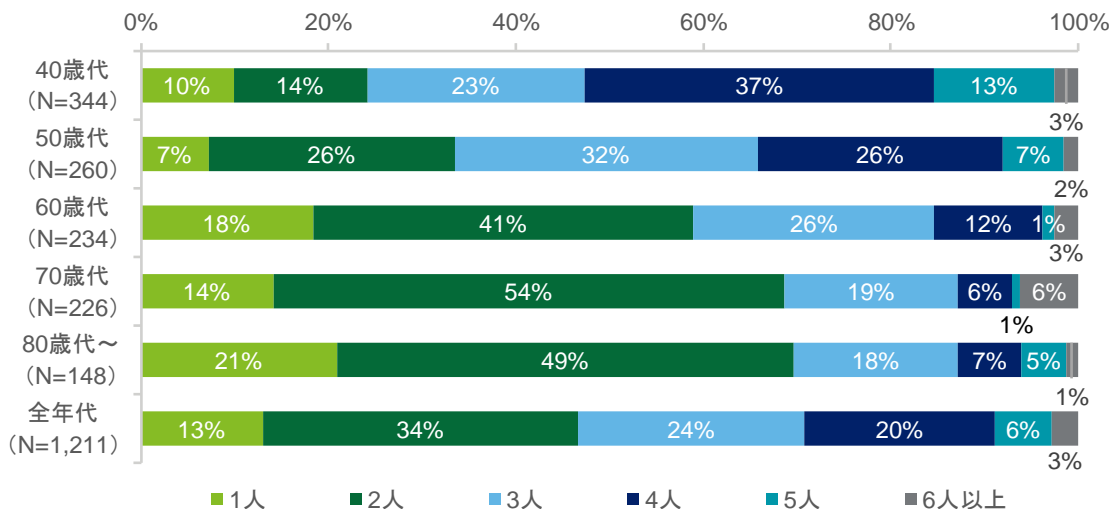
<世帯人数について>

- 年代別では、単身世帯・2人暮らし世帯の割合は60歳代以上で大きく増加し、年代が上がるほど増加している。単身世帯に限って見ると、80歳代以上、60歳代、70歳代の順に多くなっている。一方で、80歳代以上においても、約3割は3人以上の世帯で暮らしている。
- 中学校区別では、日野第三、平山、三沢において、半数以上が単身又は2人暮らし世帯となっている。単身世帯に限って見ても同様の傾向だが、平山、日野第三、三沢の順に多くなっている。

<世帯構成について>

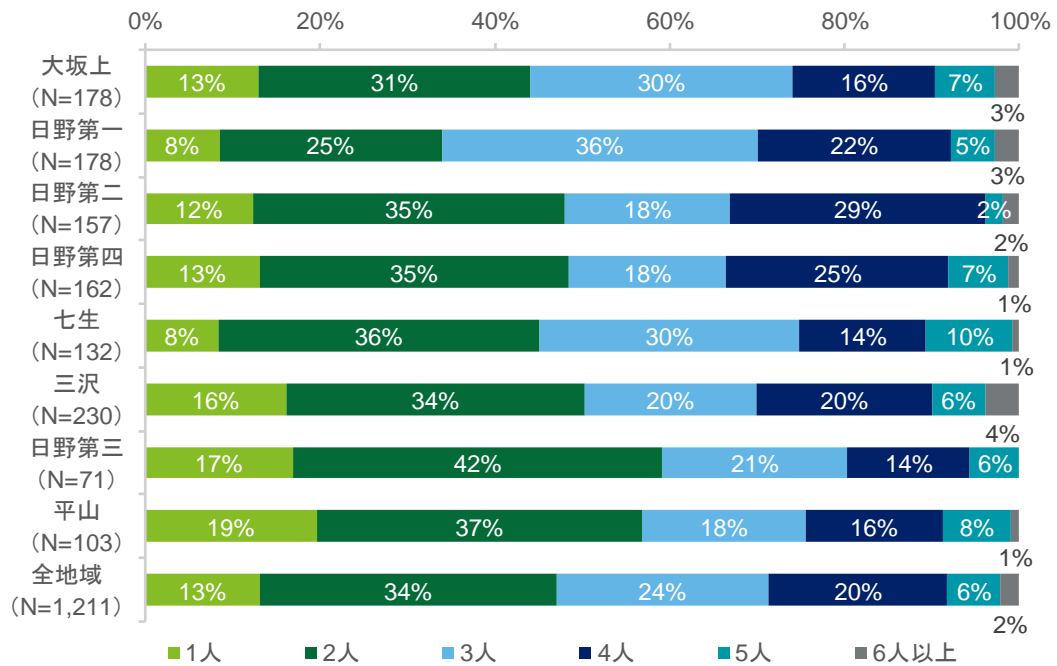
- 配偶者と同居する人が最も多くなっている。子どもとの同居については、20歳未満の子どもとの同居よりも、20歳以上の子どもとの同居の方が多くなっている。
- 高齢者に限って見れば、20歳以上の子どもと同居している割合は34%となっており、中学校区別では日野第二（41%）、大坂上（39%）、日野第四（36%）の順に多くなっている。

図表 2-7 世帯人数（年代別）

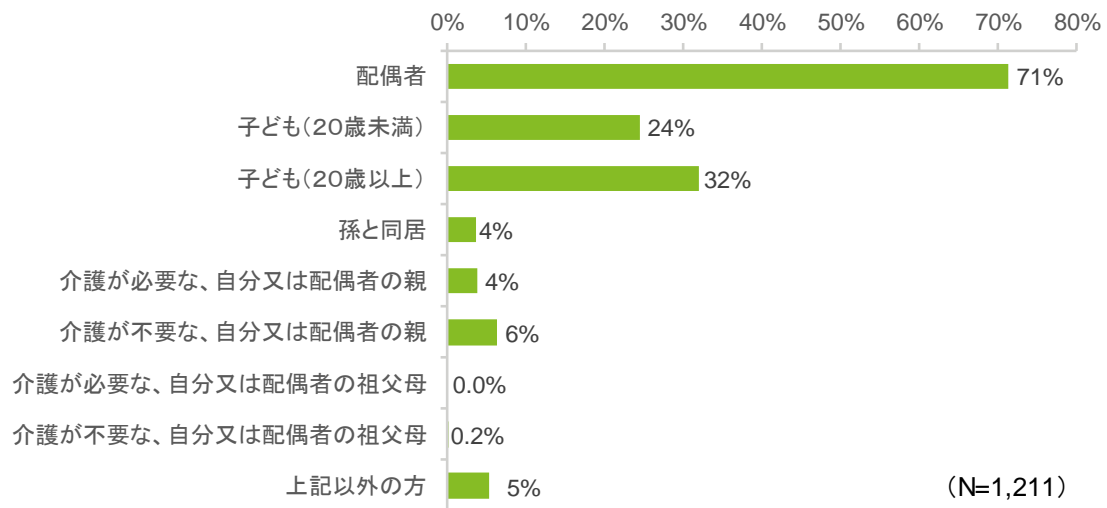




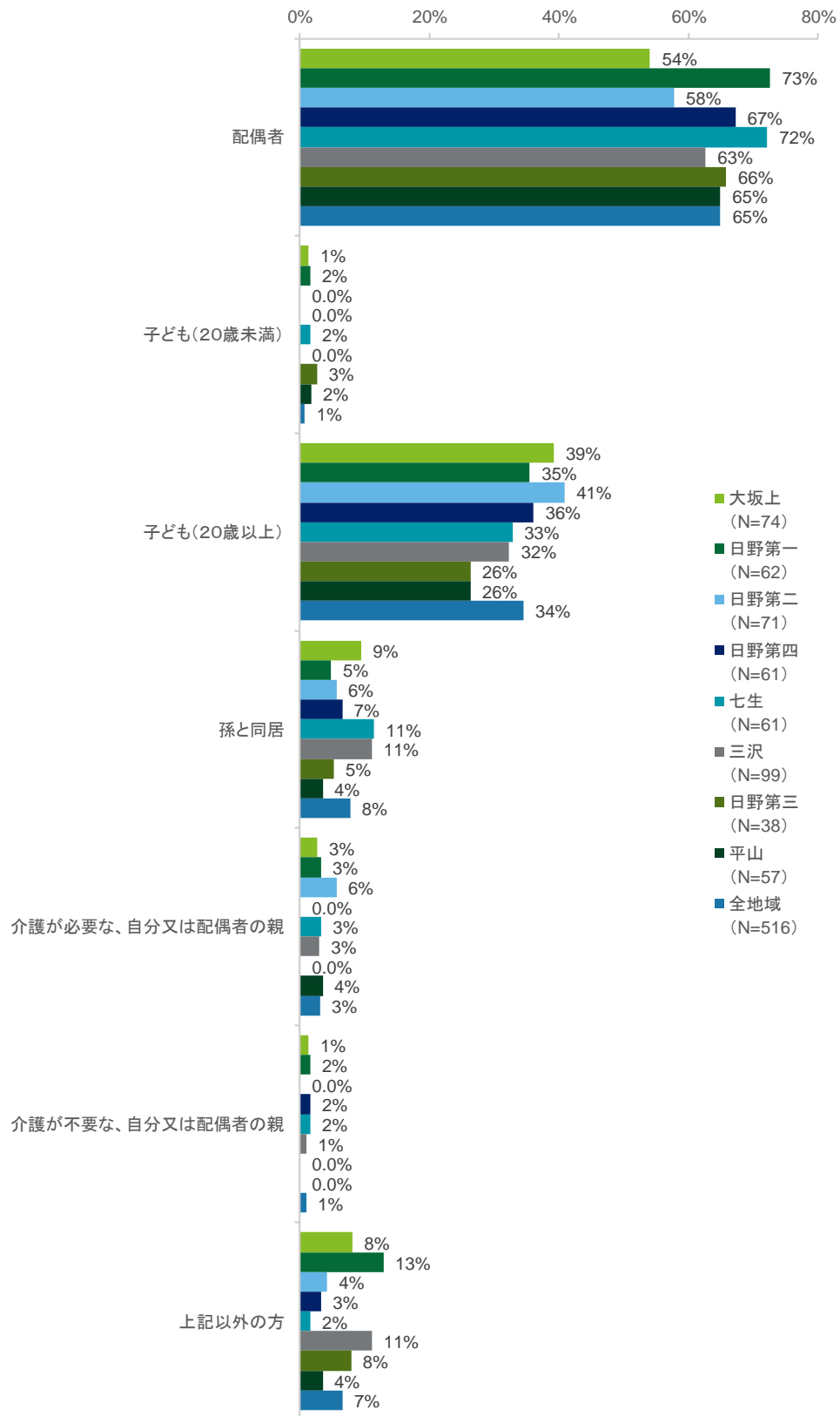
図表 2-8 世帯人数（中学校区別）



図表 2-9 世帯構成



図表 2-10 世帯構成（中学校区別、高齢者のみを集計）



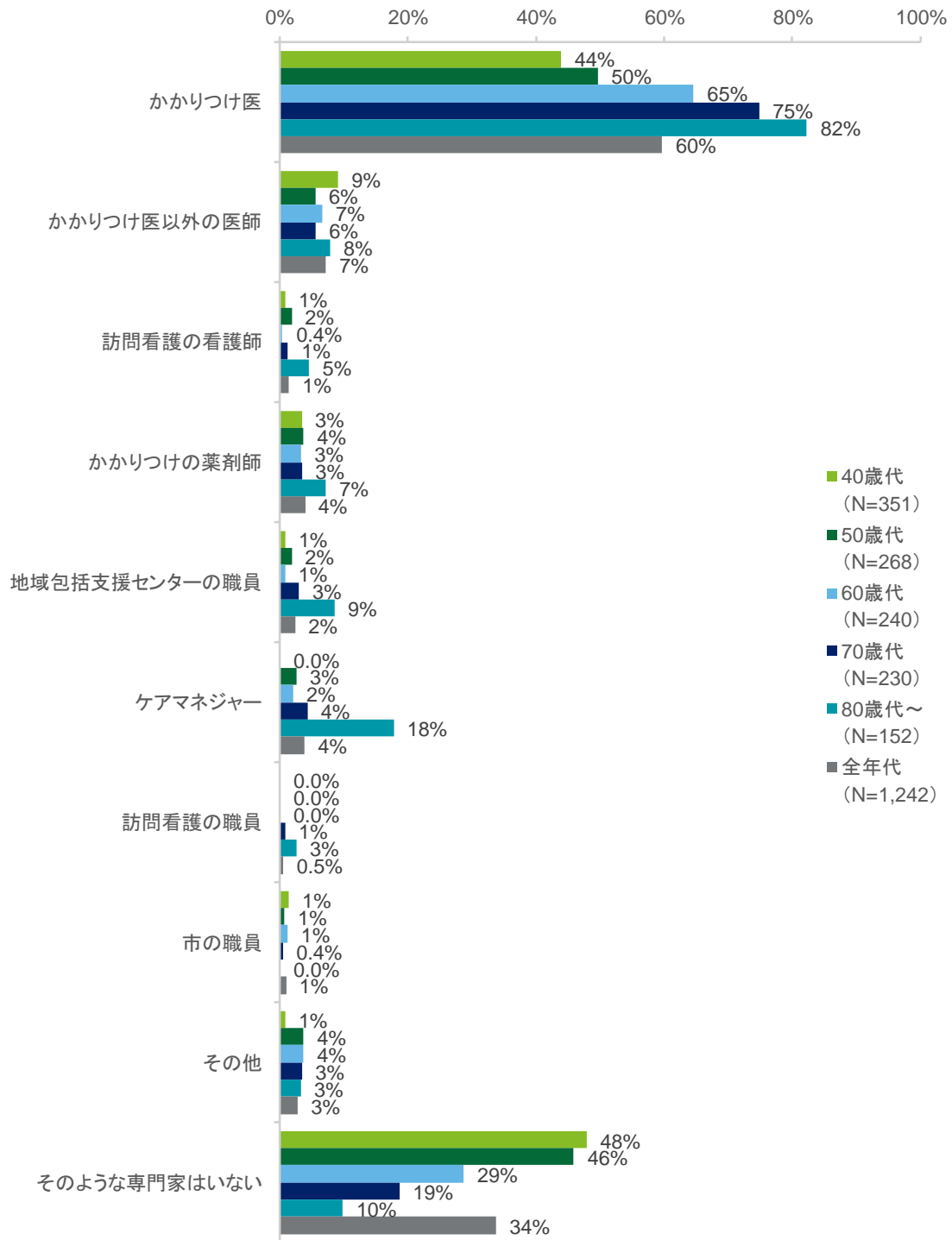
※「介護が必要な、自分又は配偶者の祖父母」、「介護が不要な、自分又は配偶者の祖父母」は回答がなかったため省略している

## 2.3 市民の受療に関する意識と動向

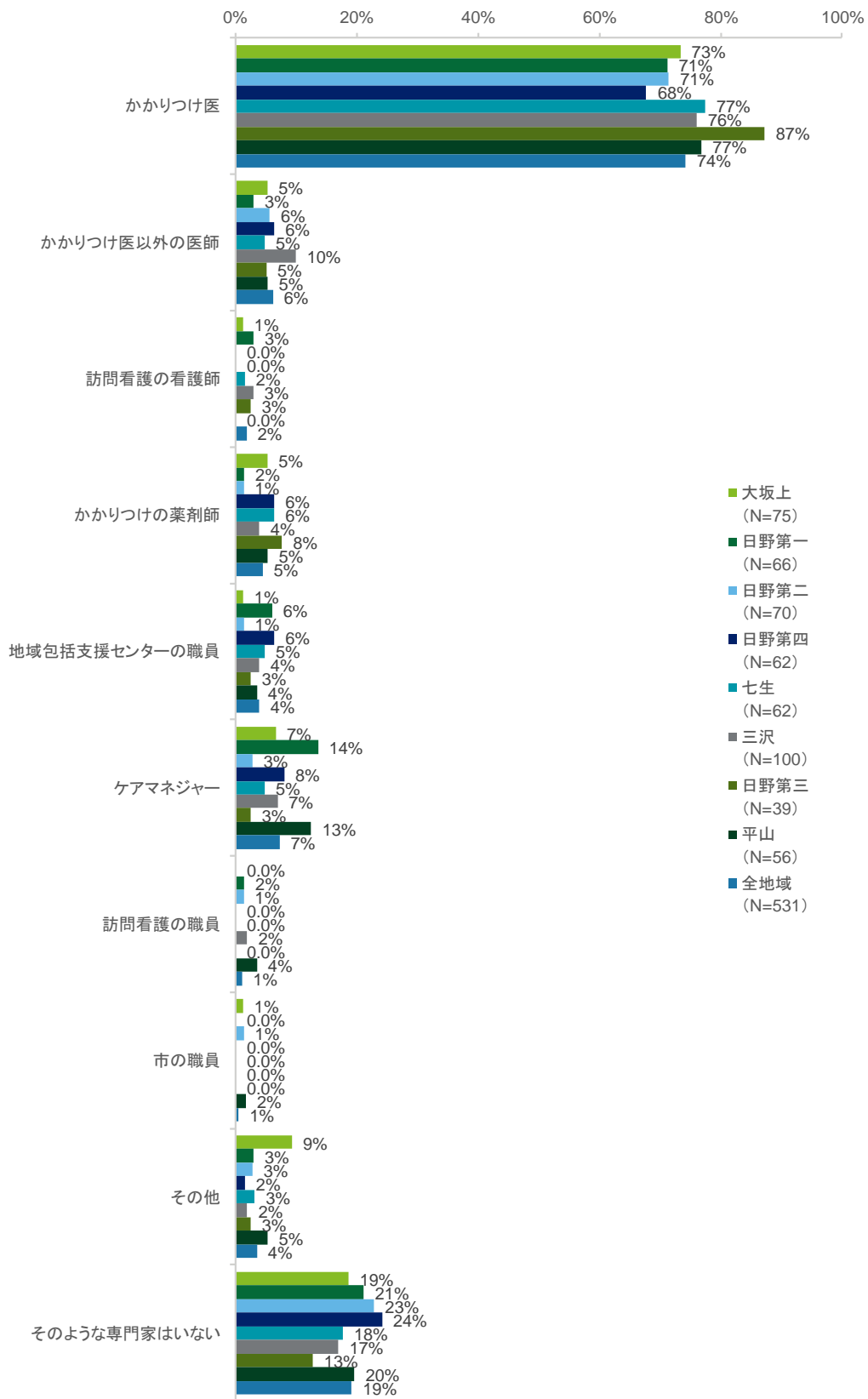
問 2 - 1 ご自身の健康や治療上の不安について、家族・親族や友人の他に相談できる専門家はいますか。(該当するもの全てに○)

- 年代が上がるにしたがって、「そのような専門家はいない」という回答が減少し、かかりつけ医に相談するという回答が増加している。
- また、80 歳代以上の高齢者については、ケアマネジャーに相談するという回答も一定割合見られる。
- 高齢者に限って見るとかかりつけ医に相談する割合は全市平均で 74%となっており、中学校区別では日野第三 (87%)、七生及び平山 (77%) の順に多くなっている。

図表 2-11 健康や治療上の不安について相談できる専門家（年代別）



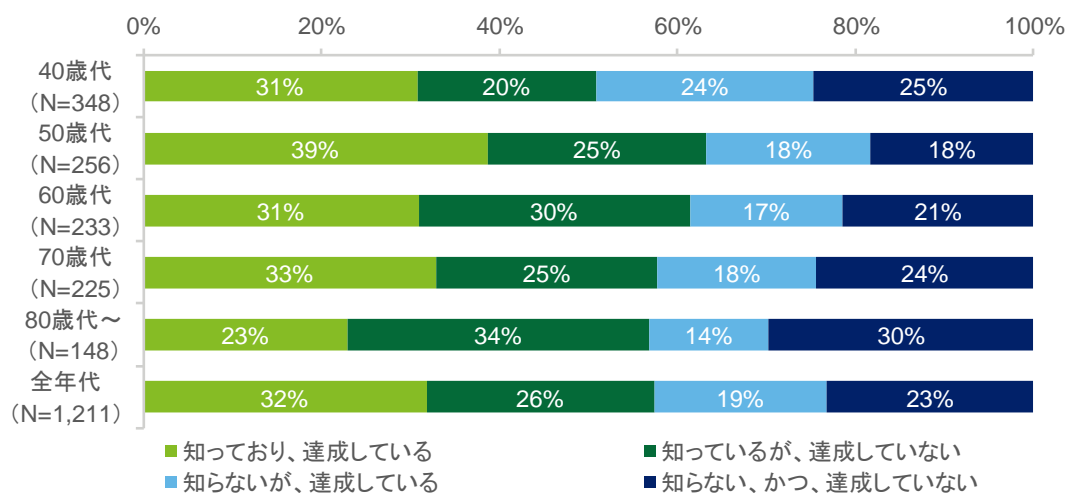
図表 2-12 健康や治療上の不安について相談できる専門家  
(中学校区別、高齢者のみを集計)



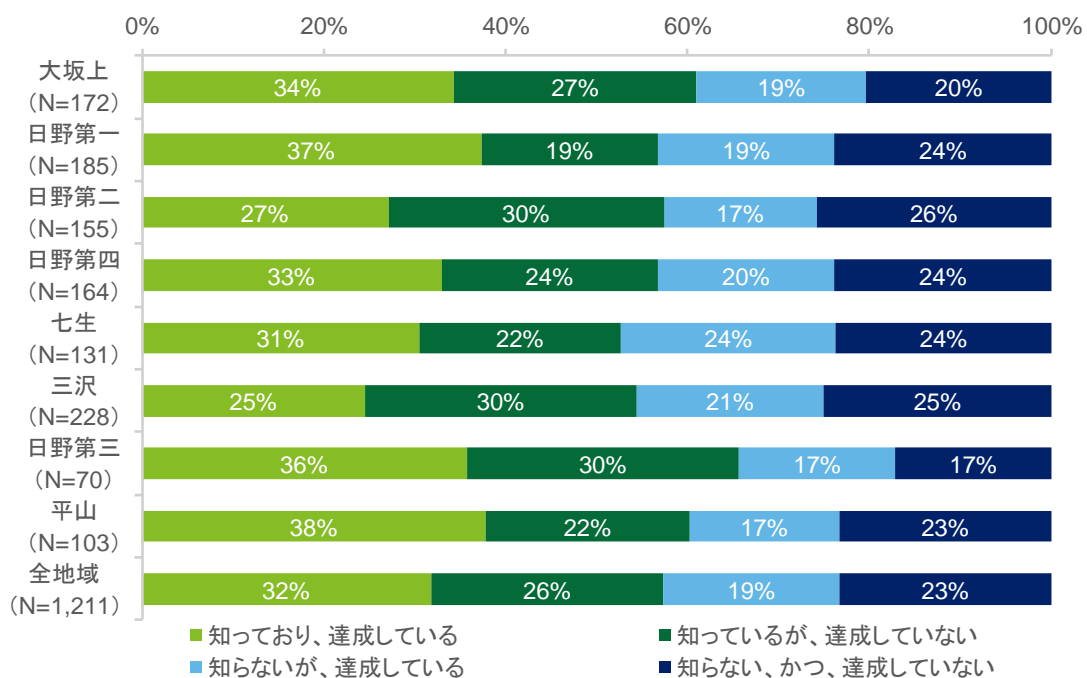
問 2 - 2 8020 (ハチマルニイマル) 運動を知っていますか。(1つに○)

- 全年代を通して半数以上の認知があり、40歳代から70歳代までは「知っており、達成している」という回答が最多で3割強を占めている。80歳代以上については、「知っているが、達成していない」という回答が最多となっている。
- 中学校区別に見ると、地域によって若干のばらつきはあるものの、全ての地域で半数以上の認知がある。

図表 2-13 8020 運動の認知度 (年代別)



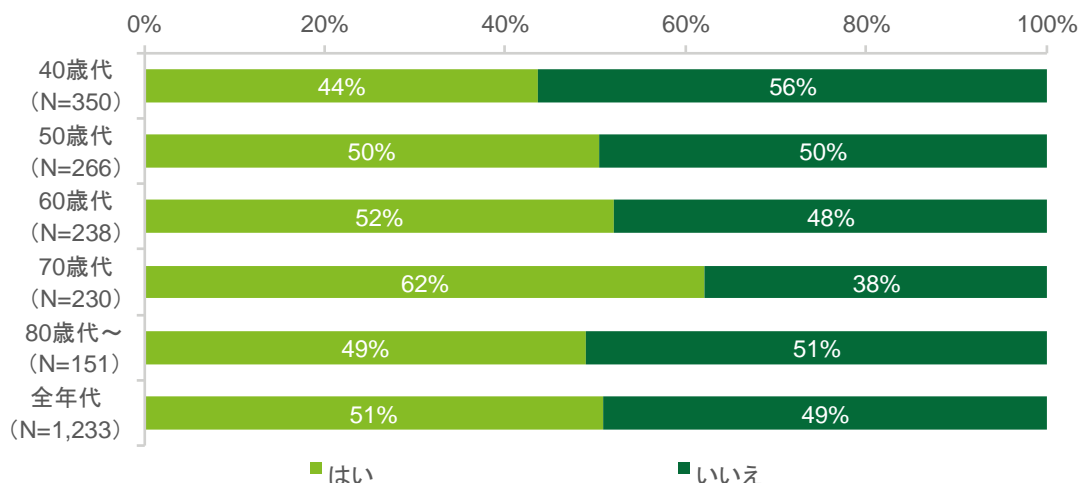
図表 2-14 8020 運動の認知度 (中学校区別)



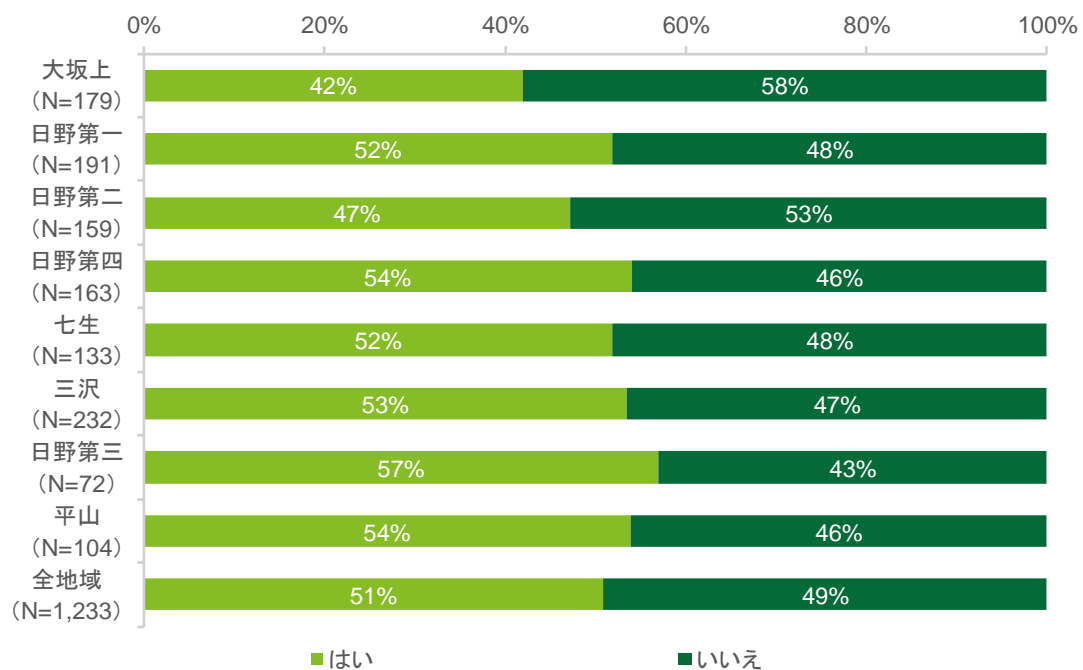
問 2 - 3 定期的に歯科検診を受けていますか。(1つに○)

- 40歳代から70歳代まで、年齢が上がるにつれて定期的に歯科検診を受ける割合が向上している。80歳代以上については低下するものの、約半数が定期的に歯科検診を受けている。
- 中学校区別に見ると多少のばらつきはあるものの、概ね全ての圏域で半数程度が定期的に歯科検診を受けている。

図表 2-15 歯科検診の定期受診（年代別）



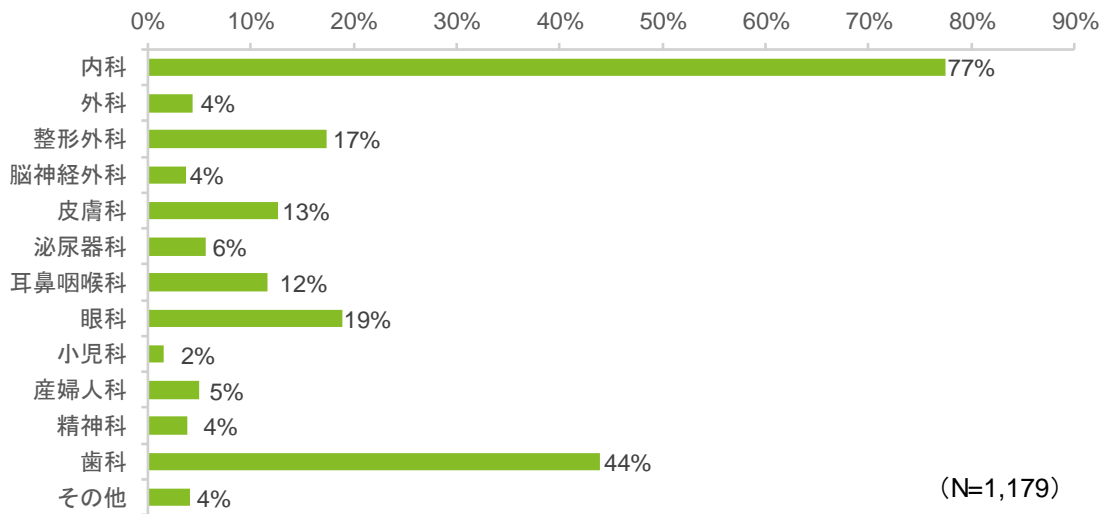
図表 2-16 歯科検診の定期受診（中学校区別）



問2-4 あなたのかかりつけ医、又はよく受診する診療科について教えてください。(該当するもの全てに○)

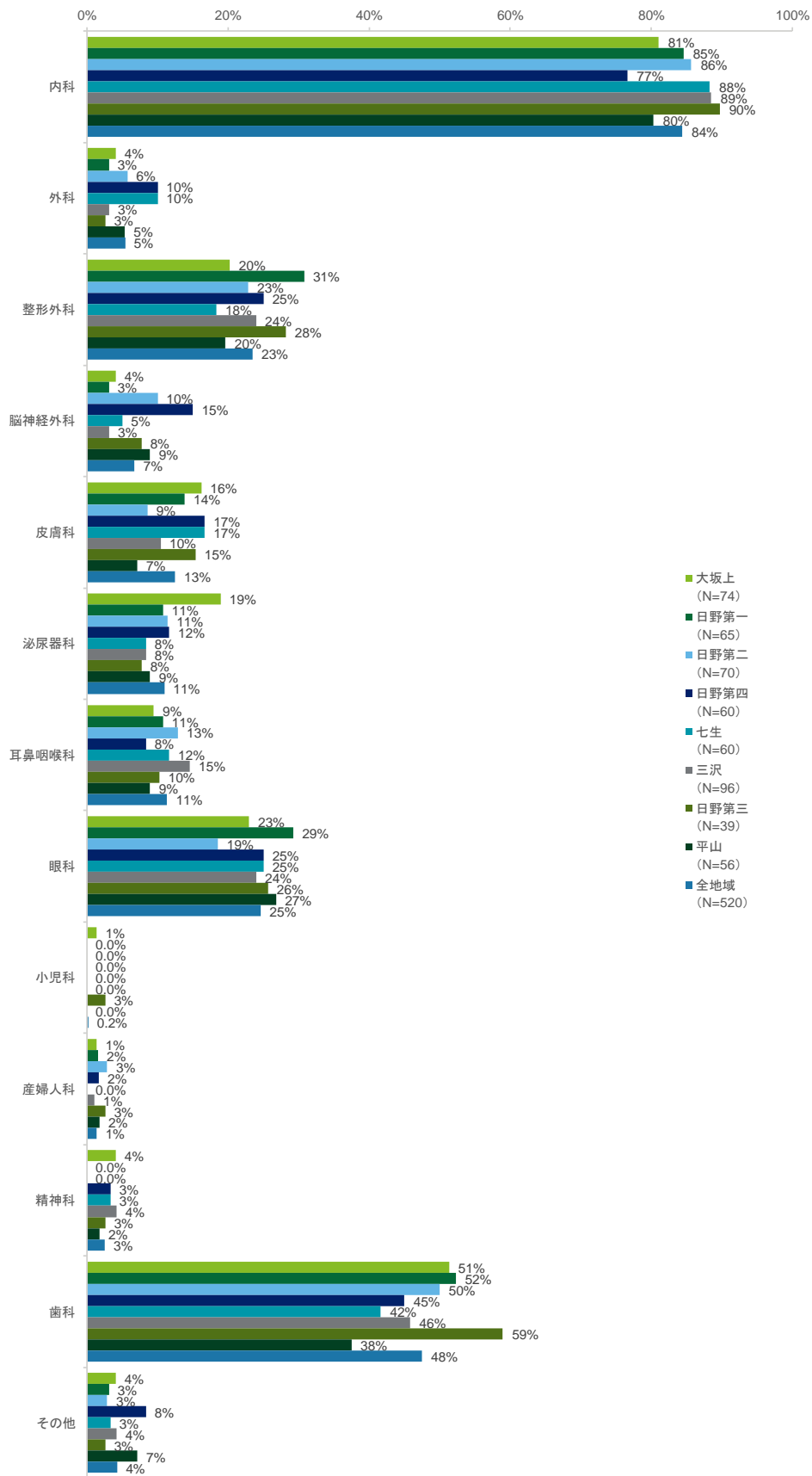
- 内科をかかりつけ医とする回答が突出しており、次いで歯科、眼科、整形外科の順となっている。
- 高齢者に限って見ても、同様の傾向が見られる。

図表 2-17 かかりつけ医の診療科





図表 2-18 かかりつけ医の診療科（中学校区別、高齢者のみを集計）



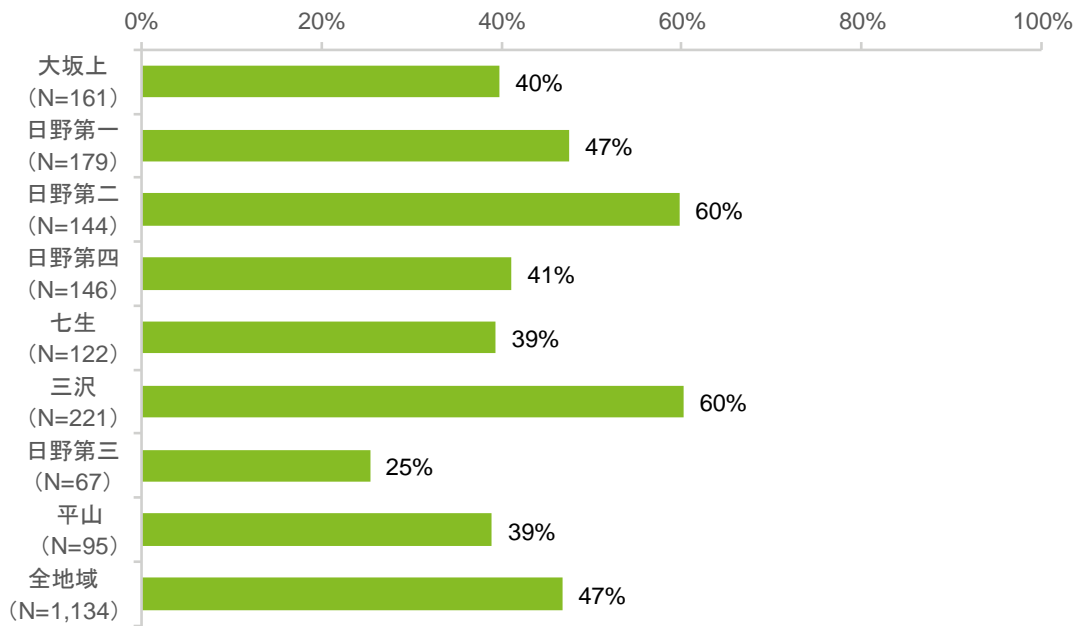
問 2-5 あなたのかかりつけ医、又はよく受診する診療所の所在地（中学校区）を教えてください。  
（1つ（複数ある場合は代表的なもの）に○）

- 校区内にかかりつけ医を持っている人の割合は、地域によってばらつきが生じている。最も高い日野第二、三沢では 60%、最も低い日野第三では 25% となっている。

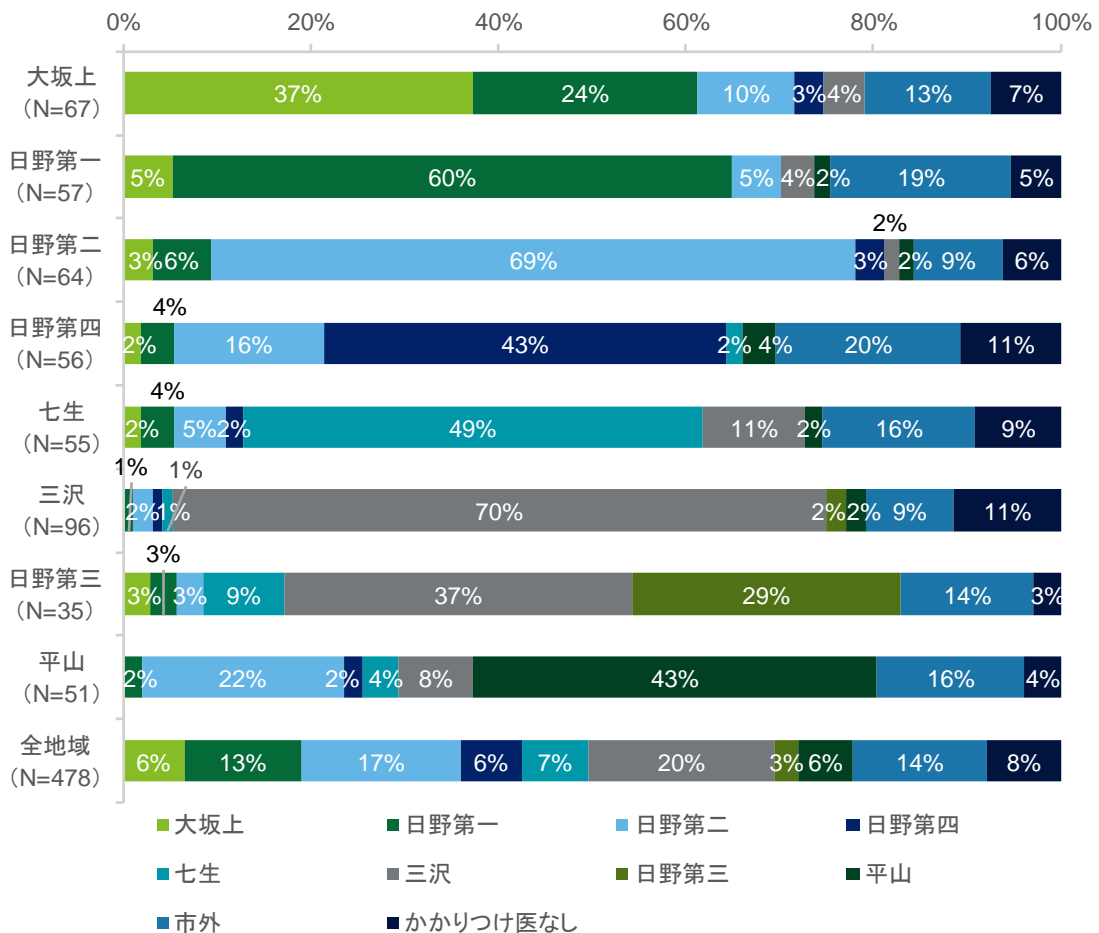
<高齢者に限って見た場合>

- 概ね各中学校区内にかかりつけ医を持つ割合が最も多くなっているものの、地域差も大きく、地域内完結率の高い順に、三沢（70%）、日野第二（69%）、日野第一（60%）となっている。逆に、低い順には、日野第三（29%）、大坂上（37%）、日野第四及び平山（43%）となっている。特に、日野第三においては、三沢にかかりつけ医を持つ割合が最多（37%）となっている。
- 市外にかかりつけ医を持つ割合は、多い順に日野第四（20%）、日野第一（19%）、七生及び平山（16%）となっている。
- 市外では八王子市と答えた人が最も多く（40 人）、次いで立川市（32 人）、多摩市（17 人）となっている。
- かかりつけ医がない割合は、多い順に日野第四及び三沢（11%）、七生（9%）となっている。

図表 2-19 校区内にかかりつけ医がいる割合



図表 2-20 かかりつけ医のいる地域（中学校区別、高齢者のみを集計）



図表 2-21 市外でかかりつけ医がいる地域（中学校区別）



問 2 - 6 かかりつけ医（又はよく受診する診療所）への①通院手段、  
②所要時間を教えてください。  
（通院手段は該当するもの全てに○、所要時間は1つに○）

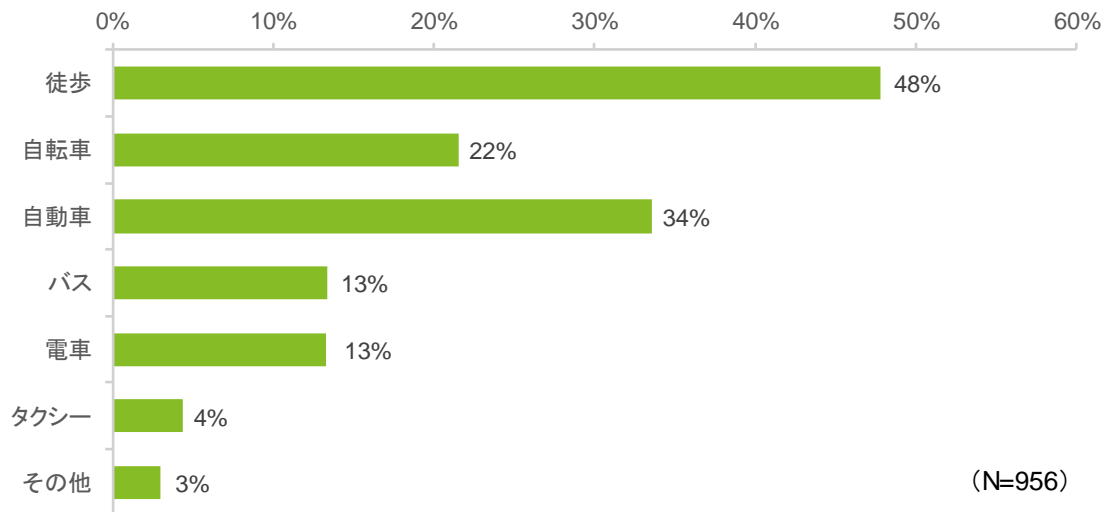
<かかりつけ医への通院手段について>

- 全市を通して見ると、徒歩での通院が最も多く、次いで自動車となっている。
- 高齢者に限って見た場合も同様の傾向が見られるが、自転車、バス、電車の利用割合については地域差が比較的大きく見られる傾向となっている。

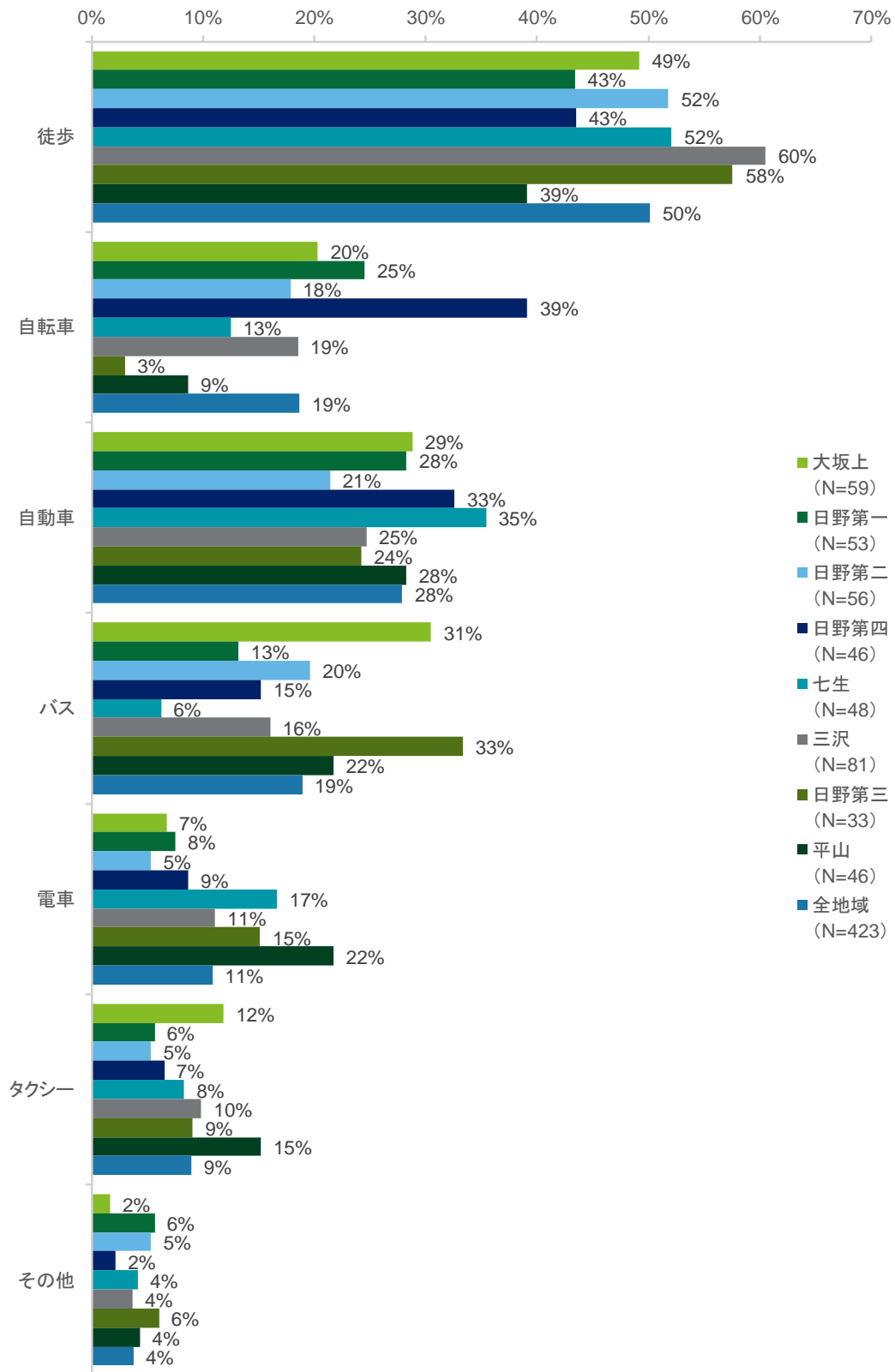
<かかりつけ医への通院の所要時間について>

- 全市を通して見ると、8割以上の方が30分以内に通院することができているが、平山では7割程度となっている。
- 10分以内で通院できる人は概ねいずれの地域でも3割程度であるが、日野第三では13%となっている。
- 日野第四の9%、日野第二の6%が、通院に1時間以上を要している。
- 高齢者に限って見た場合も、1時間以上を要する人を除き、概ね同様の傾向が見られる。

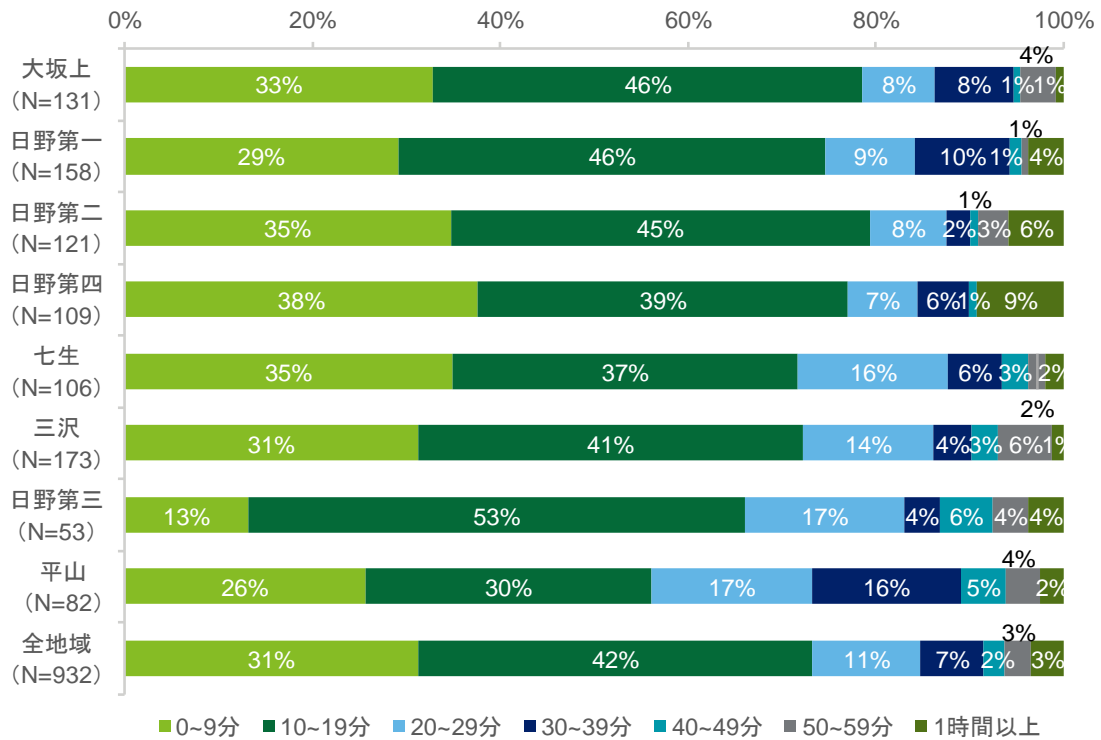
図表 2-22 かかりつけ医への通院手段



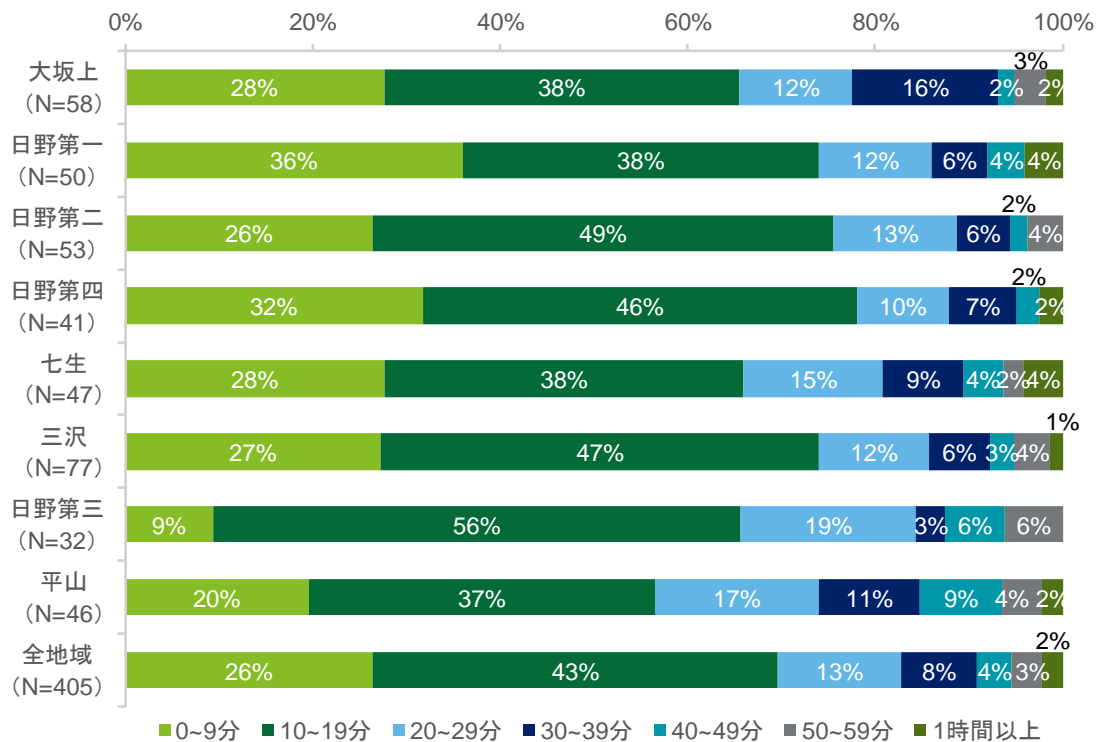
図表 2-23 かかりつけ医への通院手段（中学校区別、高齢者のみを集計）



図表 2-24 かかりつけ医への所要時間（中学校区別）



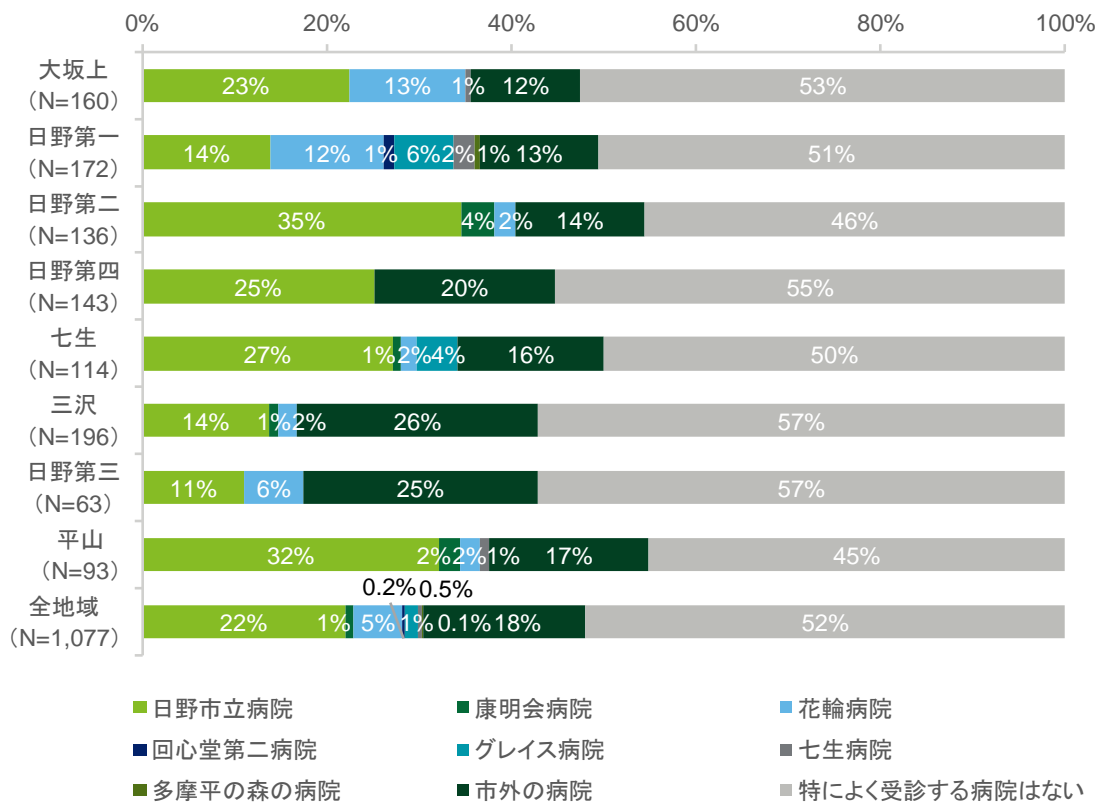
図表 2-25 かかりつけ医への所要時間（中学校区別、高齢者のみを集計）



問 2-7 あなたがよく受診する病院を教えてください。(1つに○)

- 全市的に見ると、日野市立病院を受診する割合が最も高く 22%となっている。一方で、次いで多いのは市外の病院で 18%となっている。
- いずれの地域でも半数程度がよく受診する病院を持っているが、受診する病院については地域差が大きい。
- 市外の病院を受診する割合は全市平均で 18%だが地域差が大きく、三沢、日野第三、日野第四では 2 割以上が市外の病院を受診している一方で、大坂上では 12%となっている。
- 市外の病院では、東海大学医学部附属八王子病院を挙げた人が最も多く (17 人)、2 番目に多かったのが立川病院 (12 人) であった。

図表 2-26 よく受診する病院 (中学校区別)







問 2-8 あなたがよく受診する病院への①通院手段、②所要時間を教えてください。  
 (通院手段は該当するもの全てに○、所要時間は1つに○)

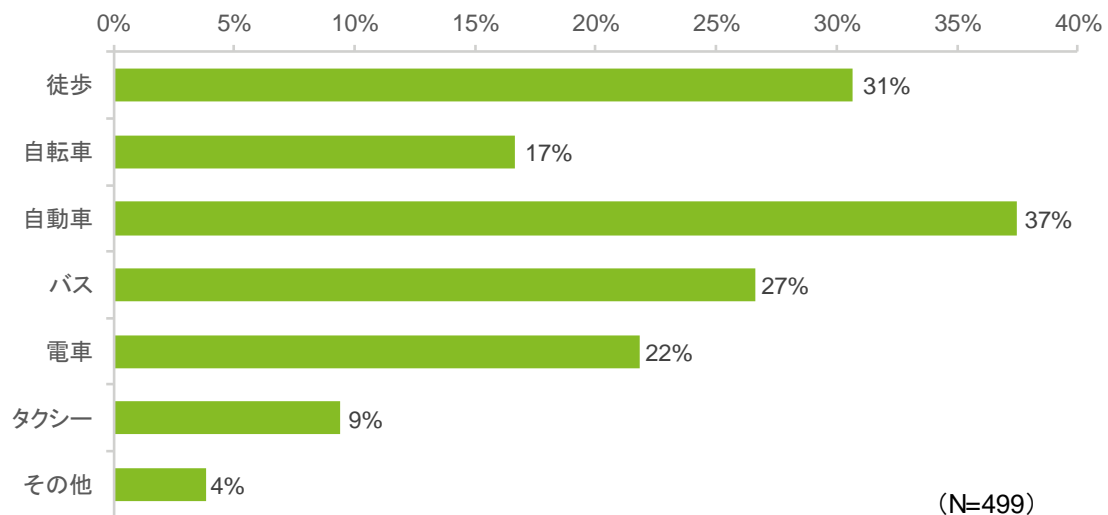
<病院への通院手段について>

- 全市を通して見ると、自動車による通院が最も多く、次いで徒歩となっている。
- 高齢者に限って見た場合も概ね同様の傾向が見られるが、いずれの通院手段についても地域差が比較的大きく見られる傾向となっている。

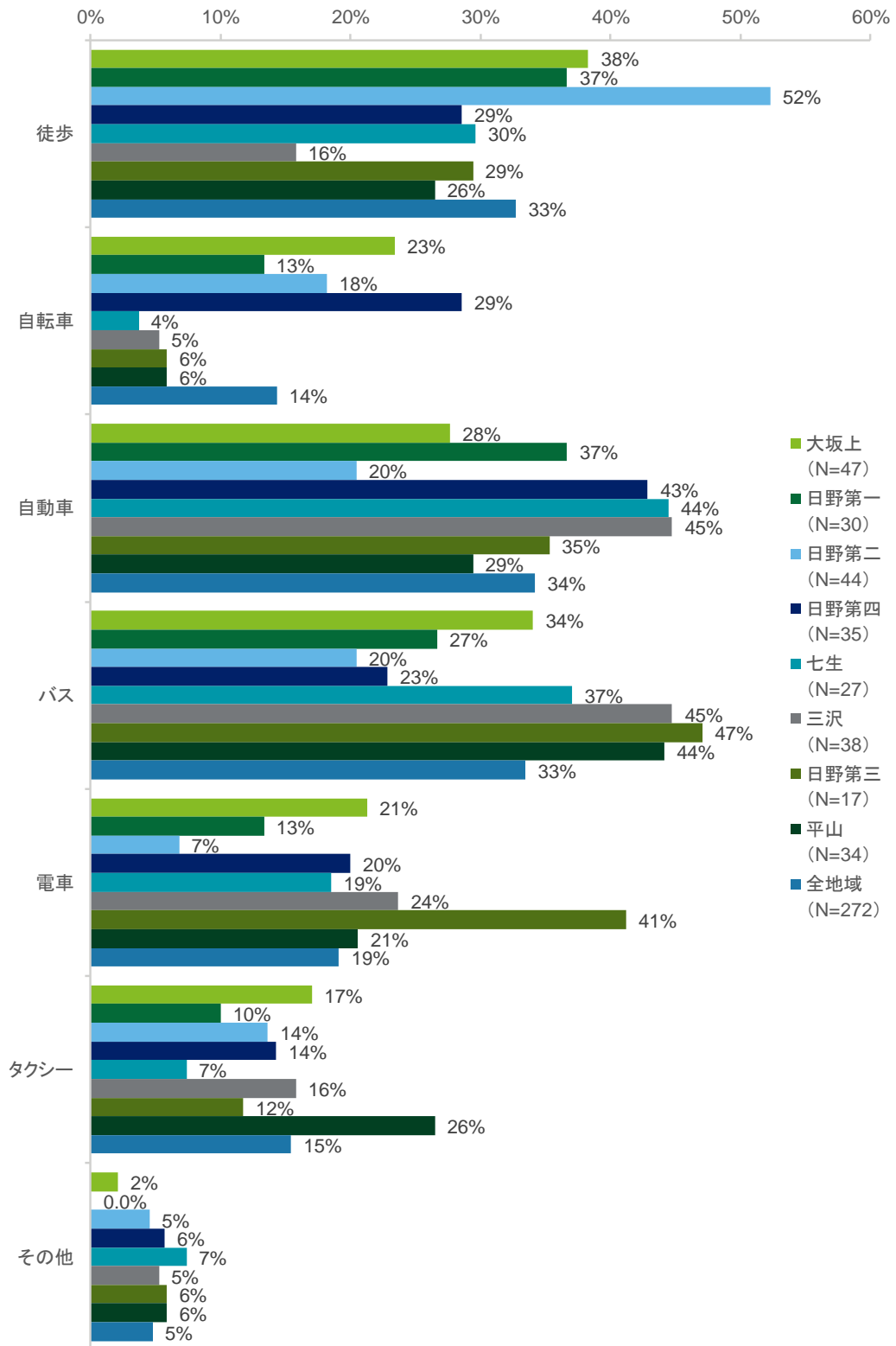
<病院への通院の所要時間について>

- 全市を通して見ると、30分以内で病院に通院できる人は65%であるが、地域差が大きく、大坂上では85%となっている一方、日野第三では39%、平山では46%となっている。
- 通院に1時間以上要する人も各圏域に一定割合見られ、三沢、平山、日野第四が比較的多くなっている。
- 高齢者に限って見た場合も、1時間以上を要する人を除き、概ね同様の傾向が見られる。

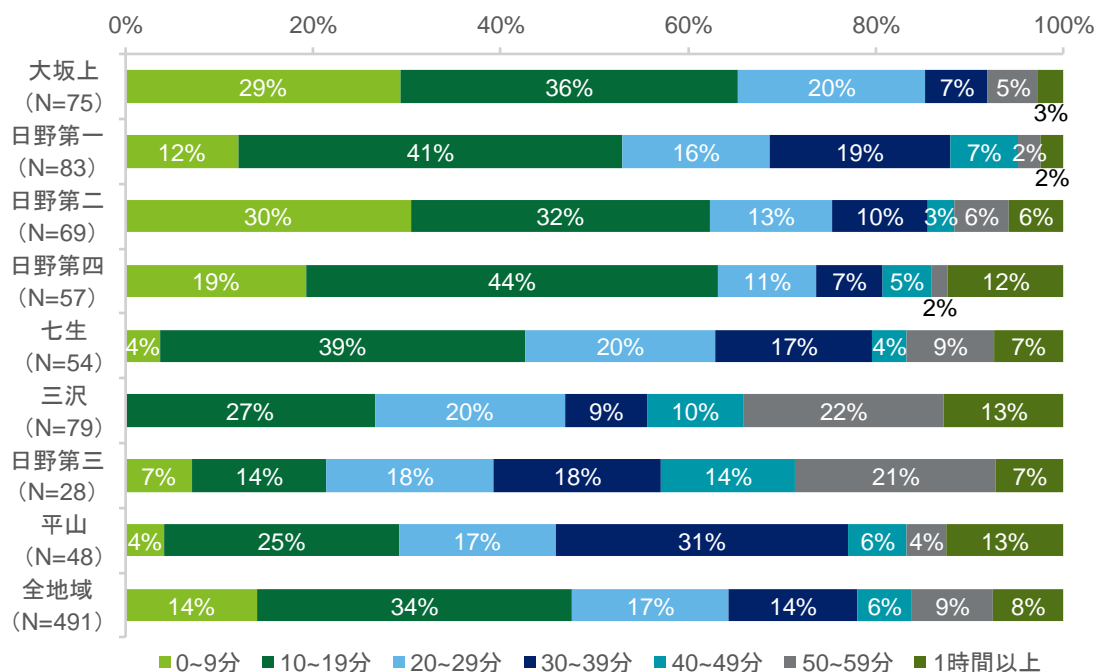
図表 2-28 よく受診する病院への通院手段



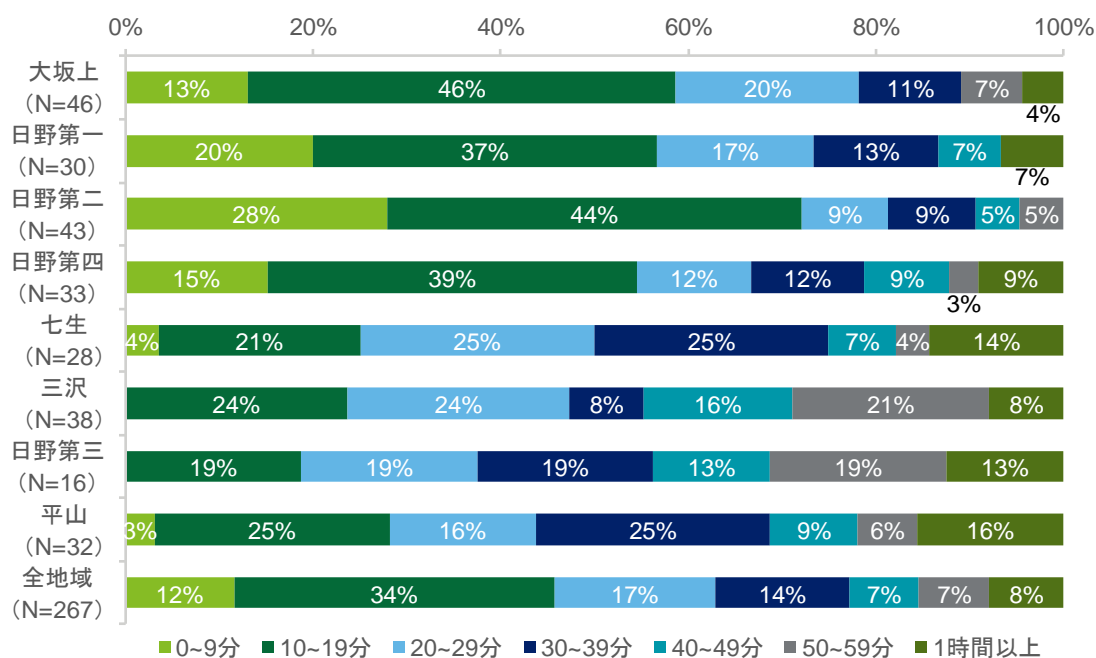
図表 2-29 よく受診する病院への通院手段（中学校区別、高齢者のみを集計）



図表 2-30 よく受診する病院への所要時間（中学校区別）



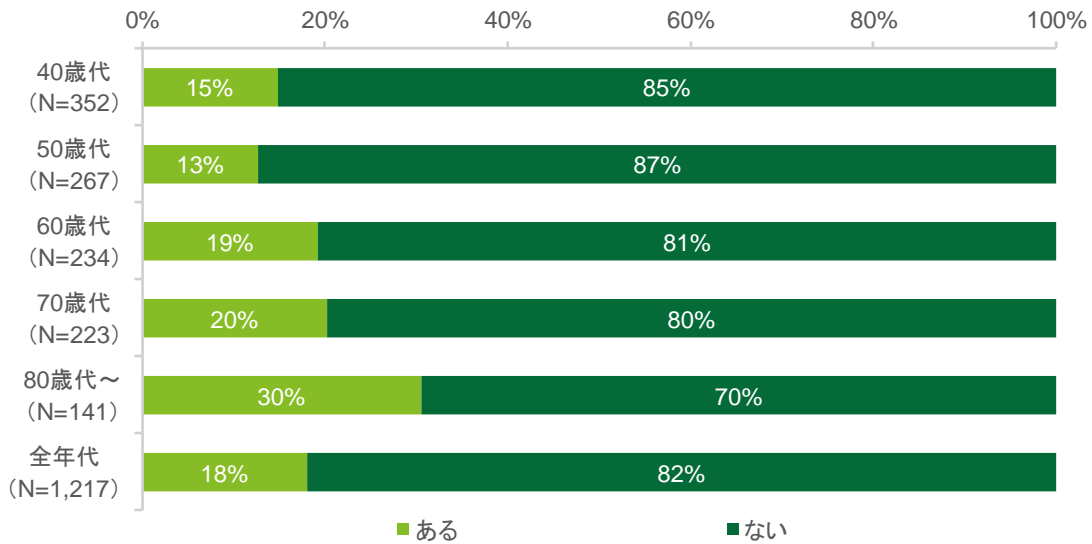
図表 2-31 よく受診する病院への所要時間（中学校区別、高齢者のみを集計）



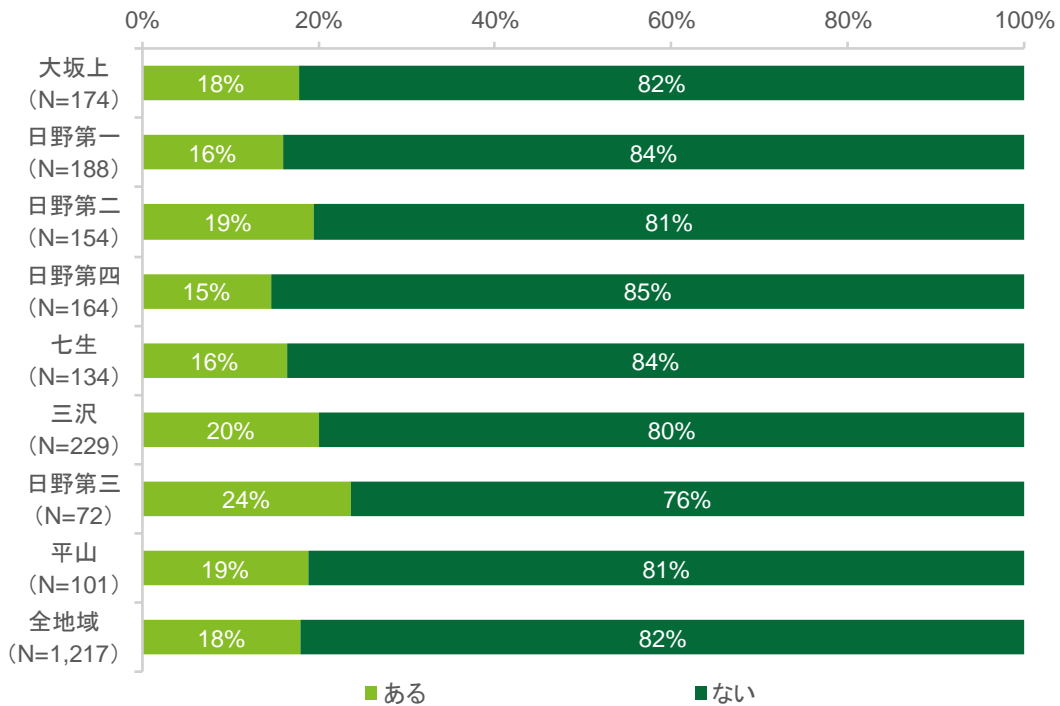
問 2 - 9 あなたは直近 3 年間に入院したことがありますか。(1 つに○)

- 40 歳代及び 50 歳代が概ね 15%程度、60 歳代及び 70 歳代が概ね 20%程度、80 歳以上で 30%となっている。

図表 2-32 直近 3 年間の入院経験の有無 (年代別)



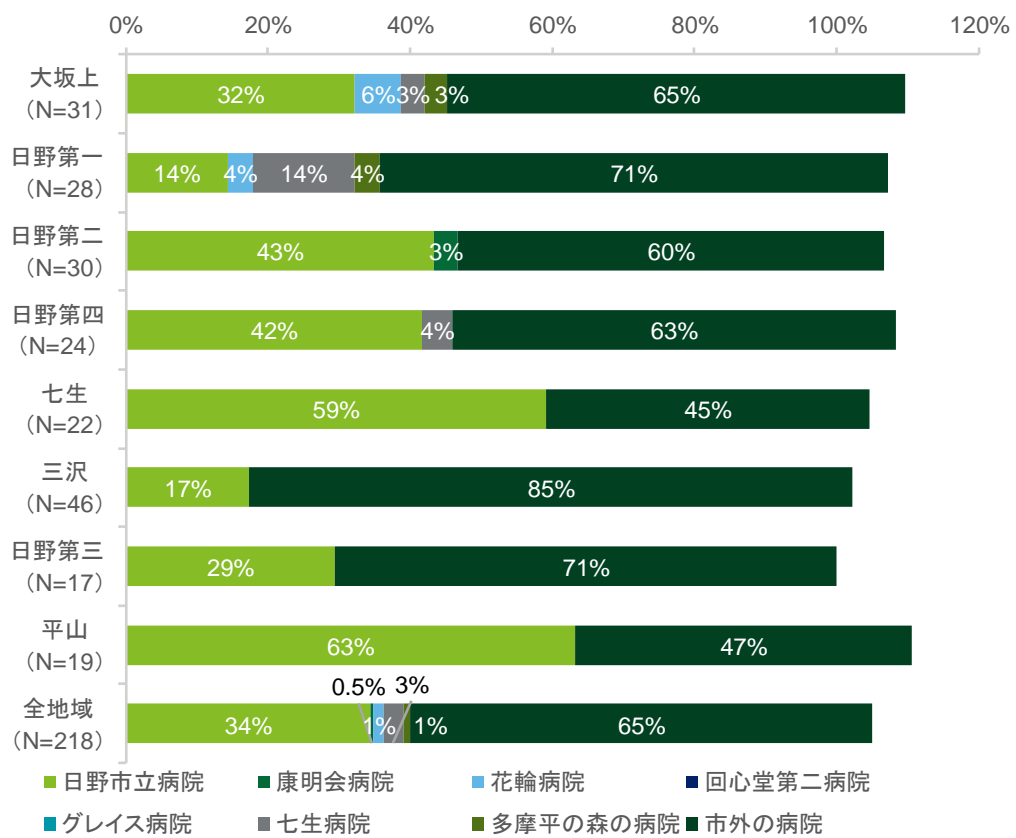
図表 2-33 直近 3 年間の入院経験の有無 (中学校区別)



問 2 - 1 0 あなたが入院した病院を教えてください。  
(該当するもの全てに○)

- 入院先としては市外の病院が市内の病院を大きく上回っており、入院経験者の65%が市外の病院に入院している。
- 市内の病院においては、日野市立病院が突出して多くなっている。
- 市外の病院では、東海大学医学部附属八王子病院が最も多くなっている。

図表 2-34 入院した病院



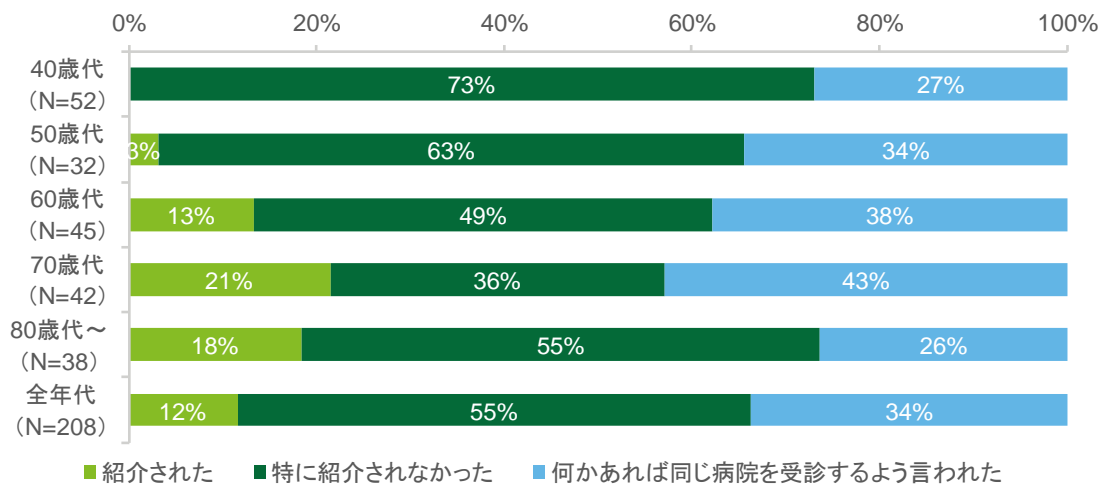
※入院した病院を全て選択する形式の設問であるため、棒グラフの各要素を足し合わせても100%とはならない



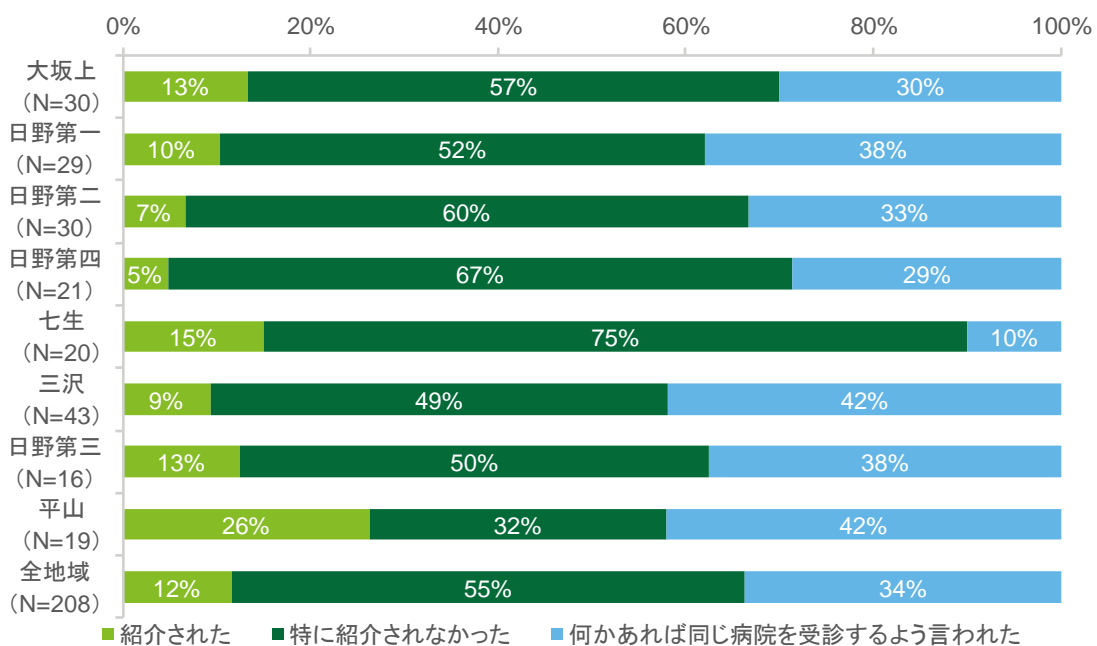
問2-11 退院時に、病院から自宅近くの診療所を紹介されましたか。  
(1つに○)

- 年代別に見ると、高齢者において診療所を紹介される割合が高くなっているが、紹介された割合が最も多いのは70歳代で、80歳代以上についてはそれよりも低下しており、特に紹介されなかったという回答が55%と多くなっている。
- 中学校区別に見ると、紹介された割合が平山で突出して多くなっている一方、七生では特に紹介されなかったという割合が高くなっている。

図表 2-36 退院時の診療所の紹介（年代別）



図表 2-37 退院時の診療所の紹介（中学校区別）

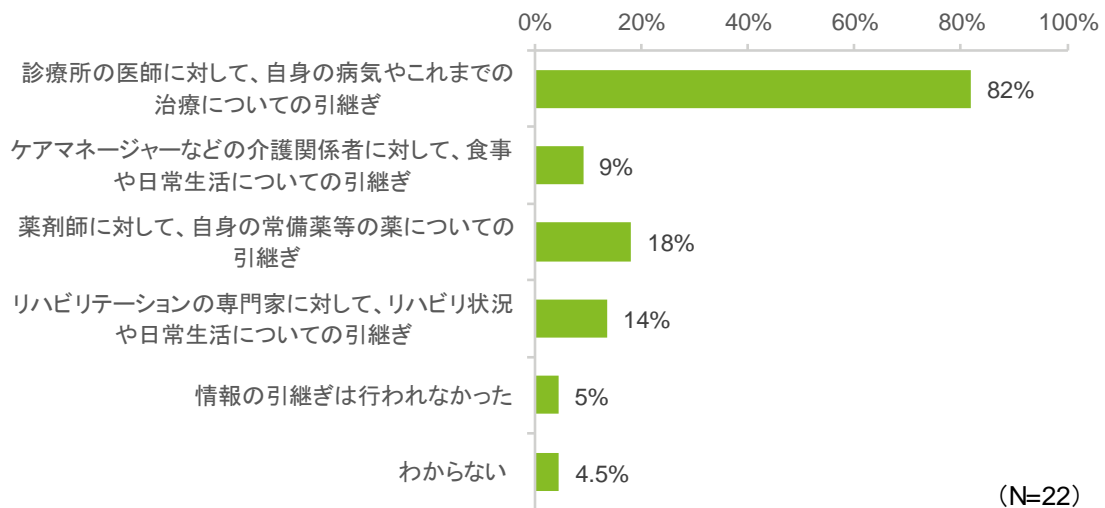




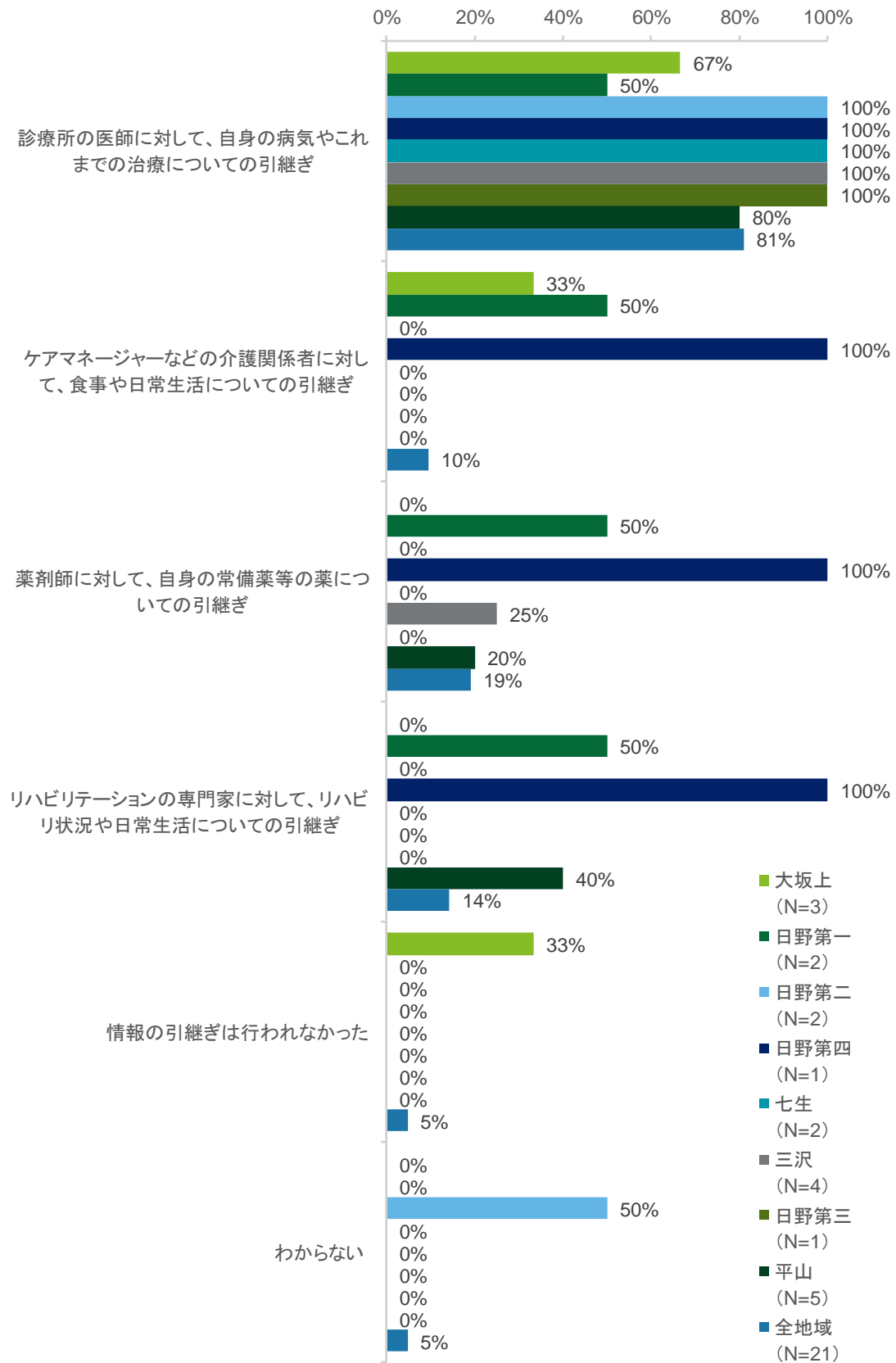
問 2 - 1 2 退院時に病院から診療所の医師などに引き継がれた情報がお分かりになれば、教えてください。(該当するもの全てに○)

- 引継ぎ情報は、大半が医師に対する自身の病気やこれまでの治療についての情報であり、次いで薬剤師、リハビリテーション専門職、介護関係者の順となっている。
- 情報の引継ぎが行われなかったという回答も 5%を占めている。
- 高齢者に限って見た場合も同様の傾向が見られるが、日野第四は他地域と比較して引き継がれた情報が多くなっている。

図表 2-38 退院時に引き継がれた情報



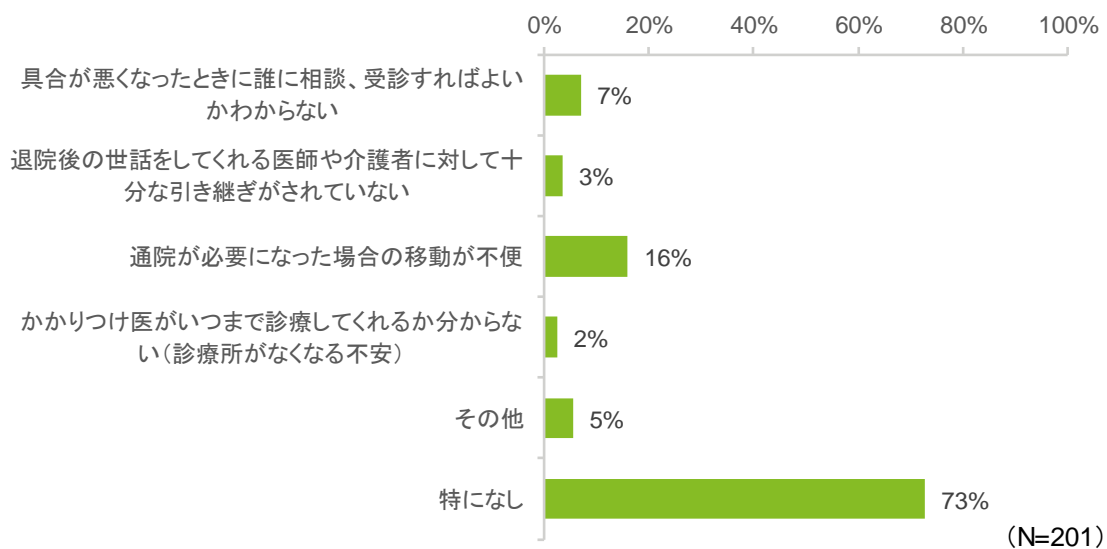
図表 2-39 退院時に引き継がれた情報（中学校区別、高齢者のみを集計）



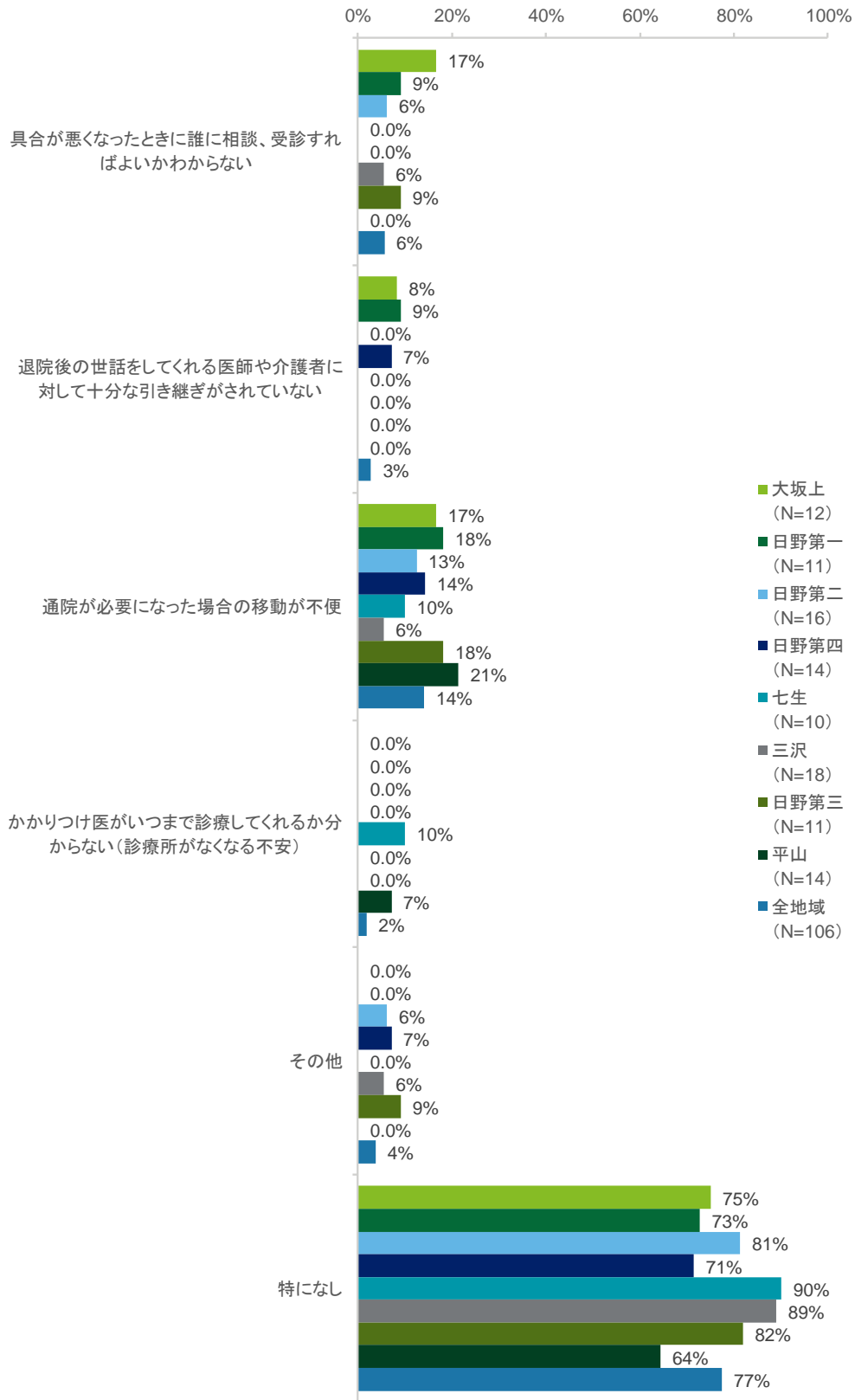
問 2 - 1 3 退院時に不安に思ったことはありますか。  
(該当するもの全てに○)

- 特になしが大半であるが、不安として挙げられた事項の中では、通院時の移動の不便さが最多となっている。
- 高齢者に限って見た場合も概ね同様の傾向が見られるが、相談先に関する不安については大坂上が比較的多い（17%）、通院の移動手段の不安については三沢が比較的少ない（6%）、診療所がなくなる不安については七生（10%）、平山（7%）に集中する傾向となっている。

図表 2-40 退院時に不安に思ったこと



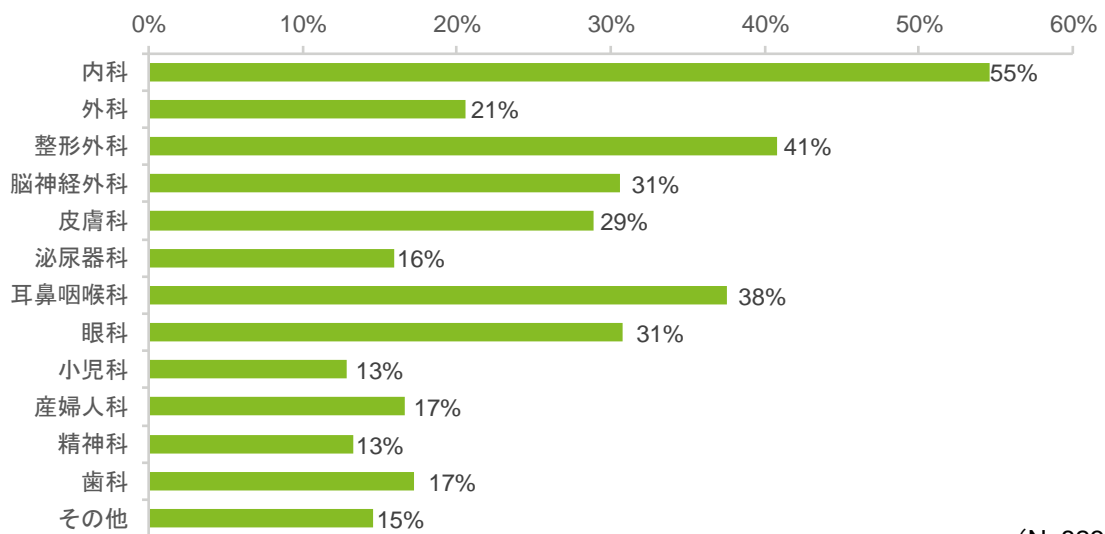
図表 2-41 退院時に不安に思ったこと（中学校区別、高齢者のみを集計）



問2-14 あなたが市内で充実してほしいと思う診療科を教えてください。(該当するもの全てに○)

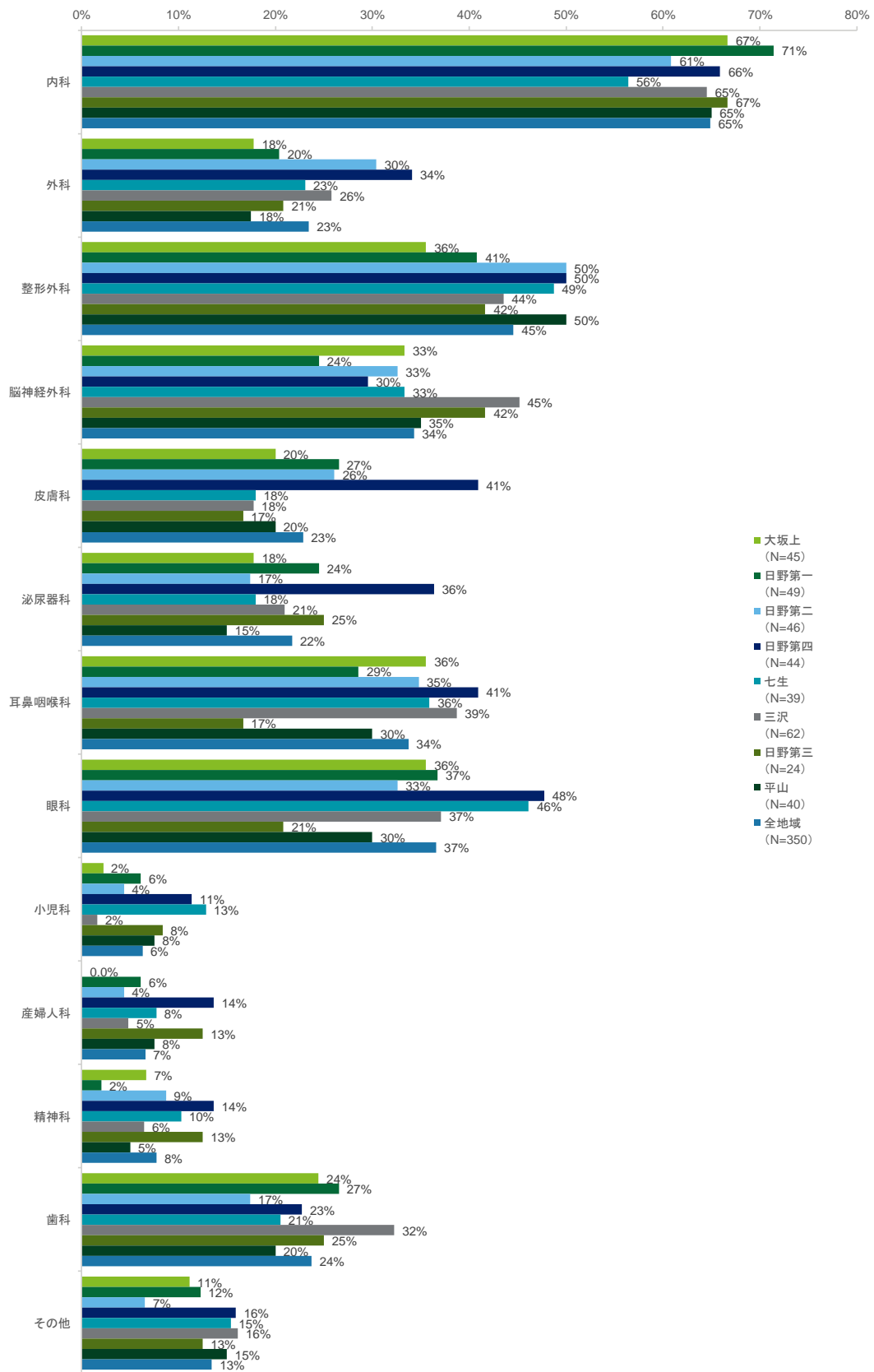
- 充実の要望が多い順に、内科、整形外科、耳鼻咽喉科となっている。
- 充実の要望が少ない順に、小児科、精神科、泌尿器科となっている。
- 高齢者に限って見た場合も概ね同様の傾向が見られるが、診療科ごとの地域差は様々となっている。

図表 2-42 市内で充実してほしいと思う診療科



(N=823)

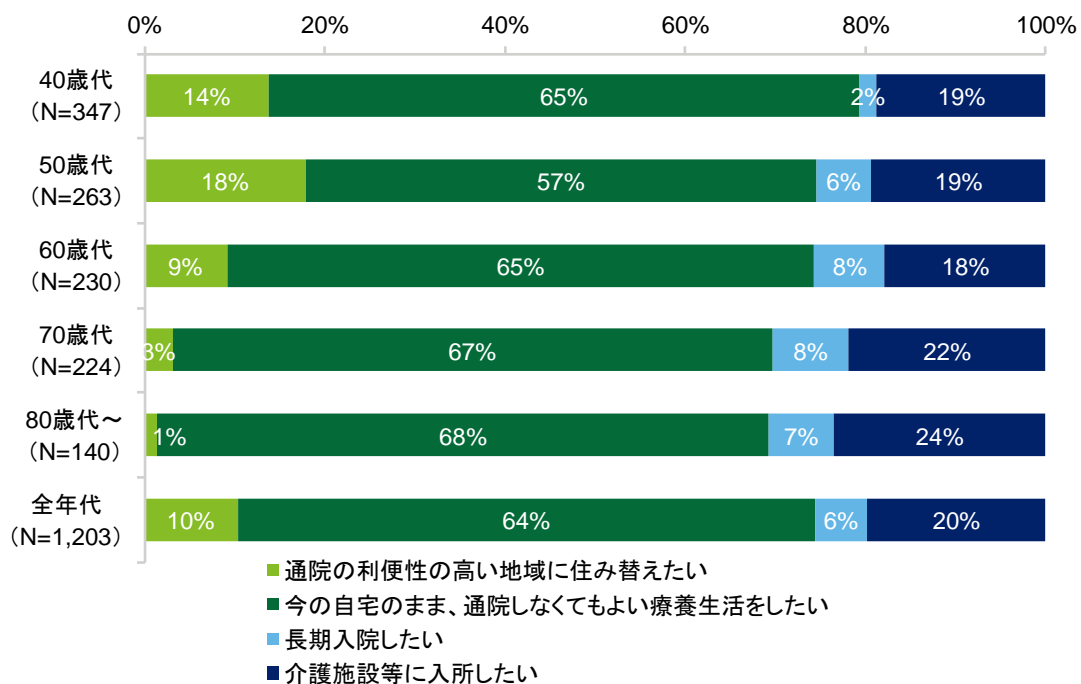
図表 2-43 市内で充実してほしいと思う診療科  
(中学校区別、高齢者のみを集計)



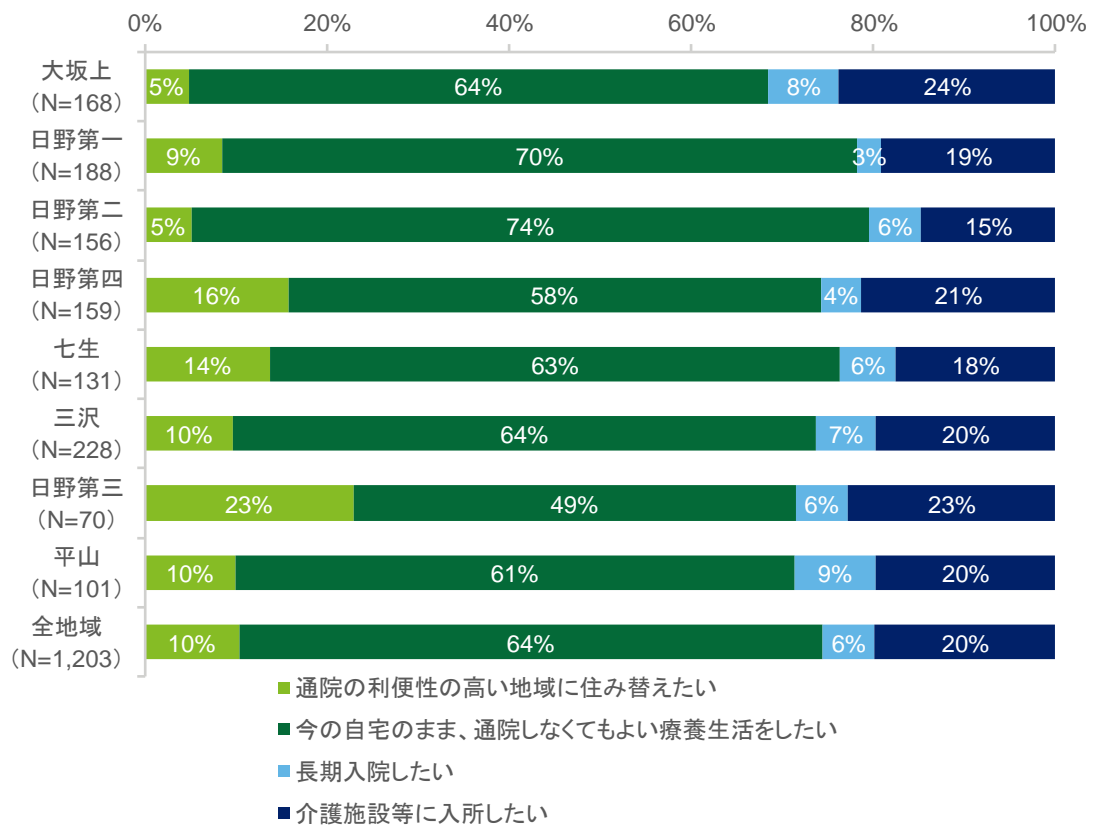
問2-15 将来的に自宅から独力で通院することが困難になった場合、  
どのようにしたいですか。(1つに○)

- 年代別に見ると、全年代で「今の自宅のまま、通院しなくてもよい療養生活をしたい」という回答が6割前後で最多となっている。住み替えについては、40歳代、50歳代、60歳代では一定程度みられるが、70歳代、80歳代以上ではほとんど見られなくなる。介護施設等への入所希望については、70歳代以上でやや増加するが、全年代をとおして2割程度となっている。
- 中学校区別に見ると、日野第三では住み替え希望が相対的に多く、住み続ける希望が相対的に少なくなっている。

図表 2-44 将来的に独力での通院が困難になった場合の希望（年代別）



図表 2-45 将来的に独力での通院が困難になった場合の希望（中学校区別）

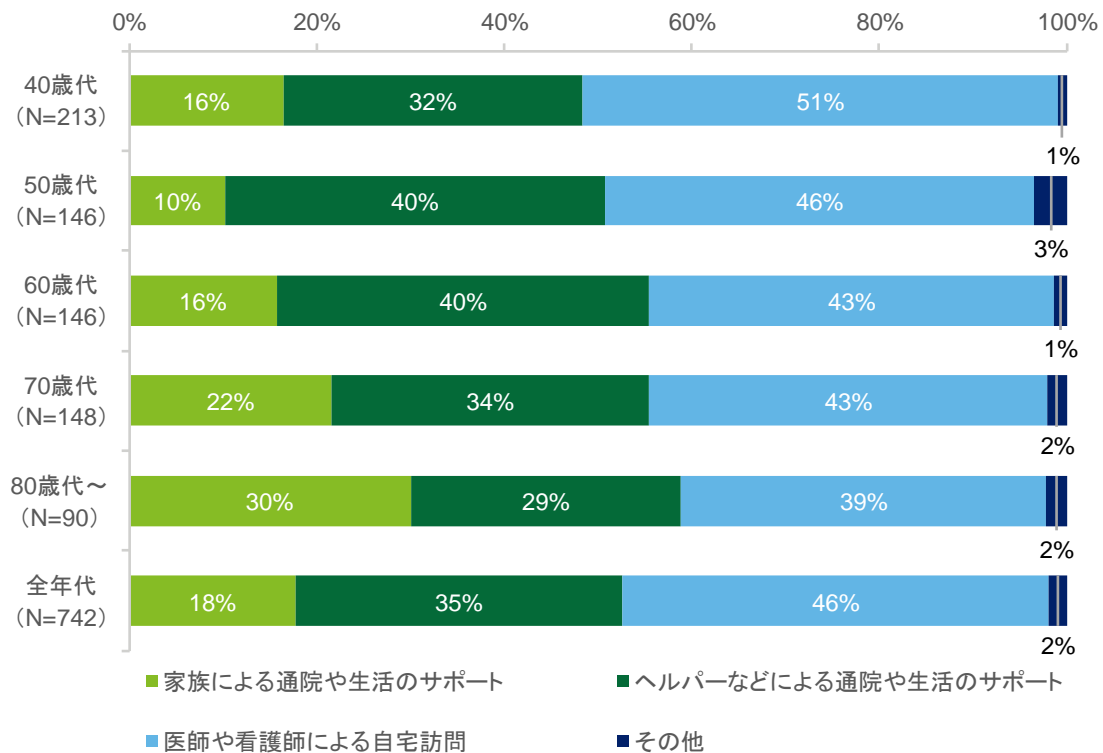




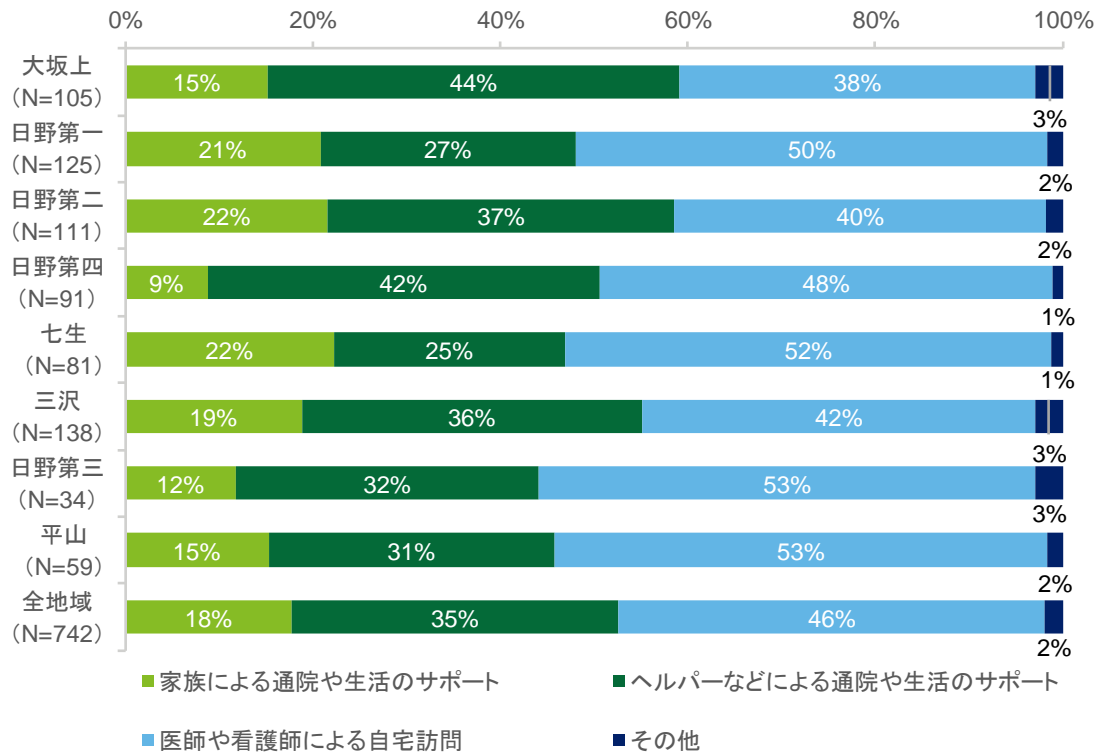
問2-16 今の自宅生活のまま生活する場合、どのようなサポートが欲しいですか。(1つに○)

- 年代別に見ると、全年代を通して、医師や看護師による自宅訪問の希望が最多となっており、4割から5割程度を占めている。また、50歳代以上においては、年代が上がるほど家族によるサポートの希望が増加し、ヘルパー等によるサポートの希望が減少している。
- 中学校区別に見ると、医師や看護師による自宅訪問の希望は、日野第一、七生、日野第三、平山で半数以上となっている。また、日野第四、日野第三では家族によるサポート希望が比較的少なくなっている。

図表 2-46 自宅で生活する場合にほしいサポート (年代別)



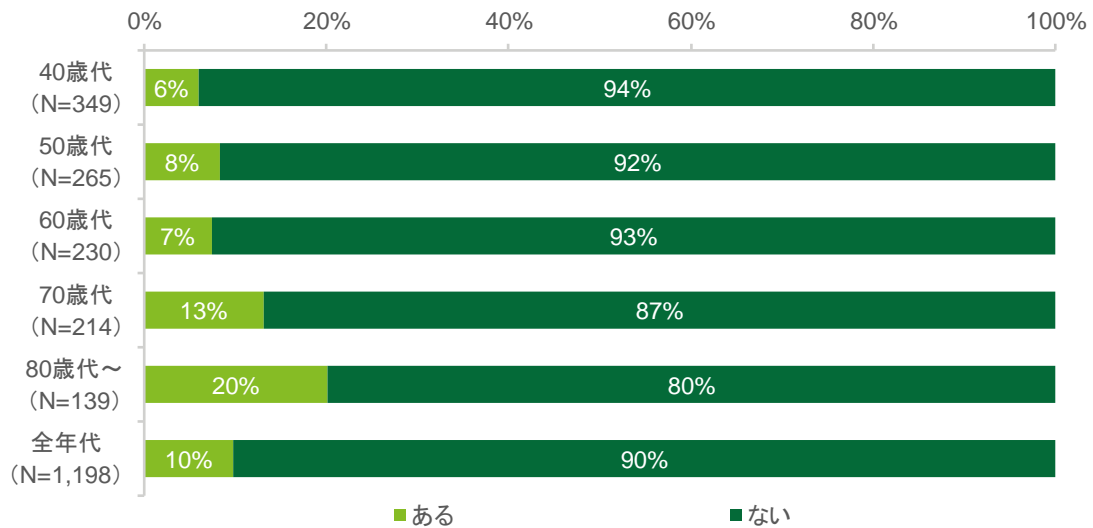
図表 2-47 自宅で生活する場合にほしいサポート（中学校区別）



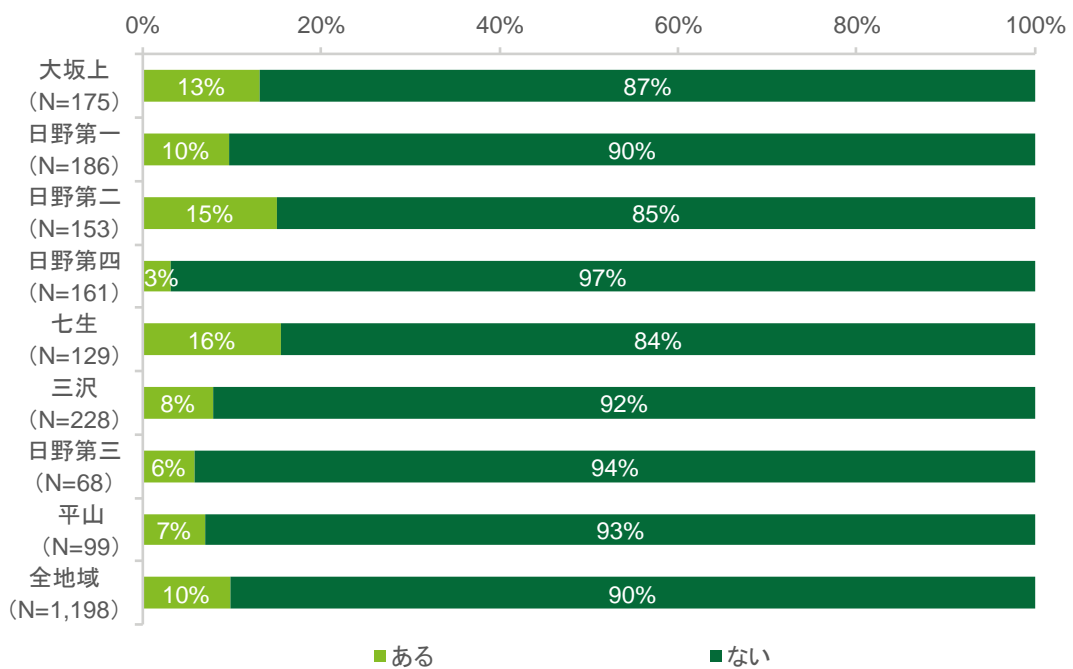
問 2 - 1 7 ご家族等を自宅で看取ったことがありますか。(1つに○)

- 年代別に見ると、概ね年代が上がるにしたがって看取り経験がある人が増えており、最多の80歳代以上で20%となっている。
- 中学校区別に見ると、七生、日野第二、大坂上の順に多くなっている。

図表 2-48 看取りの経験 (年代別)



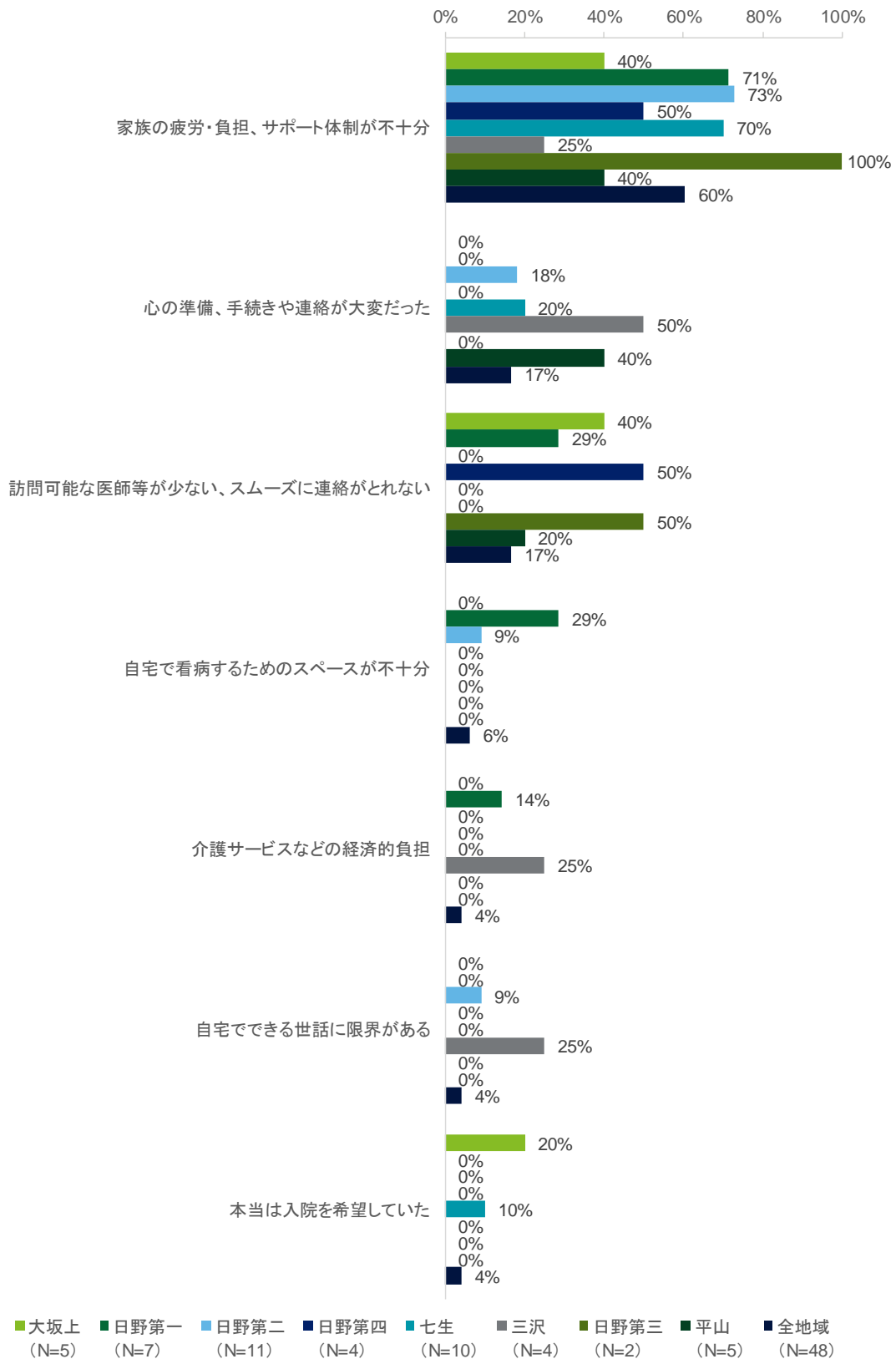
図表 2-49 看取りの経験 (中学校区別)



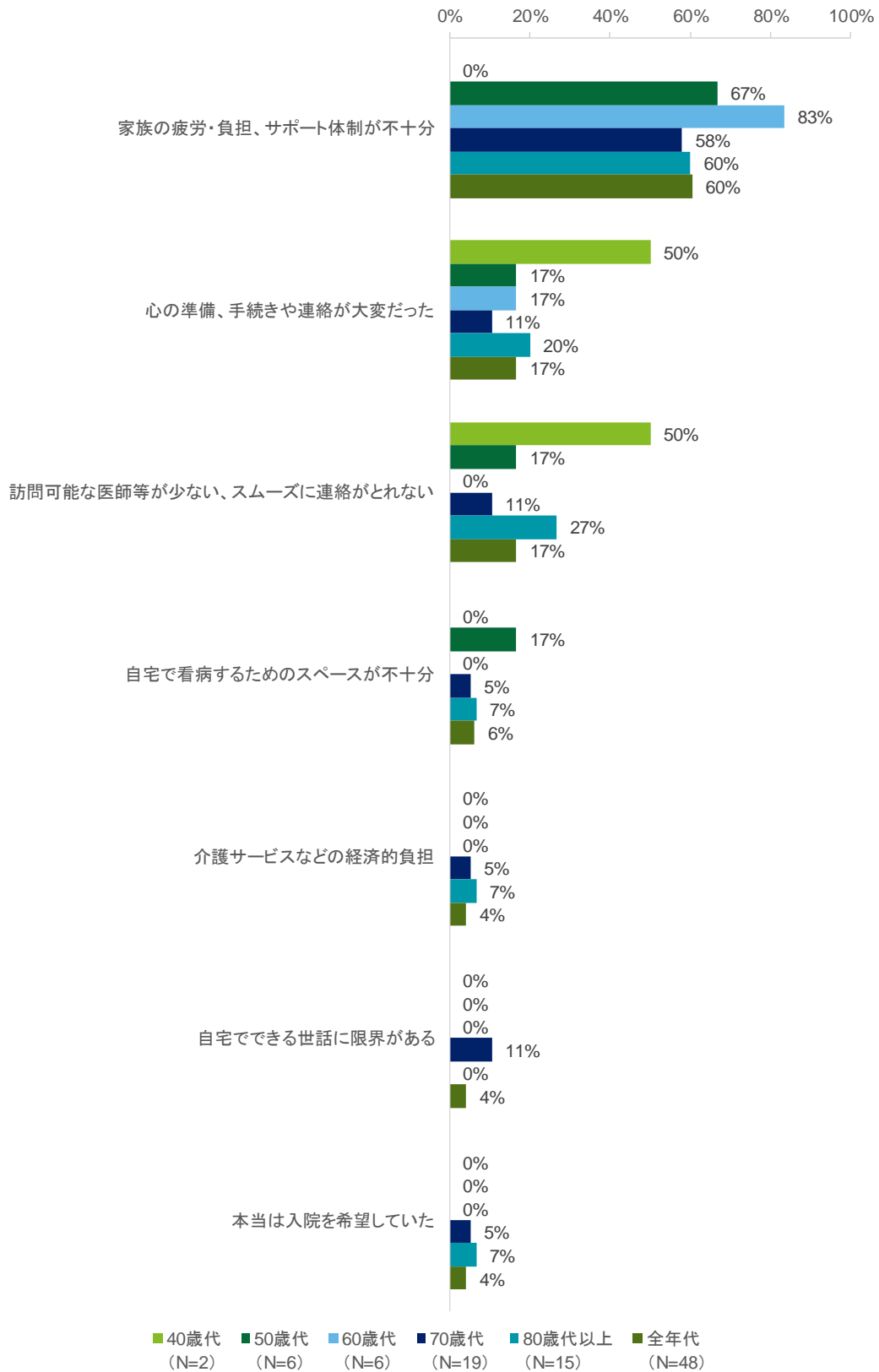
問 2 - 1 8 ご家族等を自宅で看取った時に困ったこと、自宅で看取って良かったことなど自宅での看取りの経験に基づくご感想を可能な範囲で教えてください。(自由記述)

- 合計で 112 件の回答があった。困ったことについてのコメントが 54 件、良かったことについてのコメントが 58 件、その他のコメントが 15 件あった。  
※1 件のコメントで困ったこと、良かったこと、その他の複数のコメントを含むものもあるため、内訳の合計は回答数の合計とは一致しない。
  
- 困ったことについて、具体的な内容を見ると、以下の傾向が見られる。
  - 「家族の疲労・負担、サポート体制が不十分であった」とするコメントが最多で、困ったことのコメント総数の 60%を占めている。特に、60 歳代のコメントの 8 割以上となっている。中学校区別に見ると、日野第三、日野第二、日野第一、七生のコメントの 70%以上を占めている。
  - 「心の準備、手続きや連絡が大変だった」とするコメントと、「訪問可能な医師等が少ない、スムーズに連絡がとれない」とするコメントが同率となっており、困ったことのコメント総数の 17%を占めている。特に、両コメントとも 40 歳代のコメントの 50%を占めている。中学校区別に見ると、前者については三沢のコメントの 50%、後者については日野第四、日野第三のコメントの 50%を占めている。
  
- 良かったことについて、具体的な内容を見ると、以下の傾向が見られる。
  - 「最期まで近くで一緒に過ごせたこと」とするコメントが最多で、良かったことのコメント総数の 42%を占めている。特に、40 歳代のコメントの 67%を占めている。中学校区別に見ると、日野第二、日野第三のコメントの 67%を占めている。
  - 「医師等がよく対応してくれたこと」とするコメントが 2 番目に多く、良かったことのコメント総数の 38%を占めている。特に、60 歳代のコメントの 56%を占めている。中学校区別に見ると、日野第一のコメントの 75%を占めている。
  - 「本人の希望をかなえられたこと」とするコメントが 3 番目に多く、良かったことのコメント総数の 23%を占めている。50 歳代、70 歳代でともにコメントの 29%を占めている。中学校区別に見ると、平山のコメントの 50%を占めている。
  
- その他のコメントについては、「長患いでなかったため、特に大変さは感じなかった」、「昔のことで覚えていない」となっている。

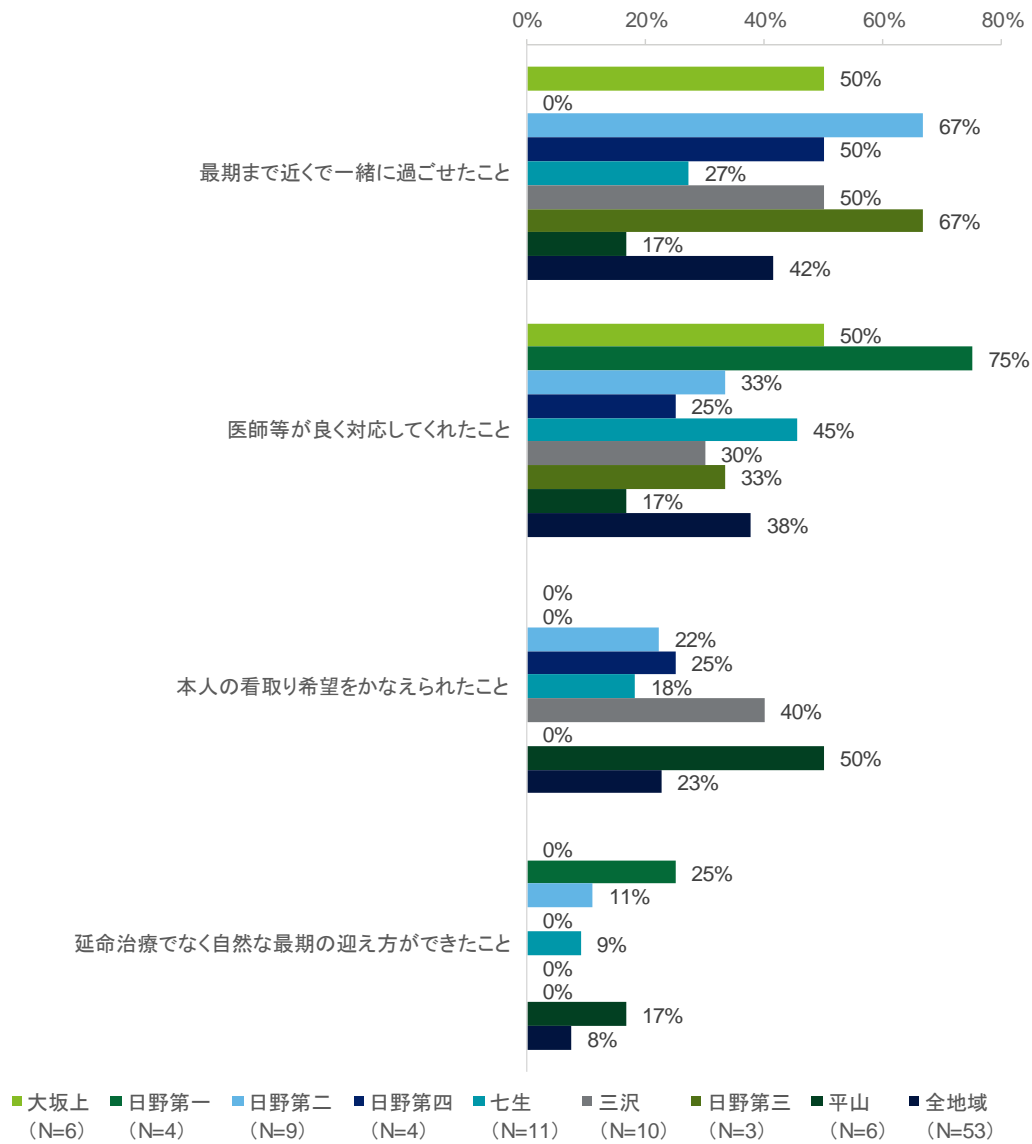
図表 2-50 看取りの経験で困ったこと（中学校区別）



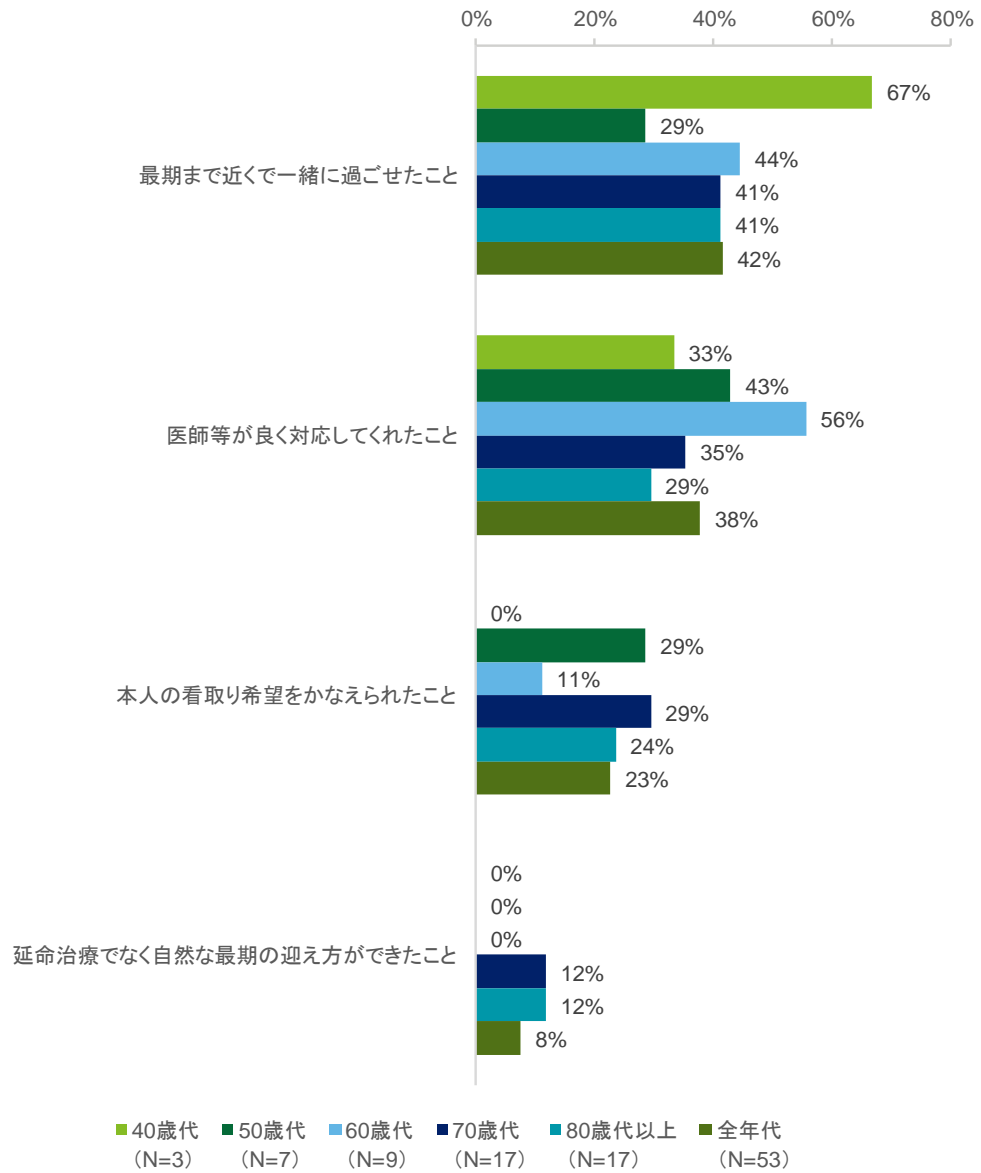
図表 2-51 看取りの経験で困ったこと（年代別）



図表 2-52 看取りの経験で良かったこと（中学校区別）

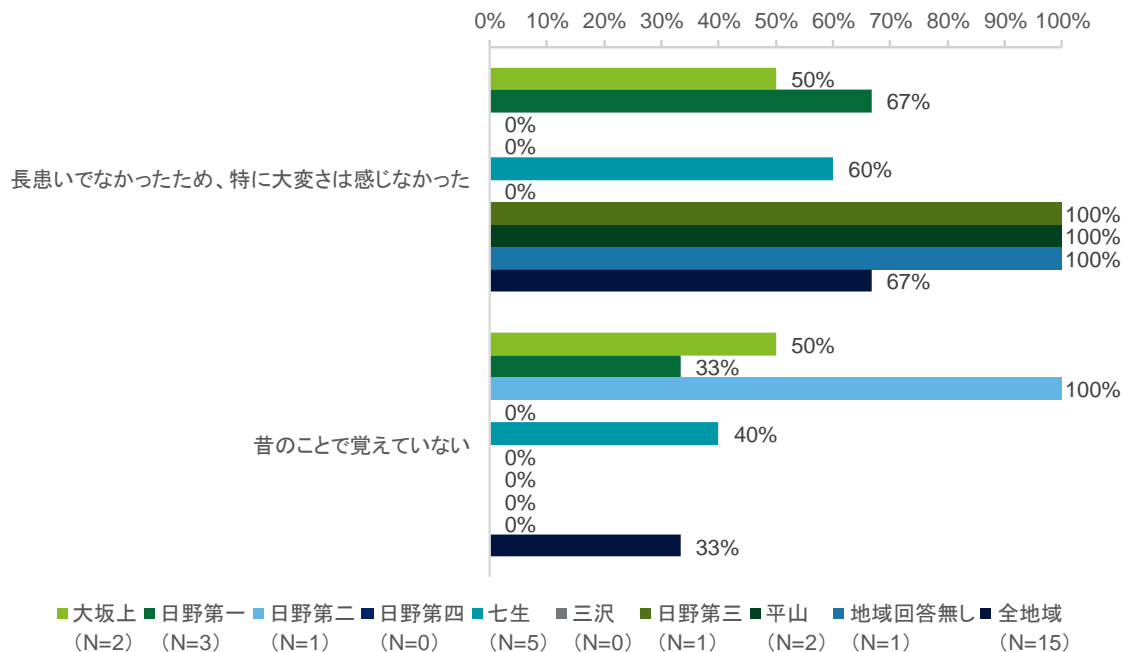


図表 2-53 看取りの経験で良かったこと（年代別集計）

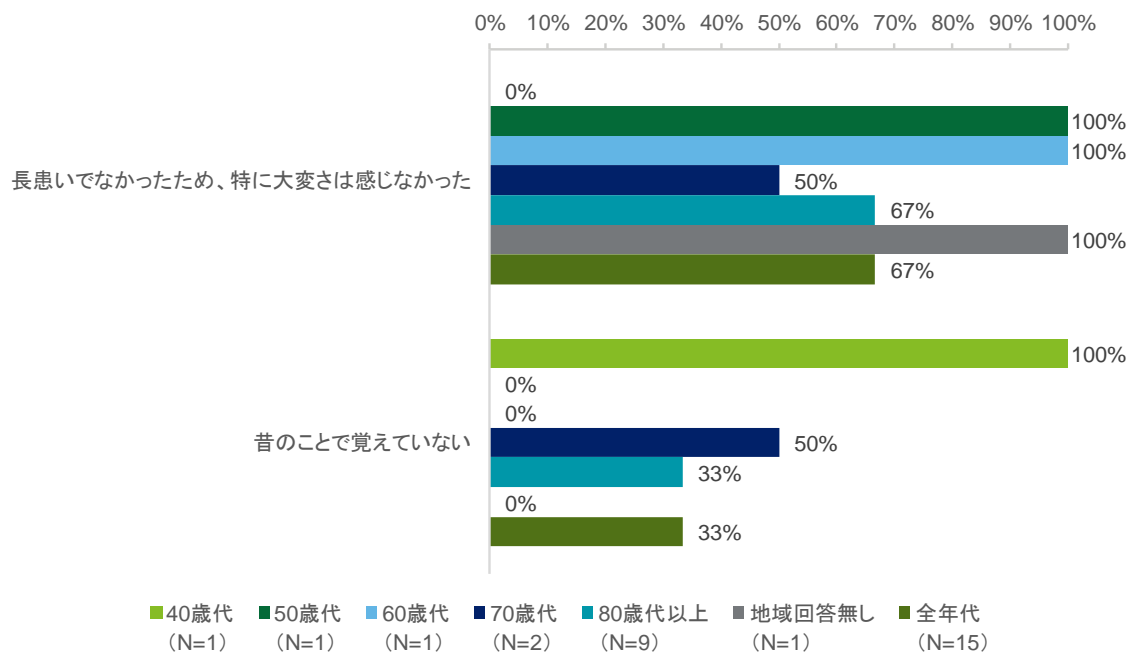




図表 2-54 看取りの経験（困ったこと、良かったこと以外）（中学校区別集計）



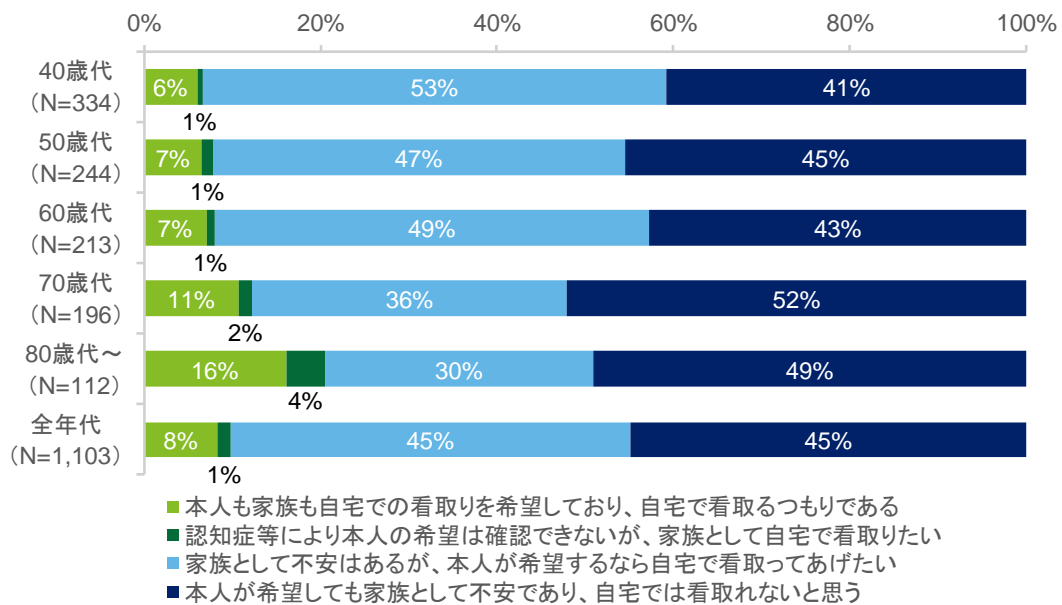
図表 2-55 看取りの経験（困ったこと、良かったこと以外）（年代別集計）



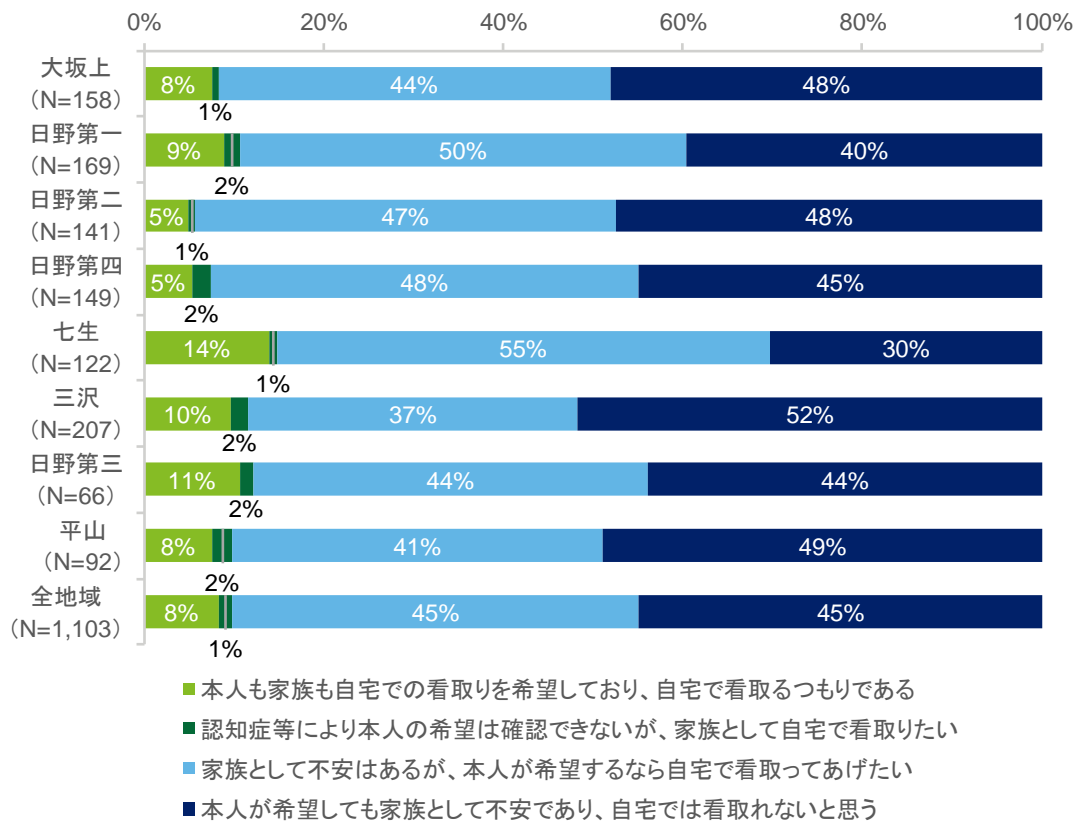
問 2 - 1 9 ご家族等を自宅で看取ることについてどう思いますか。  
(1つに○)

- 何らかの看取りの意向がある人が**55%**、自宅では看取れないと思う人が**45%**となっている。
- 年代別に見ると、高齢者の方が、積極的な看取りの意向についても、自宅では看取れないという意向についてもともに増加している。
- 中学校区別に見ると、概ねいずれの地域も同様の傾向が見られるが、七生では積極的な看取り意向が比較的多く、自宅では看取れないと思うという意向が少なくなっている。

図表 2-56 看取りについての意向 (年代別)



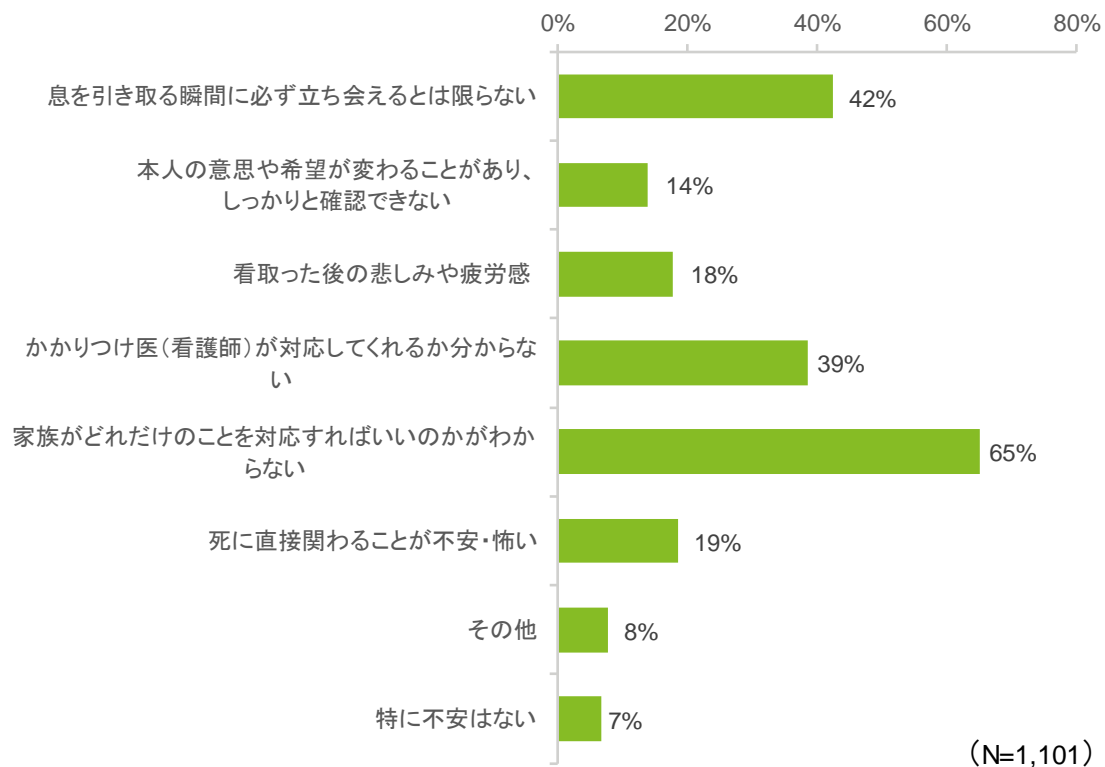
図表 2-57 看取りについての意向（中学校区別）



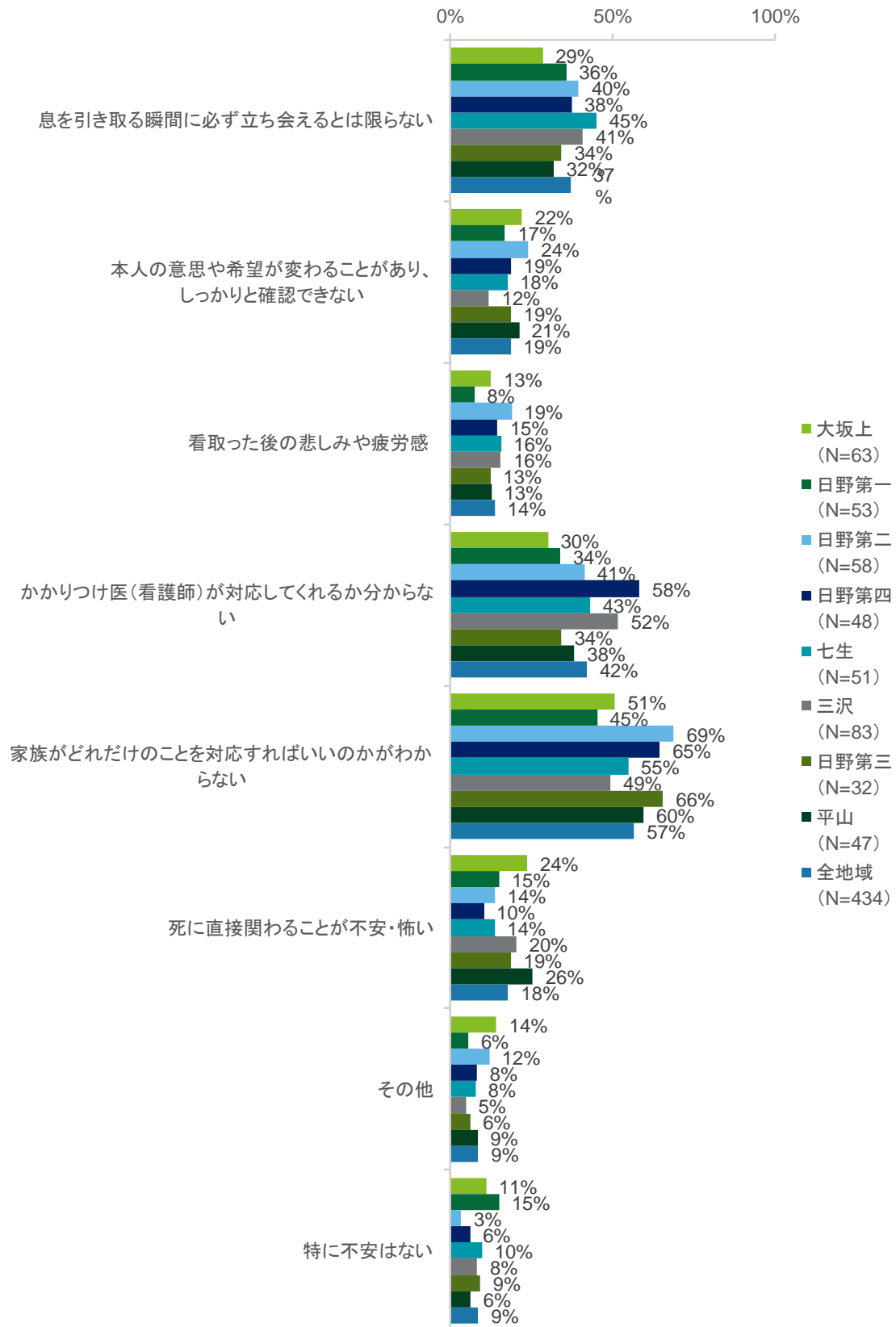
問2-20 ご家族等を自宅で看取ることについて、不安を感じている点があれば教えてください。(3つまで)

- 看取りに対する不安については、多い順に、「家族がどれだけのことを対応すればいいのかがわからない」、「息を引き取る瞬間に必ず立ち会えるとは限らない」、「かかりつけ医（看護師）が対応してくれるかわからない」となっている。
- 高齢者に限って見た場合もほぼ同じ傾向を示しているが、地域間では差が見られ、特に「かかりつけ医（看護師）が対応してくれるか分からない」を選んだ割合について、日野第四、三沢では5割を超えている一方で、大坂上、日野第一、日野第三では約3割となっている。

図表 2-58 看取りへの不安



図表 2-59 看取りへの不安（中学校区別、高齢者のみを集計）



問 2 - 2 1 あなたが最期を迎えるときの場所や延命治療の希望について、あなたの思いに一番近いものはどれですか。(1つに○)

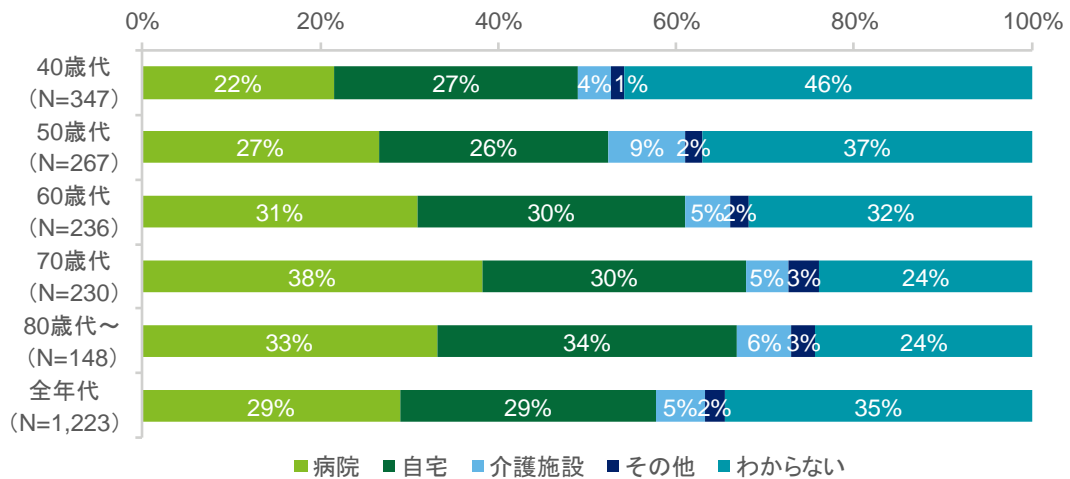
<最期を迎える場所の希望について>

- 全市的に見ると、病院で最期を迎える希望と自宅で最期を迎える希望が同程度となっている。
- 年代別に見ると、高齢者の方が病院で最期を迎える希望が多くなっている。
- 中学校区別に見ると、概ねいずれの地域でも同様の傾向が見られるが、七生においては病院での最期の希望がやや少なくなっている。

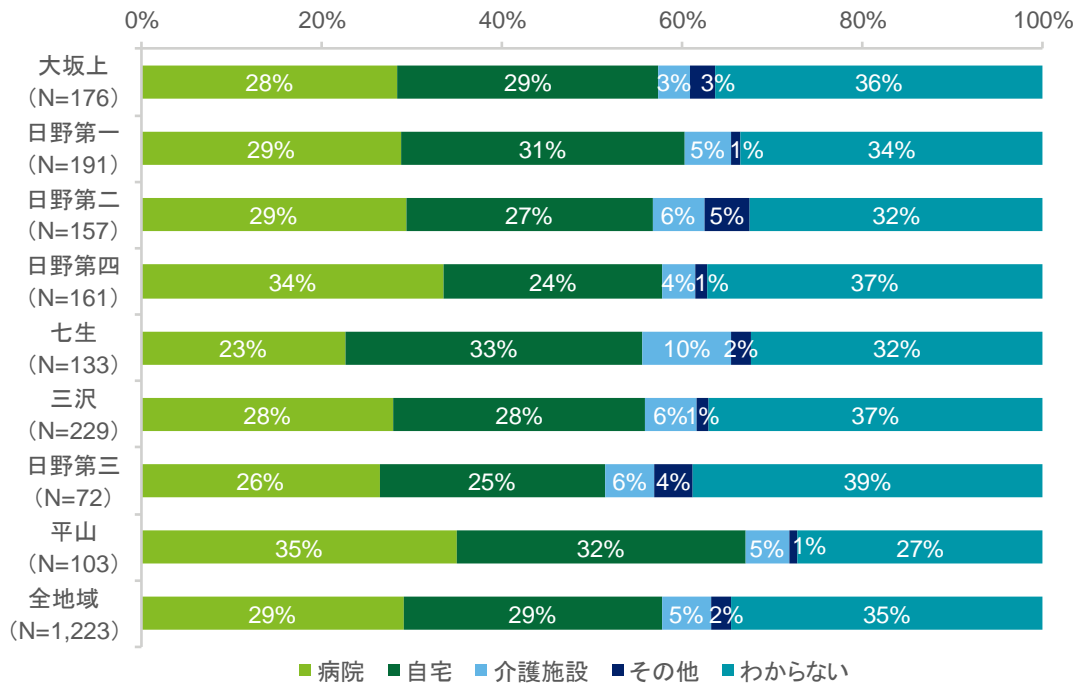
<延命治療の希望について>

- 全年代を通して、積極的な延命治療の希望はほとんどなく、緩和ケアを希望する人が大半となっている。

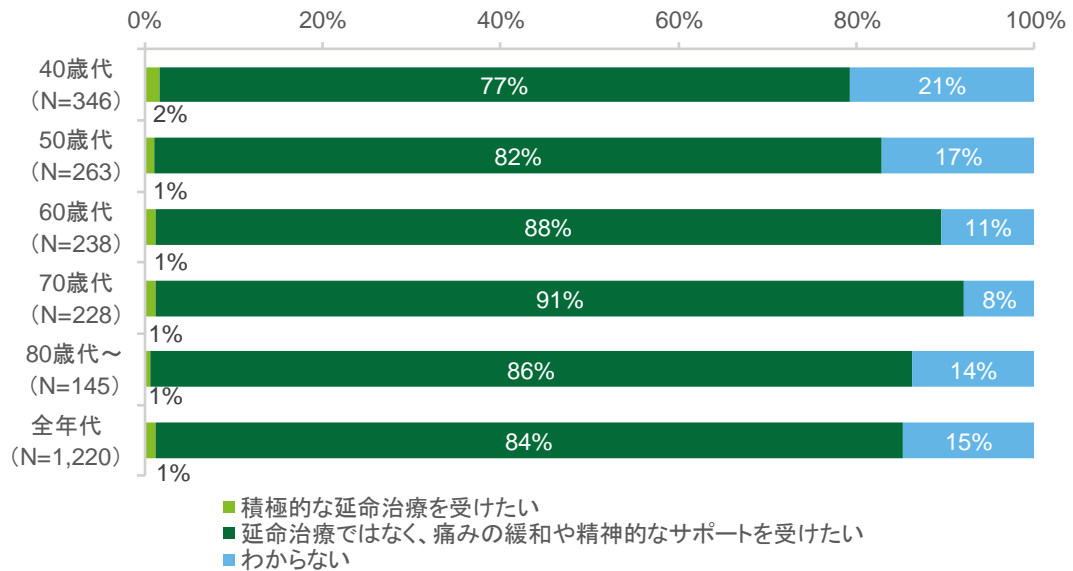
図表 2-60 最期を迎える場所の希望 (年代別)



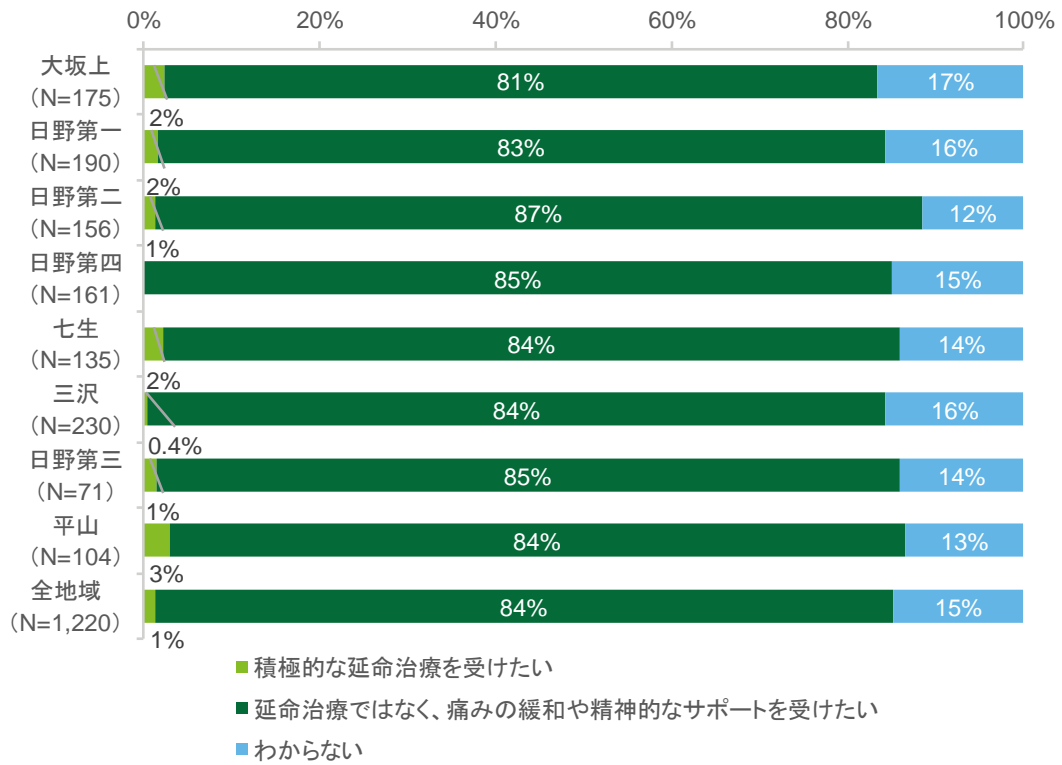
図表 2-61 最期を迎える場所の希望（中学校区別）



図表 2-62 延命治療の希望（年代別）



図表 2-63 延命治療の希望（中学校区別）



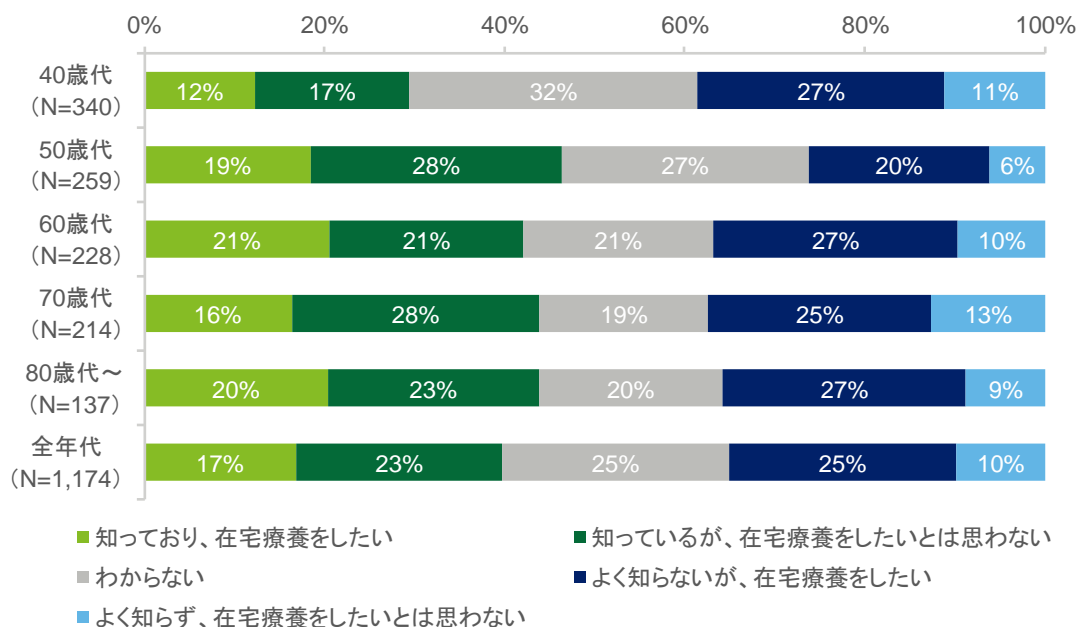


## 2.4 市民の在宅療養に関する意見

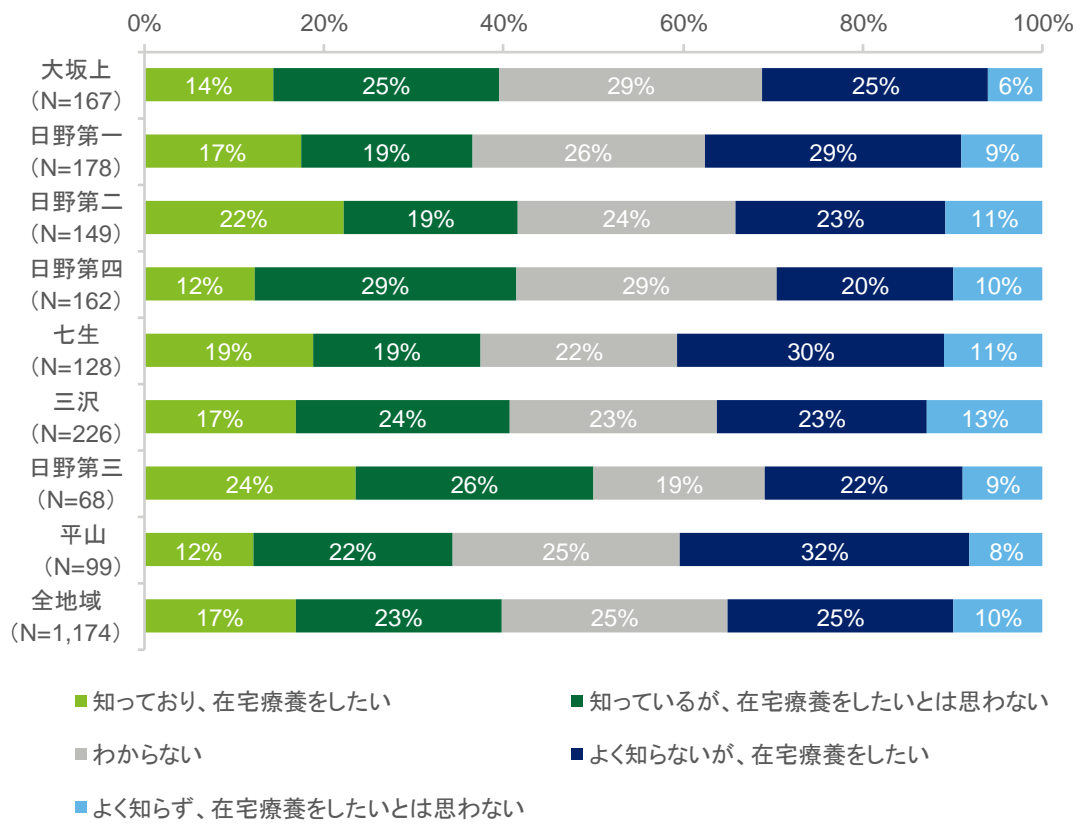
問3-1 あなたは「在宅療養」を知っていますか。(1つに○)

- 全市的に見ると、在宅療養を知っている人が40%、よく知らないが35%となっている。また、在宅療養をしたいという人が42%、したいとは思わないという人が33%となっている。
- 年代別に見ると、在宅療養をしたいという人としたいとは思わない人は、70歳代では同程度となっており、他の年代では在宅療養をしたいという人の方がやや多くなっている。特に、60歳代と80歳代以上においては、半数近くが在宅療養をしたいと回答している。
- 中学校区別に見ると、日野第四を除いた全ての地域で、在宅療養をしたい人が在宅療養をしたいとは思わない人をやや上回っている。在宅療養をしたいという回答が多い地域は、多い順に、七生、日野第一、日野第三となっている。

図表 2-64 在宅療養の認知度 (年代別)



図表 2-65 在宅療養の認知度（中学校区別）



問3-2 訪問診療、往診や訪問歯科診療を知っていますか。(1つに○)

<訪問診療について>

- 全市的に見ると、知っている人が41%、知らない人が35%となっている。また、利用したいという人が54%、利用したいとは思わないという人が22%となっている。
- 年代別に見ると、40歳代、70歳代で利用したいという人がやや少なくなっている。
- 中学校区別に見ると、利用したいという人が日野第四で46%とやや少なく、他の地域は利用したいという人が半数以上となっている。

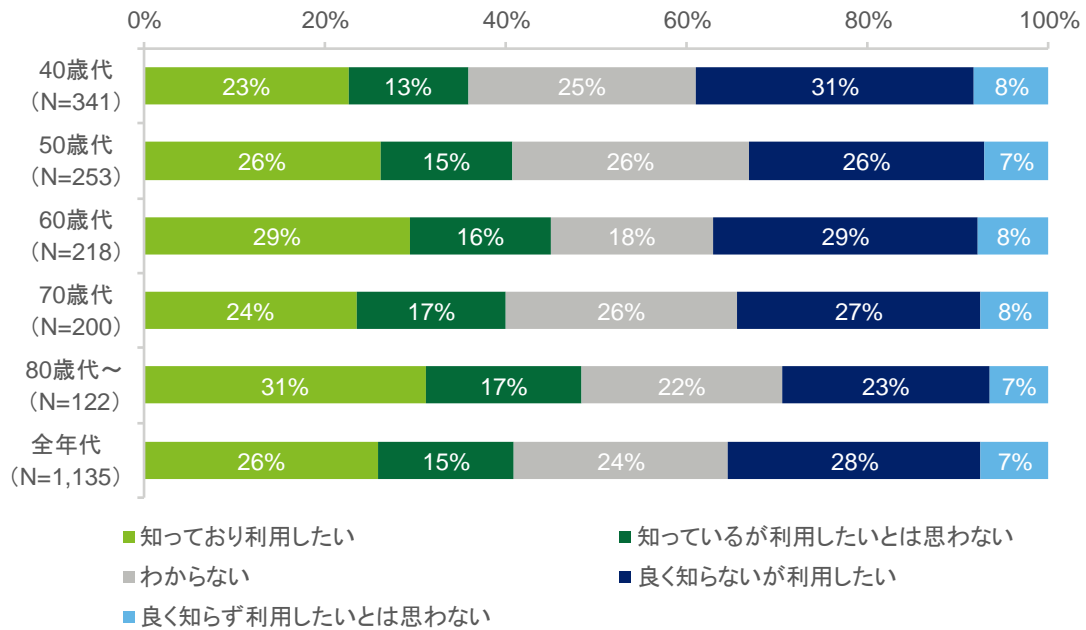
<往診について>

- 全市的に見ると、知っている人が42%、知らない人が35%となっている。また、利用したいという人が56%、利用したいとは思わないという人が21%となっている。
- 年代別に見ると、40歳代、70歳代で知っている人がやや少なくなっている。
- 中学校区別に見ると、利用したいという人が日野第四で48%とやや少なく、他の地域は利用したいという人が半数以上となっている。

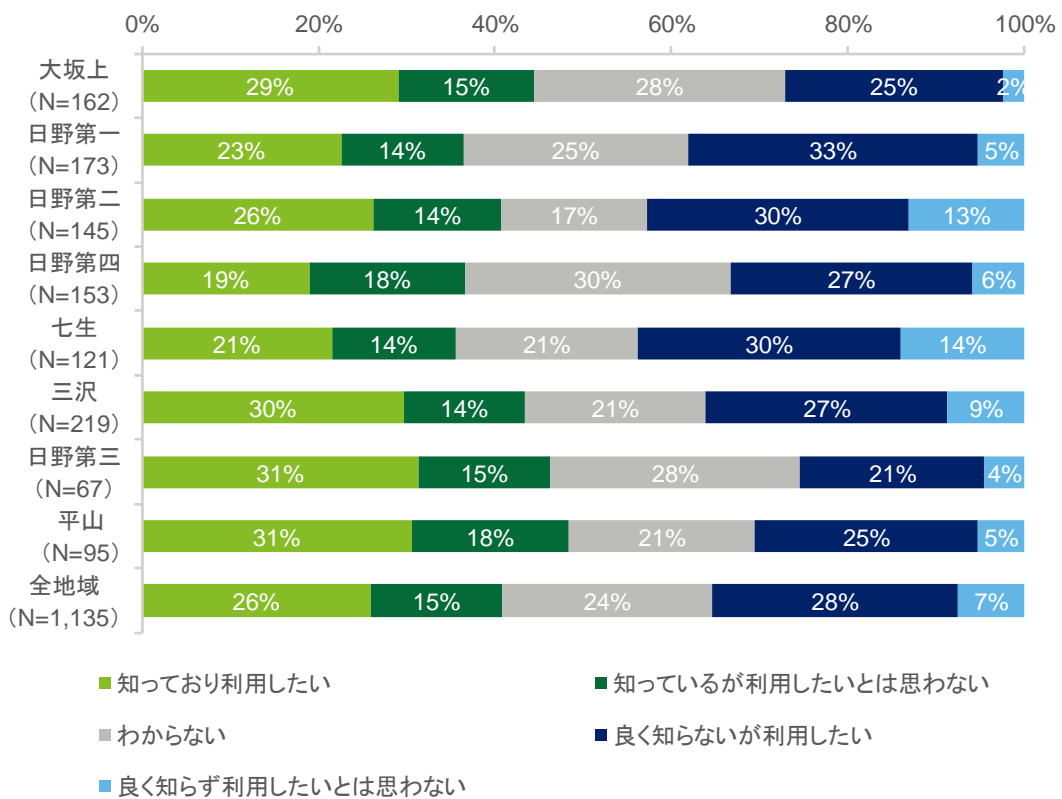
<訪問歯科診療について>

- 全市的に見ると、知っている人が39%、知らない人が36%となっている。また、利用したいという人が47%、利用したいとは思わないという人が29%となっている。
- 年代別に見ると、60歳代で利用したいという人が54%とやや多く、他の年代は利用したいという人が半数以下となっている。
- 中学校区別に見ると、利用したいという人が日野第二で53%とやや多く、日野第一(42%)、日野第四(44%)、七生(45%)は利用したいという人がやや少なくなっている。

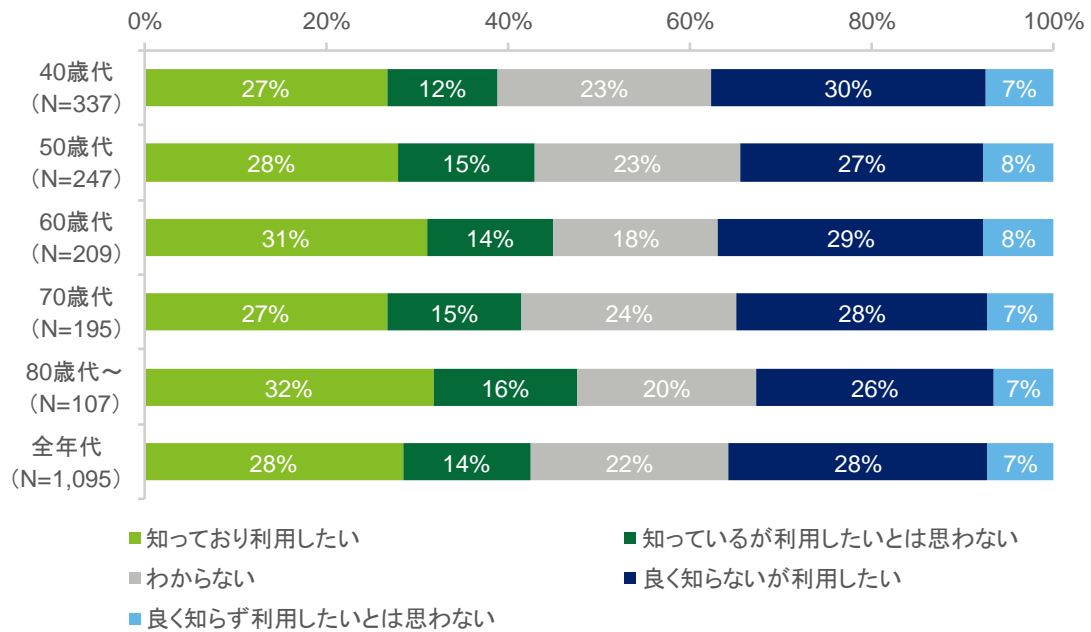
図表 2-66 訪問診療の認知度（年代別）



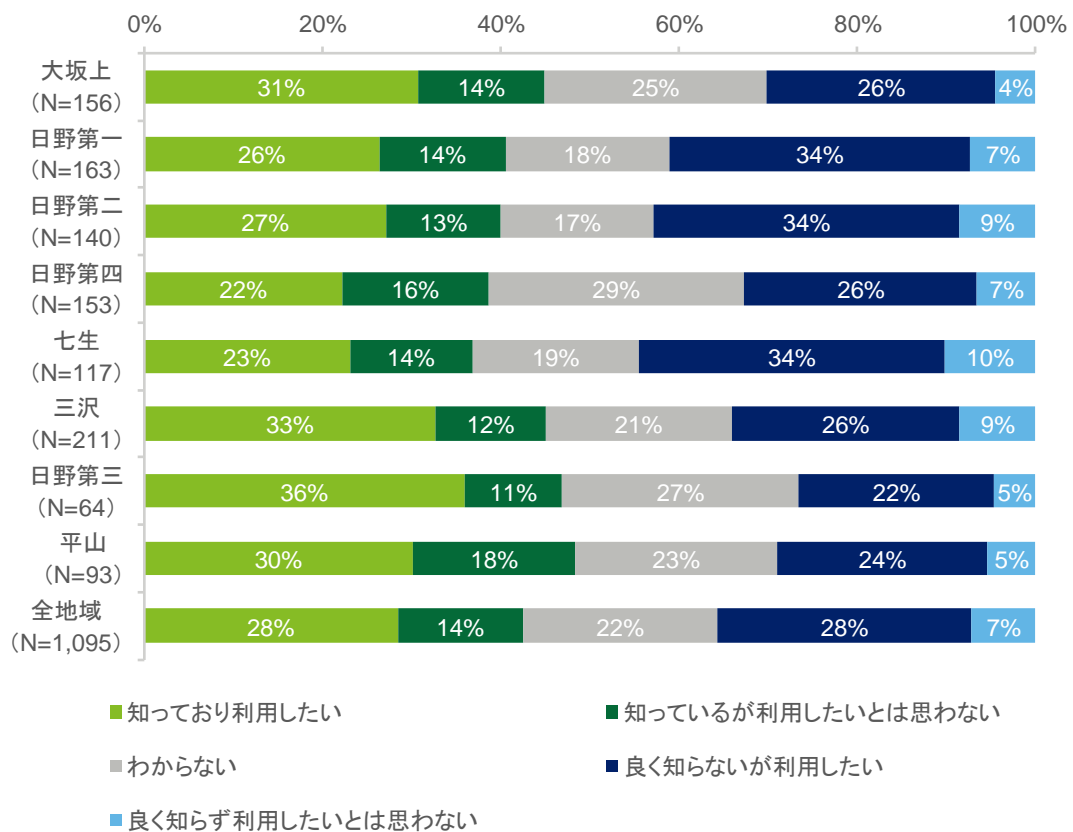
図表 2-67 訪問診療の認知度（中学校区別）



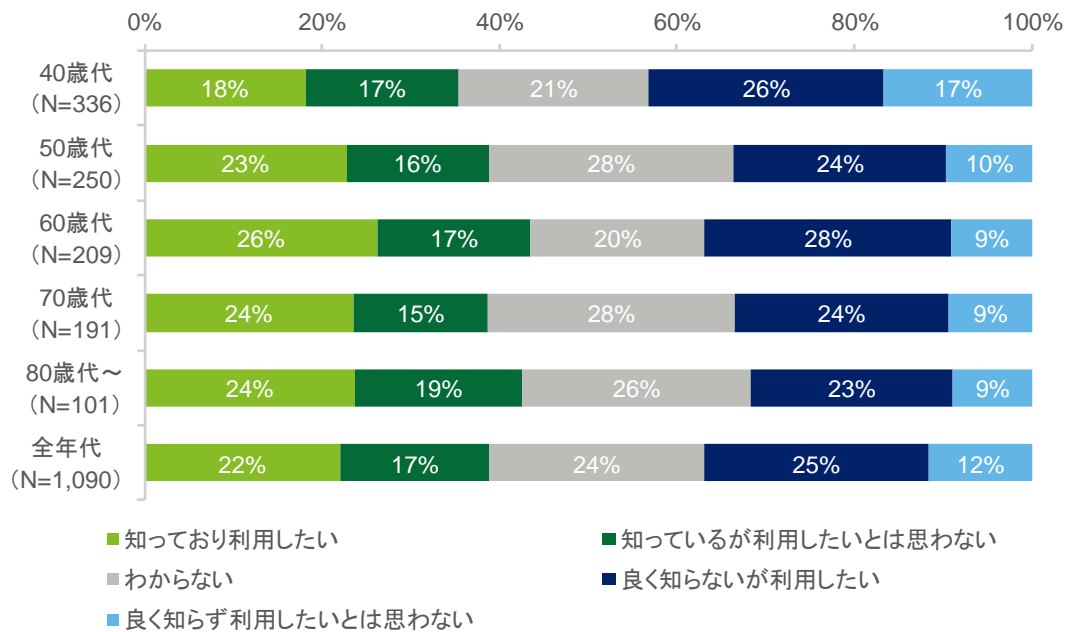
図表 2-68 往診の認知度（年代別）



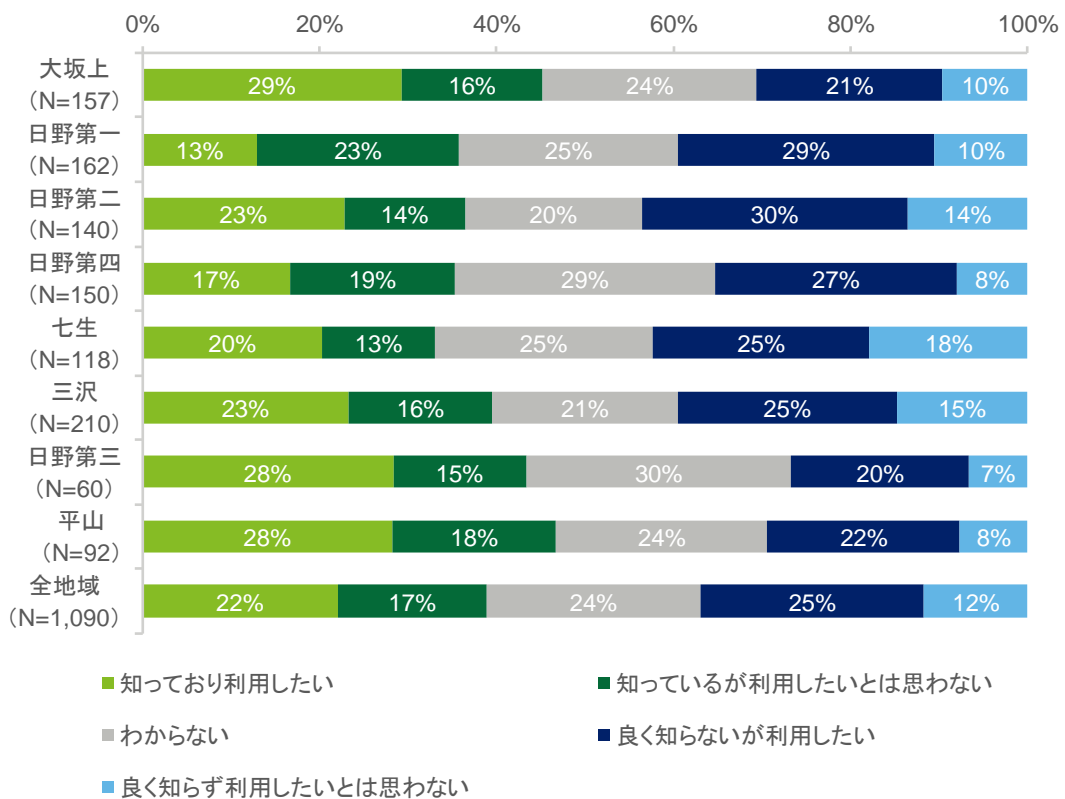
図表 2-69 往診の認知度（中学校区別）



図表 2-70 訪問歯科診療の認知度（年代別）



図表 2-71 訪問歯科診療の認知度（中学校区別）



問3-3 かかりつけ医の先生は、あなたが希望した場合、訪問診療、訪問  
歯科診療や往診に対応してくれますか。(1つに○)

<訪問診療について>

- 全市的に見ると、約半数がわからないと回答しており、残りの約半数が、対応してくれないと思うと回答している。
- 年代別に見ると、80歳代以上については、23%が対応してくれると思うと回答しており、他の年代よりも突出して多くなっている。
- 中学校区別に見ると、わからないという回答が特に多いのは日野第三と日野第四となっており、日野第四では、対応してくれると思うという回答が特に少なくなっている。

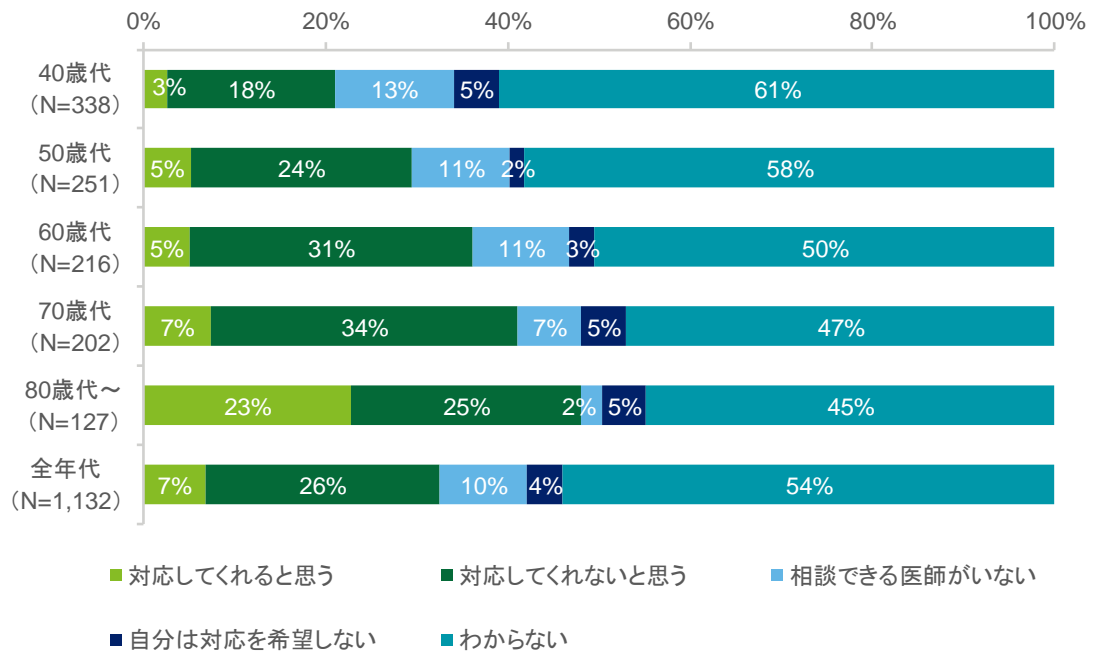
<往診について>

- 往診については、訪問診療と同様の傾向が見られる。

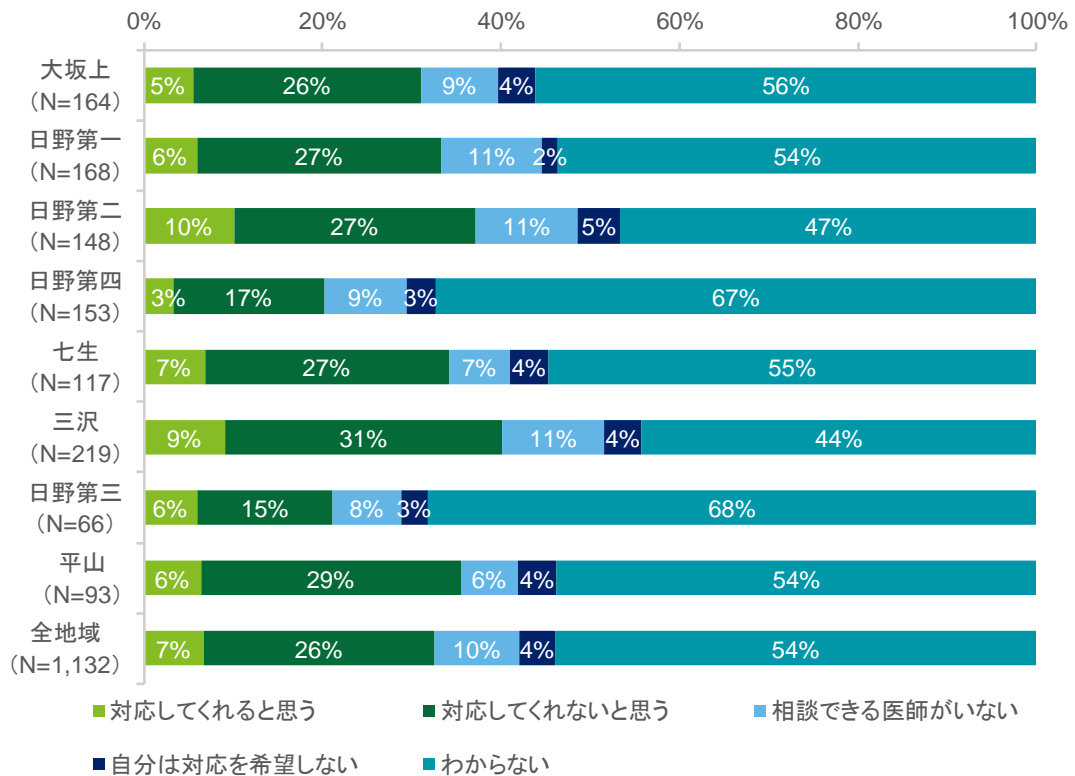
<訪問歯科診療>

- 訪問歯科診療については、訪問診療と同様の傾向が見られるが、中学校区別に見ると、対応してくれると思うという回答が少なくなっているのは、大坂上、日野第一、七生となっている。

図表 2-72 かかりつけ医の訪問診療への対応（年代別）

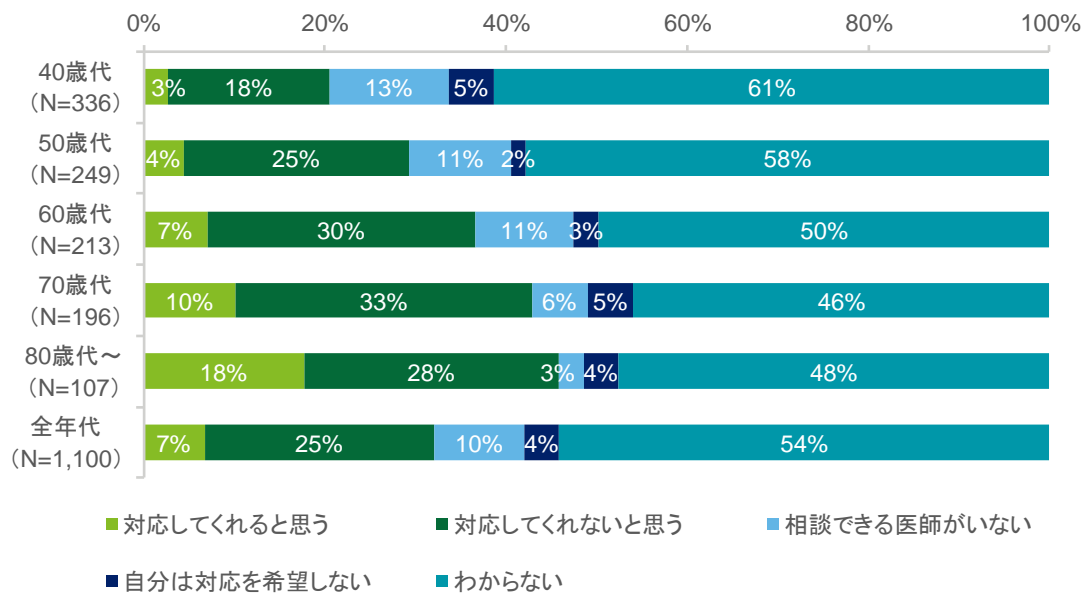


図表 2-73 かかりつけ医の訪問診療への対応（中学校区別）

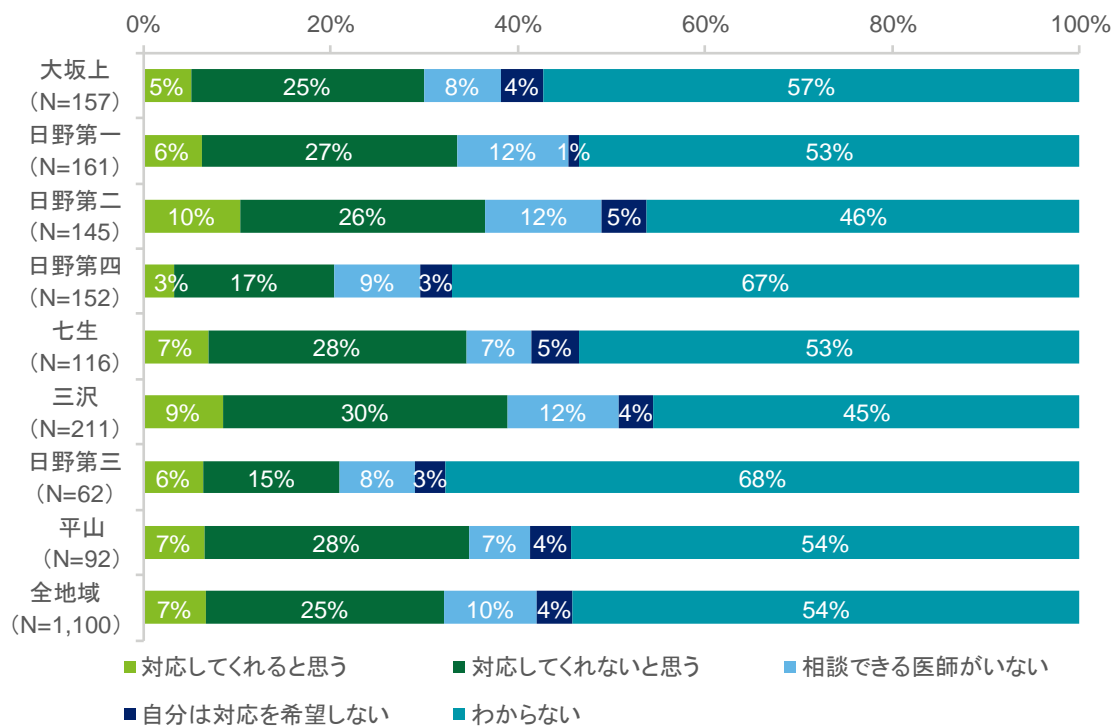




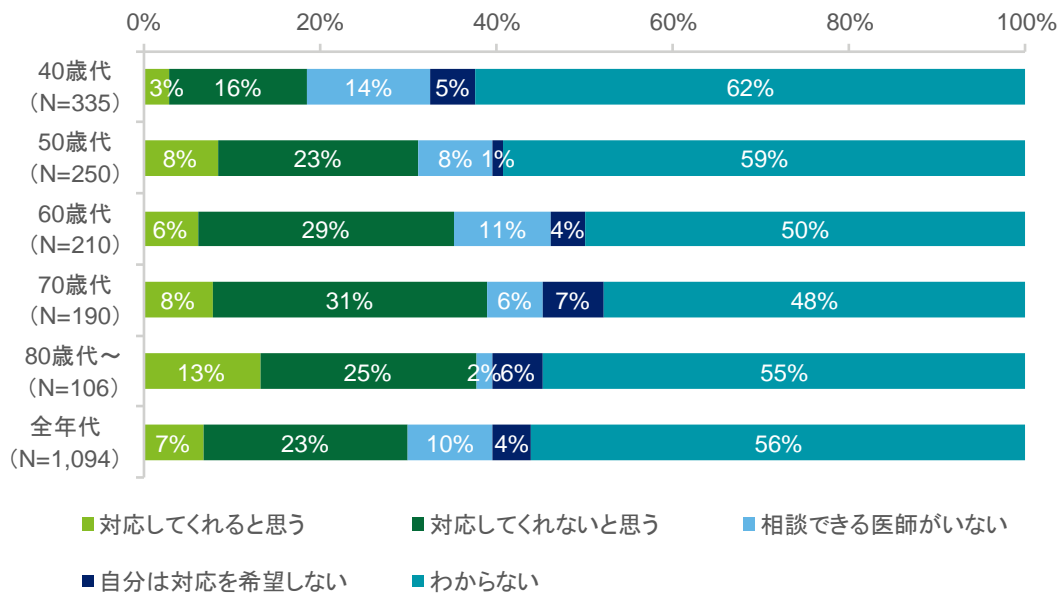
図表 2-74 かかりつけ医の往診への対応（年代別）



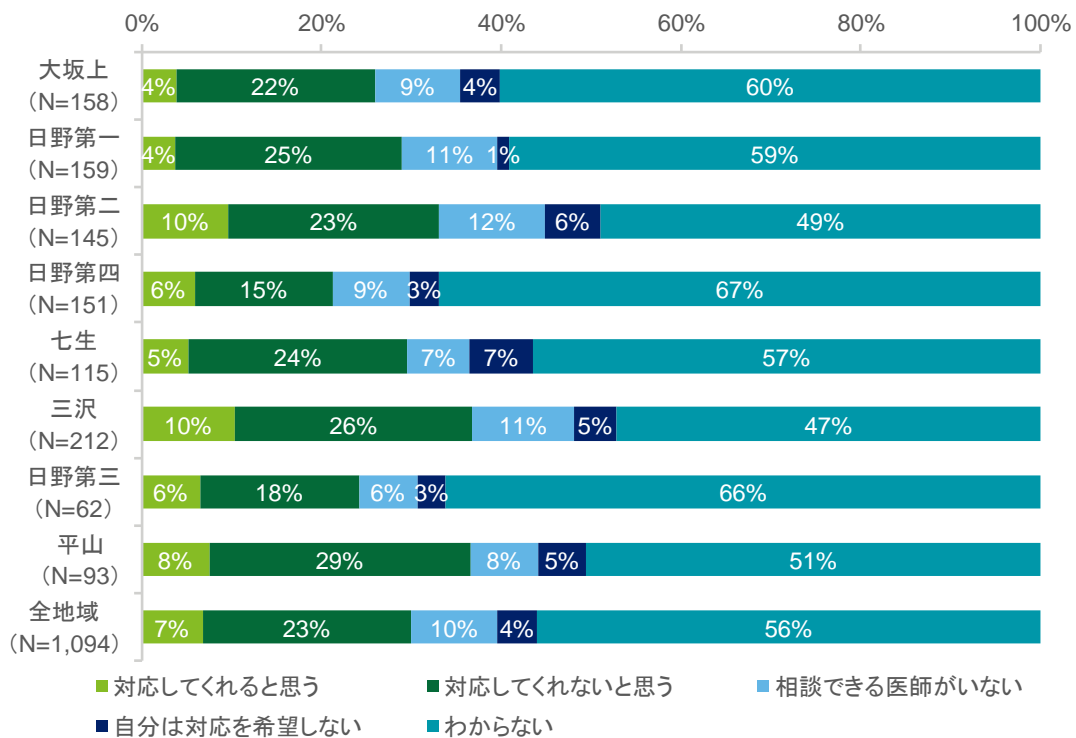
図表 2-75 かかりつけ医の往診への対応（中学校区別）



図表 2-76 かかりつけ医の訪問歯科診療への対応（年代別）



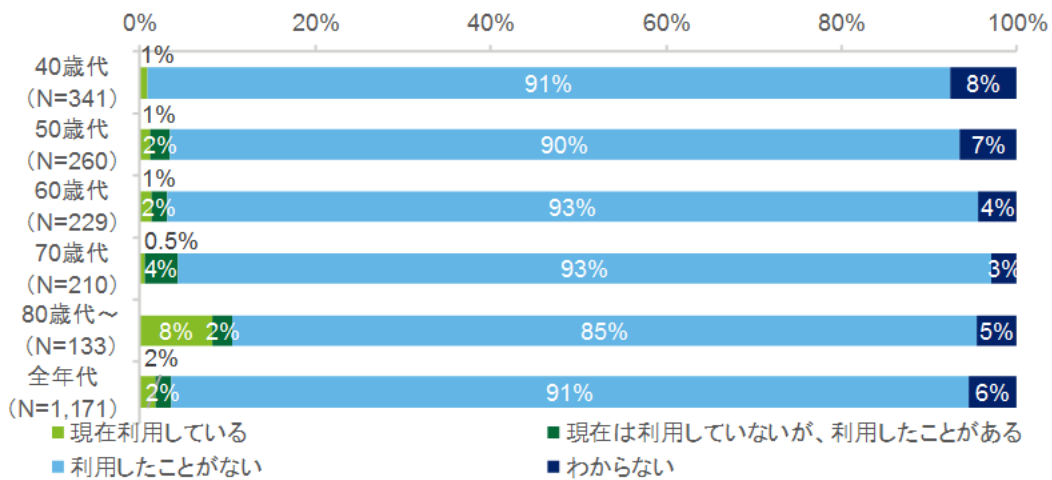
図表 2-77 かかりつけ医の訪問歯科診療への対応（中学校区別）



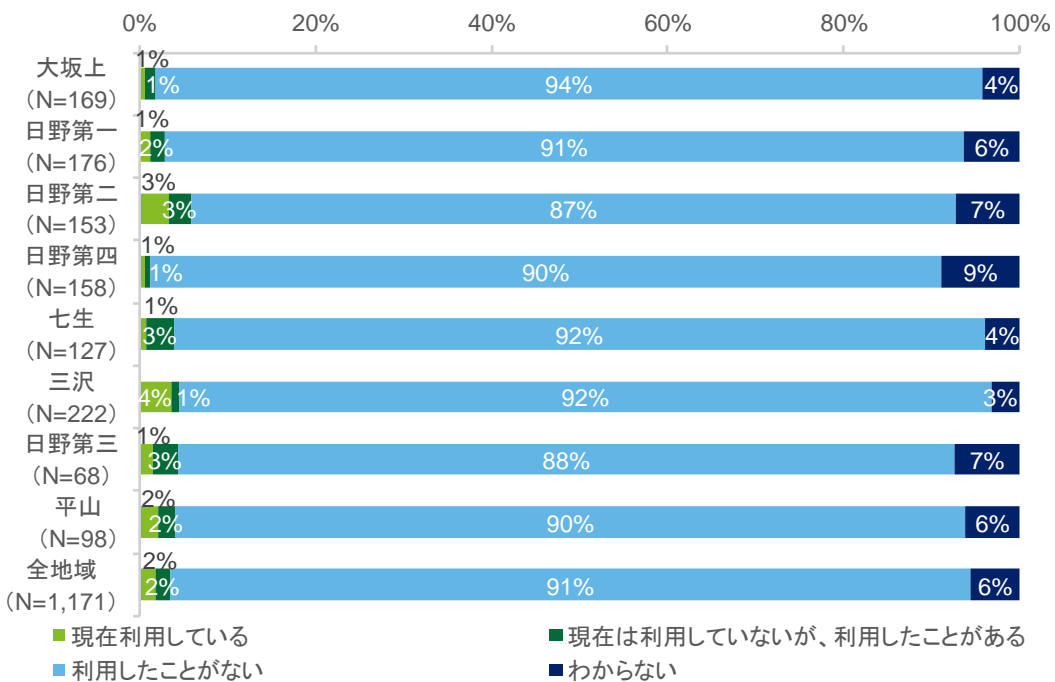
問3-4 訪問診療や往診の利用の有無を教えてください。(1つに○)

- 訪問診療、往診、訪問歯科診療いずれも同様の傾向であり、利用したことがないという回答がほとんどとなっている。
- 年代別では訪問診療、往診、訪問歯科診療いずれも80歳代以上で利用経験がある人がやや多くなっている。
- 中学校区別では訪問診療は三沢、日野第二で、往診は七生、日野第二で、訪問歯科診療では日野第三、三沢がやや多くなっている。

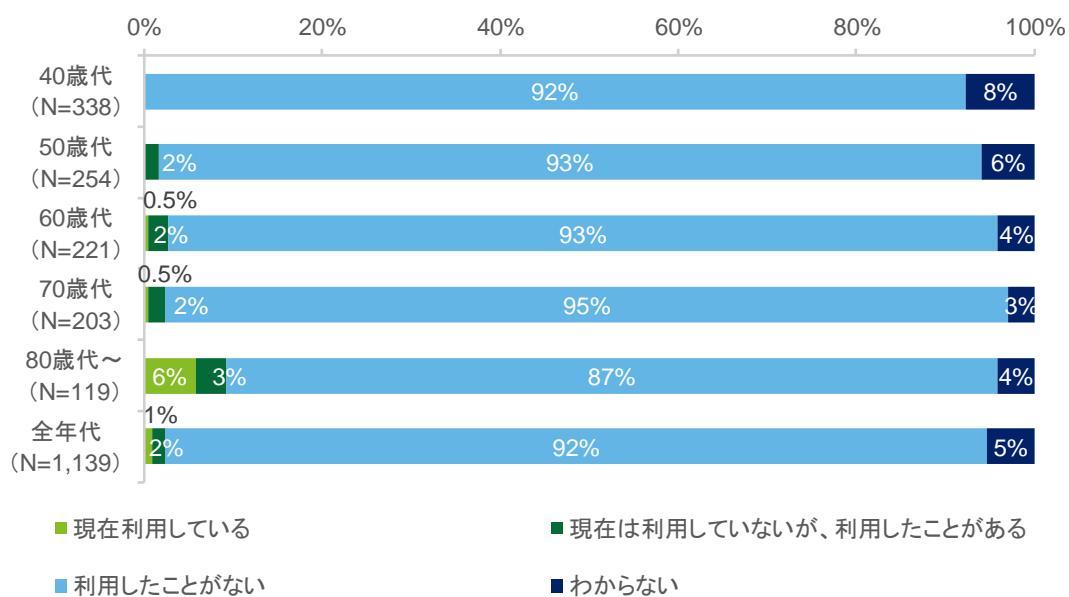
図表 2-78 訪問診療の利用経験（年代別）



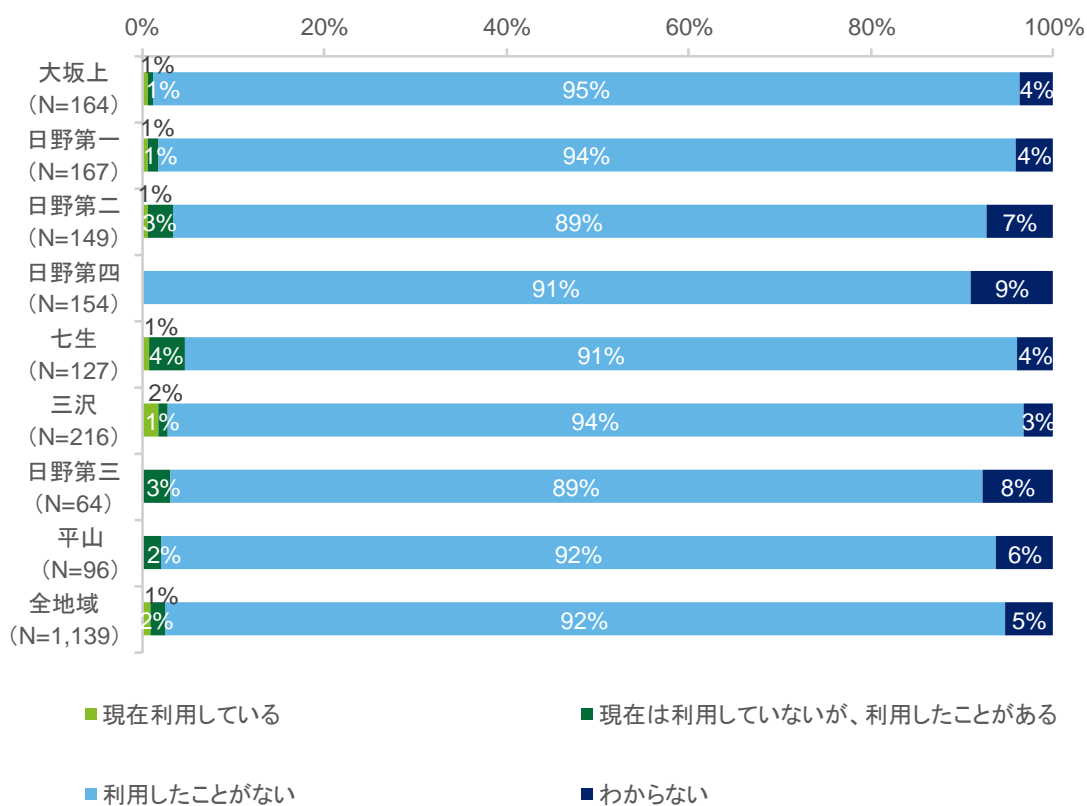
図表 2-79 訪問診療の利用経験（中学校区別）



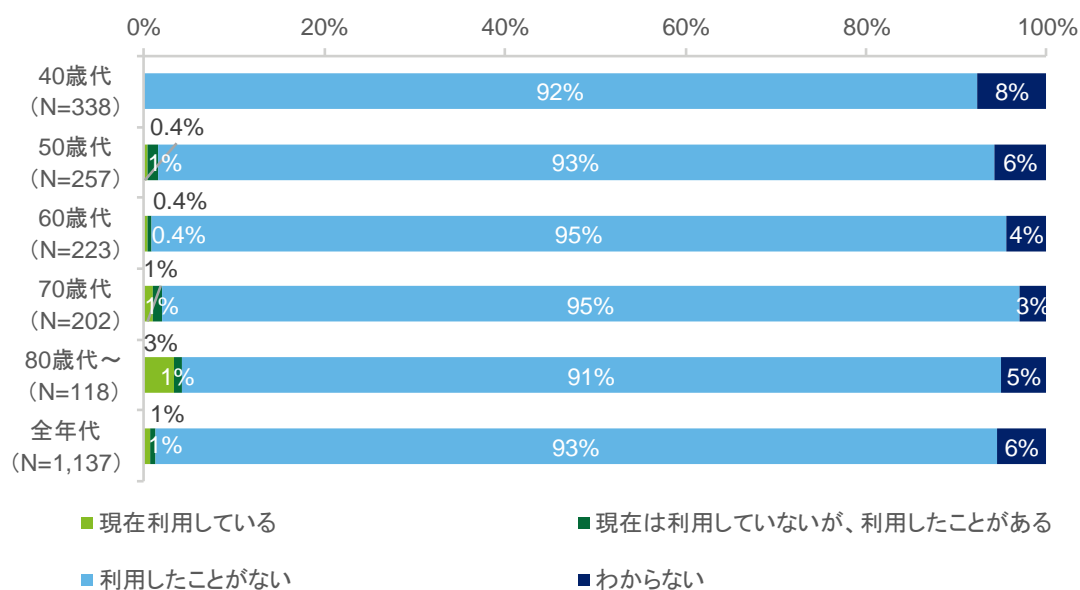
図表 2-80 往診の利用経験（年代別）



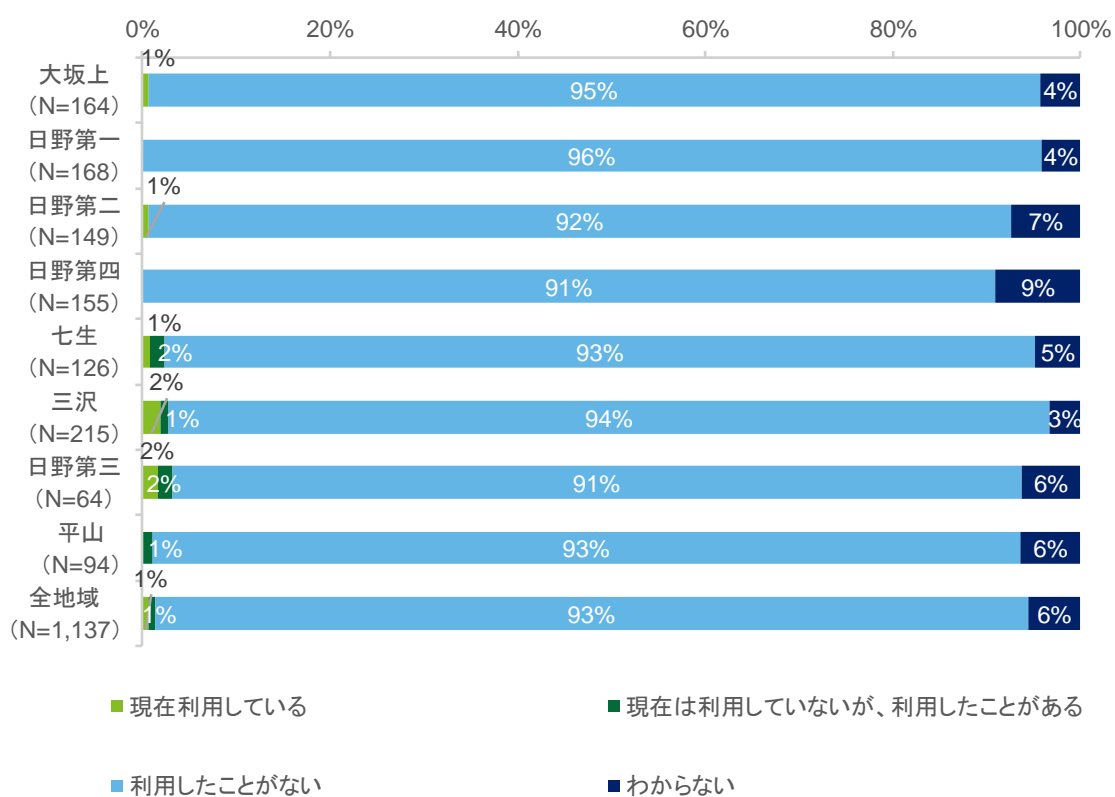
図表 2-81 往診の利用経験（中学校区別）



図表 2-82 訪問歯科診療の利用経験（年代別）



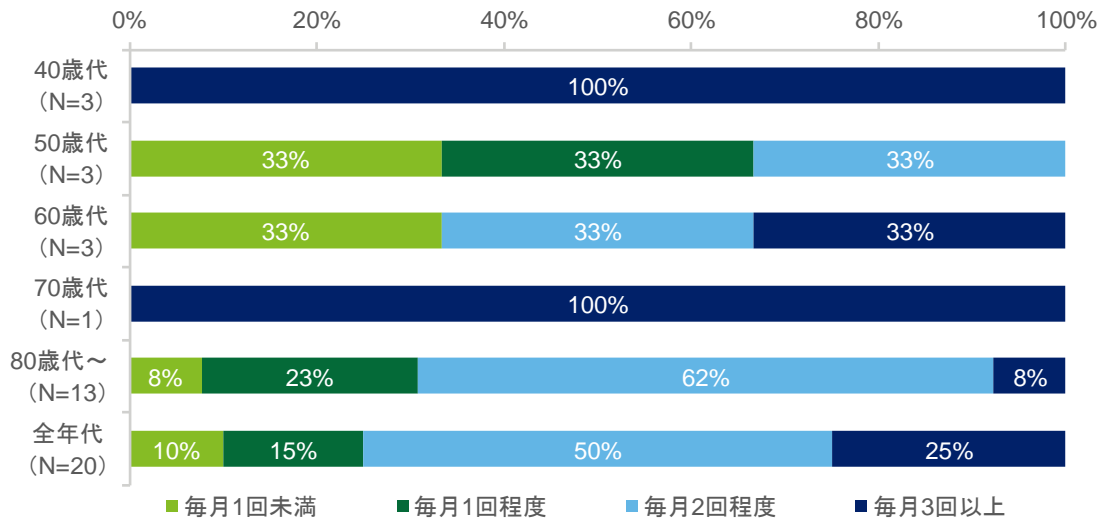
図表 2-83 訪問歯科診療の利用経験（中学校区別）



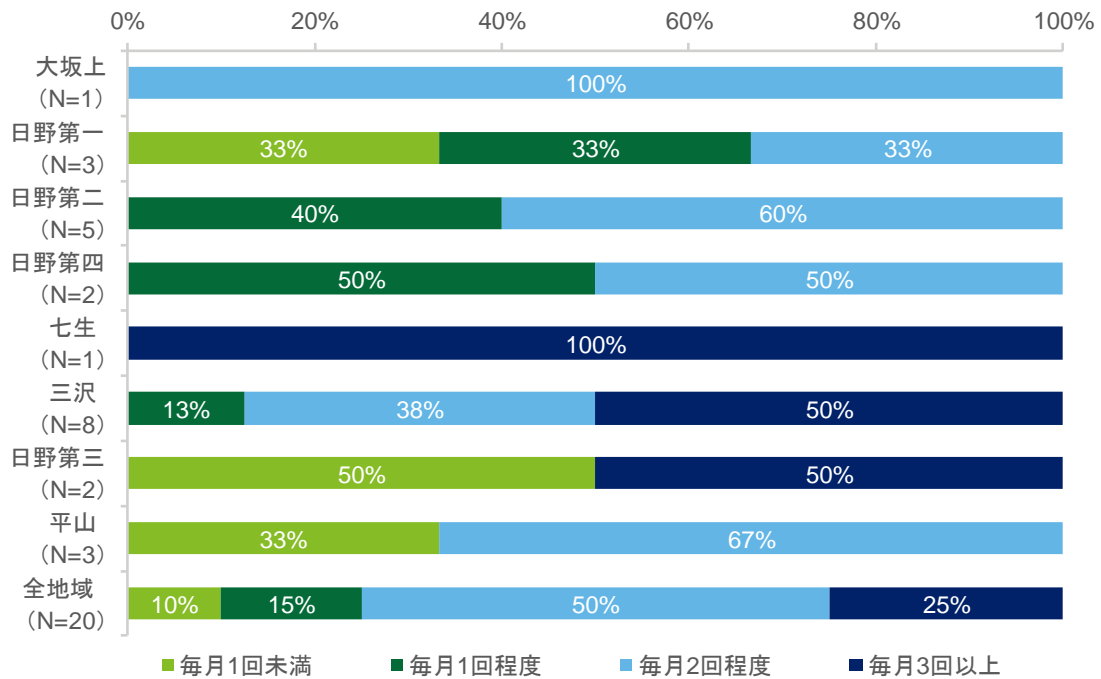
問3-5 利用の頻度はどれくらいですか。(1つに○)

- 訪問診療においては、毎月2回程度の利用頻度が多くなっているが、往診や訪問歯科診療については、利用頻度は様々となっている。

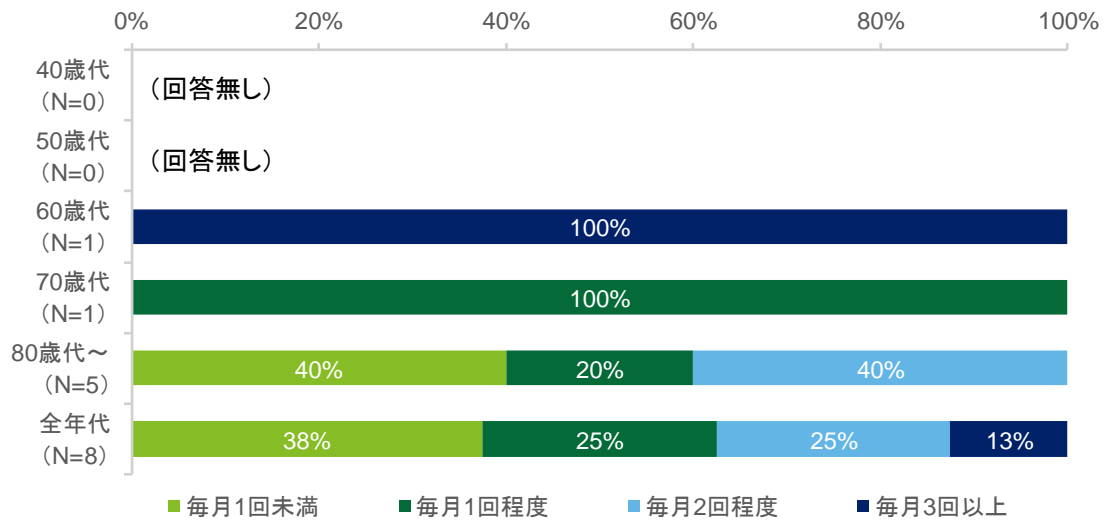
図表 2-84 訪問診療の利用頻度（年代別）



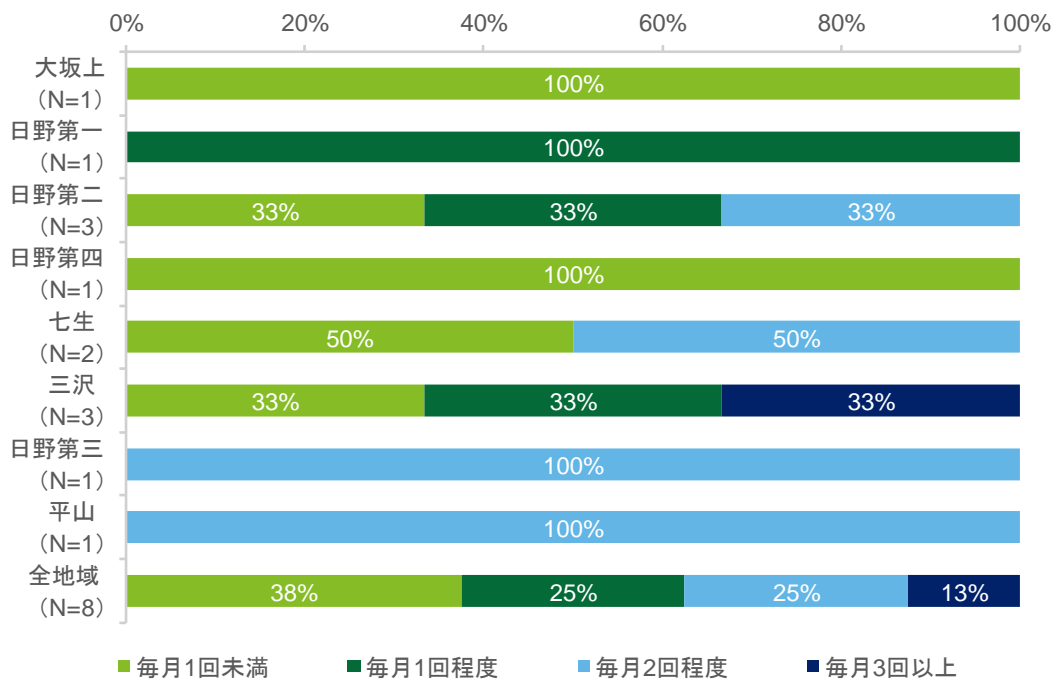
図表 2-85 訪問診療の利用頻度（中学校区別）



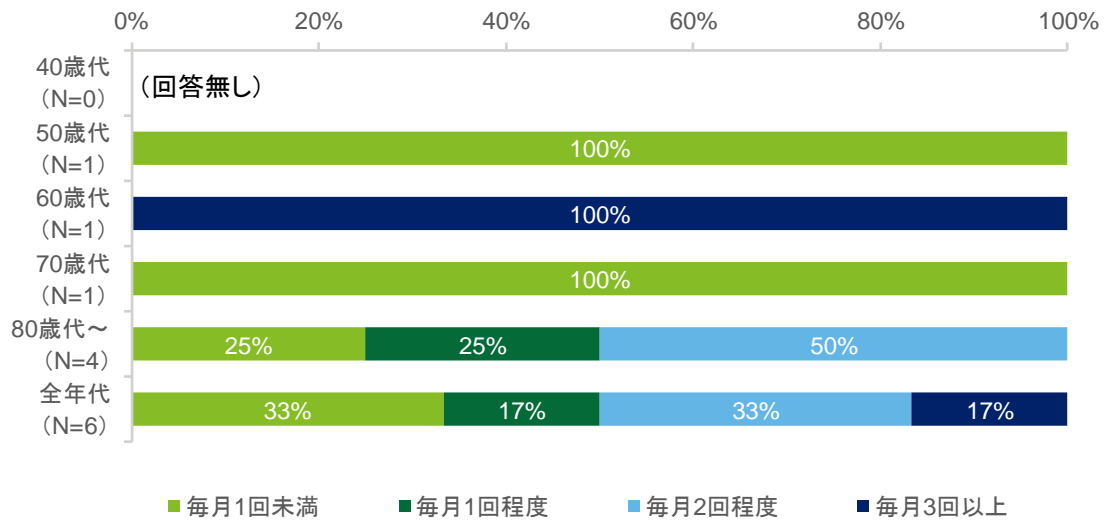
図表 2-86 往診の利用頻度（年代別）



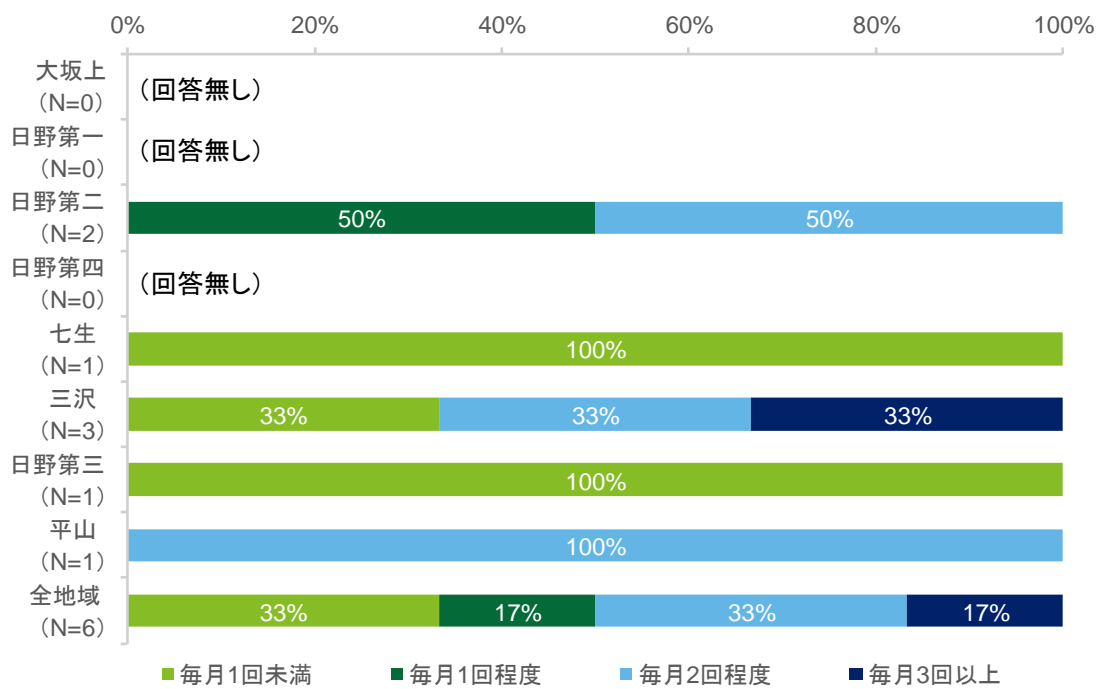
図表 2-87 往診の利用頻度（中学校区別）



図表 2-88 訪問歯科診療の利用頻度（年代別）



図表 2-89 訪問歯科診療の利用頻度（中学校区別）

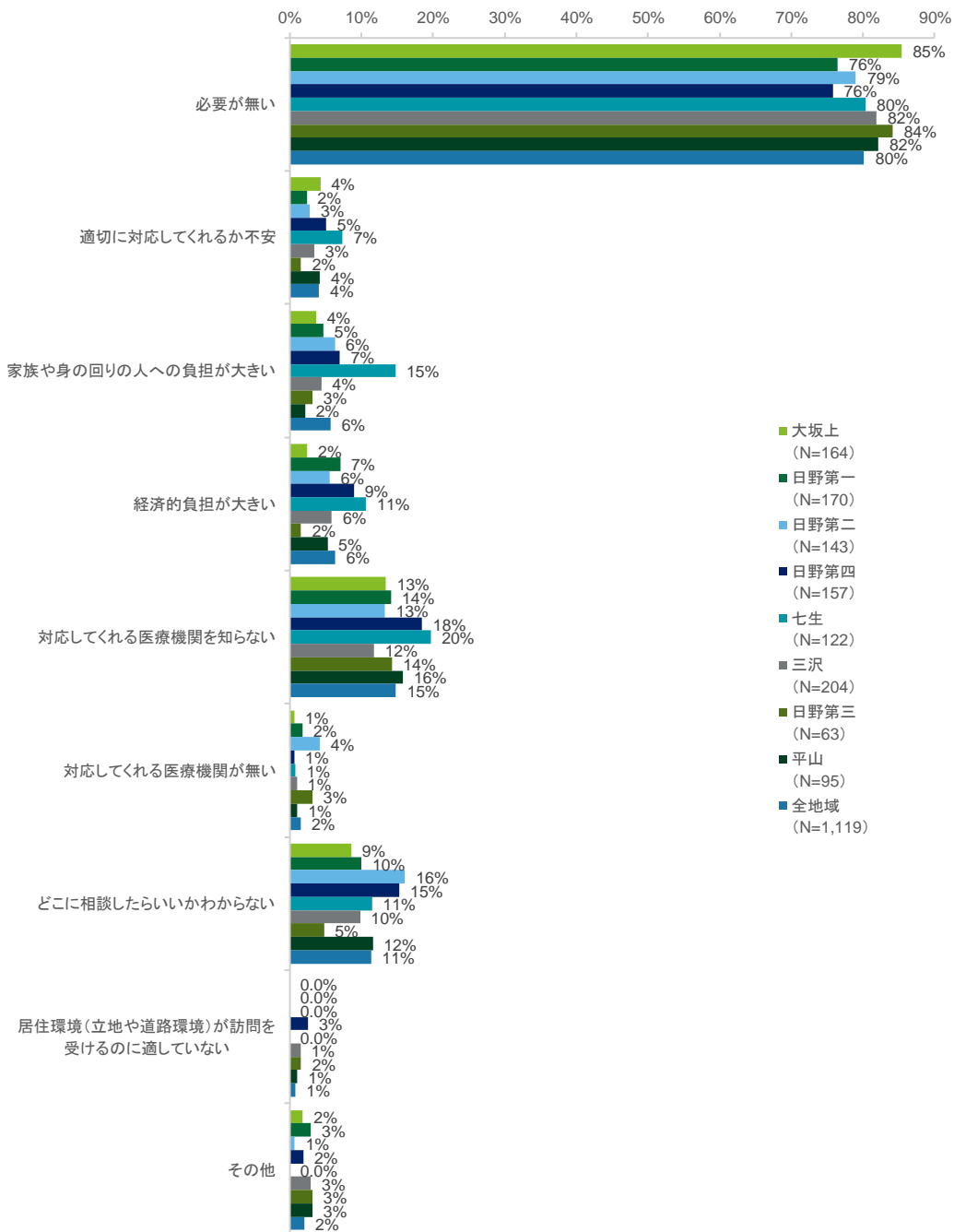




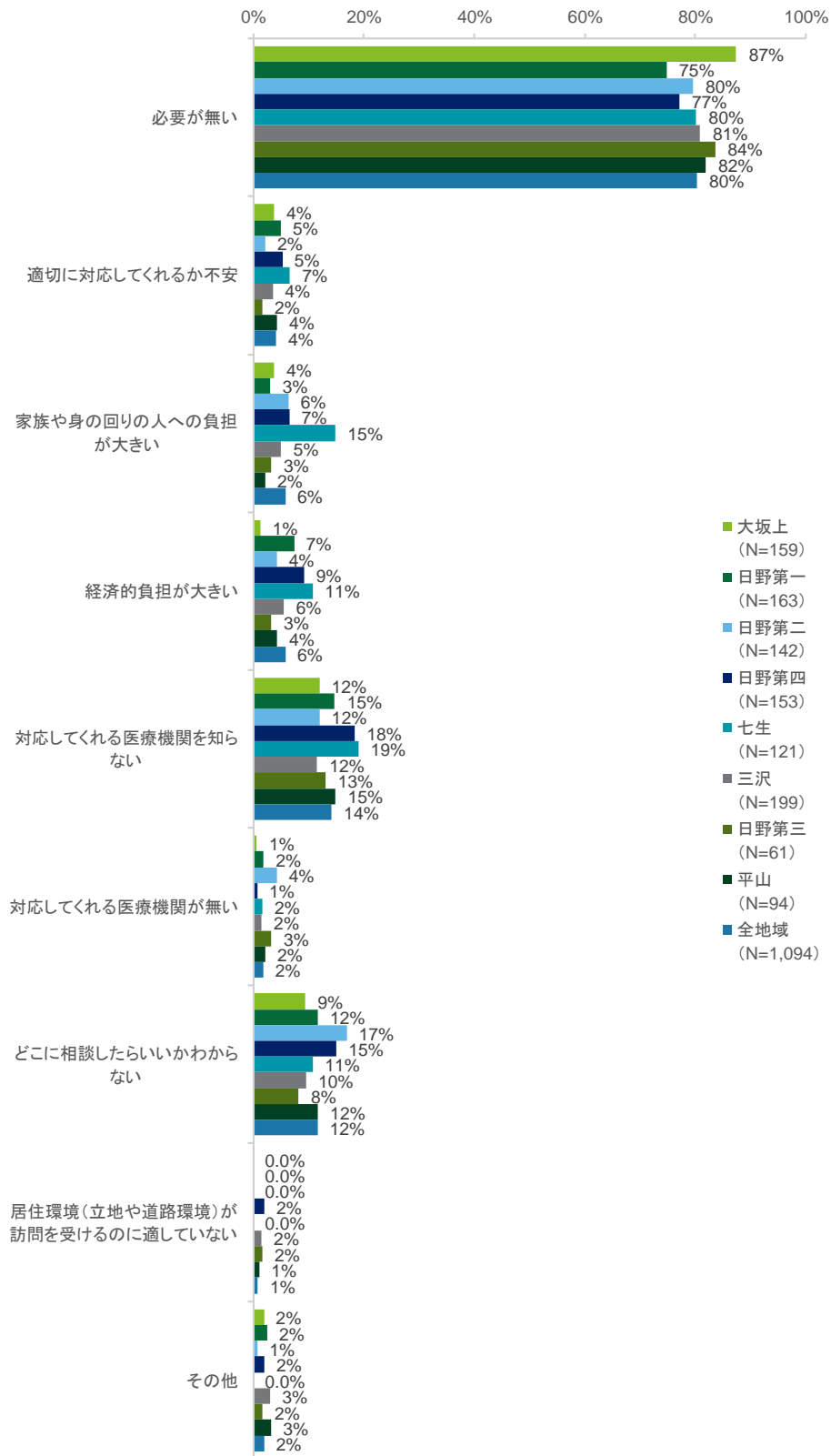
問3-6 利用しない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 訪問診療、往診、訪問歯科診療のいずれにおいても同様の傾向が見られる。必要がないという理由を除くと、対応してくれる医療機関を知らない、どこに相談したらいいかわからないという理由が多くなっている。いずれの地域においても同様の傾向であるが、七生においては、家族や身の回りの人への負担が大きいという理由がやや多くなっている。

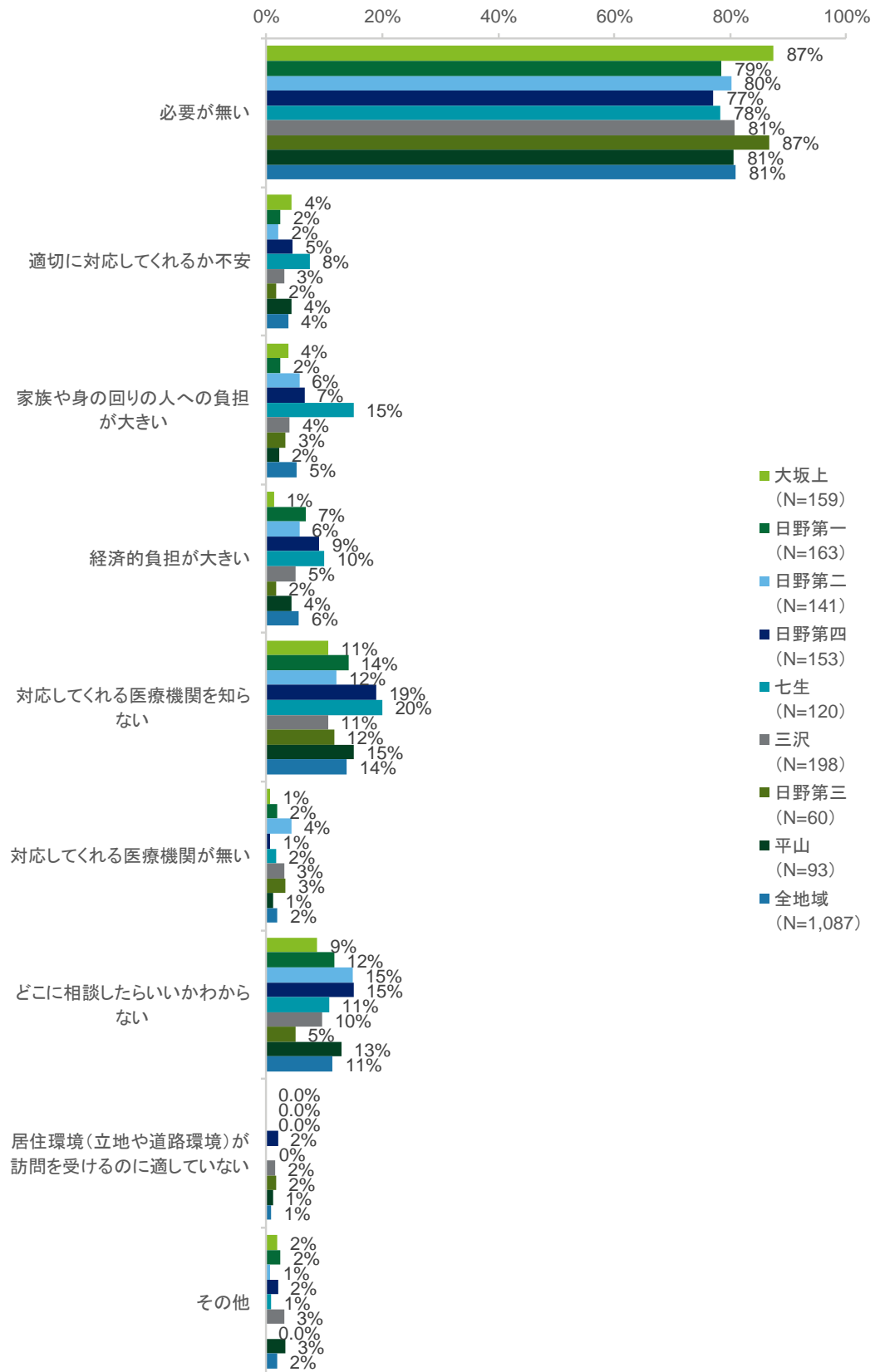
図表 2-90 訪問診療を利用しない理由（中学校区別）



図表 2-91 往診を利用しない理由（中学校区別）



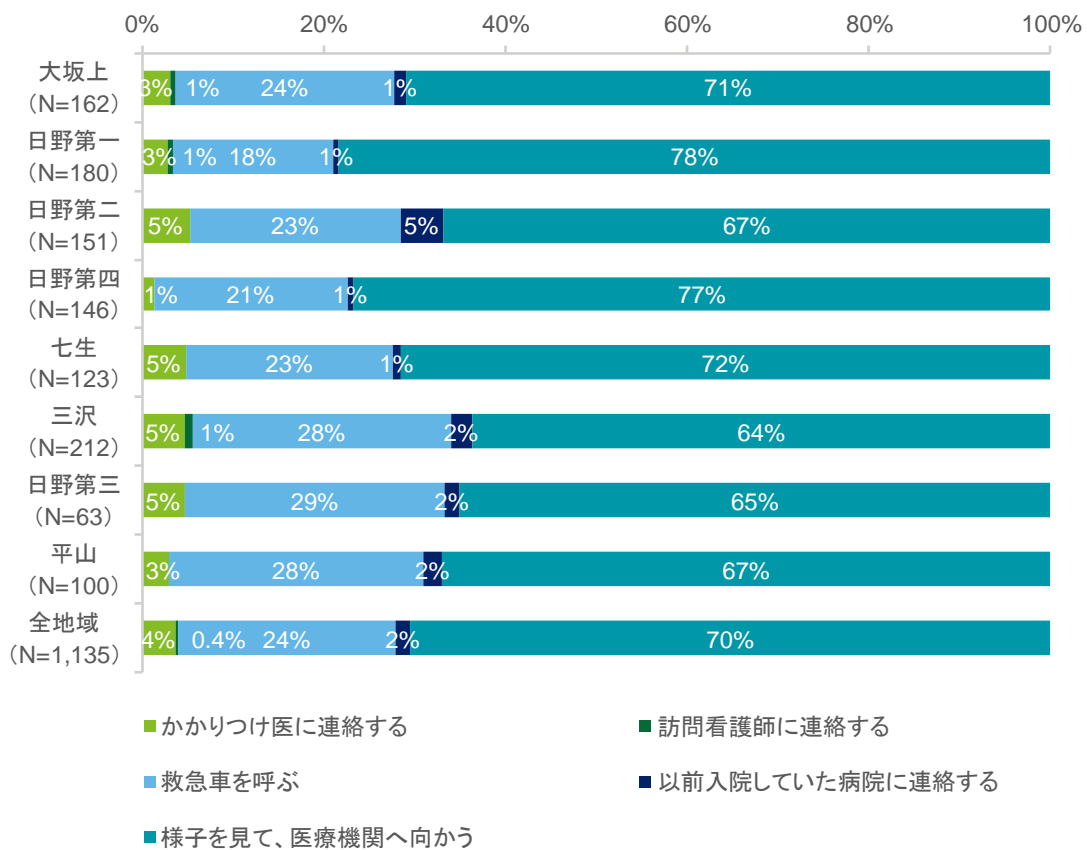
図表 2-92 訪問歯科診療を利用しない理由（中学校区別）



問3-7 自宅で急に具合が悪くなったとき、どうしていますか。(1つに○)

- いずれの地域においても、様子を見て医療機関へ向かうという回答が大半となっているが、三沢、日野第三、平山においてはやや少なく、救急車を呼ぶという回答がやや多くなっている。

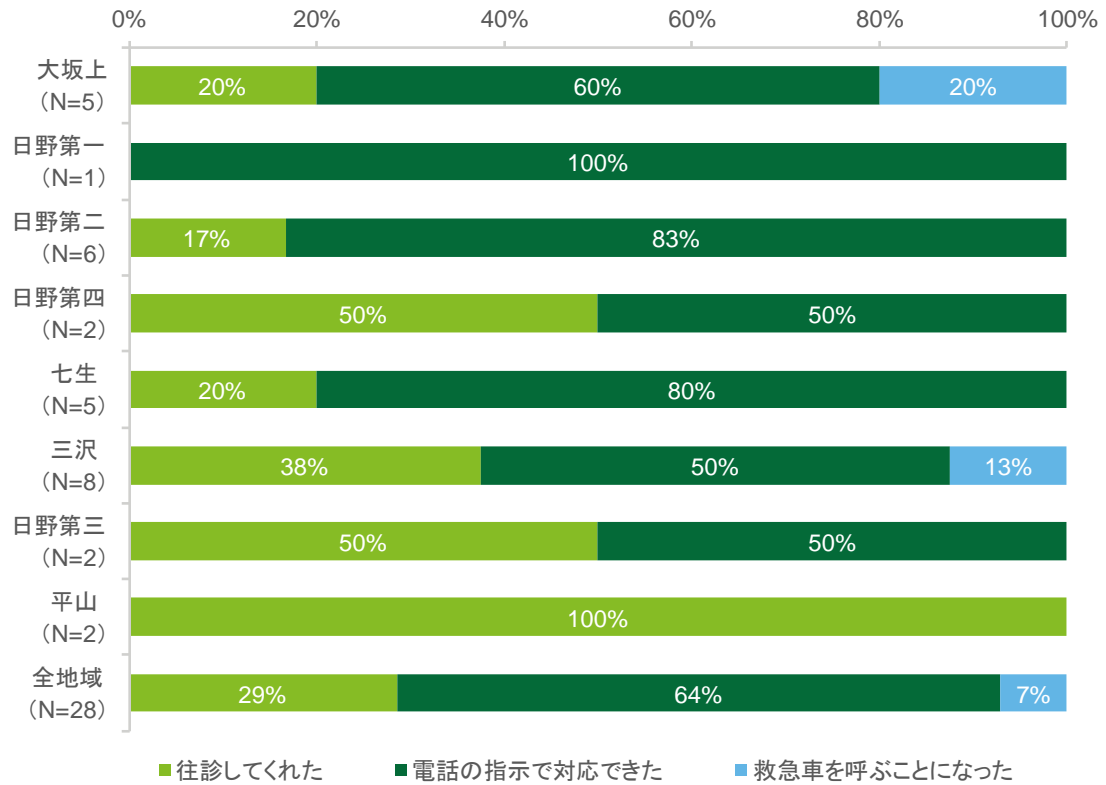
図表 2-93 自宅で急に具合が悪くなった時の対応 (中学校区別)



問3-8 かかりつけ医又は訪問看護師はどう対応しましたか。(1つに○)

- 電話の指示で対応できたという回答が半数以上となっており、往診してくれたという回答も3割程度となっている。

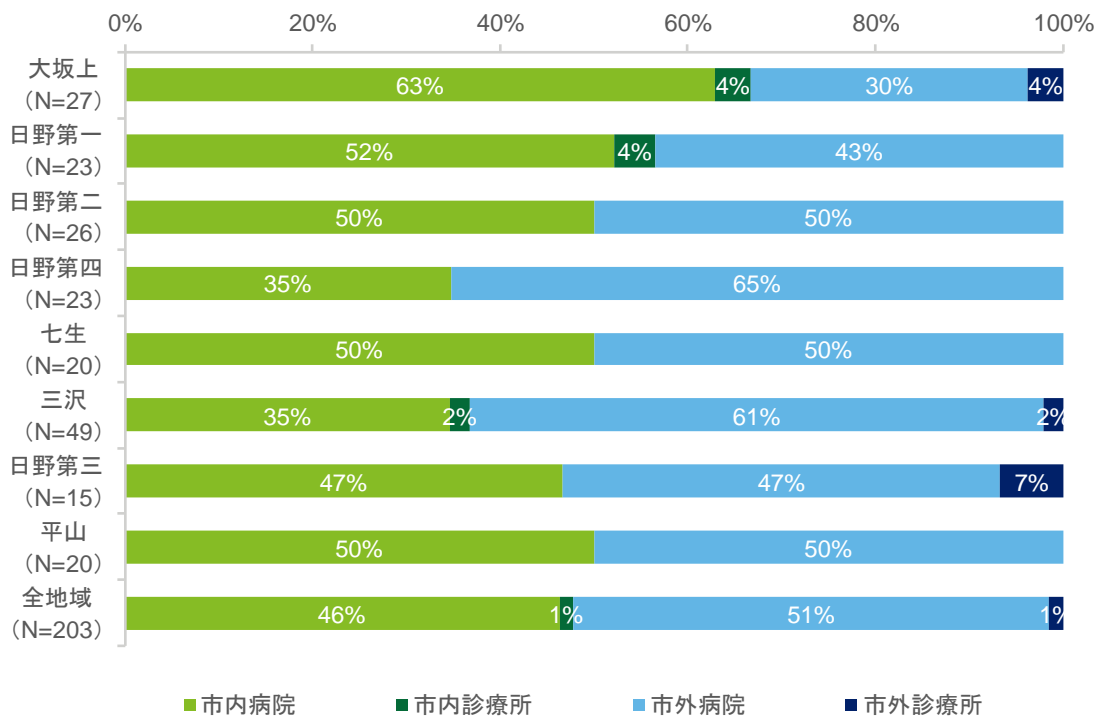
図表 2-94 かかりつけ医又は訪問看護師の対応 (中学校区別)



問3-9 救急車で搬送された先はどこでしたか。(1つに○)

- 全市的に見ると、市内への搬送と市外への搬送が同程度となっている。
- 中学校区別に見ると、市内への搬送が少ない地域は日野第四、三沢となっている。

図表 2-95 救急車で搬送された先 (中学校区別)



問3-10 あなたが利用している生活支援サービスを教えてください。  
(該当するもの全てに○)

<訪問サービスについて>

- 利用しているサービスはないという回答が大半を占めており、特によく利用されているサービスというものはうかがわれない。
- 中学校区別に見ると、利用しているという回答が見られなかったものとして、日野第三における訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、七生における訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、その他の訪問サービス、日野第四における訪問入浴介護、訪問リハビリテーション、平山における訪問入浴介護、訪問看護、日野第二における訪問入浴介護となっている。

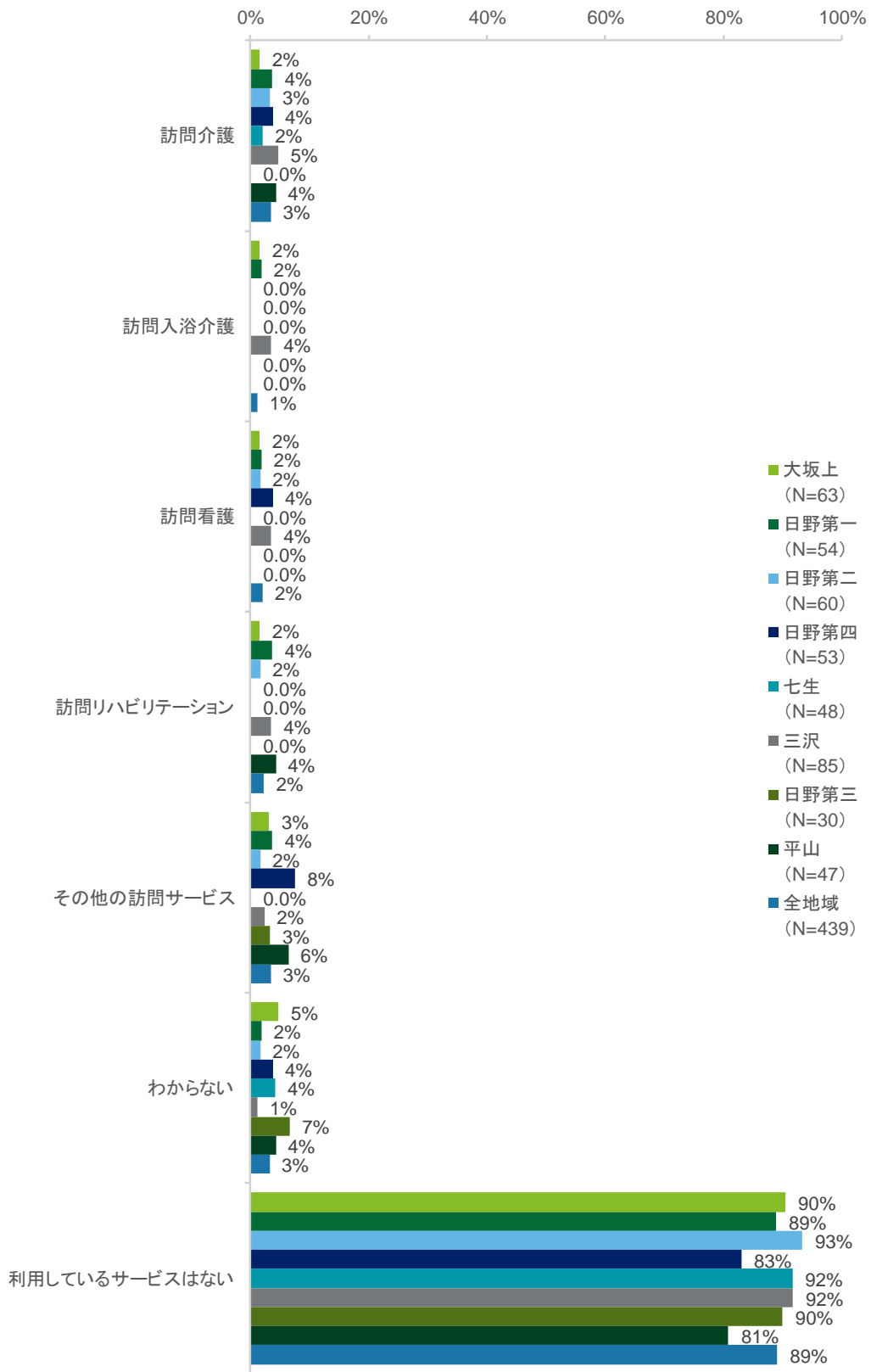
<外出支援のサービスについて>

- 利用しているサービスはないという回答が大半を占めており、特によく利用されているサービスというものはうかがわれない。
- 中学校区別に見ると、利用しているという回答が見られなかったものとして、日野第三における介護タクシー、福祉車両、七生における介護タクシーとなっている。

<その他のサービスについて>

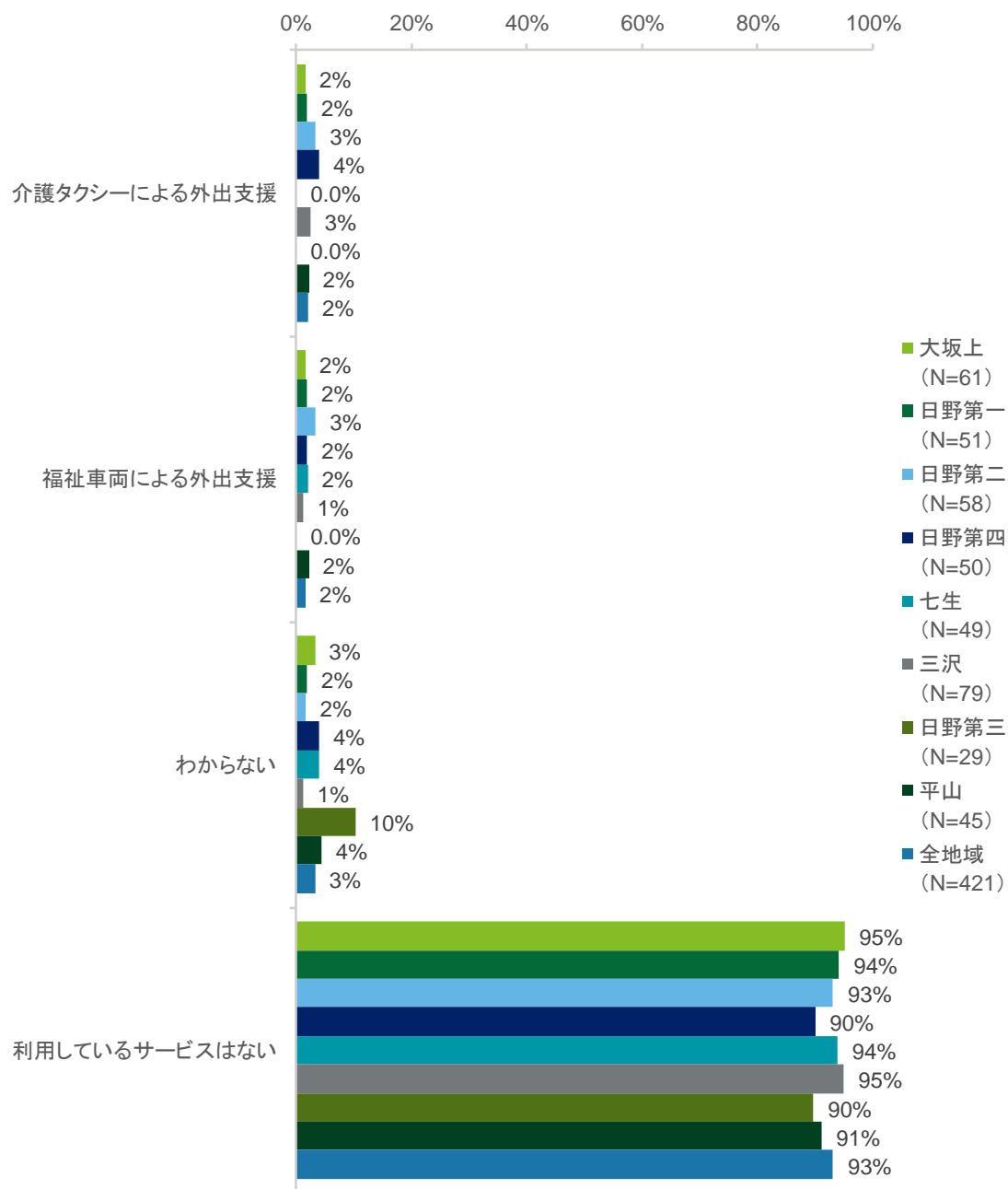
- 利用しているサービスはないという回答が大半を占めており、特によく利用されているサービスというものはうかがわれない。寝具乾燥サービスについては、利用しているという回答が見られない。
- 中学校区別に見ると、配食サービス（昼食）については、日野第二、日野第三において利用が見られない。配食サービス（夕食）については、日野第一、日野第四においてのみ利用が見られる。寝たきり訪問理容・美容については、三沢においてのみ利用が見られる。

図表 2-96 利用している訪問サービス（中学校区別、高齢者のみを集計）

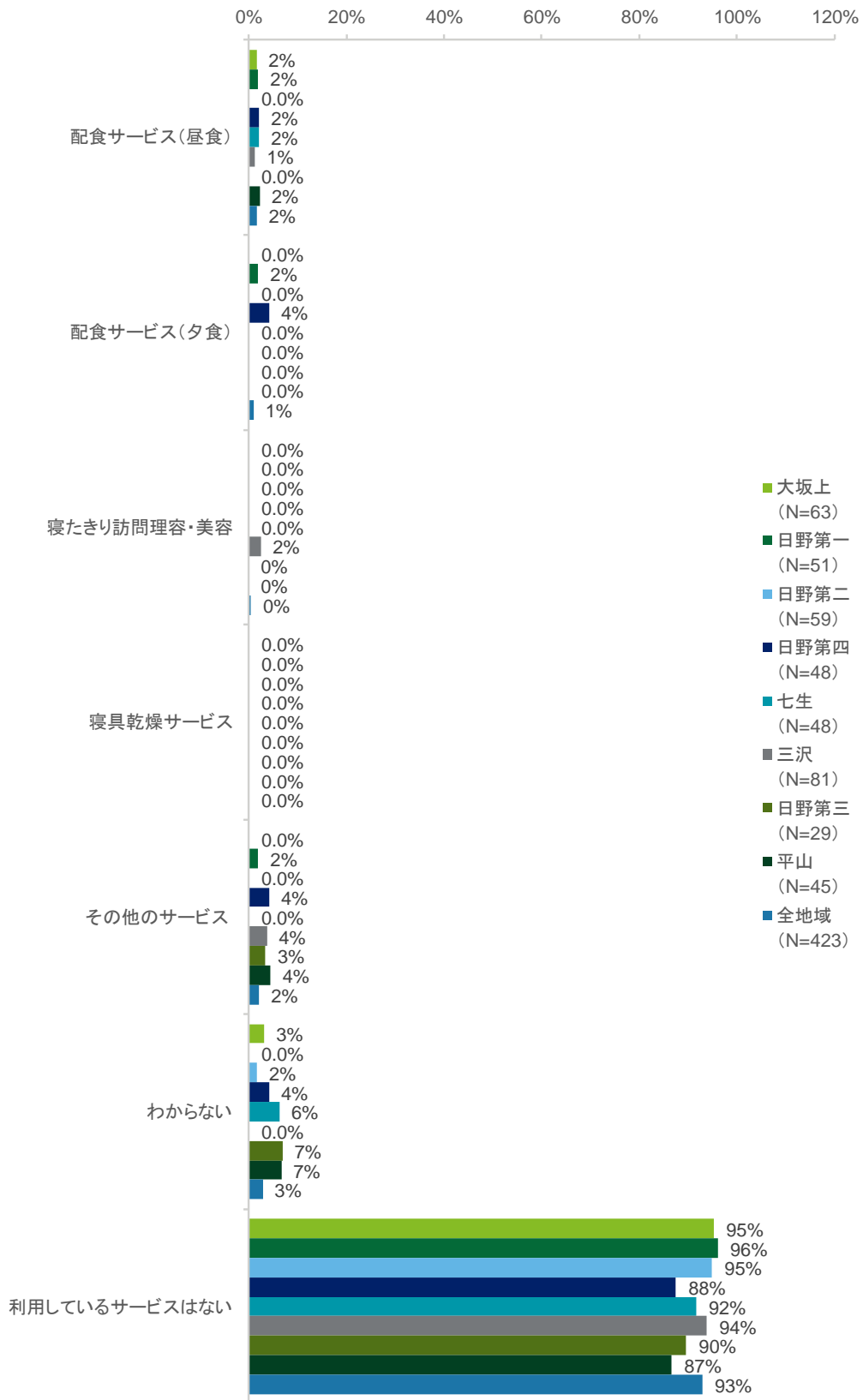




図表 2-97 利用している外出支援サービス（中学校区別、高齢者のみを集計）



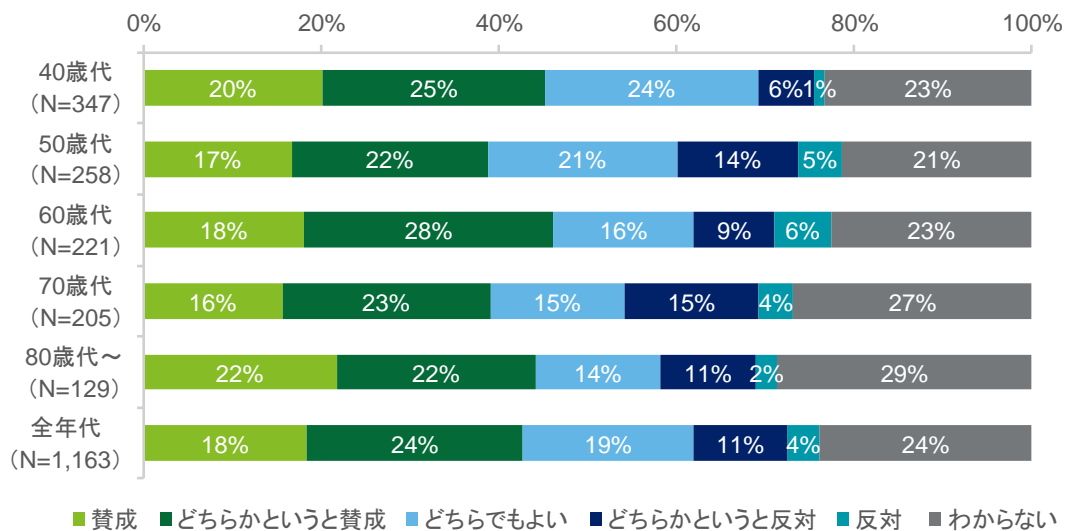
図表 2-98 利用しているその他のサービス（中学校区別、高齢者のみを集計）



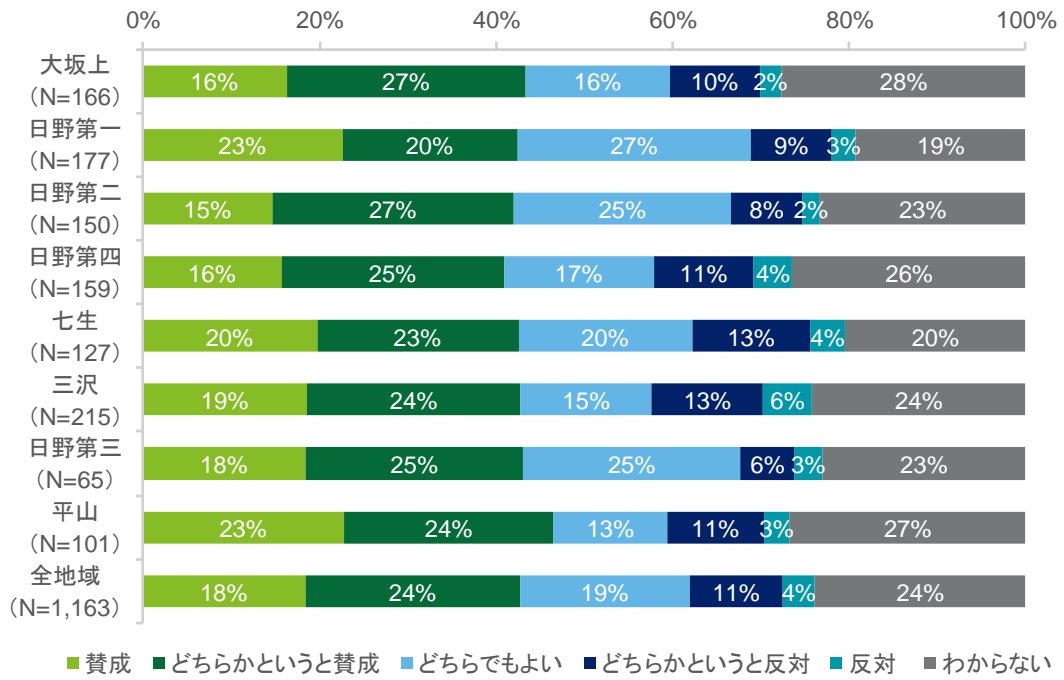
問3-11 あなたは在宅療養という選択肢についてどう思いますか。  
(1つに○)

- 全市的に見ると、賛成、どちらかという賛成の合計が42%、反対、どちらかという反対の合計が15%となっており、残りの43%はどちらでもよい、わからないとなっている。
- 年代別に見ると、いずれの年代においても近い傾向が見られるが、40歳代、50歳代についてはどちらでもよいという回答、70歳代、80歳代以上についてはわからないという回答が他の年代より比較的多くなっている。
- 中学校区別に見ると、いずれの地域においても近い傾向が見られるが、平山においては賛成、どちらかという賛成の回答がやや多く、七生、三沢においては反対、どちらかという反対の回答がやや多く見られる。

図表 2-99 在宅療養への意向（年代別）



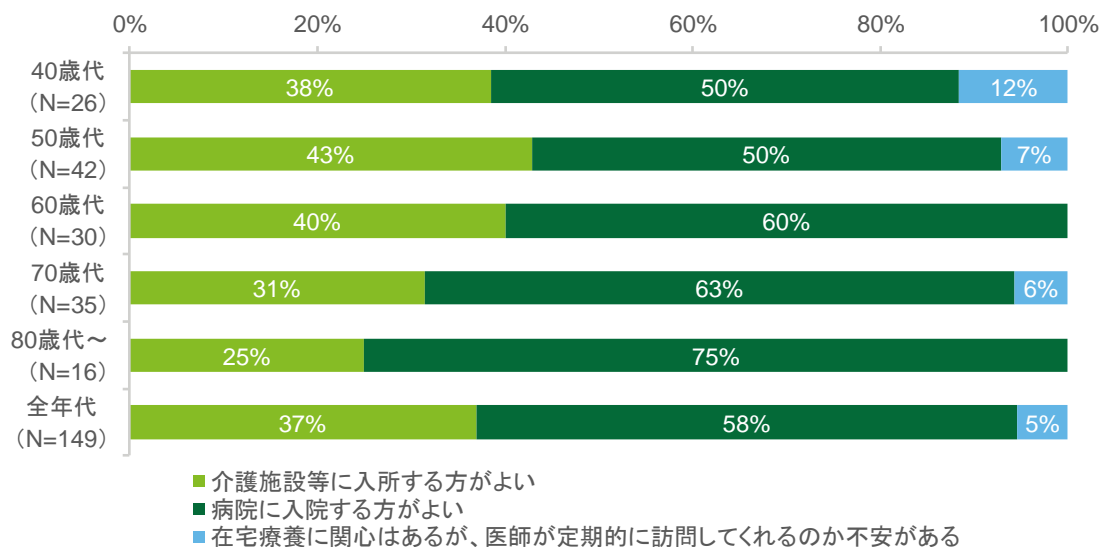
図表 2-100 在宅療養への意向（中学校区別）



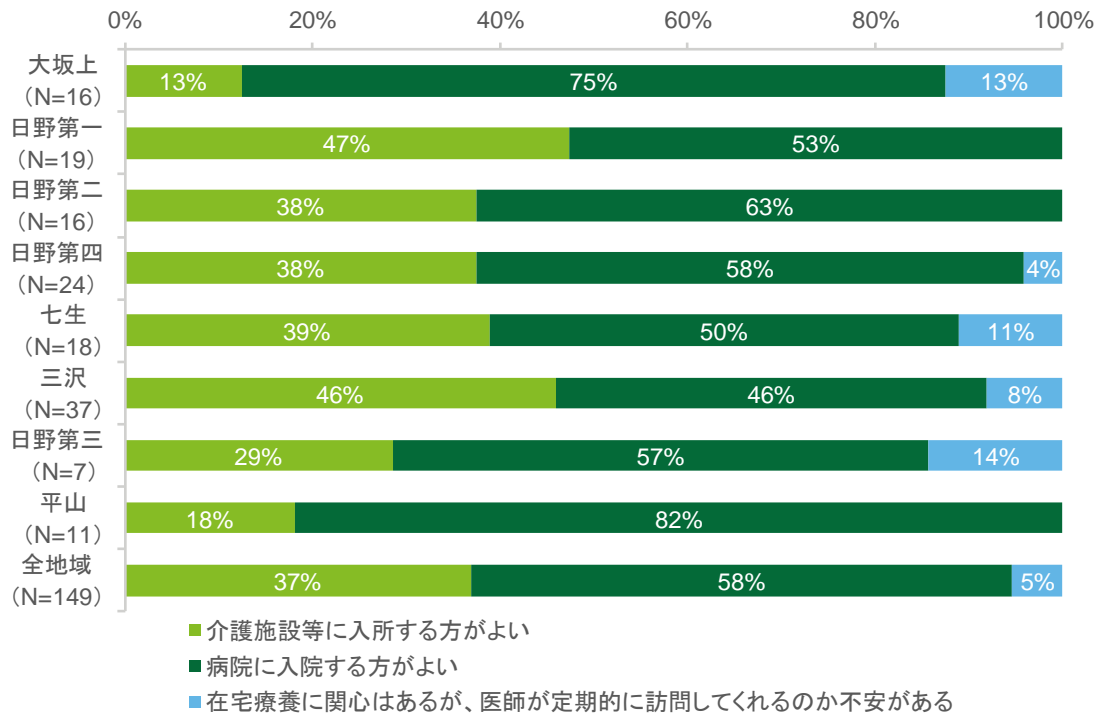
問3-12 在宅療養の推進に反対である理由を教えてください。  
(1つに○)

- 全市的に見ると、病院に入院する方がよいという回答が半数以上となっている。
- 年代別にみると、80歳代以上において、病院に入院する方がよいという回答が75%となっている。一方で、40歳代においては、在宅療養に関心はあるが医師が定期的に訪問してくれるのか不安があるという回答が12%となっている。
- 中学校区別に見ると傾向にばらつきが見られる。病院に入院する方がよいという回答が特に多いのは平山、大坂上となっている。介護施設等に入所する方がよいという回答が多いのは日野第一、三沢となっている。

図表 2-101 在宅療養の推進に反対である理由（年代別）



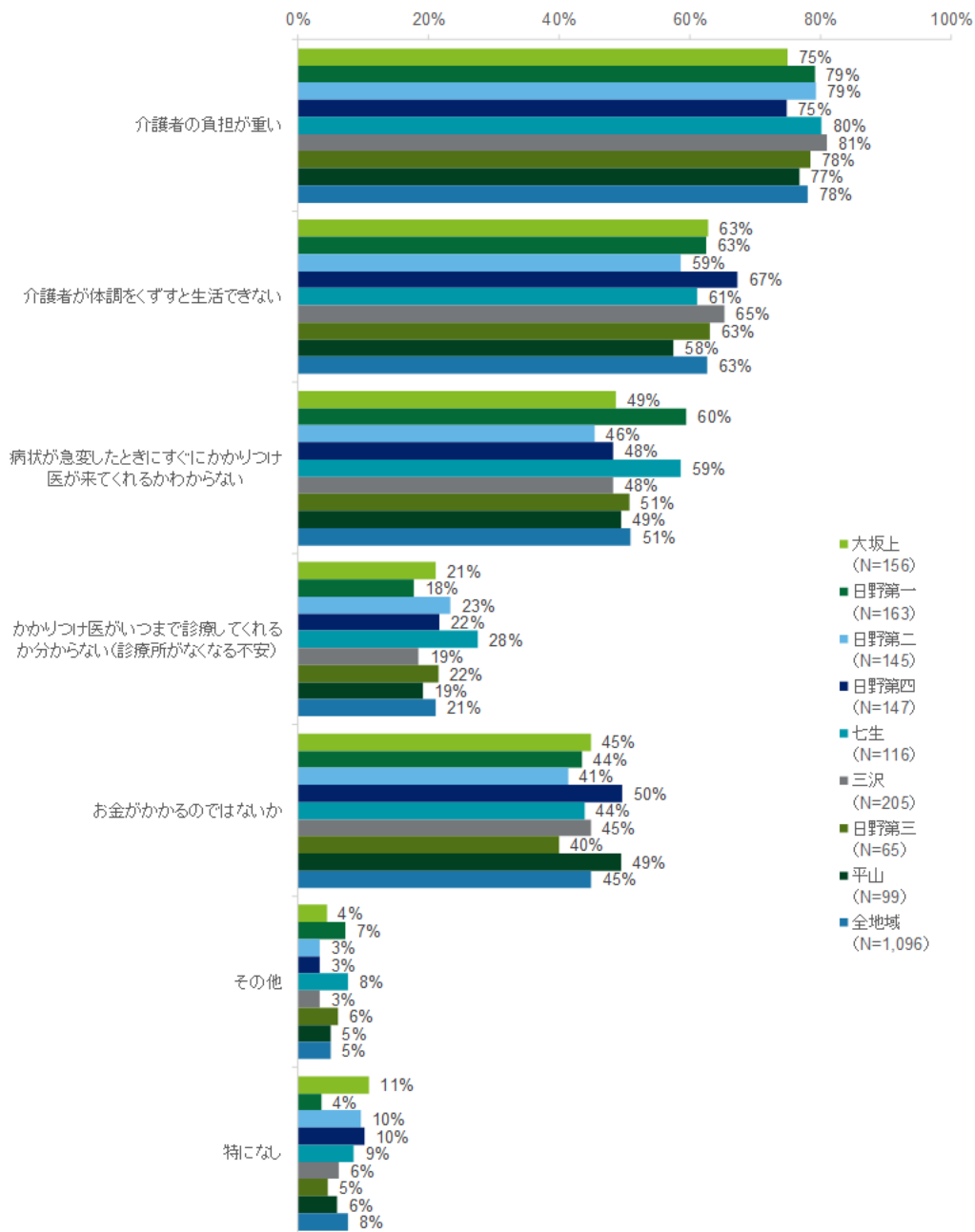
図表 2-102 在宅療養の推進に反対である理由（中学校区別）



問3-13 在宅療養に不安を感じることはありますか。  
(該当するもの全てに○)

- 全市的に見ると、介護者の負担が重い、介護者が体調を崩すと生活できないという不安が多く、次いですぐにかかりつけ医が来てくれるかわからない、お金がかかるのではないかと不安となっている。
- 中学校区別に見ると、いずれの地域においても近い傾向が見られるが、診療所がなくなる不安について、七生において比較的多くなっている。

図表 2-103 在宅療養に不安を感じること（中学校区別）



問3-14 日野市では「在宅療養の支援体制の充実」を推進しています。  
ご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。  
(自由記述)

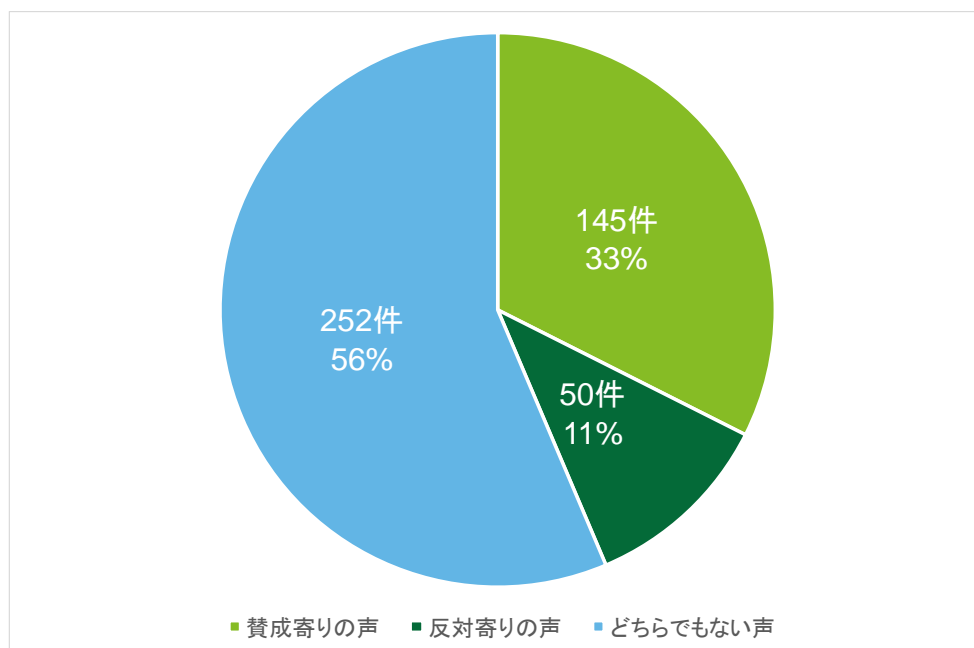
<全体的な傾向について>

- 合計で447件のコメントがあった。その内訳は、賛成寄りのコメントが145件(33%)、反対寄りのコメントが50件(11%)、どちらでもないコメントが252件(56%)となっている。

※恣意的な集計とならないよう、次のように集計している。「賛成寄り」は、「賛成」「積極的に賛成」といったコメントの他、「進めて欲しい」といった積極的な表現を含むもの限定している。「在宅療養の推進は良いと思うが、難しいのではないか」といった留保付きのコメントは、「どちらでもない声」に計上している。一方、「反対寄り」とは、「反対」「難しいと思う」といった明示的な反対コメントの他、「どこまでできるのか疑問」といった懐疑的なコメントまで含めて計上している。「賛成寄り」「反対寄り」「どちらでもない」については重複しないように集計しているため、構成比の合計は100%となる。

※なお、次ページ以降の傾向分析においては、1つのコメントで複数のポイントに触れている回答も多く見られるため、回答率を合計しても100%とはならない。

図表 2-104 「在宅療養の支援体制の充実」に対する自由意見の傾向

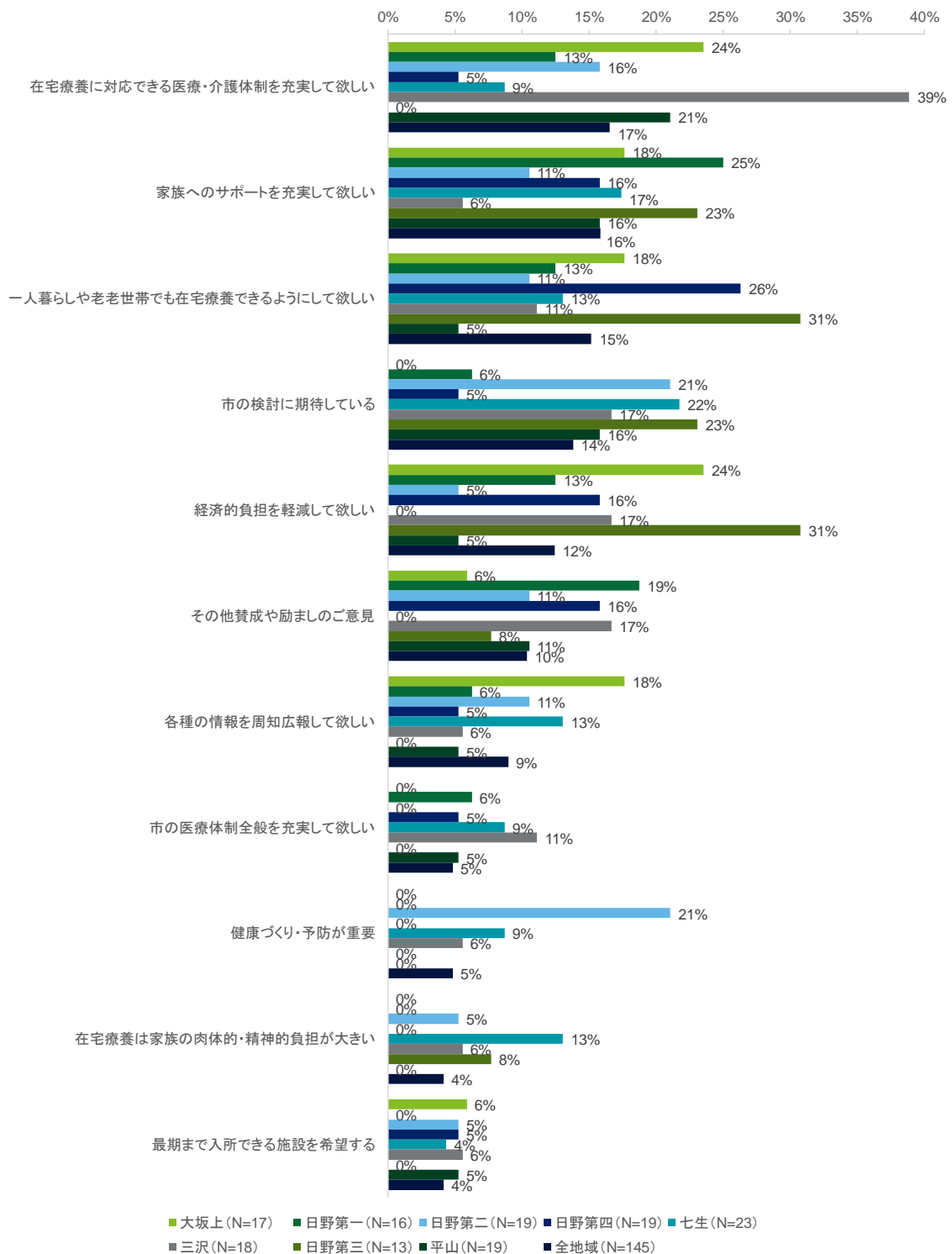




<賛成寄りの意見の傾向について>

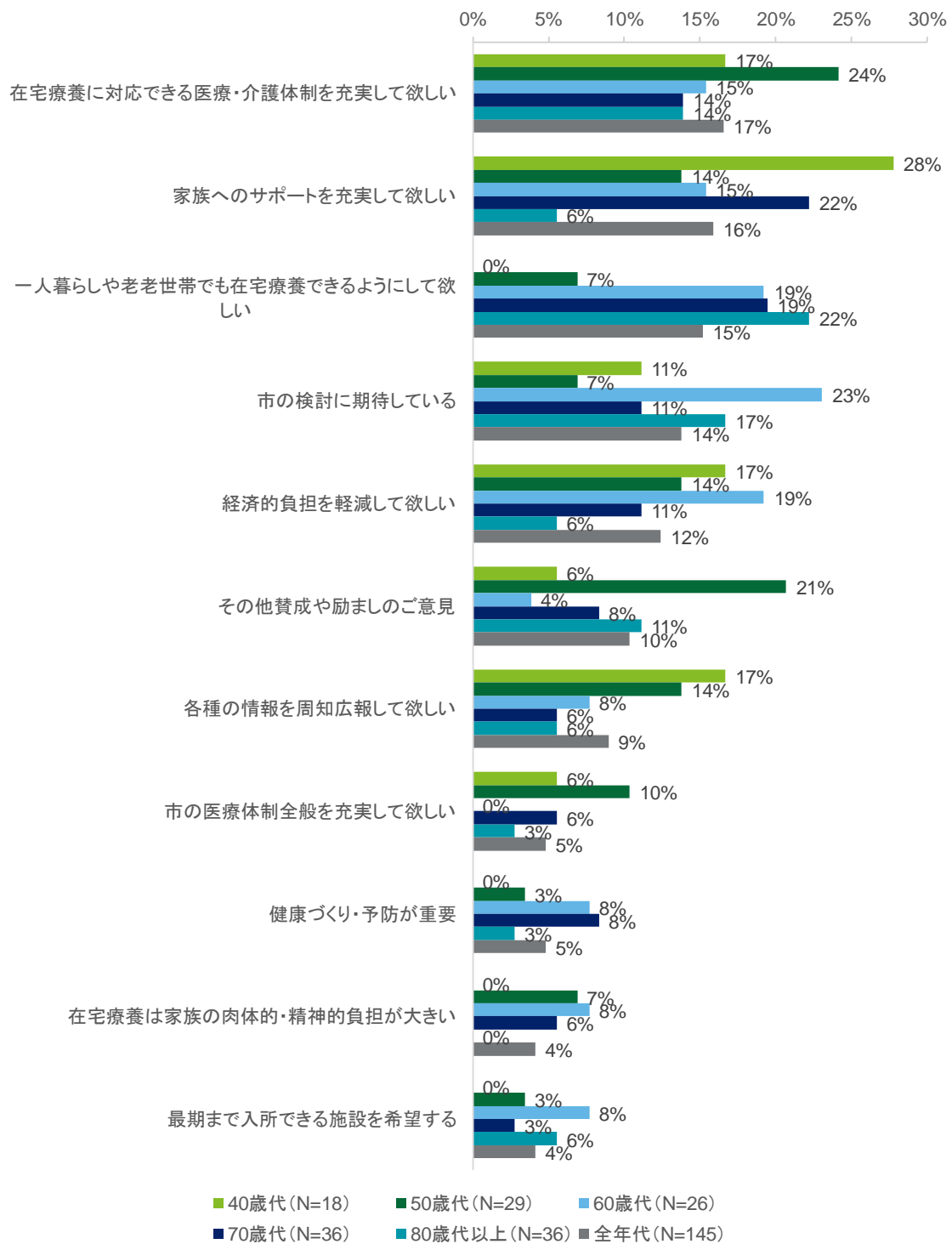
- 「在宅療養に対応できる医療・介護体制を充実して欲しい」とするコメントが最多で、賛成寄りの声の総数の17%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、三沢のコメントの39%、大坂上のコメントの24%を占めている。
  - 年代別に見ると、50歳代のコメントの24%、40歳代のコメントの17%を占めている。
- 「家族へのサポートを充実して欲しい」とするコメントが2番目に多く、賛成寄りの声の総数の16%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第一のコメントの25%、日野第三のコメントの23%を占めている。
  - 年代別に見ると、40歳代のコメントの28%、70歳代のコメントの22%を占めている。
- 「一人暮らしや老老世帯でも在宅療養できるようにして欲しい」とするコメントが3番目に多く、賛成寄りの声の総数の15%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第三のコメントの31%、日野第四のコメントの26%を占めている。
  - 年代別に見ると、80歳代以上の22%、60歳代及び70歳代の19%を占めている。
- 「市の検討に期待している」とするコメントが4番目に多く、賛成寄りの声の総数の14%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第三のコメントの23%、七生のコメントの22%、日野第二のコメントの21%を占めている。
  - 年代別に見ると、60歳代の23%、80歳代以上の17%を占めている。
- 「経済的負担を軽減して欲しい」とするコメントが5番目に多く、賛成寄りの声の総数の12%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第三のコメントの31%、大坂上のコメントの24%を占めている。
  - 年代別にみると、60歳代のコメントの19%、40歳代のコメントの17%を占めている。
- 6番目以降は、「その他賛成や励ましのご意見」(10%)、「各種の情報を周知広報して欲しい」(9%)、「市の医療体制全般を充実して欲しい」(5%)、「健康づくり・予防が重要」(5%)、「在宅療養は家族の肉体的・精神的負担が大きい」(4%)、「最期まで入所できる施設を希望する」(4%)となっている。

図表 2-105 「在宅療養の支援体制の充実」に対する賛成寄り意見の傾向  
(中学校区別)



※合計の構成比が3%未満のものは省略している。

図表 2-106 「在宅療養の支援体制の充実」に対する賛成寄り意見の傾向  
(年代別)

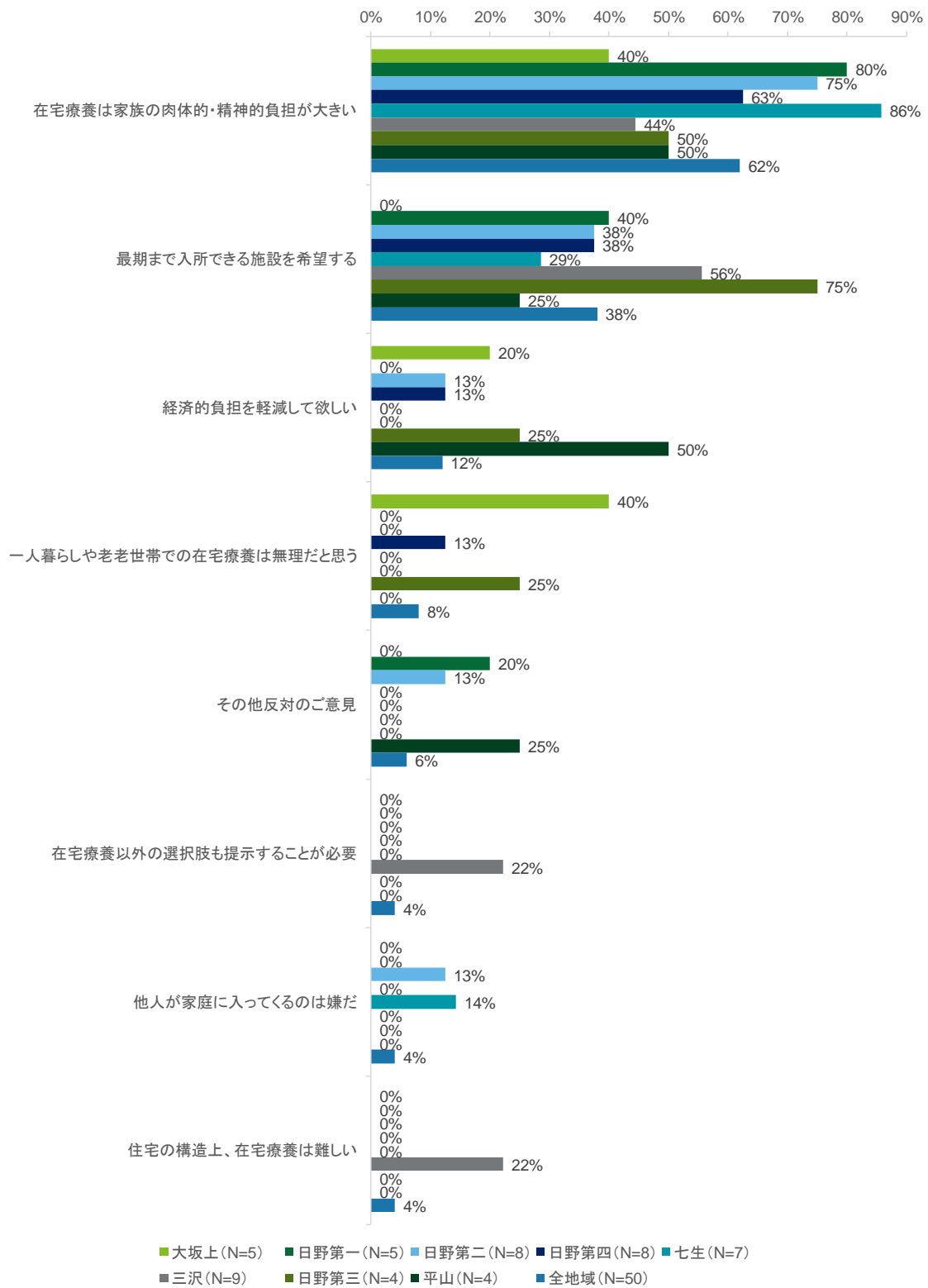


※合計の構成比が3%未満のものは省略している。

<反対寄りの意見の傾向について>

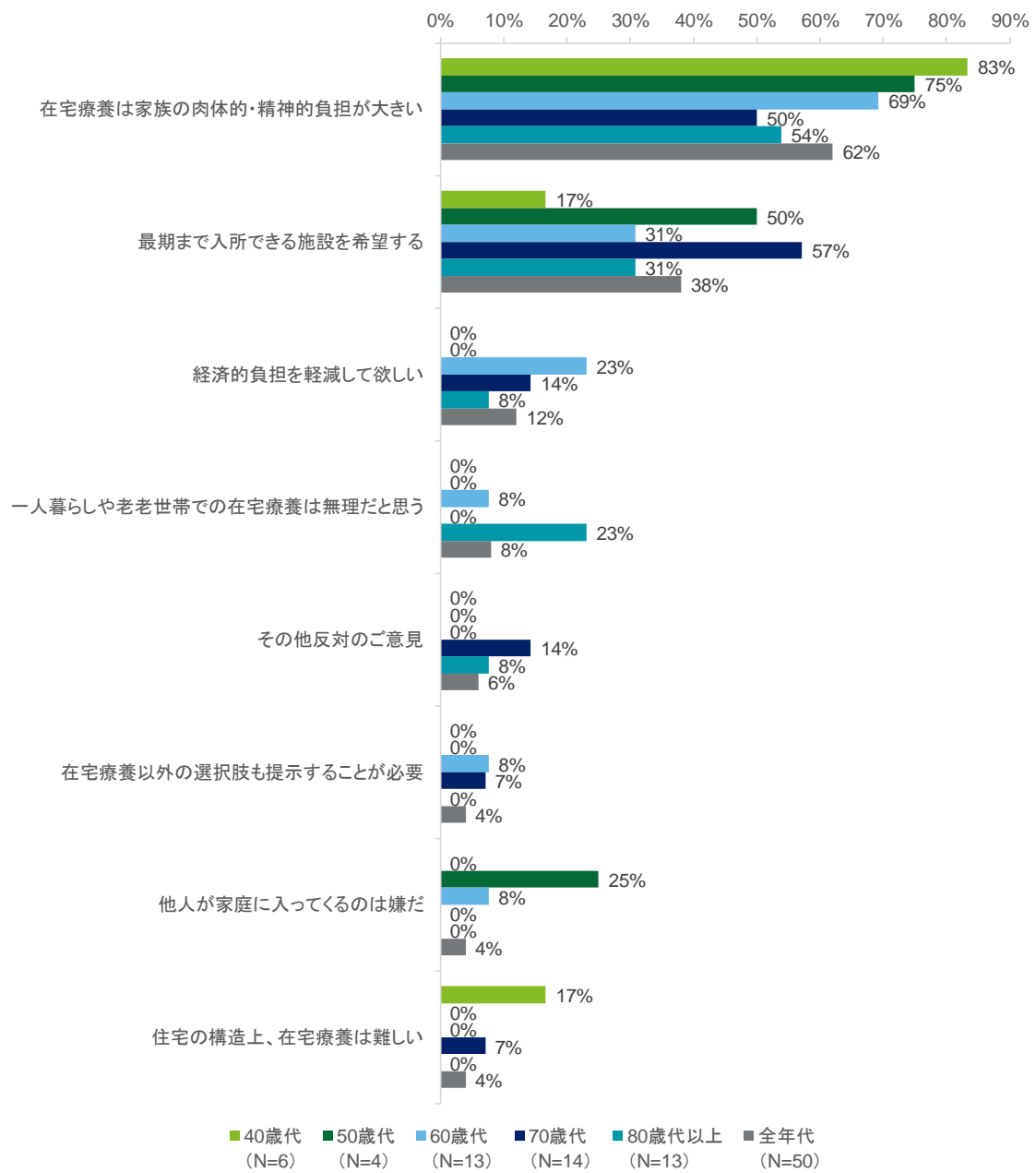
- 「在宅療養は家族の肉体的・精神的負担が大きい」とするコメントが最多で、反対寄りの声の総数の62%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、七生のコメントの86%、日野第一のコメントの80%、日野第二のコメントの75%を占めている。
  - 年代別に見ると、40歳代のコメントの83%、50歳代のコメントの75%、60歳代のコメントの69%を占めている。
- 「最期まで入所できる施設を希望する」とするコメントが2番目に多く、反対寄りの声の総数の38%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第三のコメントの75%、三沢のコメントの56%、日野第一のコメントの40%を占めている。
  - 年代別に見ると、70歳代のコメントの57%、50歳代のコメントの50%、60歳代及び80歳代以上のコメントの31%を占めている。
- 「経済的負担を軽減して欲しい」とするコメントが3番目に多く、反対寄りの声の総数の12%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、平山のコメントの50%、日野第三のコメントの25%、大坂上のコメントの20%を占めている。
  - 年代別に見ると、60歳代のコメントの23%、70歳代のコメントの14%、80歳代以上のコメントの8%を占めている。
- 「一人暮らしや老老世帯での在宅療養は無理だと思う」とするコメントが4番目に多く、反対寄りの声の総数の8%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、大坂上のコメントの40%、日野第三のコメントの25%、日野第四のコメントの13%を占めている。
  - 年代別に見ると、80歳代以上のコメントの23%、60歳代のコメントの8%を占めている。
- 「その他反対のご意見」（単に「反対です」といった記載のもの）が5番目に多く、反対寄りの声の総数の6%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、平山のコメントの25%、日野第一のコメントの20%、日野第二のコメントの13%を占めている。
  - 年代別に見ると、70歳代のコメントの14%、80歳代以上のコメントの8%を占めている。
- 6番目以降は、「在宅療養以外の選択肢も提示することが必要」（4%）、「他人が家庭に入ってくるのは嫌だ」（4%）、「住宅の構造上、在宅療養は難しい」（4%）となっている。

図表 2-107 「在宅療養の支援体制の充実」に対する反対寄り意見の傾向  
(中学校区別)



※合計の構成比が3%未満のものは省略している。

図表 2-108 「在宅療養の支援体制の充実」に対する反対寄り意見の傾向  
(年代別)



※合計の構成比が3%未満のものは省略している。

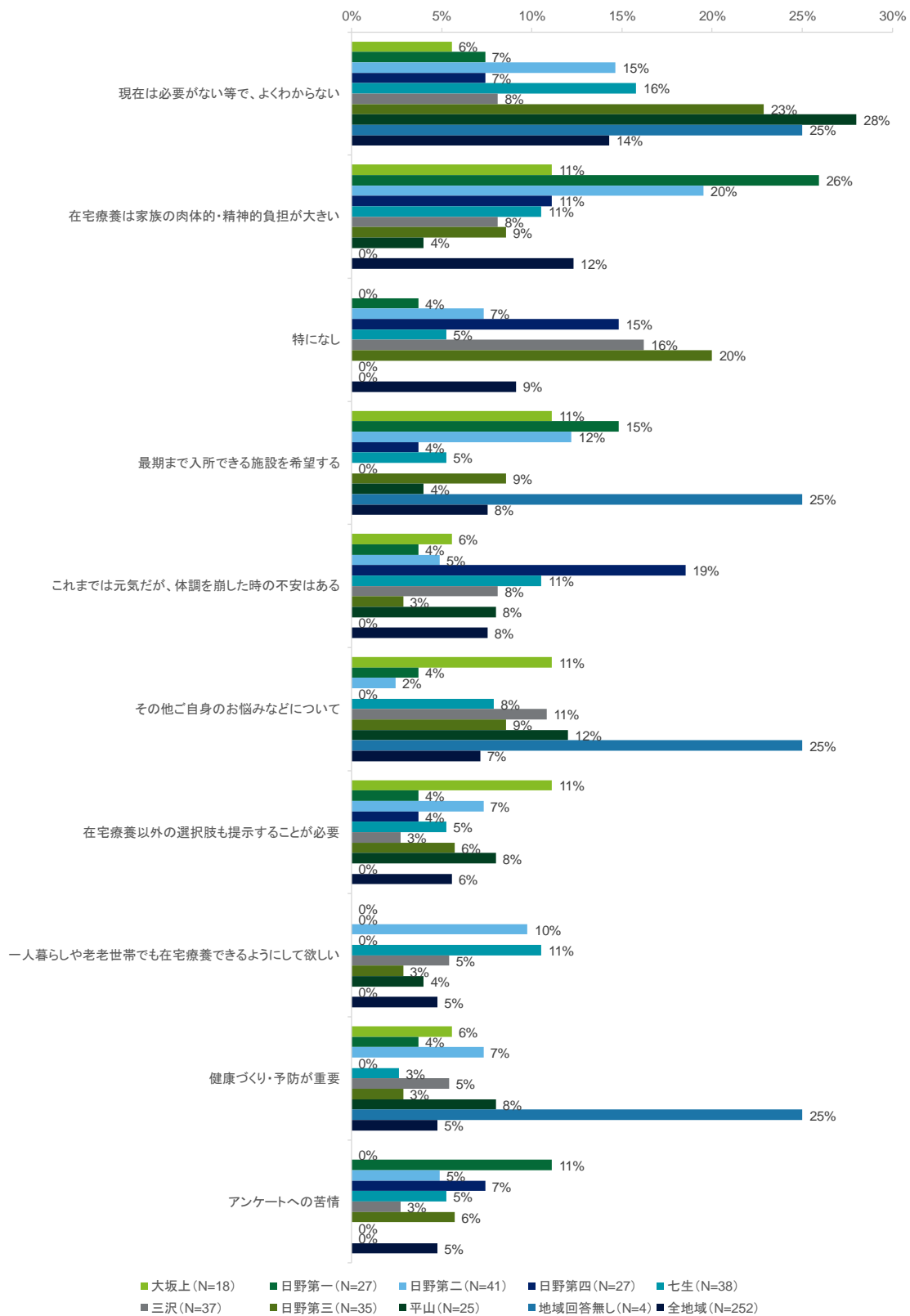
<賛成でも反対でもない意見の傾向について>

- 「現在は必要がない等で、よくわからない」とするコメントが最多で、賛成でも反対でもないコメントの総数の14%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、平山のコメントの28%、日野第三のコメントの23%、七生のコメントの16%を占めている。
  - 年代別に見ると、50歳代のコメントの24%、70歳代のコメントの18%、60歳代のコメントの16%を占めている。
- 「在宅療養は家族の肉体的・精神的負担が大きい」とするコメントが2番目に多く、賛成でも反対でもないコメントの総数の12%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第一のコメントの26%、日野第二のコメントの20%、大坂上及び日野第四のコメントの11%を占めている。
  - 年代別に見ると、50歳代及び80歳代以上のコメントの18%、70歳代のコメントの9%を占めている。
- 「特になし」のコメントが3番目に多く、賛成でも反対でもないコメントの総数の9%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第三のコメントの20%、三沢のコメントの16%、日野第四のコメントの15%を占めている。
  - 年代別に見ると、40歳代のコメントの28%、60歳代、70歳代及び80歳代以上のコメントの8%を占めている。
- 「最期まで入所できる施設を希望する」とするコメントが4番目に多く、賛成でも反対でもないコメントの総数の8%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第一のコメントの15%、日野第二のコメントの12%、大坂上のコメントの11%を占めている。
  - 年代別に見ると、60歳代のコメントの10%、70歳代及び80歳代以上のコメントの8%を占めている。
- 「これまでは元気だが、体調を崩した時の不安はある」とするコメントが5番目に多く、賛成でも反対でもないコメントの総数の8%を占めている。
  - 中学校区別に見ると、日野第四のコメントの19%、七生のコメントの11%、三沢及び平山のコメントの8%を占めている。
  - 年代別に見ると、80歳代以上のコメントの14%、70歳代のコメントの9%、60歳代のコメントの6%を占めている。
- 6番目以降は、その他ご自身のお悩みなどについてのコメント(7%)「在宅療養以外の選択肢を提示することが必要」(6%)、「一人暮らしや老老世帯でも在宅療養できるようにして欲しい」(5%)、「健康づくり・予防が重要」(5%)、アンケートへの苦情(5%)となっている。
  - その他ご自身のお悩みについては、ご自身の具体的な病気の心配、これまでのご経験についての記述、同居するペットの心配などとなっている。

- アンケートへの苦情については、単身者には回答しにくい、アンケートにあまり意味があると思えない、といったコメントとなっている。

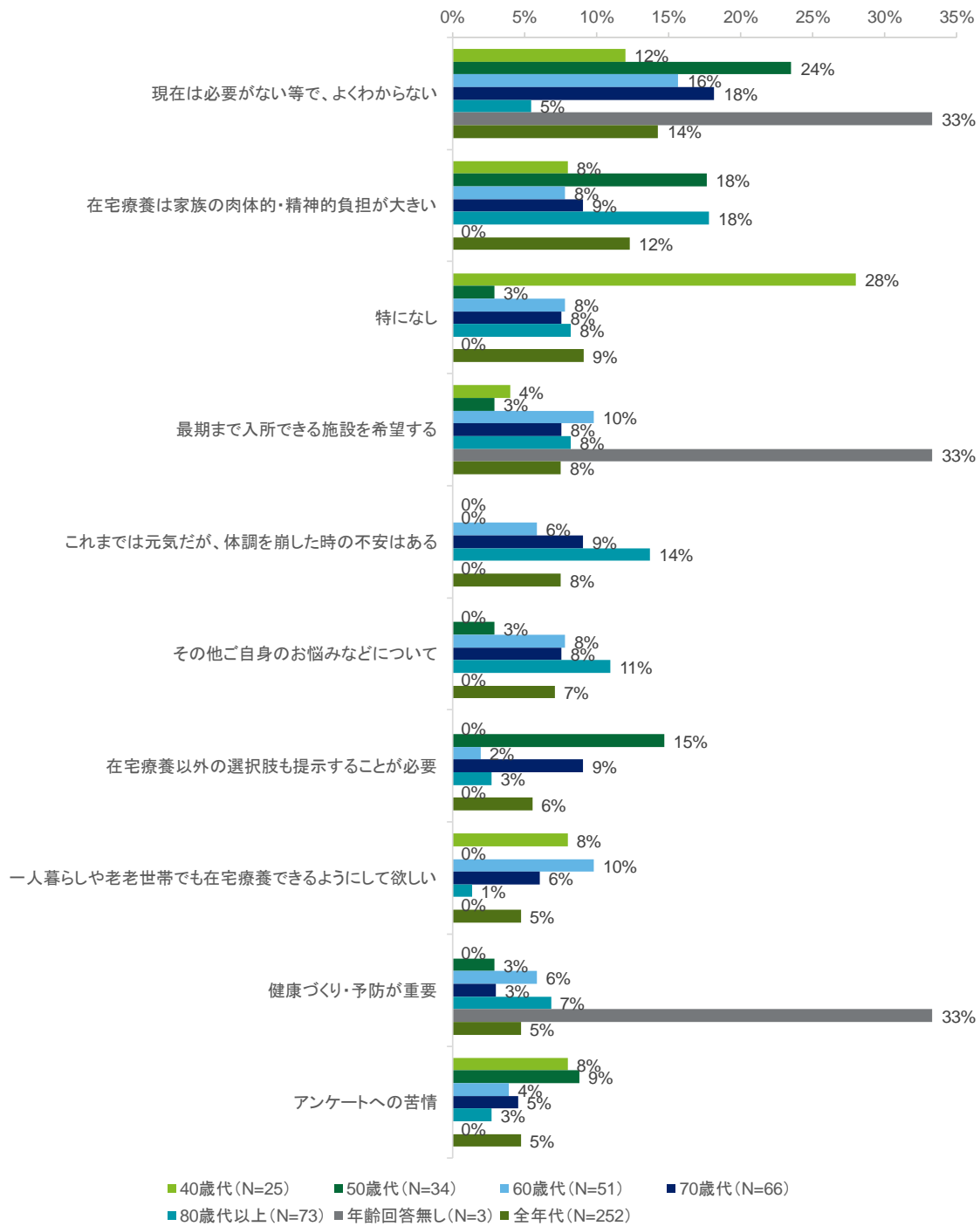


図表 2-109 「在宅療養の支援体制の充実」に対する賛成でも反対でもない意見の傾向（中学校区別）



※合計の構成比が5%未満のものは省略している。

図表 2-110 「在宅療養の支援体制の充実」に対する賛成でも反対でもない意見の傾向（年代別）



※合計の構成比が5%未満のものは省略している。

### 3 医療機関アンケート調査（診療所）

#### 3.1 調査結果の概要

##### <回答者の属性について>

- 開業年数の地域差は大きく、開業 5 年未満の施設が集中する地域と、開業 30 年以上の施設が過半を占める地域が存在している。
- 今後 5 年後までの事業承継の予定について、診療所の約 7 割、歯科診療所の約半数が、予定はないとしている。そのほとんどは、承継の必要がなく現在のまま診療を継続予定としている。事業承継の予定がある施設の大半は、子等の後継者に対する承継予定となっている。
- 診療所における標榜診療科は、多い順に、内科、小児科、皮膚科となっている。
- 連携している施設について、診療所の約 7 割、歯科診療所の約 9 割が、特に連携している施設はないと回答している。
- レセプト電算化の状況について、診療所、歯科診療所ともに、9 割以上が対応している。
- 電子カルテの導入状況は、診療所で半数程度、歯科診療所で 4 割程度となっているが、地域差は大きい。
- 遠隔診療の実施状況については、診療所は全ての施設が実施していないという回答となっているが、歯科診療所においては平山の 1 施設において実施しているという回答となっている。
- ICT を活用した診療支援等のツールについて、診療所の 9 割以上、歯科診療所の全てにおいて、利用していないという回答となっている。

##### <診療体制について>

- 診療所、歯科診療所ともに、医師／歯科医師が 1 名という体制が基本的な形となっている。曜日によってより充実している地域もあれば、曜日によって医師／歯科医師が不在となる地域もある。
- 医師の年齢構成については、50 代が最も多く、次いで 40 代、60 代が多くなっている。
- 歯科医師の年齢構成については、いずれの地域も 50 代以上が半数以上を占めており、若手の歯科医師が少ない状況にある。
- 看護師・看護助手などを除く医療従事者は、地域の偏りが大きくなっている。

歯科衛生士及び歯科助手については、地域的に満遍なく存在している。

- 診療所の医師の半数以上、歯科医師の約3割は、市外から通勤している。
- 医師の過不足状況については、半数以上の医療機関は「不足する見込みはない」と回答しているが、一方で4分の1程度は将来的に不足すると回答している。歯科医師については、75%の歯科診療所が「不足する見込みはない」と回答しており、将来的に不足するという回答は10%となっている。

### <患者数等の状況について>

- 1万人以上を診ている診療所、歯科診療所が半数を占めているが、日野第二や三沢などは5千人未満の診療所、歯科診療所が3割程度を占めている。
- 患者に占める高齢者の割合が半数を超える施設について、全市的には診療所の約7割、歯科診療所の約6割となっているが、地域差は大きい。
- 過去5年の患者数の動向については、診療所では「増えている」、「どちらか」というと増えている」とする回答が、「減っている」、「どちらか」というと減っている」とする回答をやや上回っている。歯科診療所では、「減っている」、「どちらか」というと減っている」とする回答の方が多くなっている。
- 将来的な患者数の見込みとしては、診療所、歯科診療所ともに、減少寄りの予測の方が多くなっている。

### <他の医療機関との連携状況について>

- 他の診療所、歯科診療所への紹介については、診療所においては実施しているとする回答が約9割となっているが、一部の地域において6~7割となっている。歯科診療所においては、時々実施しているとする回答がほとんどとなっている。
- 紹介先の診療所、歯科診療所については、診療所においては内科が多くなっており、歯科診療所においては歯科がほとんどとなっている。
- 紹介先の病院については、日野市立病院が最多であり、次いで市外の病院となっている。
- 病院からの逆紹介の状況については、日野市立病院からの逆紹介が多くなっている。
- 患者の紹介元については、診療所においては病院が約半数、歯科診療所においては患者本人及び家族が7割となっている。

## <在宅療養の取組み状況について>

- 5年前と比較した在宅療養のニーズ動向については、診療所、歯科診療所ともに、「増えている」、「どちらかというが増えている」が半数程度を占めている一方、「減っている」、「どちらかというが減っている」は1割未満となっている。
- 在宅療養への考え方については、診療所、歯科診療所ともに、推進すべきとする回答と分からないとする回答が同程度となっている。
- 在宅療養への取組みについては、実施しない（外来専門）という回答が診療所の約8割、歯科診療所の約7割となっている。
- 在宅療養を希望する患者が発生した場合の対応については、診療所の約6割が他院を紹介するという回答であるのに対し、歯科診療所の約7割が自院で対応しているとしている。
- 在宅療養支援（歯科）診療所の届出については、診療所、歯科診療所ともに約2割となっている。

## <訪問診療の取組み状況について>

- 訪問診療の実施状況については、診療所の約3割、歯科診療所の約4割で実施している。
- 訪問時のスタッフの体制については、診療所、歯科診療所ともに半数が医師、歯科医師のみでの訪問となっている。
- 訪問診療の受持ち患者数（自宅訪問）については、一部の診療所において100人以上も見られるが、大半は25人以下となっている。歯科診療所においては全て10人以下となっている。
- 今後需要があった場合の訪問診療の拡大可能性については、診療所においては「既に余力がなくスタッフ増員も困難であり拡大できない」との回答が半数を占めている。歯科診療所においては、現在のスタッフ数や訪問可能エリア等の条件の範囲内で拡大したいという回答が約7割となっている。
- 訪問診療の実施上の困難・不安または実施していない理由については、診療所においては、「夜間や休日の対応が困難」との回答が多く（68%）、次いで「スタッフの確保が困難」（50%）、「容態急変時の対応が困難」（50%）との回答が多くなっている。歯科診療所においては、「診察や検査の内容が限られてしまう」との回答が多く（60%）、次いで「夜間や休日の対応が困難」（52%）との回答が多くなっている。

## <往診の取組み状況について>

- 往診の実施状況については、診療所の約 2 割で実施している。
- 往診の患者数については、5 人以下が半数を占めるが、10 人以上対応している診療所も多い。
- 診療時間外の患者からの急な呼び出しへの対応については、約 8 割の診療所が対応していない。
- 往診の実施上の困難・不安または実施していない理由については、「夜間や休日の対応が困難」「診察や検査の内容が限られてしまう」との回答が多くなっている。

## <看取りの実施状況について>

- 在宅看取りの実施状況については、診療所の 24%が実施している。
- 在宅看取りの実施件数については、概ね年間 10 件程度となっている。
- 在宅看取り希望件数の傾向については、「これまでと変わらない」という回答が約 7 割となっている。
- 在宅看取りに対する対応方針については、「本人や家族の明確な希望があれば対応している」という回答が約 7 割となっている。
- 在宅看取りの実施上の困難・不安または実施していない理由については、「夜間や休日の対応が困難」との回答が多く（74%）、次いで「スタッフの確保が困難」（56%）との回答が多くなっている。

## <在宅療養への意見について>

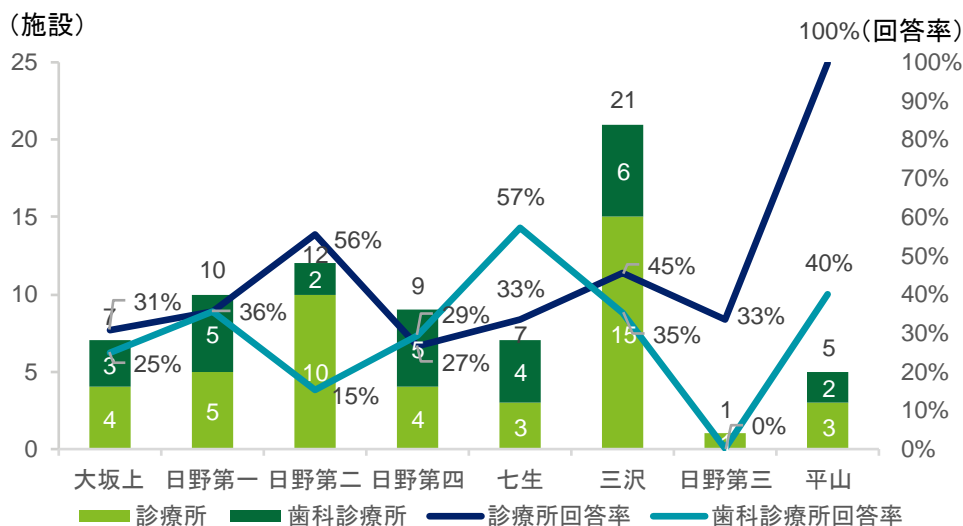
- この数年での介護職との連携の取りやすさの変化については、診療所、歯科診療所ともに、「とても感じる」、「ときどき感じる」と「あまり感じない」、「まったく感じない」が同程度となっている。
- 在宅療養支援体制の充実に向けた取組みを推進していくコーディネーターとして期待する者については、診療所においては現場の医療関係者という回答が約 4 割となっており、歯科診療所においては医師会や行政など公益的第三者的立場とする回答が約 7 割となっている。

### 3.2 回答者の属性

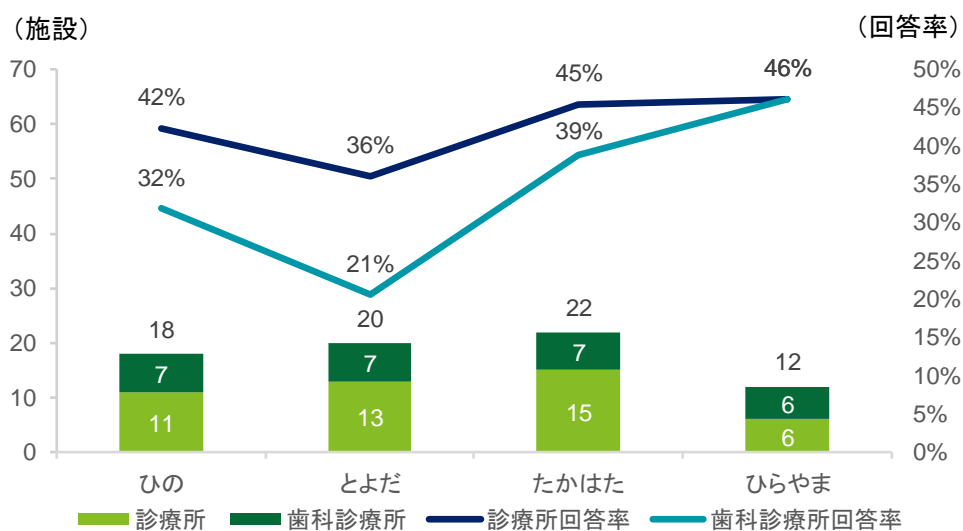
- 問1-1 貴院の種類を教えてください。(1つに○)  
 問1-2 貴院の所在地域(中学校区)を教えてください。(1つに○)  
 問1-3 貴院の所在地域(日常生活圏域)を教えてください。(1つに○)

- 回答が得られた全72施設の内訳は、診療所が45施設、歯科診療所が27施設となっている。
- 中学校区別に見た回答率については、診療所においては平山で100%の回答が得られたほかは、日野第二で56%、三沢で45%、その他は3割程度となっている。歯科診療所においては、七生で57%、平山で40%、日野第一で36%等となっており、日野第三においては回答が得られなかった。なお、日野第三における歯科診療所は、2施設である。
- 日常生活圏域別に見た回収率については、診療所、歯科診療所ともにひらやまが最も高く(いずれも46%)、とよだが最も低く(診療所36%、歯科診療所21%)となっている。

図表 3-1 回答のあった診療所・歯科診療所の数(中学校区別)



図表 3-2 回答のあった診療所・歯科診療所の数（日常生活圏域別）



問 1 - 4 貴院の病床数を教えてください。（1つに○）

- 診療所については、一般病床を有するものが1施設となっている。療養病床、精神病床を有するという回答は得られていない。
- 歯科診療所については、いずれの病床についても、有するという回答は得られていない。

図表 3-3 一般病床（診療所）

（単位：施設）

診療所	病床無し	1～10床未満	10～20床未満	合計
大坂上	4	0	0	4
日野第一	4	0	0	4
日野第二	9	0	0	9
日野第四	3	1	0	4
七生	3	0	0	3
三沢	13	0	0	13
日野第三	0	0	0	0
平山	1	0	0	1
合計	37	1	0	38

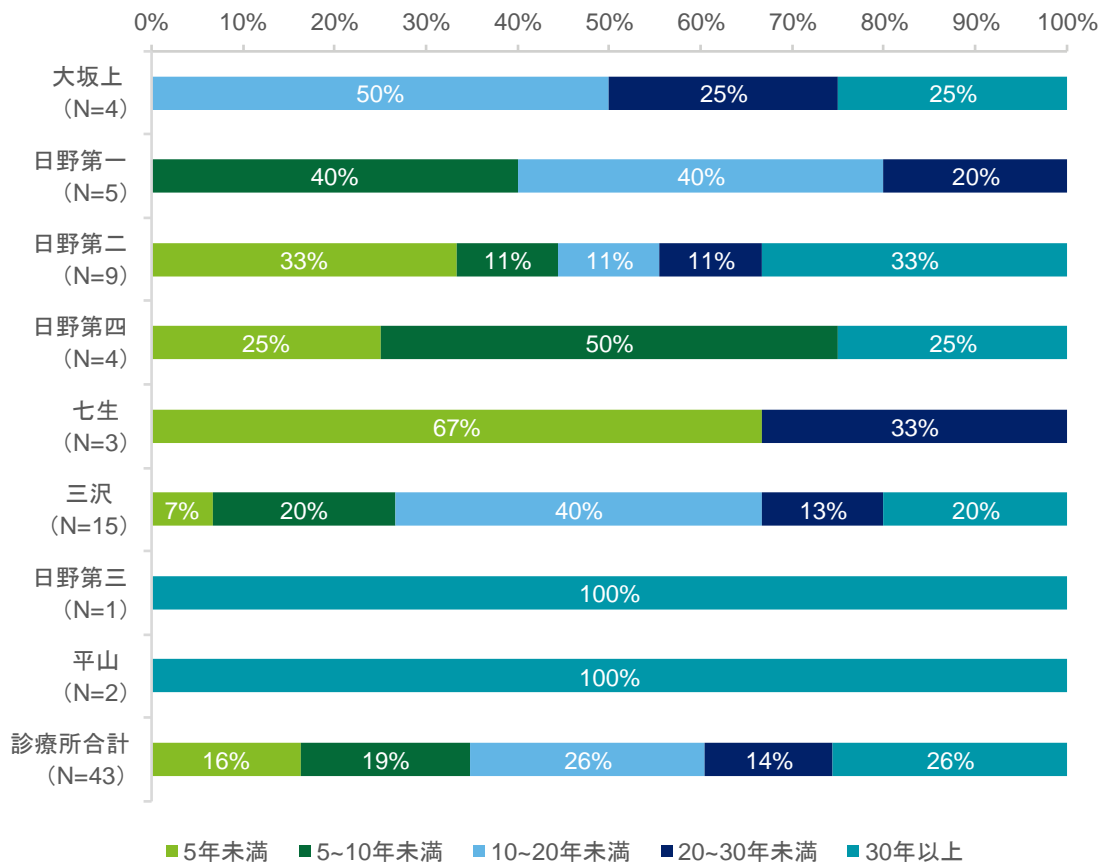


問1-5 現在地で開業している年数を教えてください。(1つに○)

<診療所>

- 全市的に見ると開業10年未満の割合は開業30年以上の割合を上回っている。しかしながら地域差が大きく、日野第二、日野第四、七生の3地域に開業5年未満の回答が集中しており、日野第三及び平山では全て開業30年以上となっている。

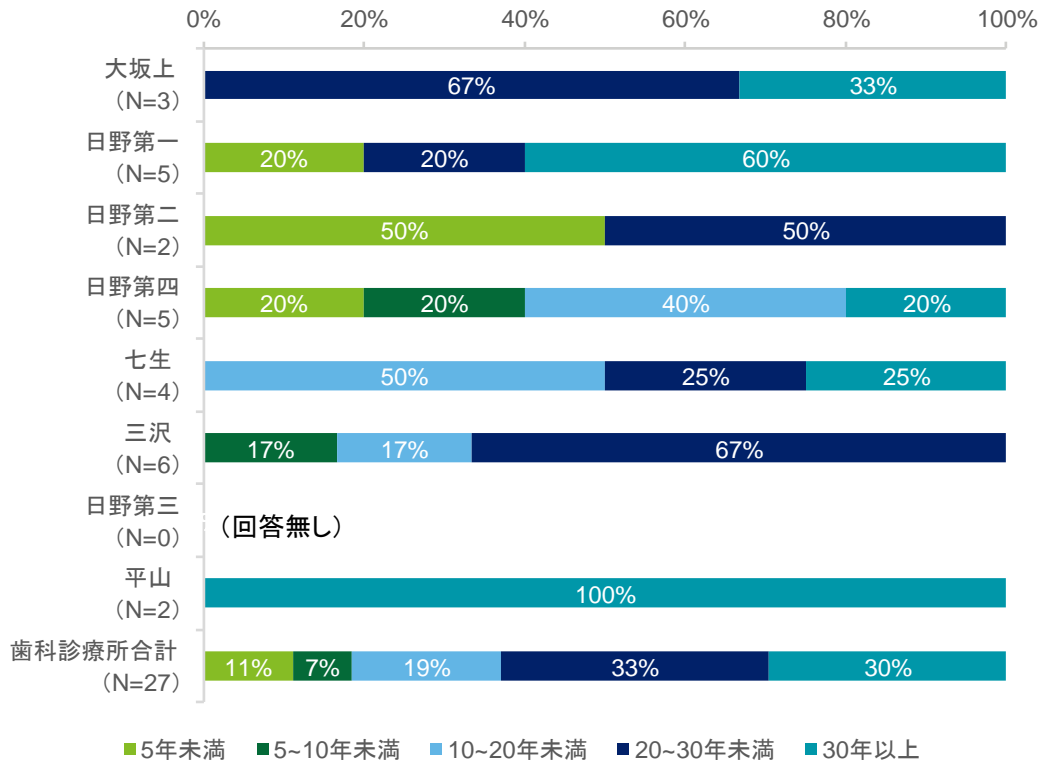
図表 3-4 現在地における開業年数 (診療所)



< 歯科診療所 >

- 全市的に見ると、歯科診療所の6割以上が開業20年以上となっている。地域差も大きく、開業5年未満は日野第一、日野第二、日野第四の3地域に集中しているのに対して、平山では全て開業30年以上となっている。

図表 3-5 現在地における開業年数（歯科診療所）

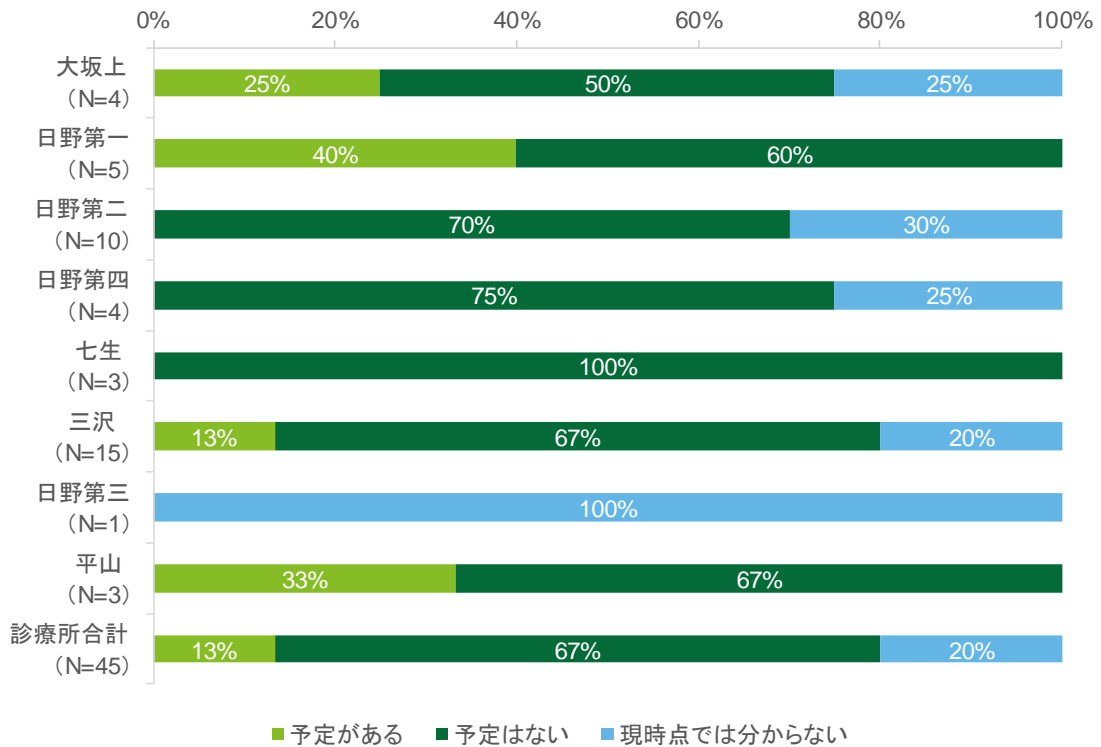


問1-6 5年後までに事業承継の予定があるか教えてください。(1つに○)

<診療所>

- 全市的に見ると、約7割の診療所が5年後までの事業承継の予定はないとしている。大坂上、日野第一、三沢、平山においては、事業承継の予定があるという回答も一部見られる。

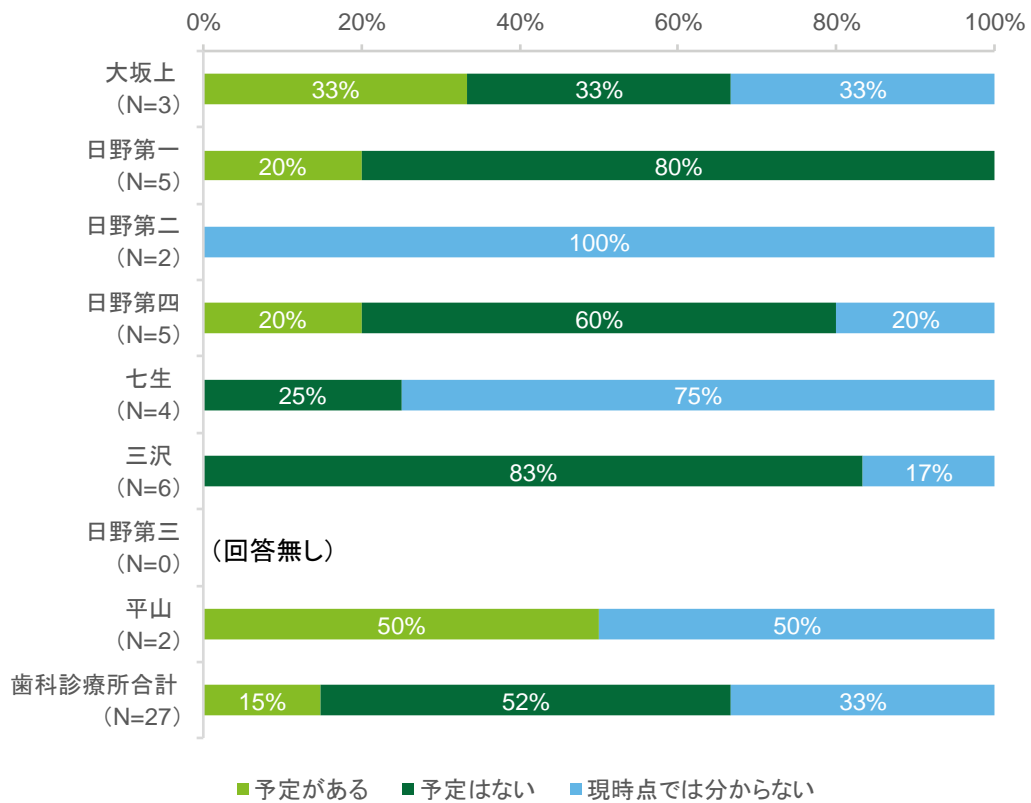
図表 3-6 5年後までの事業承継予定（診療所）



< 歯科診療所 >

- 全市的に見ると、約半数の診療所が5年後までの事業承継の予定はないとしている。大坂上、日野第一、日野第四、平山においては、事業承継の予定があるという回答も一部見られる。

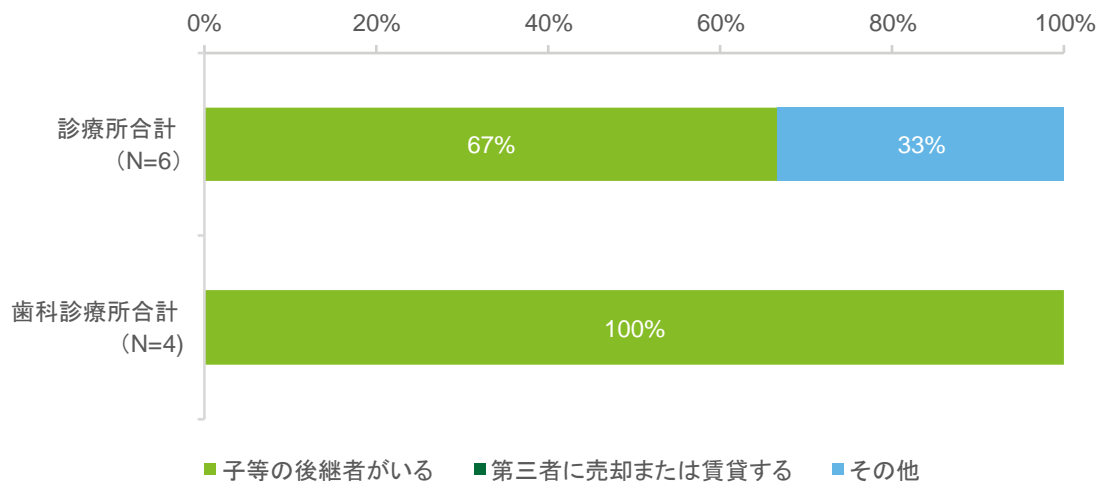
図表 3-7 5年後までの事業承継予定（歯科診療所）



問1-7 事業承継の予定がある場合、具体的な予定を教えてください。  
(1つに○)

- 診療所においては、事業承継の予定がある施設の67%が子等の後継者がいるという回答となっている。
- 歯科診療所においては、事業承継の予定がある施設の全てにおいて、子等の後継者がいるという回答となっている。

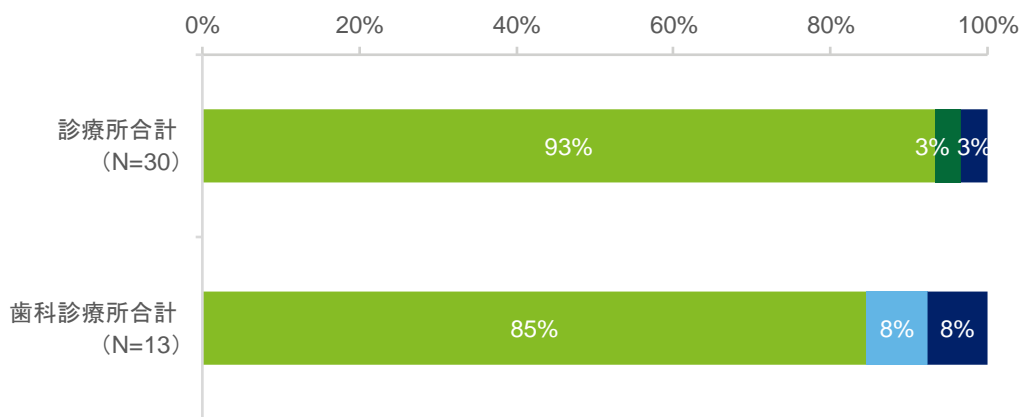
図表 3-8 事業承継の具体的な予定（診療所・歯科診療所）



問1-8 事業承継の予定がない場合、具体的な予定を教えてください。  
(1つに○)

- 診療所においては、事業承継の予定がないと回答した施設のほとんどが、承継の必要がなく現在のまま診療を継続予定としている。
- 歯科診療所においては、事業承継の予定がないと回答した施設のほとんどが承継の必要がなく現在のまま診療を継続予定としているが、一方で、廃院とする予定が16%となっている。

図表 3-9 事業承継の予定がない場合の具体的な予定（診療所・歯科診療所）

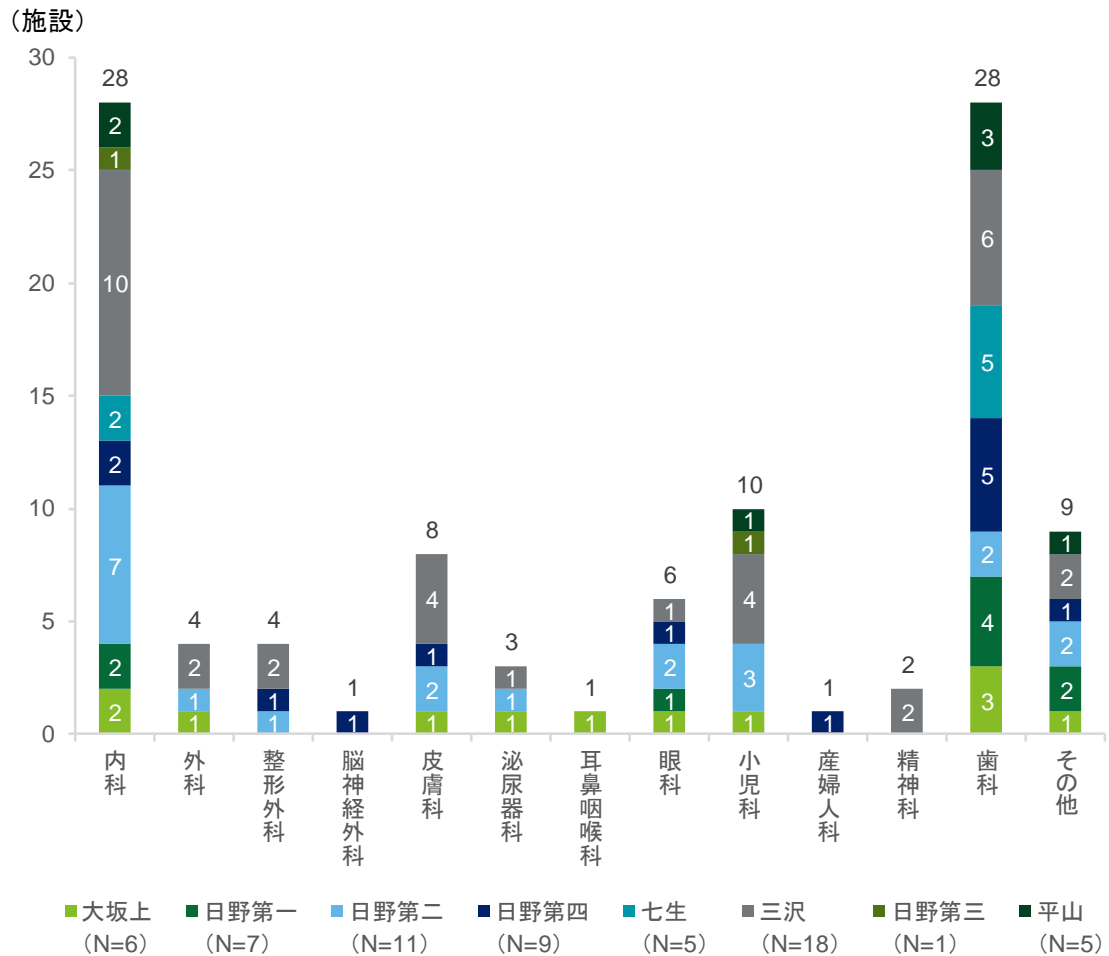


- 承継の必要はなく、現在のまま診療を継続していく予定
- 承継が必要だと考えているが、方法が分からない
- 承継が必要だと考えているが、後継者や売却先がなく、廃院とせざるをえない予定
- 当地での診療継続の必要性を感じておらず、廃院とする予定

問 1 - 9 貴院の標榜診療科を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 回答のあった診療所における標榜科は、多い順に、内科、小児科、皮膚科となっている。

図表 3-10 標榜診療科 (診療所・歯科診療所)



問 1 - 10 併設施設はありますか。(該当するもの全てに○)

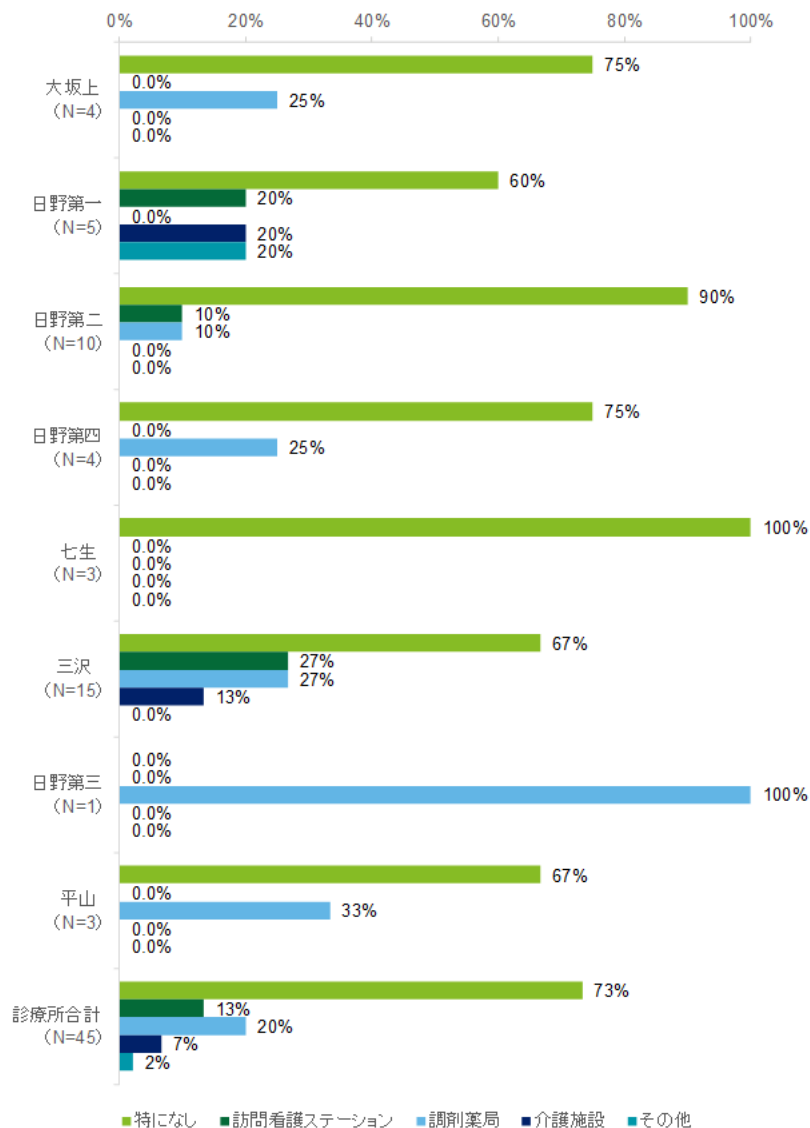
- 居宅介護支援事業所を併設しているという診療所が日野第二に 1 か所あったほかは、全ての診療所・歯科診療所において、併設施設はないという回答となっている。

問1-11 連携している施設はありますか。(該当するもの全てに○)

<診療所>

- 全市的に見ると、約7割の診療所が、特に連携している施設はないと回答している。連携している施設のうちで最も回答が多いのは調剤薬局の20%となっており、日野第一と七生を除く6地域で連携している診療所がある。次いで訪問看護ステーションの13%となっているが、連携している診療所がある地域は日野第一、日野第二、三沢の3地域に限られている。介護施設との連携は3番目の7%であり、連携している診療所がある地域は日野第一と三沢に限られている。

図表 3-11 連携している施設（診療所）

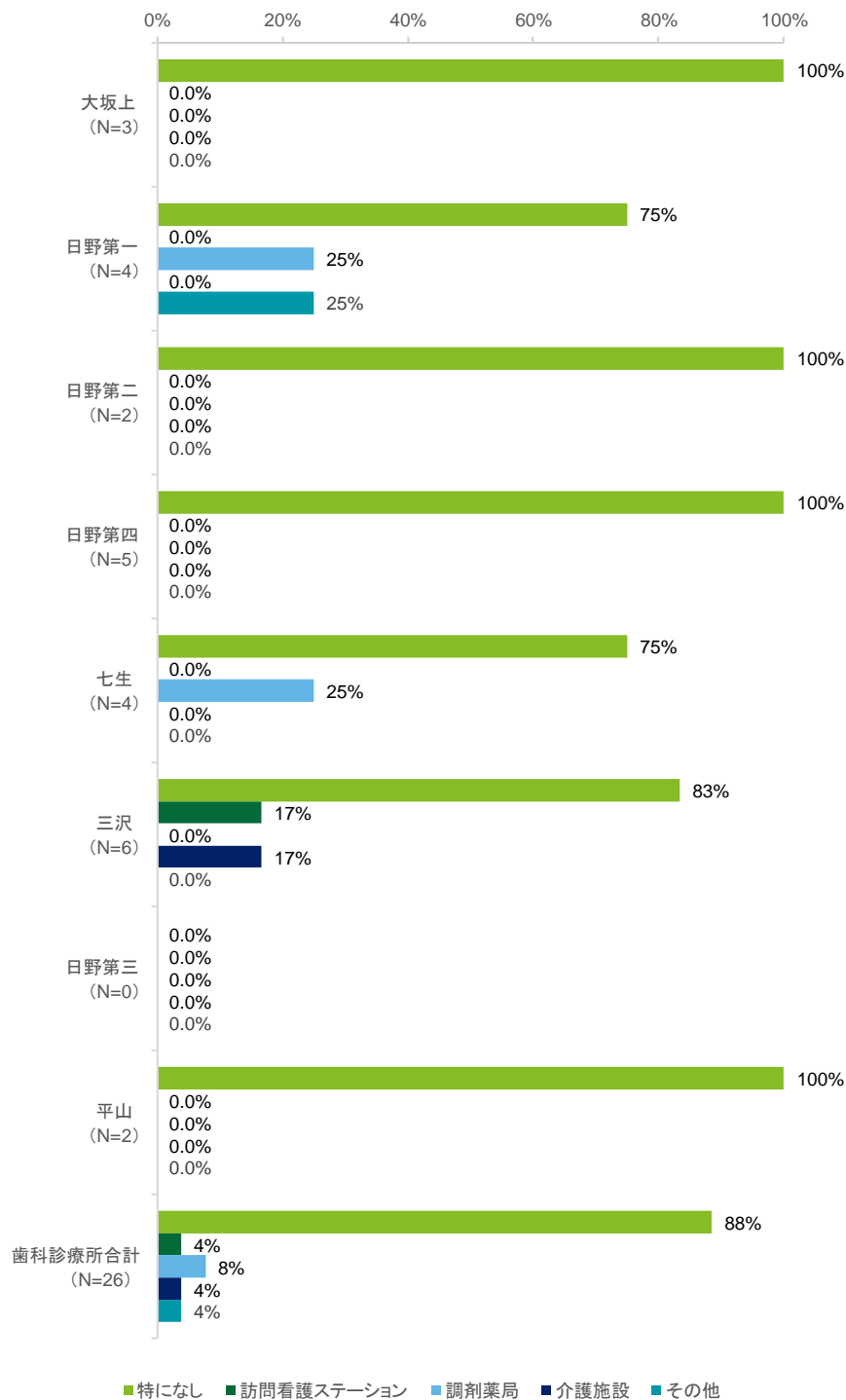




< 歯科診療所 >

- 全市的に見ると、約 9 割の歯科診療所が、特に連携している施設はないと回答している。特に、大坂上、日野第二、日野第四、平山においては、全てが連携施設なしの回答となっている。

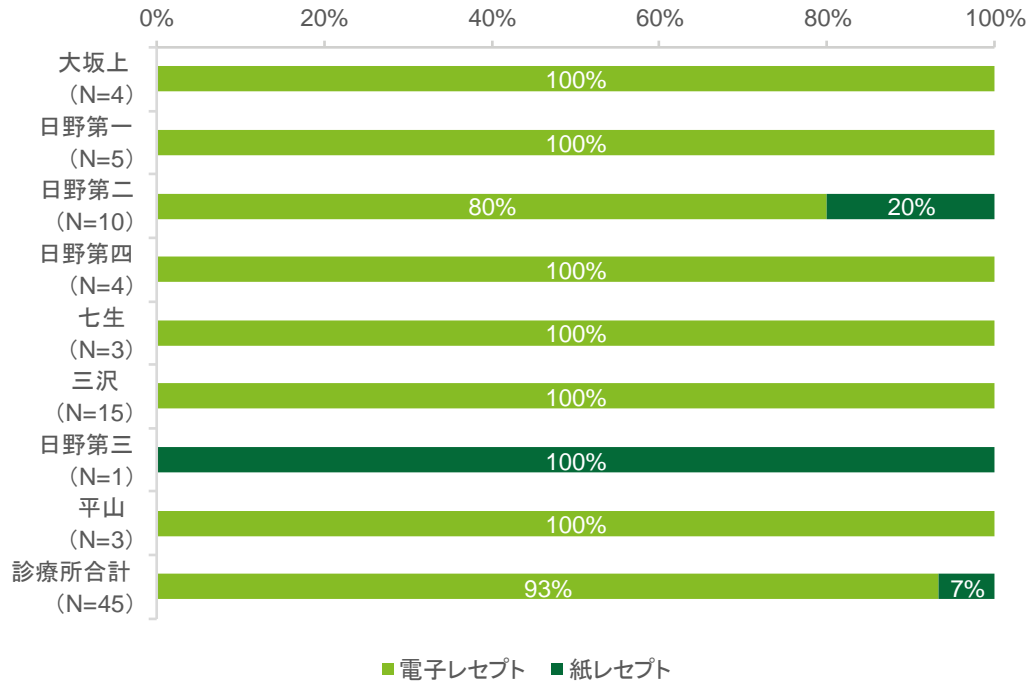
図表 3-12 連携している施設（歯科診療所）



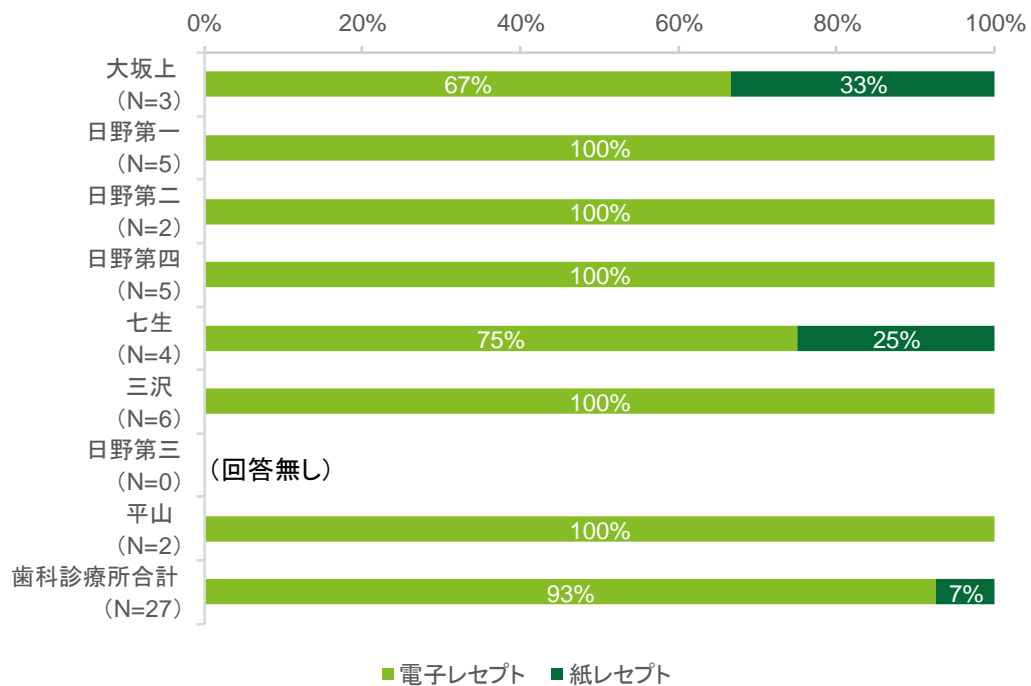
問 1 - 1 2 貴院のレセプト電算化の状況を教えてください。(1つに○)

■ 診療所、歯科診療所ともに、9割以上がレセプトを電算化している。

図表 3-13 レセプト電算化の状況 (診療所)



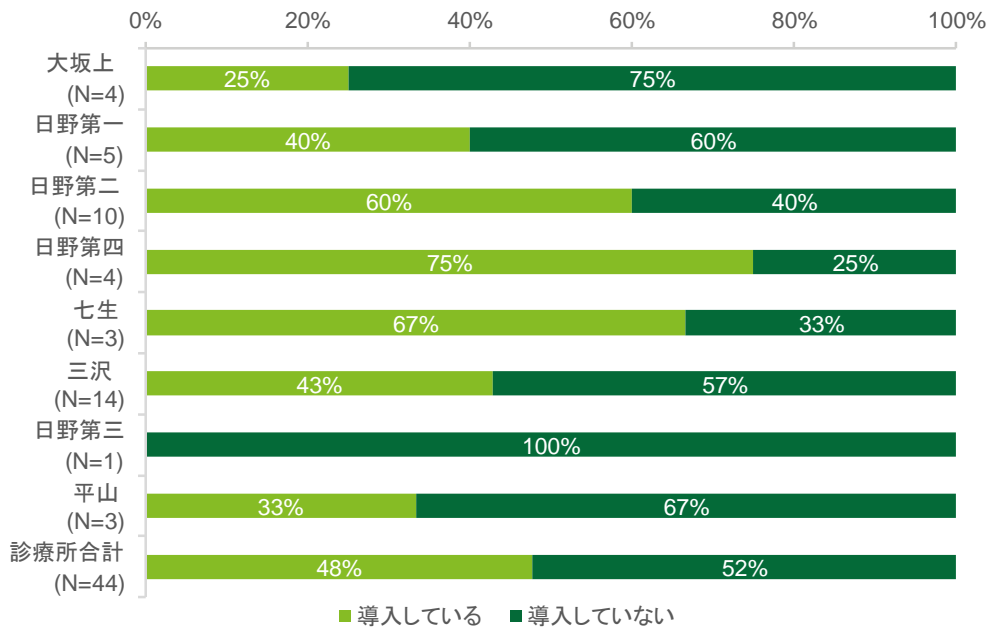
図表 3-14 レセプト電算化の状況 (歯科診療所)



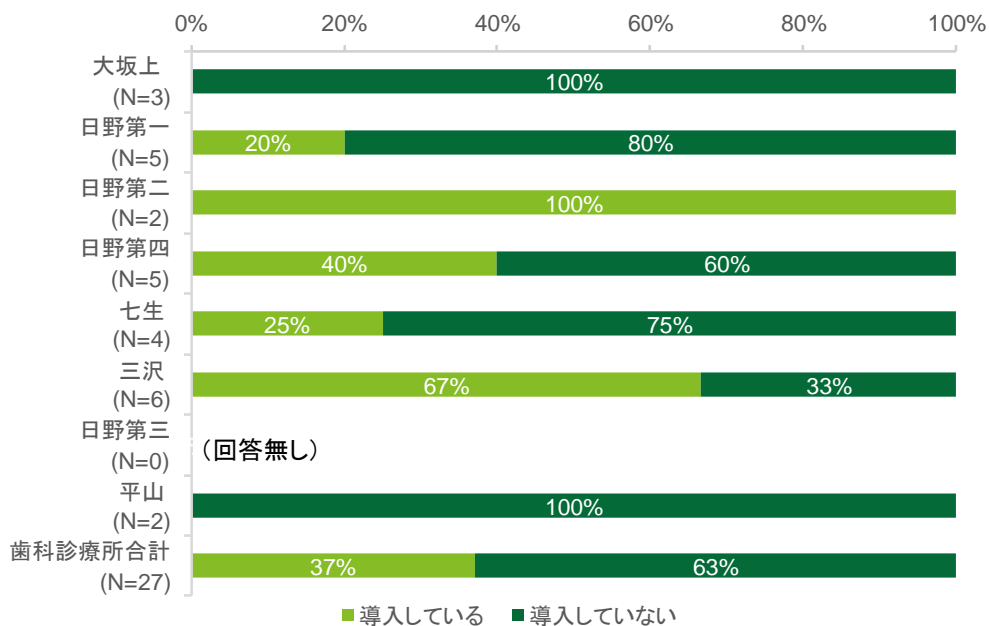
問1-13 貴院の電子カルテの導入状況を教えてください。(1つに○)

- 電子カルテの導入状況は、診療所で半数程度、歯科診療所で4割程度となっている。地域による差が大きく、診療所では日野第四の75%から日野第三の0%まで、歯科診療所では日野第二の100%から平山の0%までの幅がある。

図表 3-15 電子カルテの導入状況（診療所）



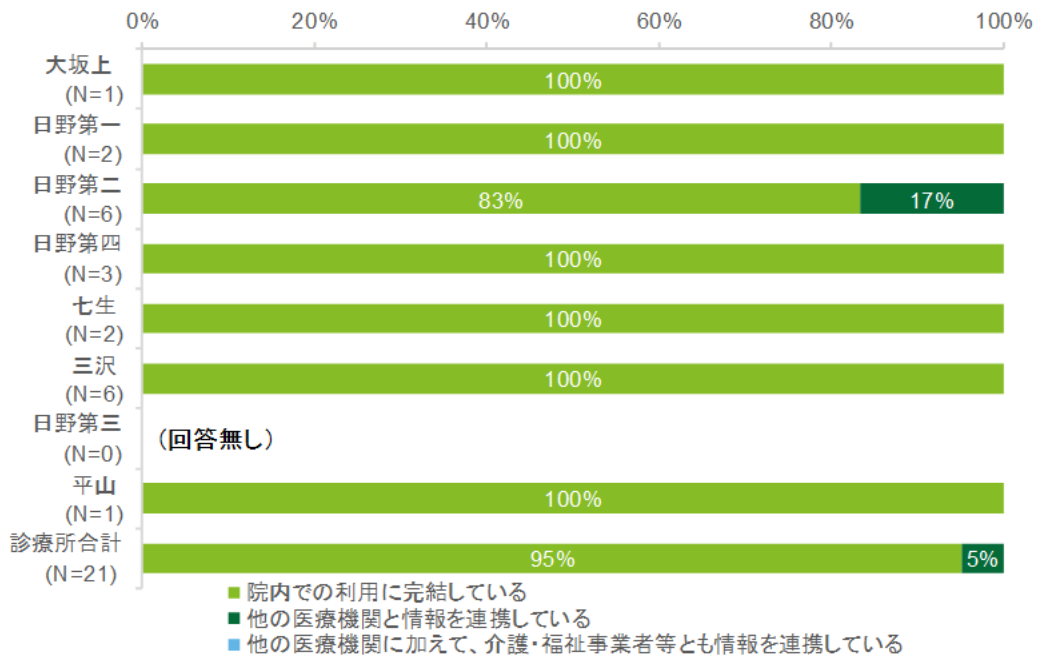
図表 3-16 電子カルテの導入状況（歯科診療所）



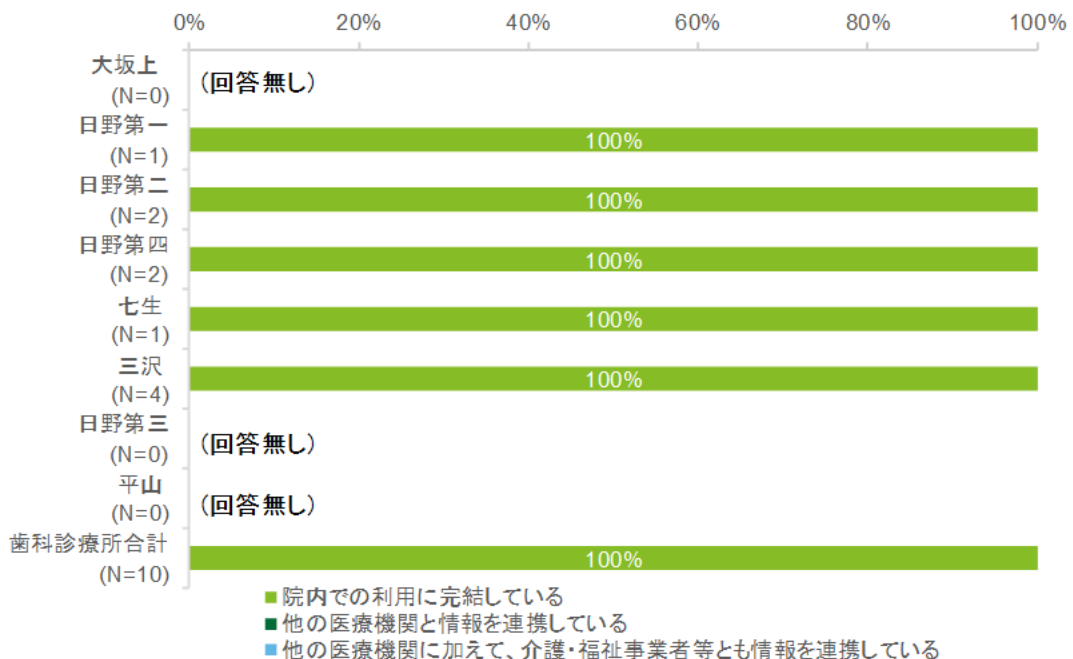
問1-14 電子カルテを活用した情報連携の状況を教えてください。  
(1つに○)

- 診療所のほとんど、歯科診療所の全てにおいて、電子カルテを活用した情報連携は、院内での利用に完結している。

図表 3-17 電子カルテを活用した情報連携の状況（診療所）



図表 3-18 電子カルテを活用した情報連携の状況（歯科診療所）



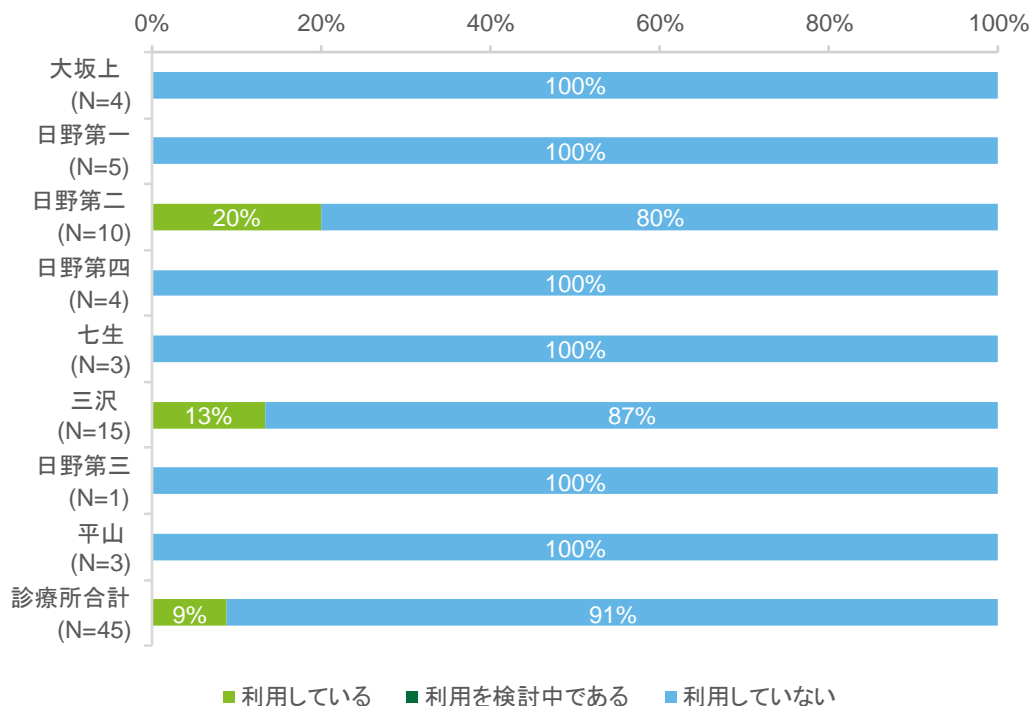
問 1 - 1 5 貴院では遠隔診療を実施していますか。(1つに○)

- 診療所においては、全ての施設が実施していないとの回答であり、今後実施予定という回答もない。
- 歯科診療所においては、実施しているという回答が1施設(平山)あったほかは、全ての施設において実施していないとの回答であり、今後実施予定という回答もない。

問 1 - 1 6 貴院では ICT を活用した診療支援等のツールを利用していますか。(1つに○)

- 診療所の9割以上は、ICTを活用した診療支援等のツールを利用していないという回答となっているが、1割弱においては利用しているという回答となっている。日野第二と三沢において、利用しているという回答が見られる。
- 歯科診療所においては、全ての施設において利用していないという回答となっている。

図表 3-19 ICT を活用した診療支援等のツールの利用(診療所)



### 3.3 診療体制について

問 2 - 1 貴院の診療体制・時間を教えてください。(数字を記入)

#### <外来>

- 診療所、歯科診療所ともに、医師／歯科医師が 1 名という体制が基本的な形となっている。曜日によってより充実している地域もあれば、曜日によって医師／歯科医師が不在となる地域もある。
- 診療所の診療時間は、平日は 7 時間前後が基本的な形となっているが、日野第三は 3 時間となっている。
- 歯科診療所の診療時間は、平日は 8 時間前後が基本的な形となっており、土曜日は 6 時間程度となっている。

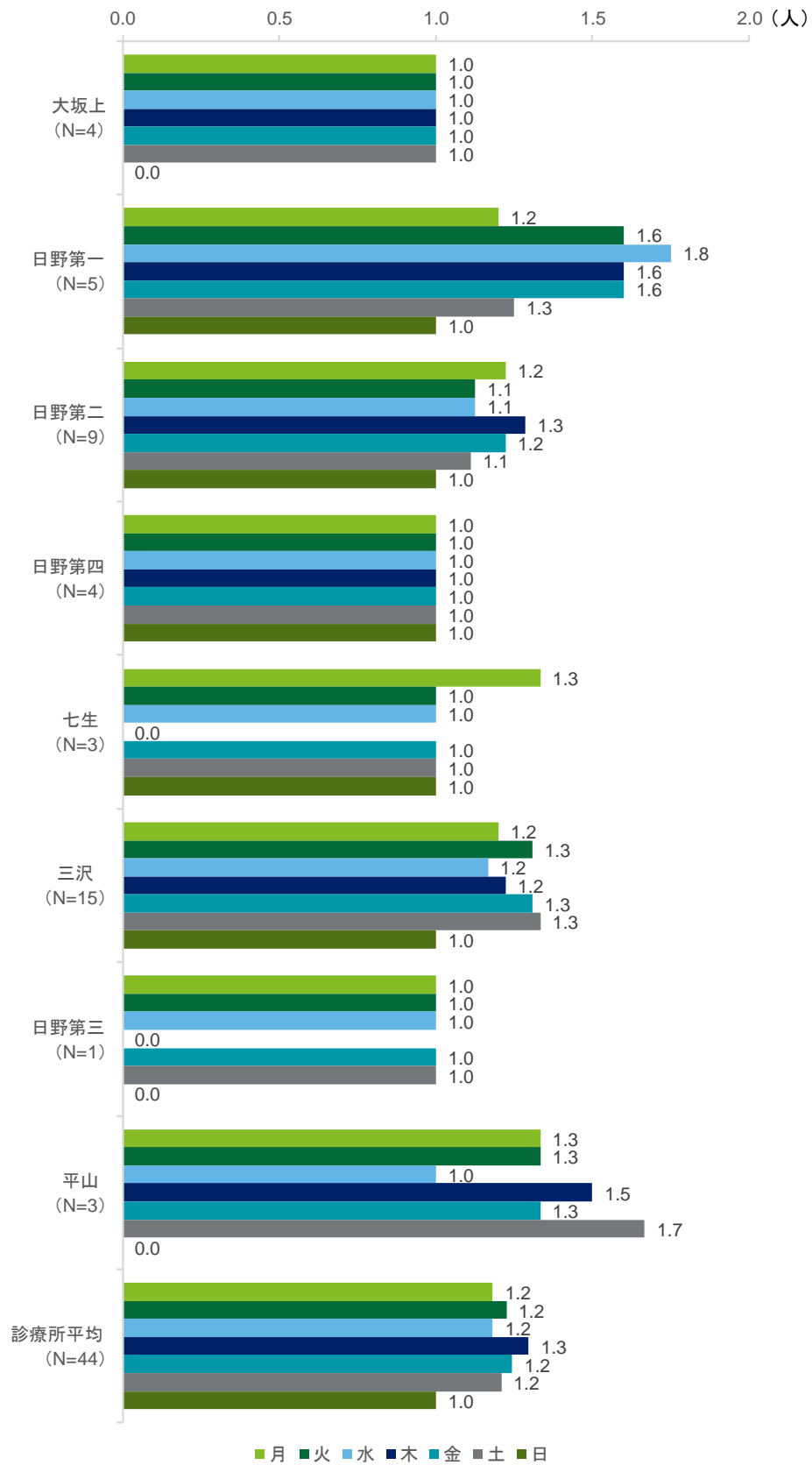
#### <訪問診療>

- 診療所では、市全体で訪問診療に対応している医師数が最大で 9 人(火曜日)となり、日曜日は対応している医師がいない。
- 診療所の対応時間については、地域によるばらつきが大きくなっている。
- 診療所を中学校区別に見ると日野第一及び日野第二は土曜日、日曜日は対応しておらず、三沢は木曜日、日曜日は対応していない。
- 歯科診療所では、市全体で訪問診療に対応している歯科医師数は 2 名となり、日曜日は対応している歯科医師がいない。
- 歯科診療所を中学校区別にみると、七生は日曜日は対応しておらず、三沢は木曜日、日曜日は対応していない一方、日野第一は木曜日のみ対応している。
- 診療所による訪問診療の対応時間は市全体で合計すると、木曜日、土曜日が短くなっている。

#### <往診>

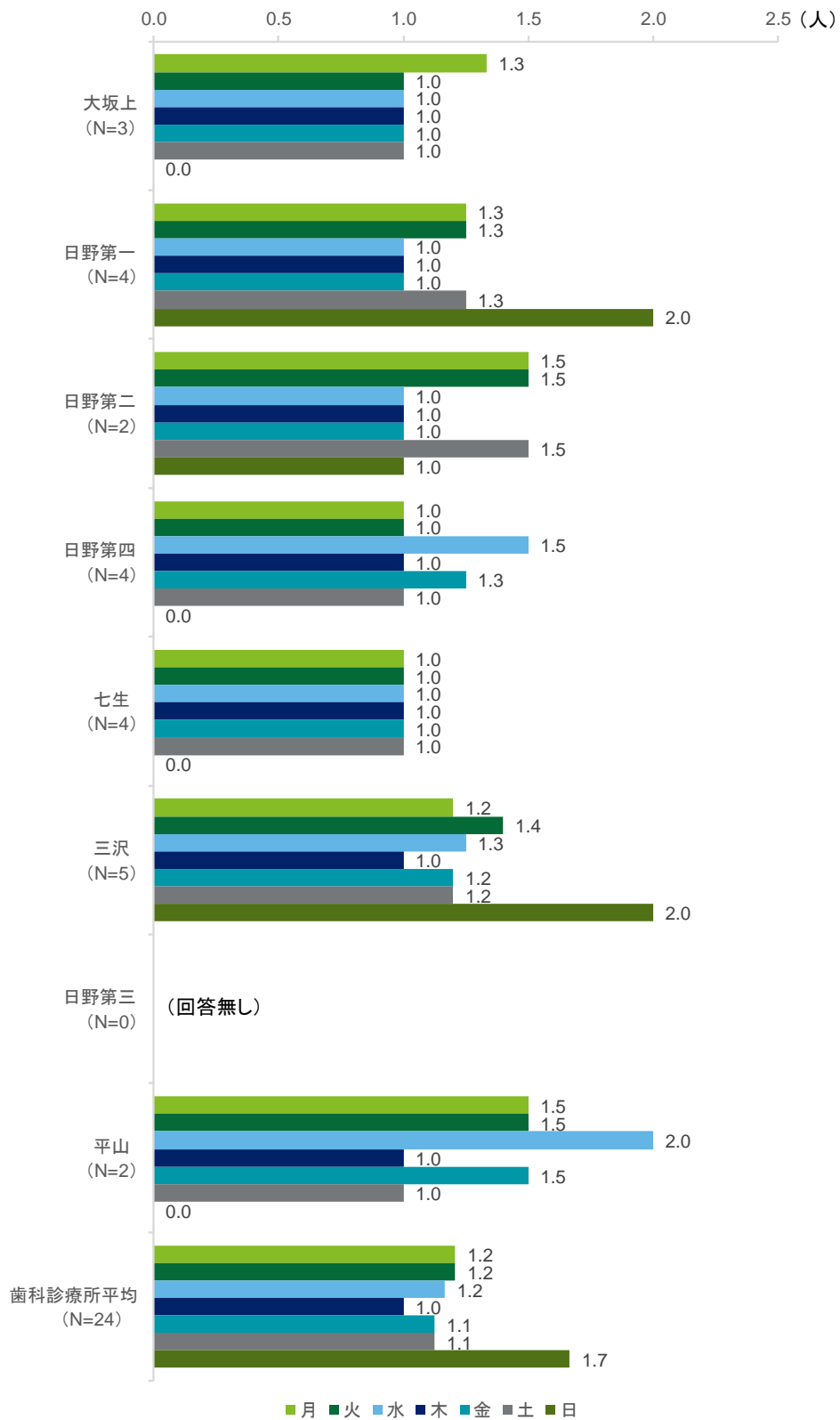
- 診療所では、市全体で往診に対応している医師数が最大で 11 人となり、日曜日でも 5 名の医師が対応している。
- 診療所を中学校区別に見ると日野第四以外は往診に対応する医師がいるものの、地域により対応できる曜日に限りがある。
- 七生、日野第三、平山については、木曜日、日曜日は対応しておらず、日野第一は土曜日、日曜日は対応していない。大坂上は、木曜日、土曜日、日曜日のみ対応している。
- 診療所で 24 時間対応しているのは市全体でも 4 施設のみ(土曜日、日曜日は 3 施設)で、一部対応としている診療所も 5 施設程度である。
- 歯科診療所については、訪問診療と同様に七生、三沢、日野第一で対応しているが、24 時間対応している歯科診療所はない。

図表 3-20 外来診療体制（診療所 1 施設当たりの外来対応医師数の平均）



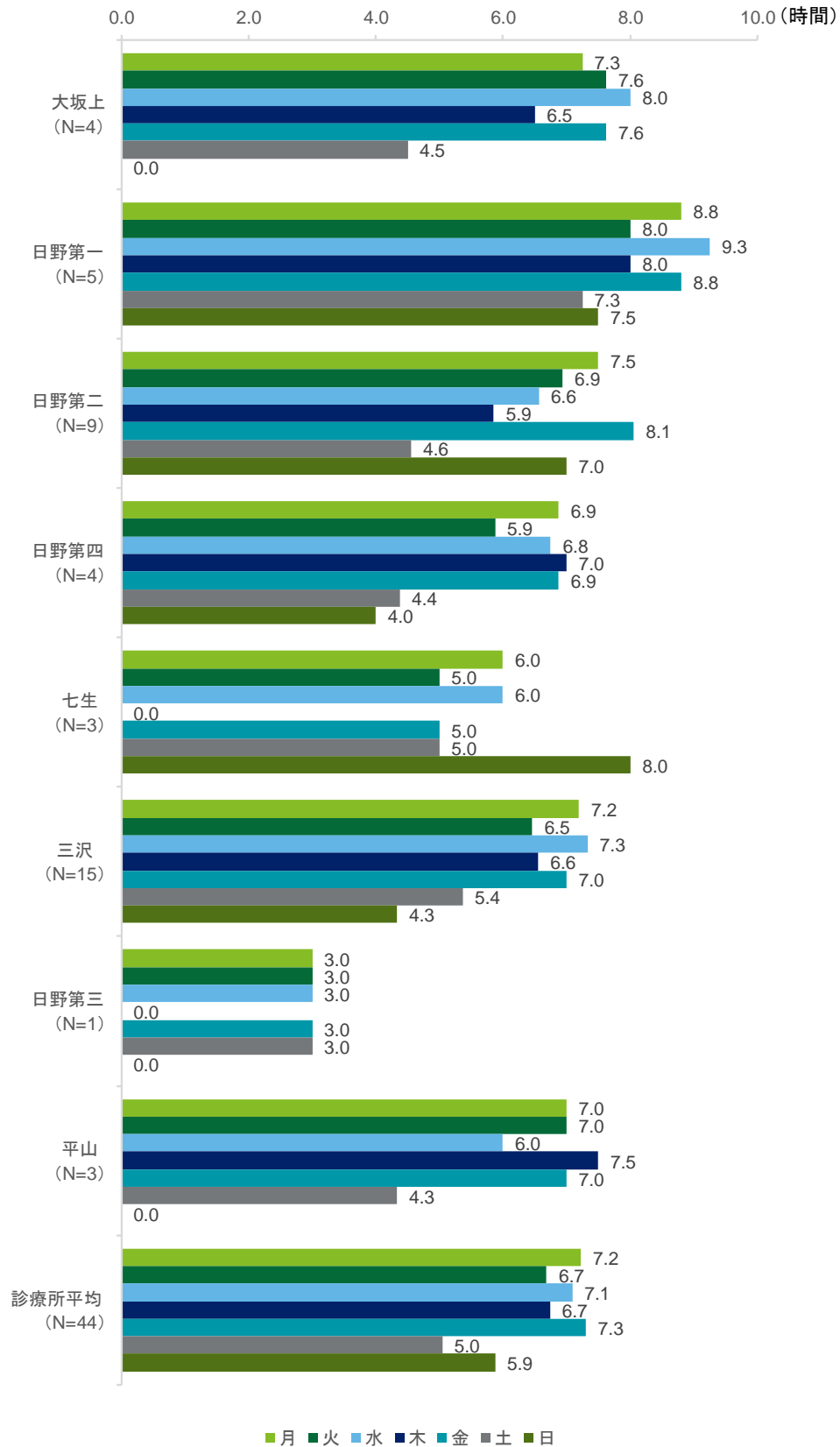
図表 3-21 外来歯科診療体制

(歯科診療所 1 施設当たりの外来対応歯科医師数の平均)

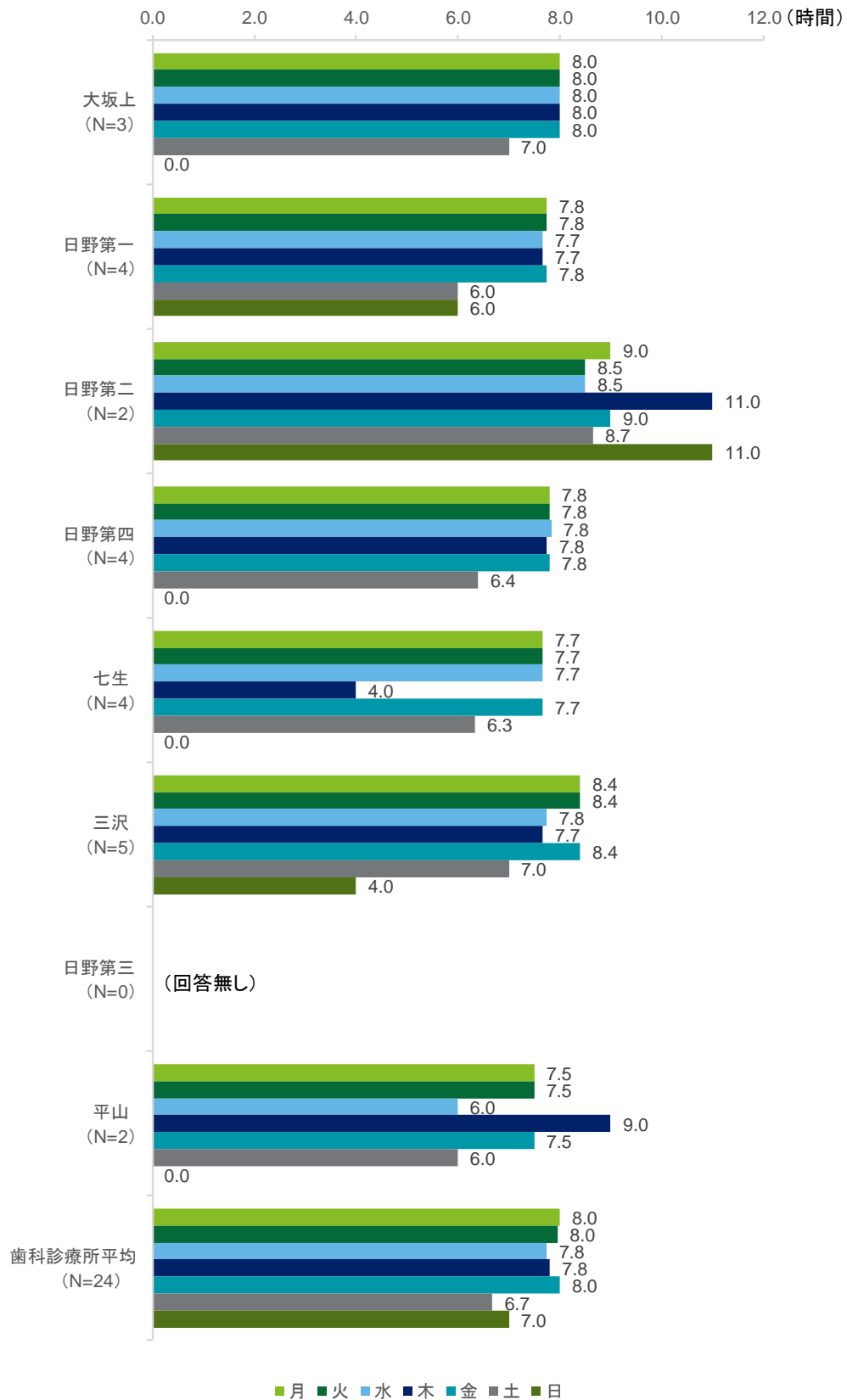




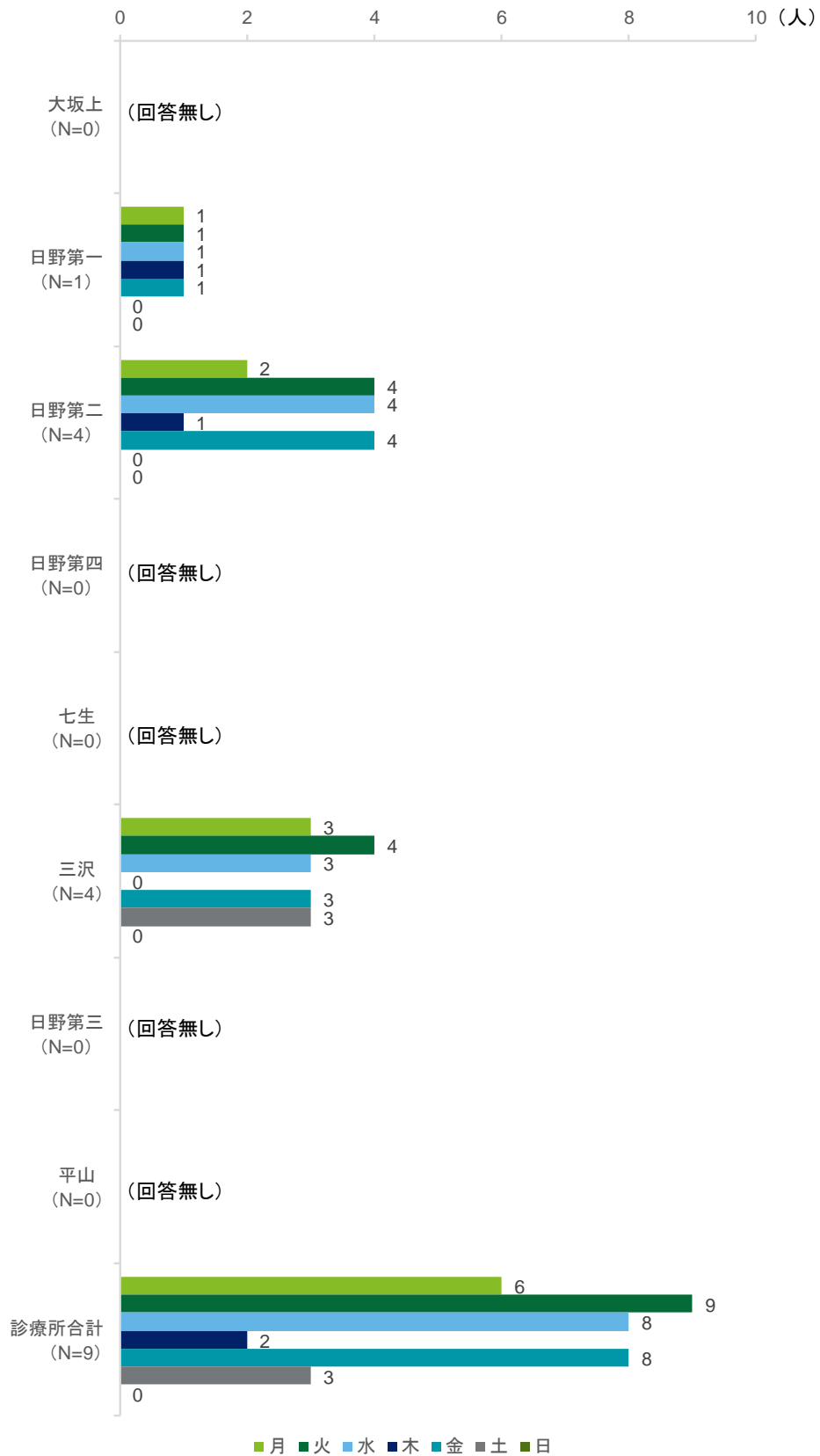
図表 3-22 外来診療時間（診療所 1 施設当たりの平均診療時間）



図表 3-23 外来診療時間（歯科診療所 1 施設当たりの平均診療時間）

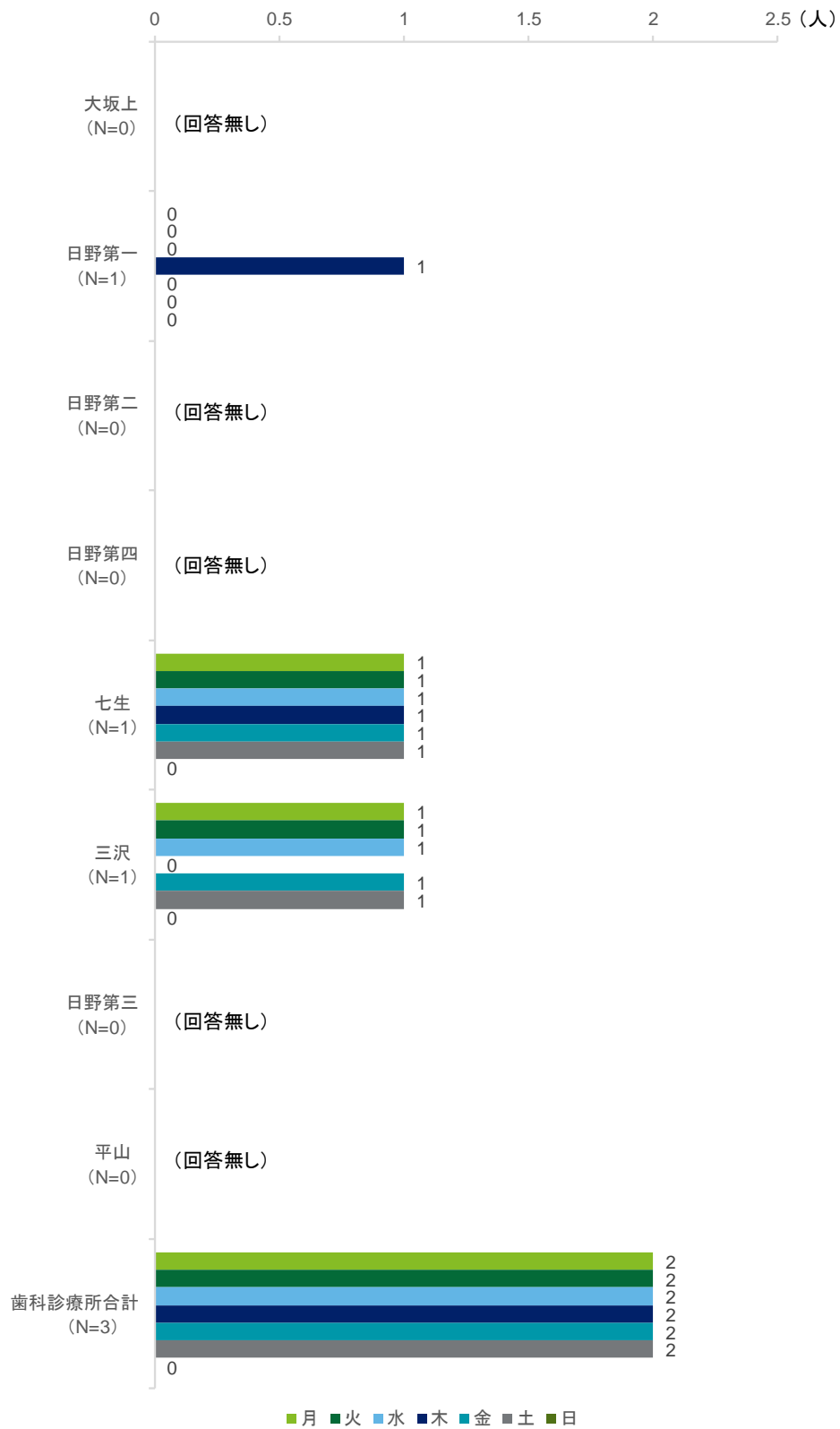


図表 3-24 訪問診療体制（診療所の訪問診療対応医師数の合計）

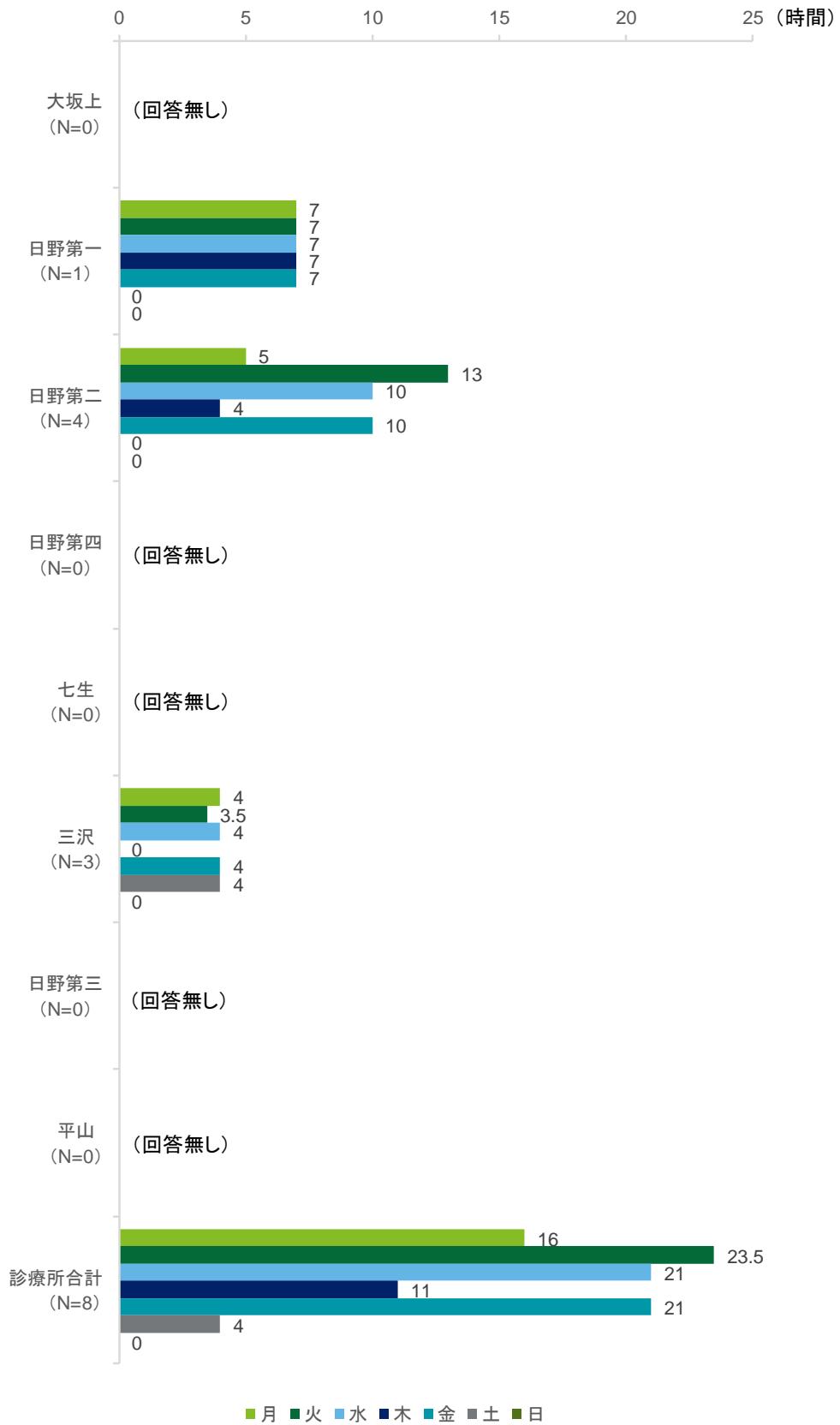


図表 3-25 訪問歯科診療体制

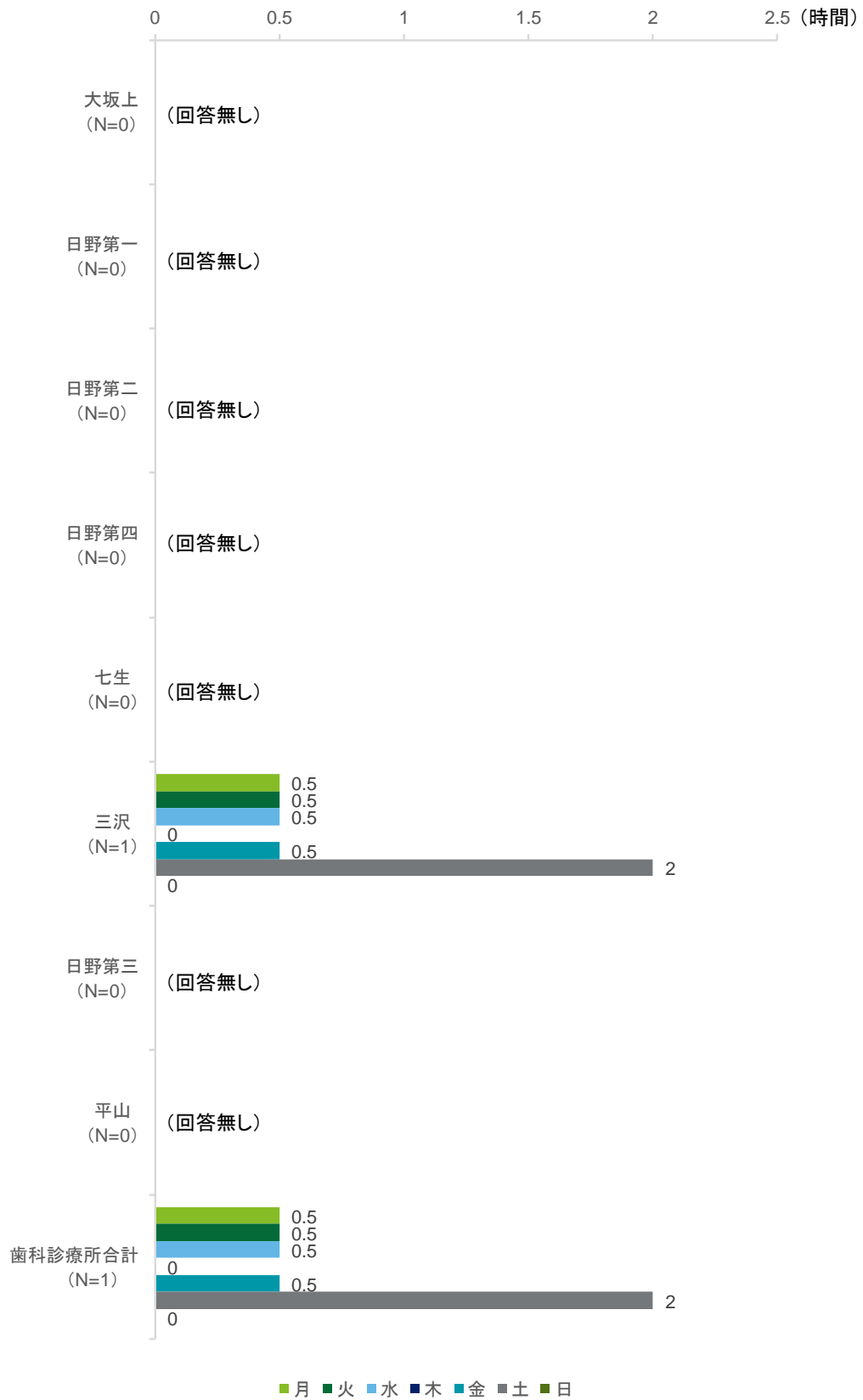
(歯科診療所の訪問歯科診療対応歯科医師数の合計)



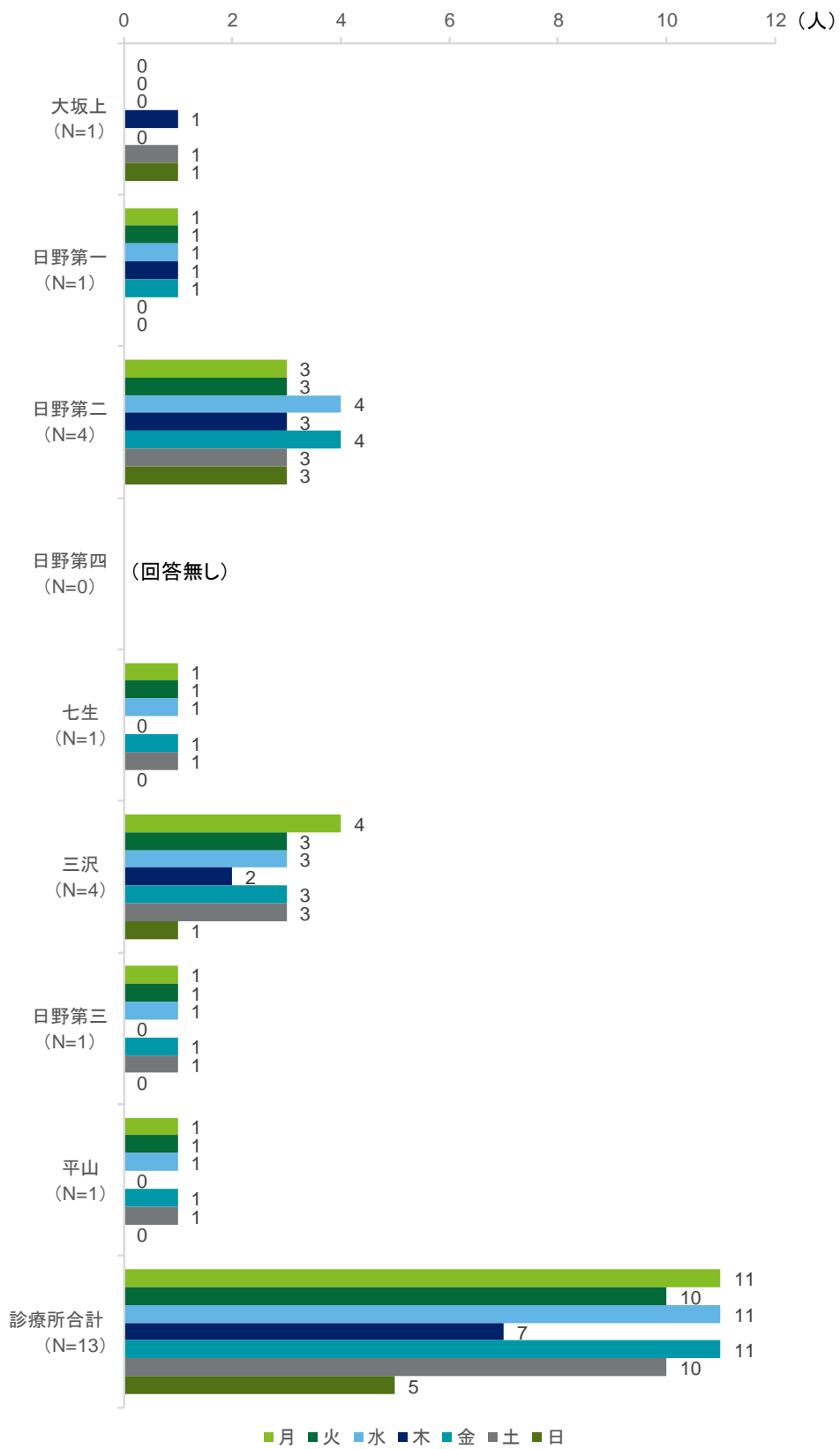
図表 3-26 訪問診療時間（診療所の訪問診療対応時間の合計）



図表 3-27 訪問歯科診療時間（歯科診療所の訪問歯科診療対応時間の合計）



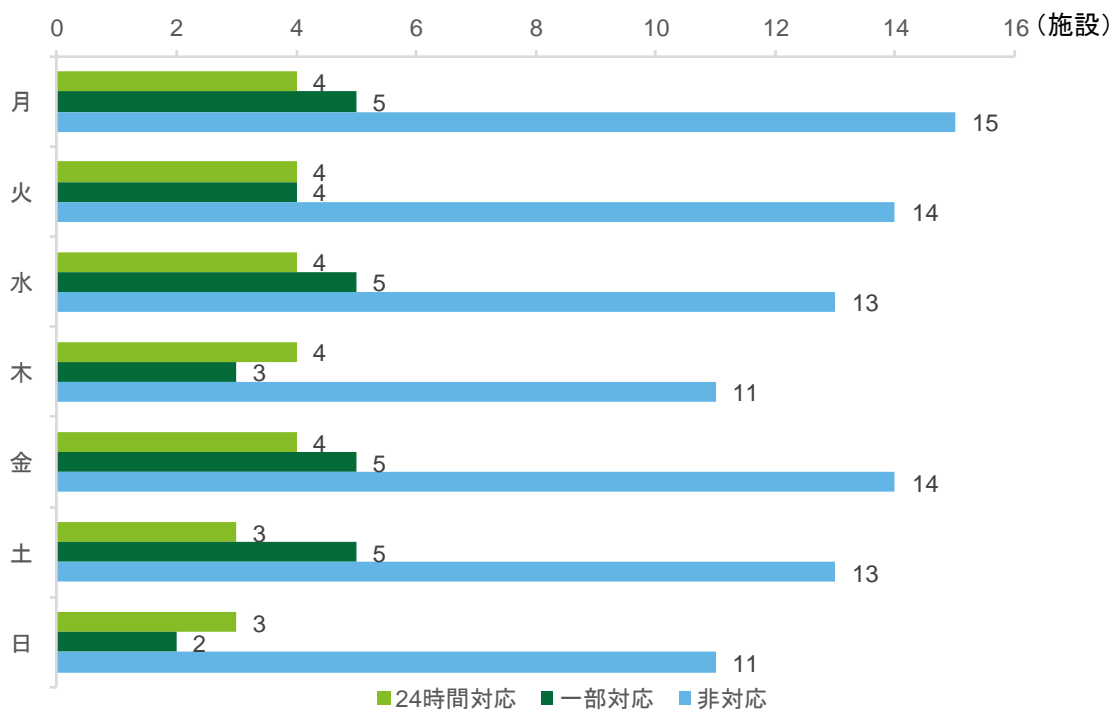
図表 3-28 往診体制（診療所の往診対応医師数の合計）



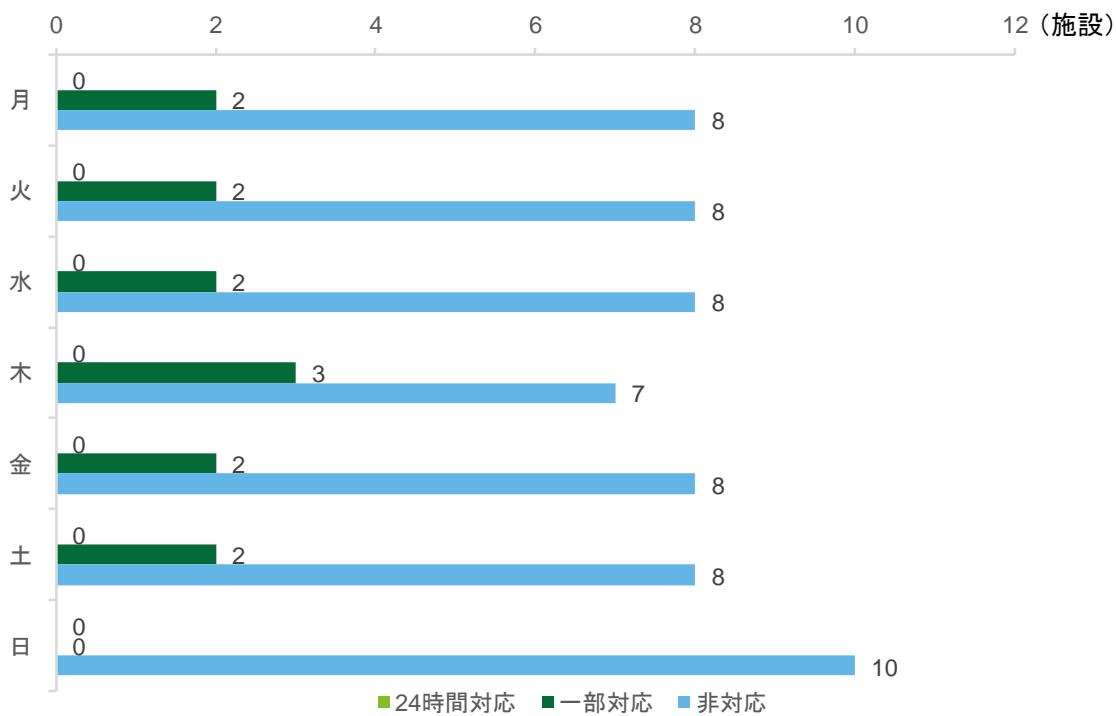




図表 3-30 往診対応状況（診療所）



図表 3-31 往診対応状況（歯科診療所）

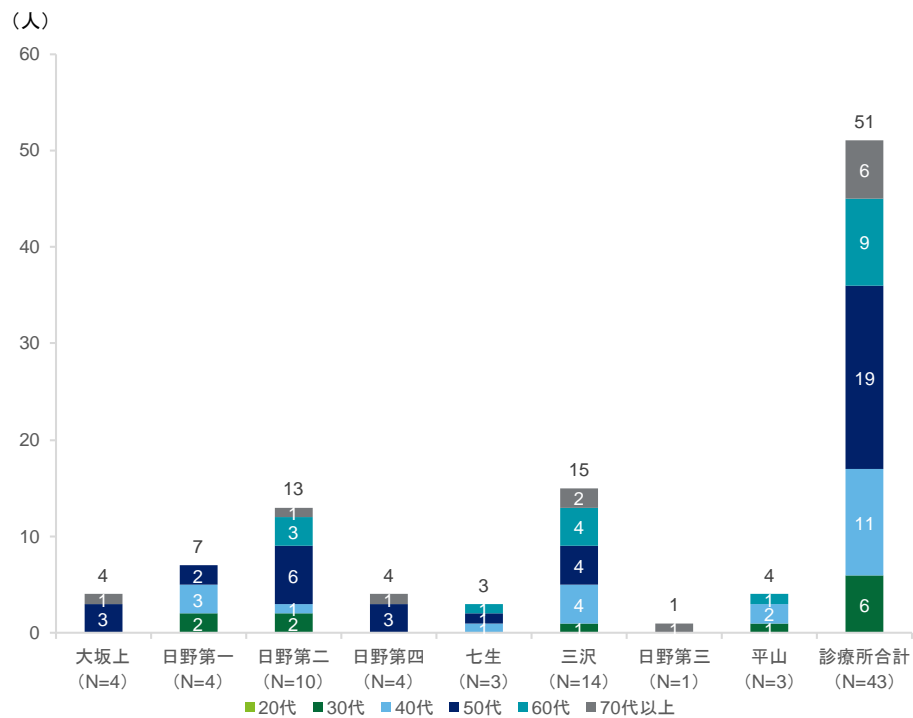


問 2 - 2 貴院の医師（歯科医師）の人数を年齢階級別に教えてください。  
 (数字を記入)

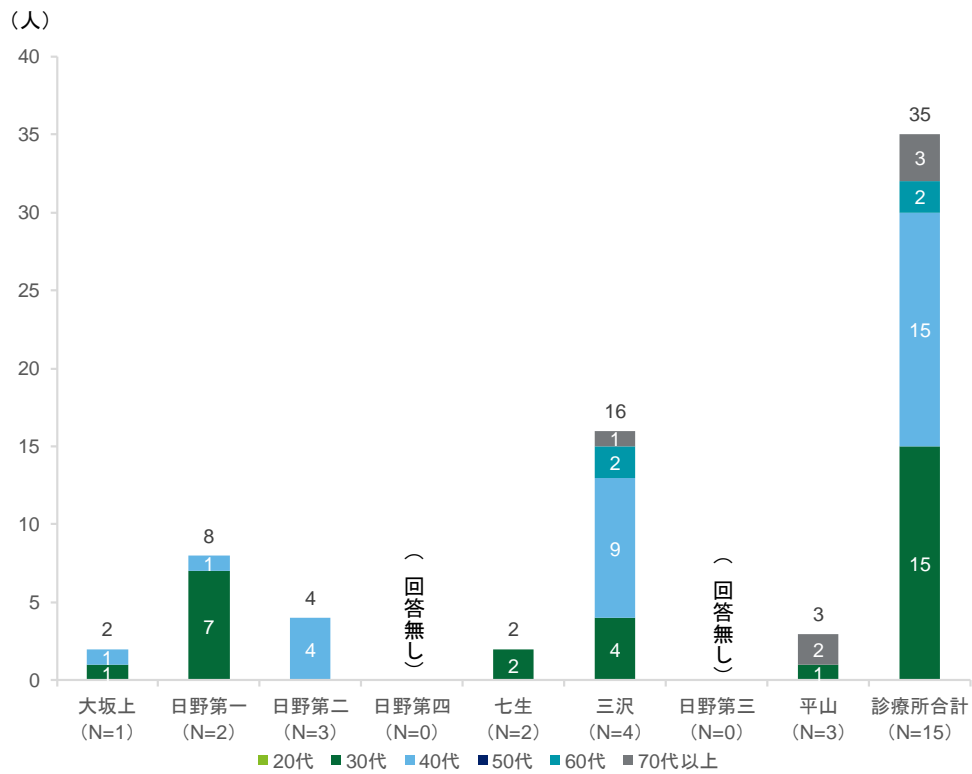
<診療所>

- 50代の医師が最も多く、次いで40代、60代が多くなっている。
- 大坂上や日野第四は、50代以上の回答しかない状況となっている。

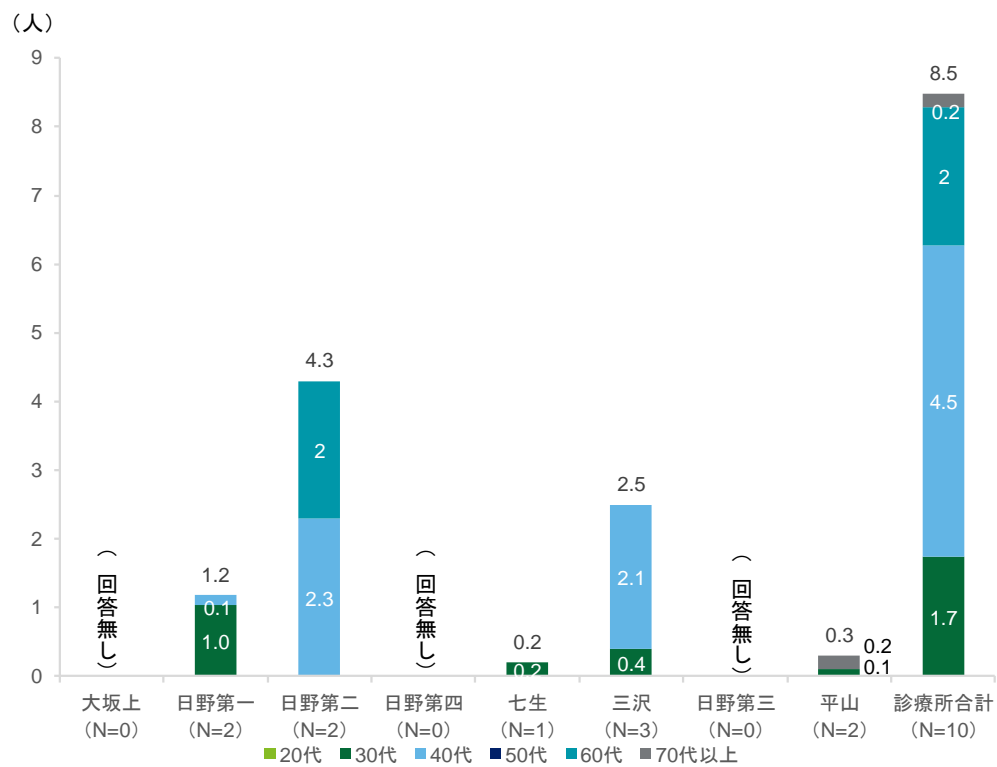
図表 3-32 常勤医師数（診療所）



図表 3-33 非常勤医師数（診療所）



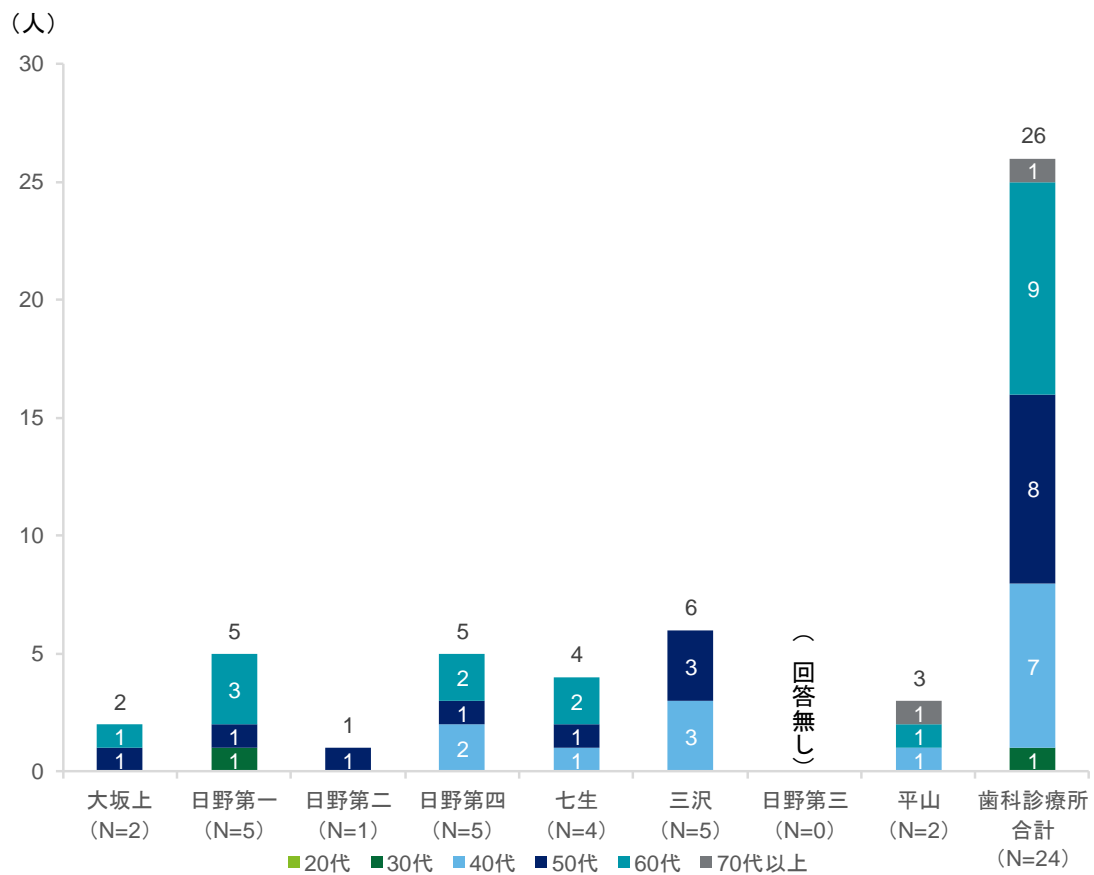
図表 3-34 非常勤医師の常勤換算人数（診療所）



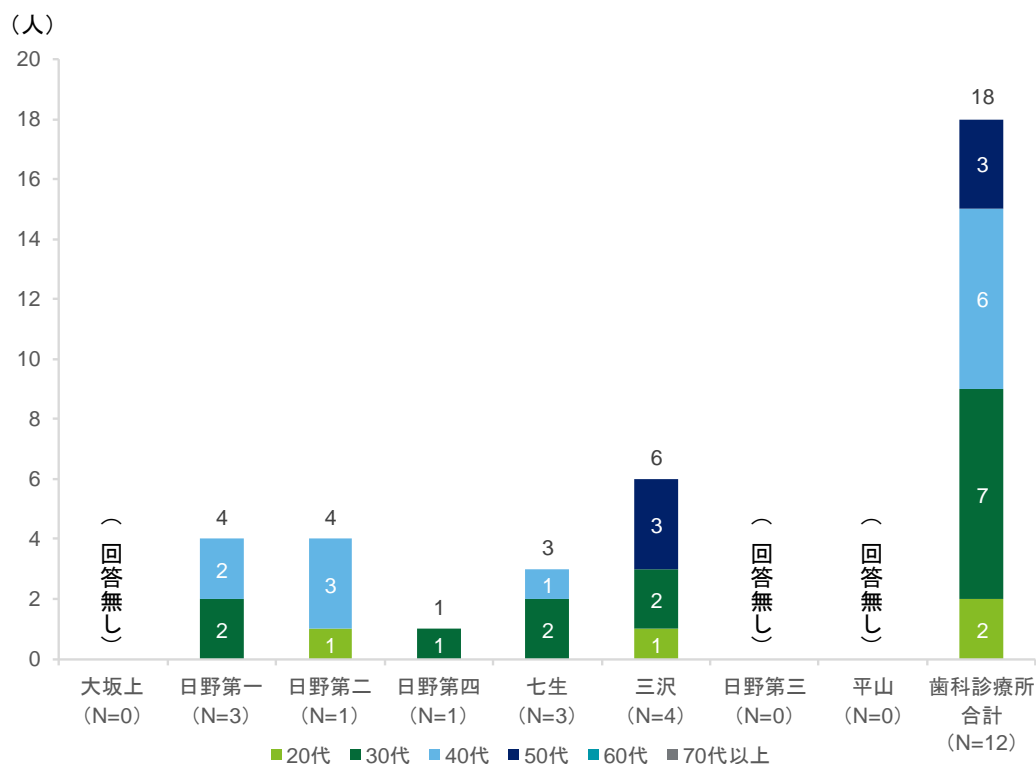
< 歯科診療所 >

- いずれの地域も 50 代以上が半数以上を占めており、若手の歯科医師が少ない状況にある。

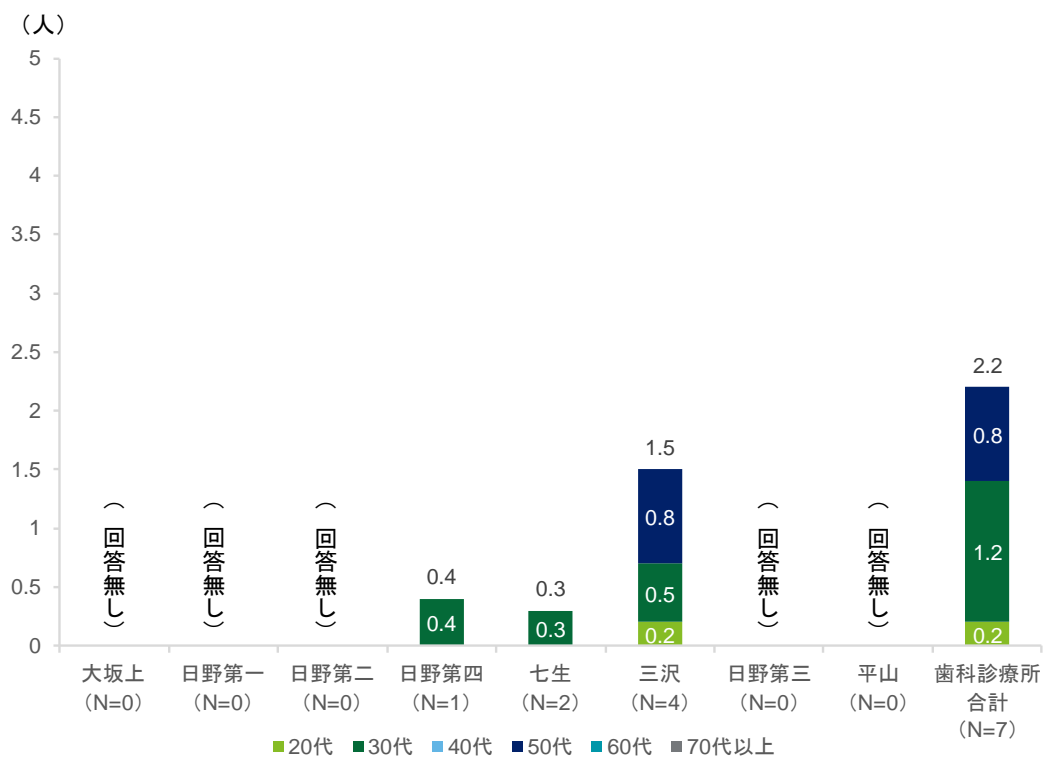
図表 3-35 常勤歯科医師数（歯科診療所）



図表 3-36 非常勤歯科医師数（歯科診療所）



図表 3-37 非常勤歯科医師の常勤換算人数（歯科診療所）

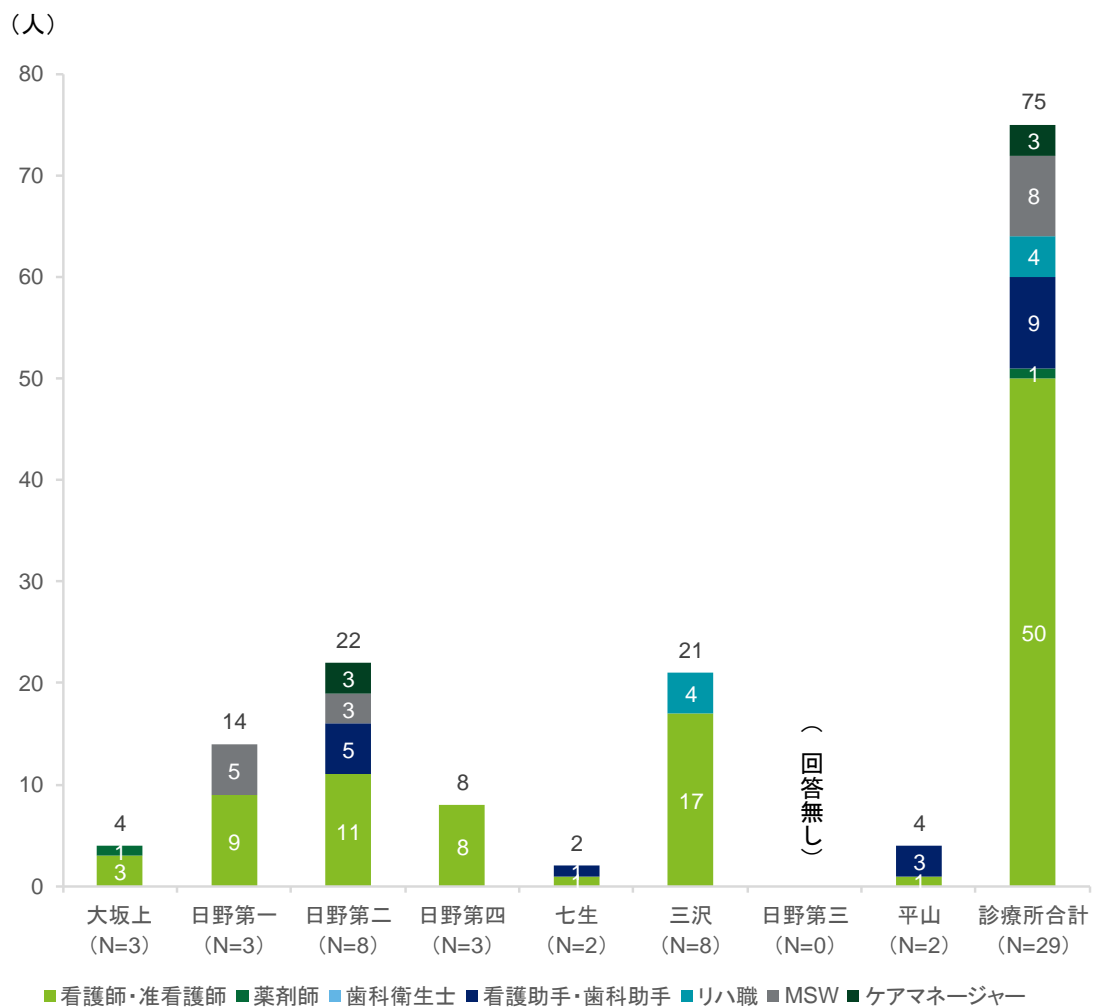


問 2 - 3 貴院の医療従事者の人数を職種別に教えてください。  
(数字を記入)

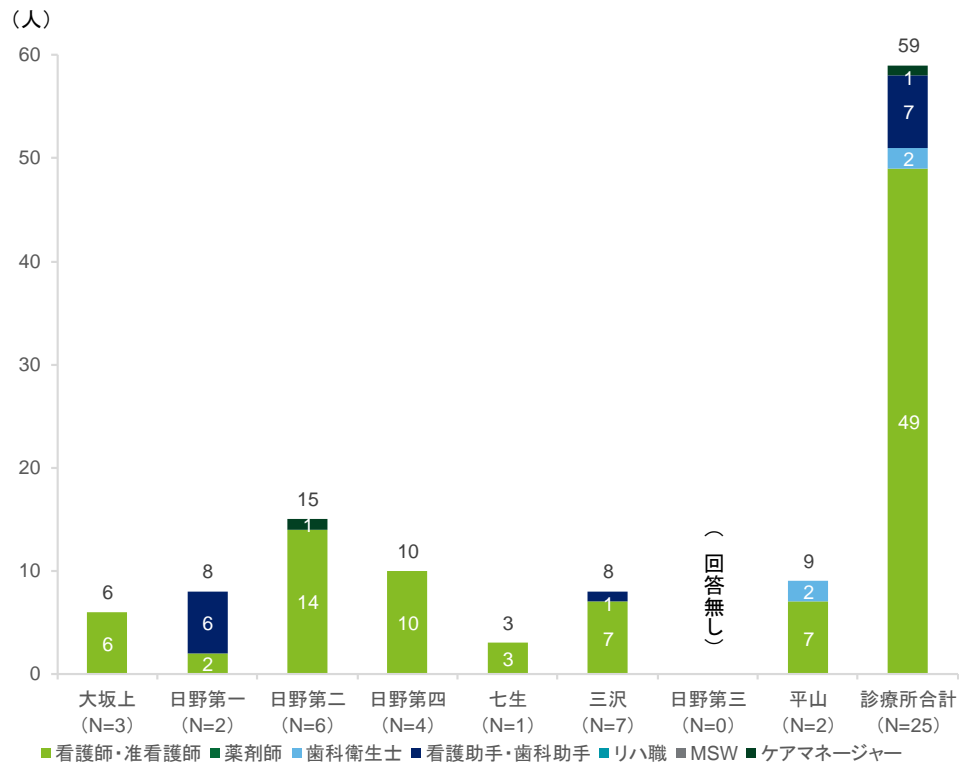
<診療所>

- 看護師・看護助手などを除く医療従事者は、地域に偏りが多く、常勤のリハ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）は三沢のみであり、医療ソーシャルワーカーについては日野第一及び日野第二のみとなっている。

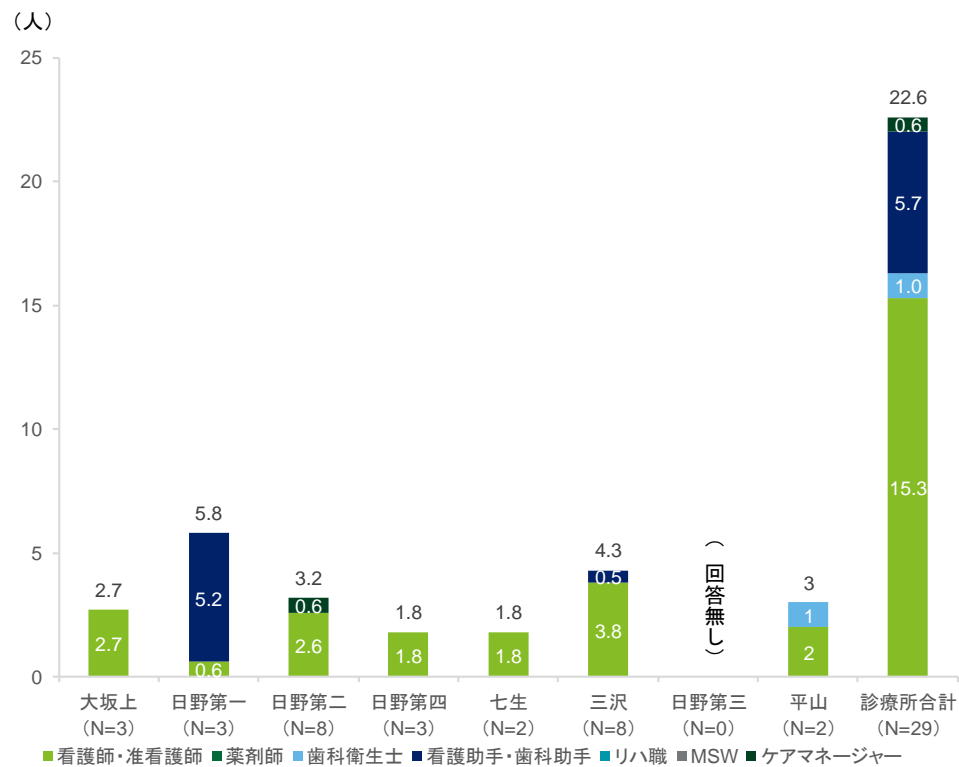
図表 3-38 常勤医療従事者数（診療所）



図表 3-39 非常勤医療従事者数（診療所）



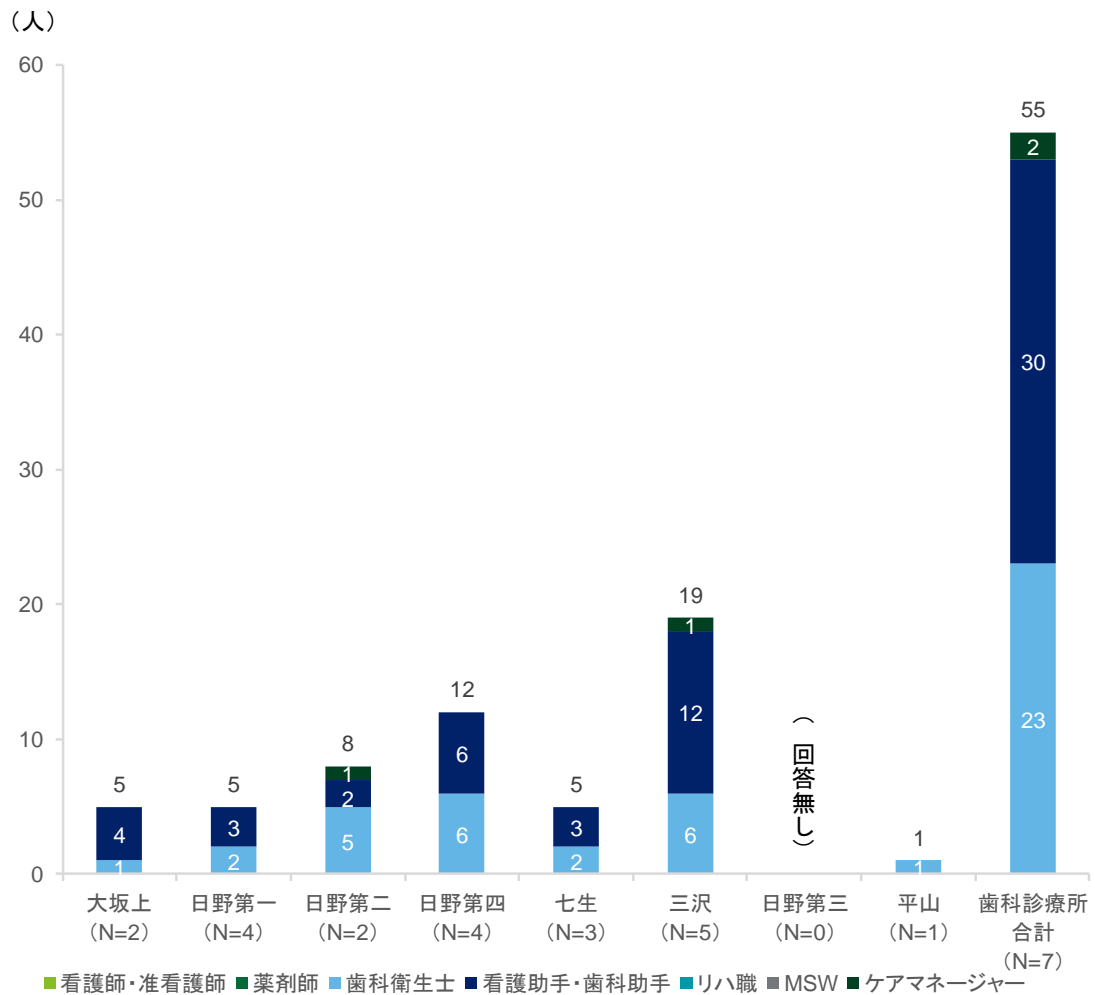
図表 3-40 非常勤医療従事者の常勤換算人数（診療所）



< 歯科診療所 >

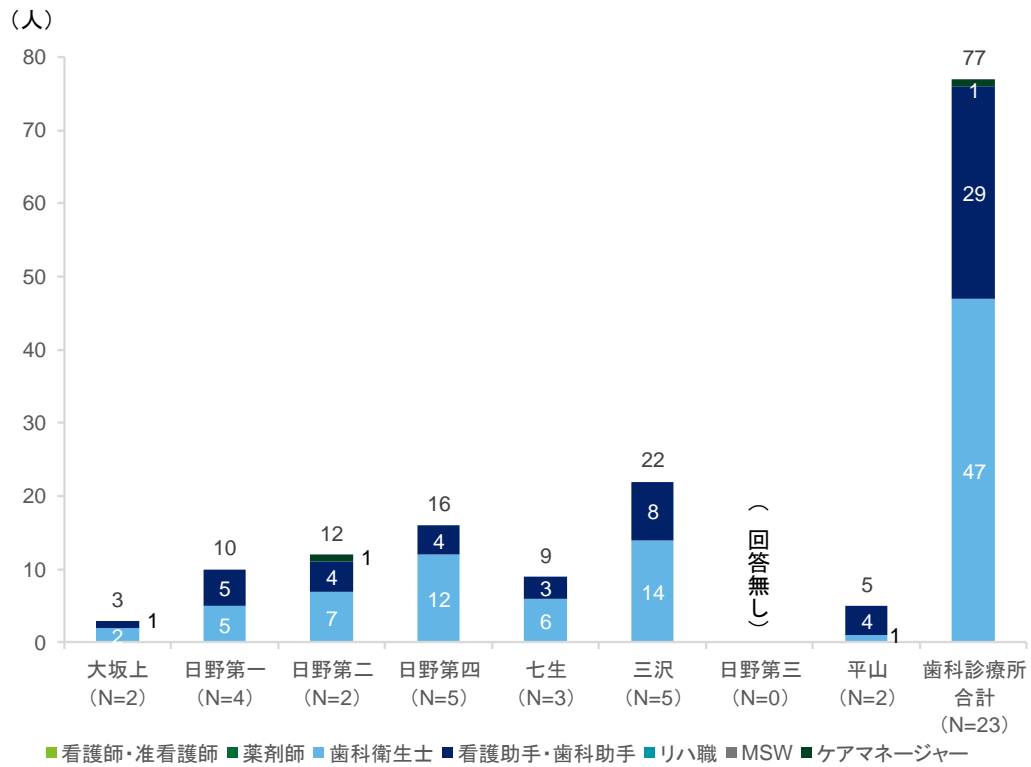
- 歯科衛生士及び歯科助手が偏りなく存在している。

図表 3-41 常勤医療従事者数（歯科診療所）

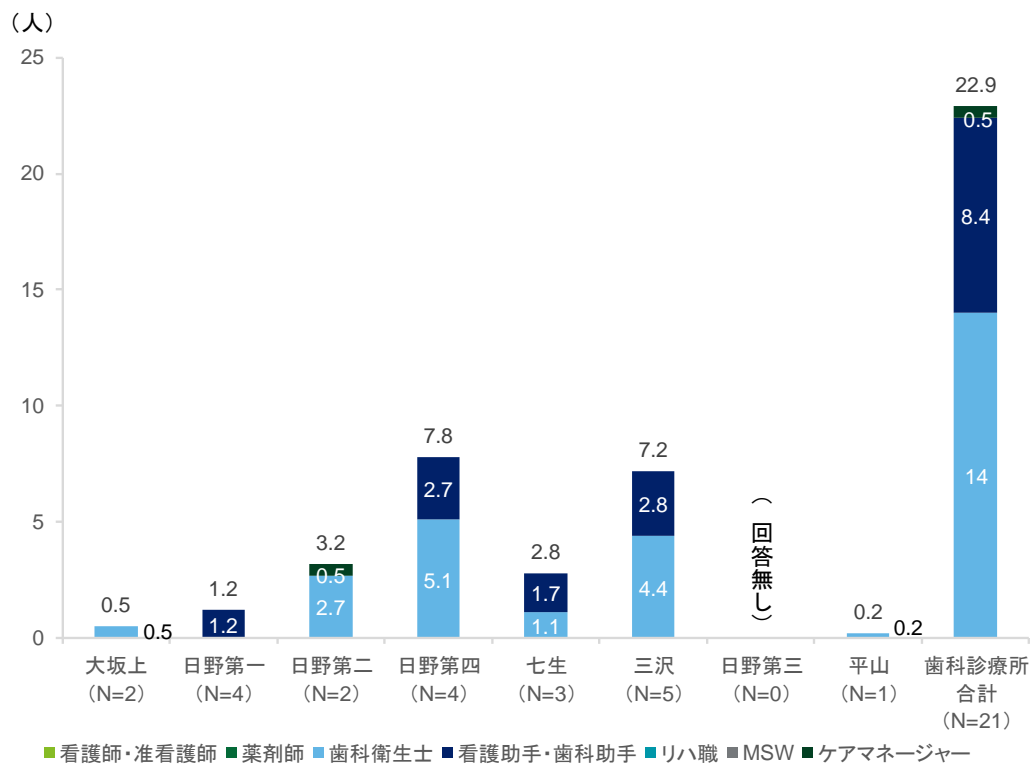




図表 3-42 非常勤医療従事者数（歯科診療所）



図表 3-43 非常勤医療従事者の常勤換算人数（歯科診療所）

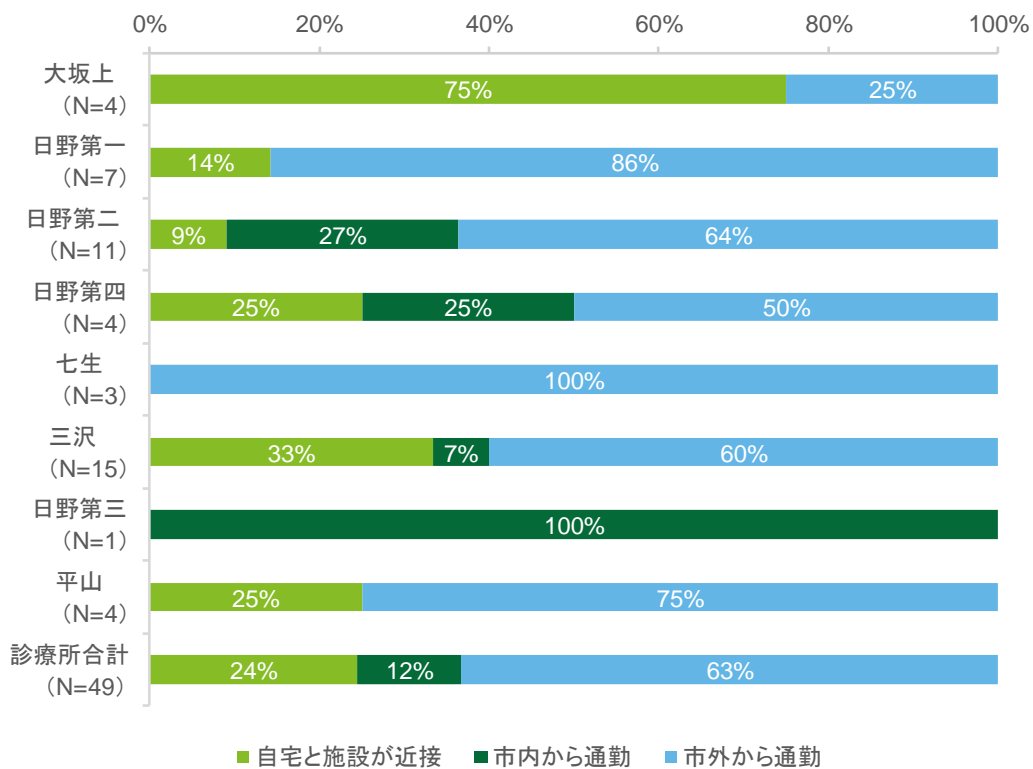


問 2 - 4 常勤医師（歯科医師）の居住地について教えてください。  
 (数字を記入)

<診療所>

- 診療所では、半数以上の医師が市外から通勤している。
- 一方で、大坂上及び日野第三では、「自宅と施設が隣接」している場合や、「市内から通勤」が多い傾向にある。

図表 3-44 常勤医師の居住地（診療所）

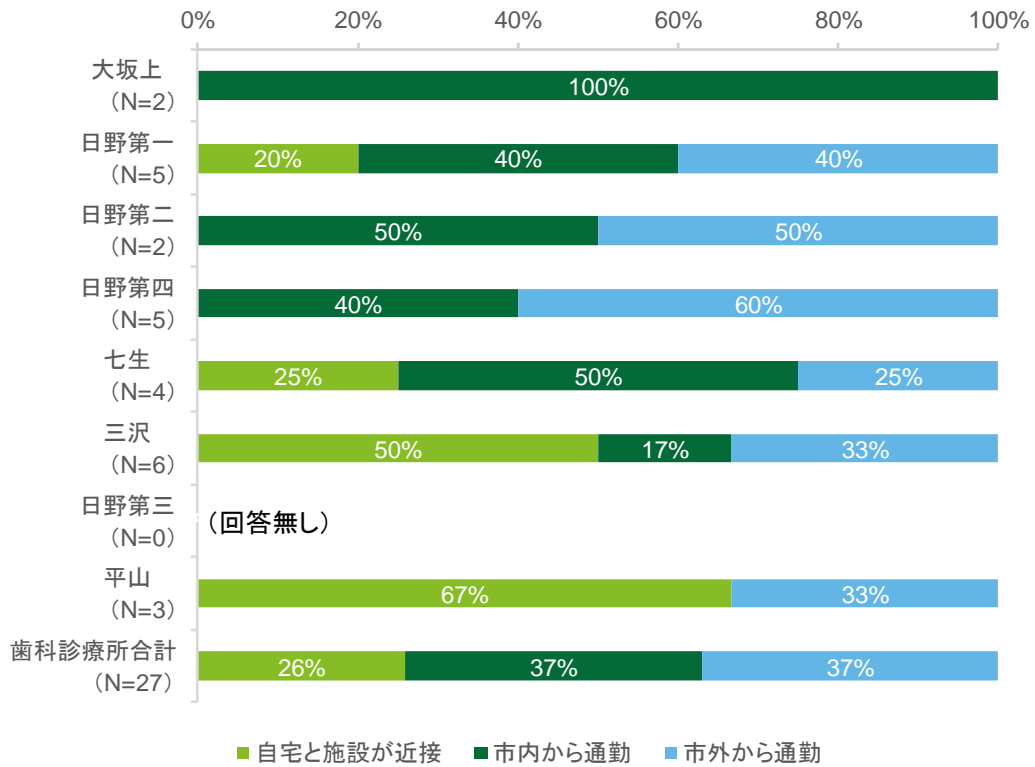


※上記表の N 数は医師数

< 歯科診療所 >

- 歯科診療所は診療所と異なり、日野第四を除けば市外からの勤務が少ない傾向にある。

図表 3-45 常勤歯科医師の居住地（歯科診療所）



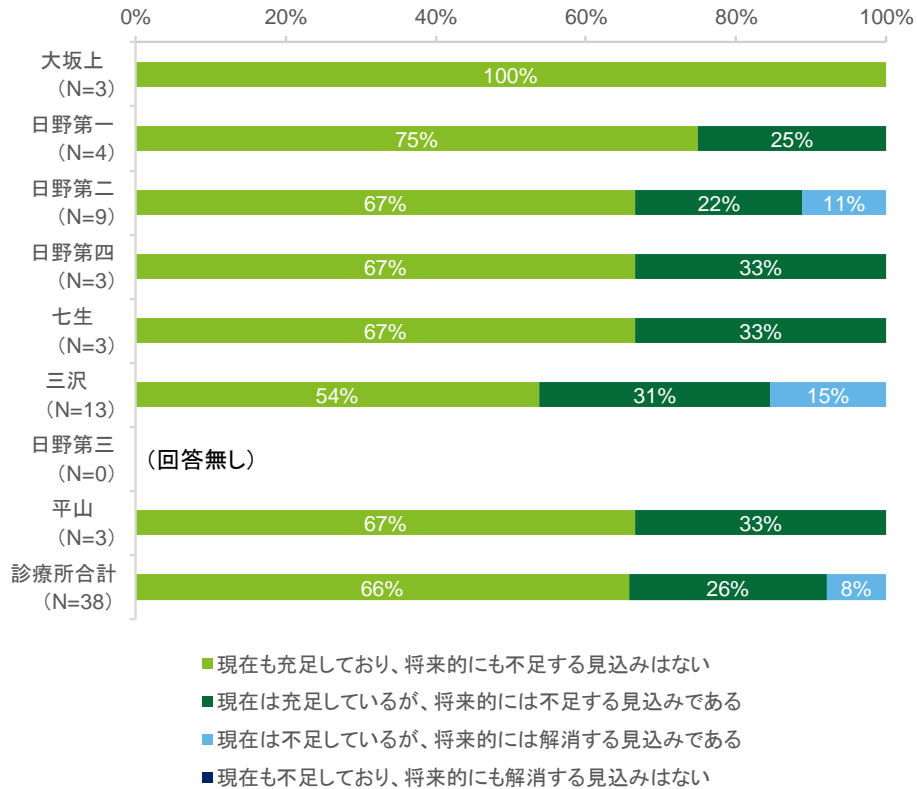
※上記表の N 数は医師数

問 2 - 5 貴院の医師（歯科医師）や医療従事者の人数について、現在及び将来の過不足状況を職種別に教えてください。（1つに○）

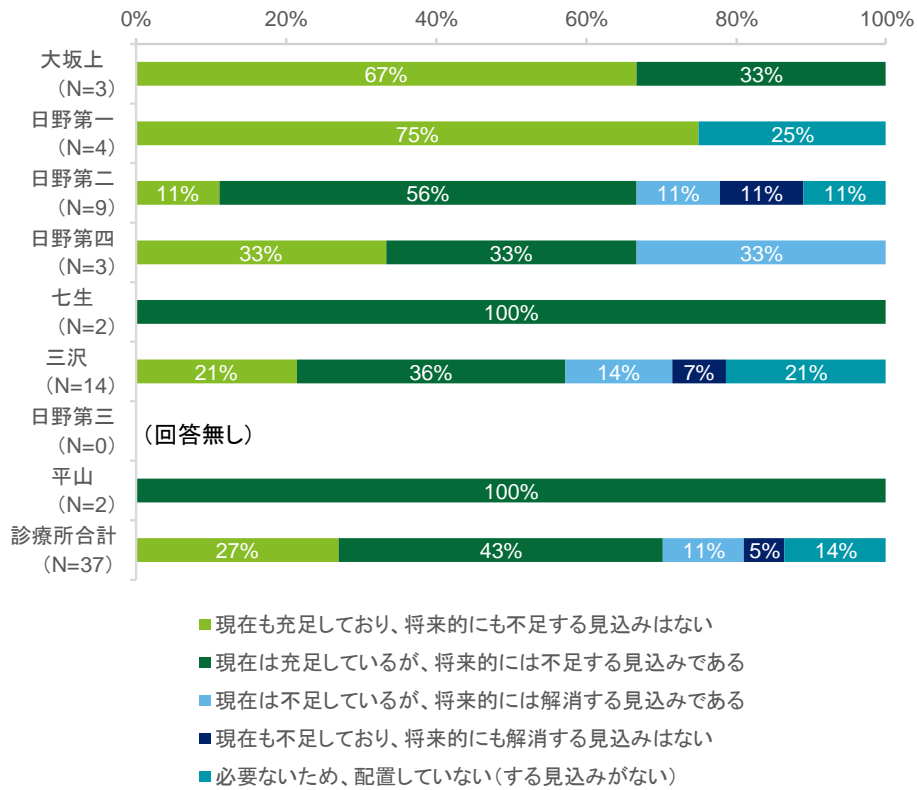
<診療所>

- 医師の過不足状況については、半数以上の医療機関は「不足する見込みはない」と回答しているが、一方で4分の1程度は将来的に不足すると回答しており、大坂上を除き、地域による偏りはほとんどみられない。
- 看護師・准看護師・助産師は、現在は充足しているとの回答が多いものの、日野第一を除き、将来的には不足を想定する施設が一定割合存在している。
- 看護助手は7割程度が必要ないため配置していないとの回答であるが、一部の診療所では現在又は将来的に不足することを懸念している回答が見られた。
- その他の医療従事者については、必要ないため配置していないという回答が8割以上となっており、また他の回答であっても充足しているという回答が多い。

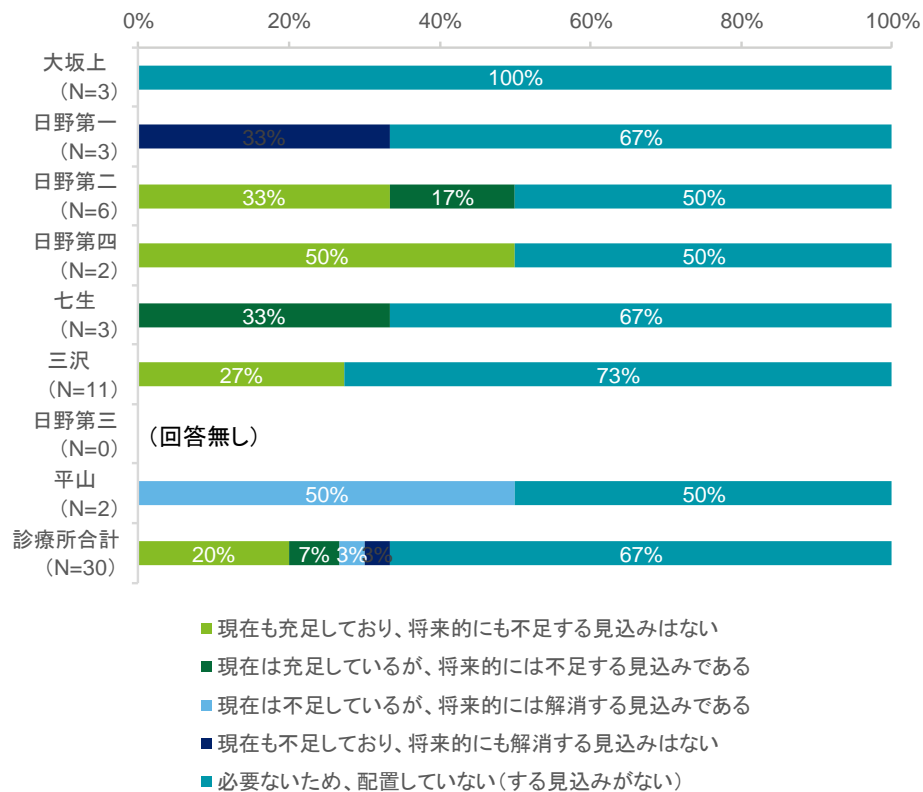
図表 3-46 医師の過不足状況（診療所）



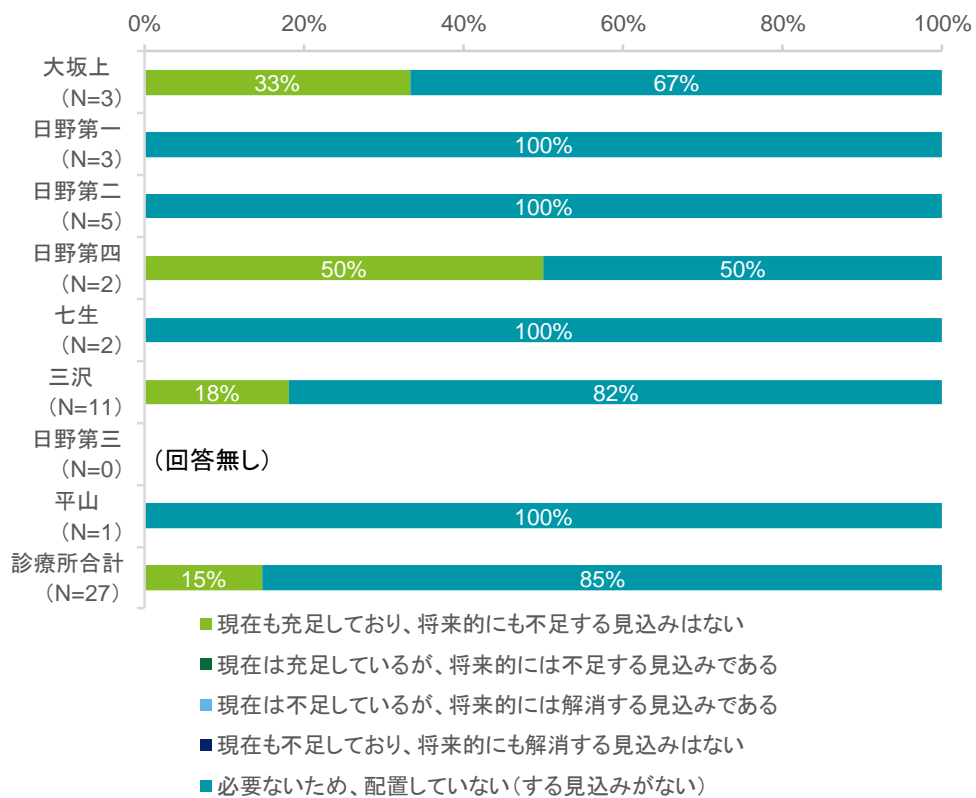
図表 3-47 看護師・准看護師・助産師の過不足状況（診療所）



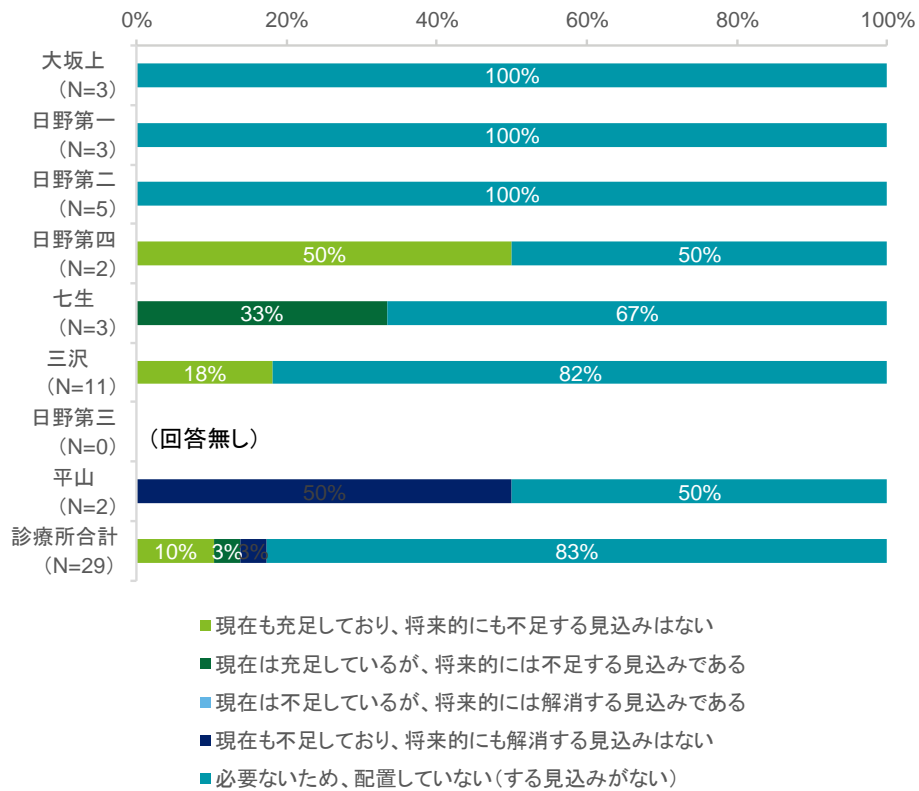
図表 3-48 看護助手の過不足状況（診療所）



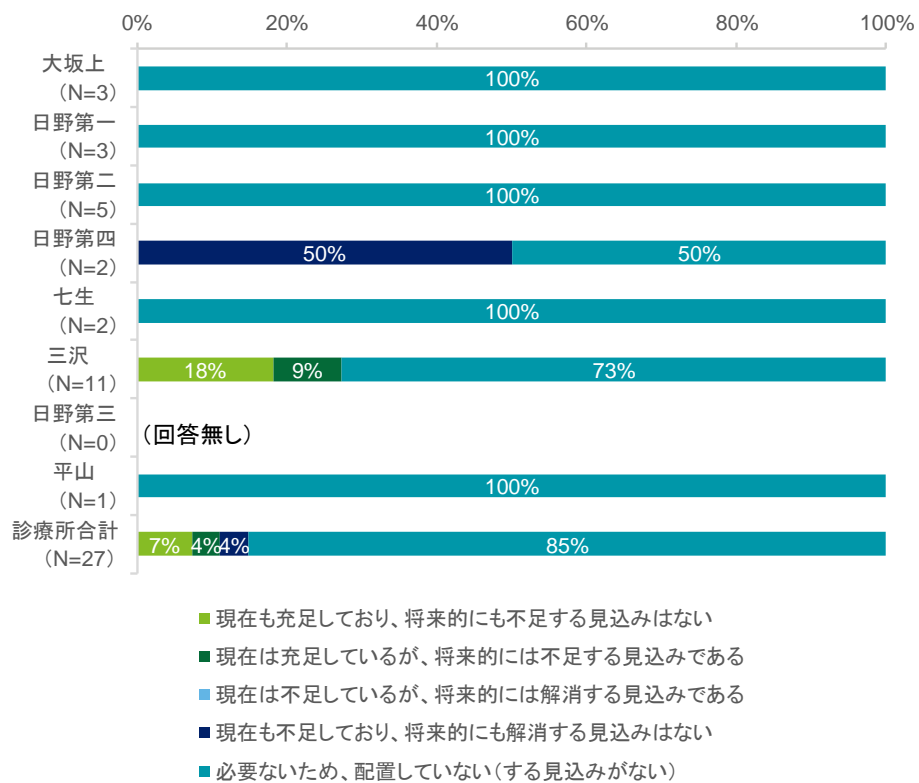
図表 3-49 薬剤師の過不足状況（診療所）



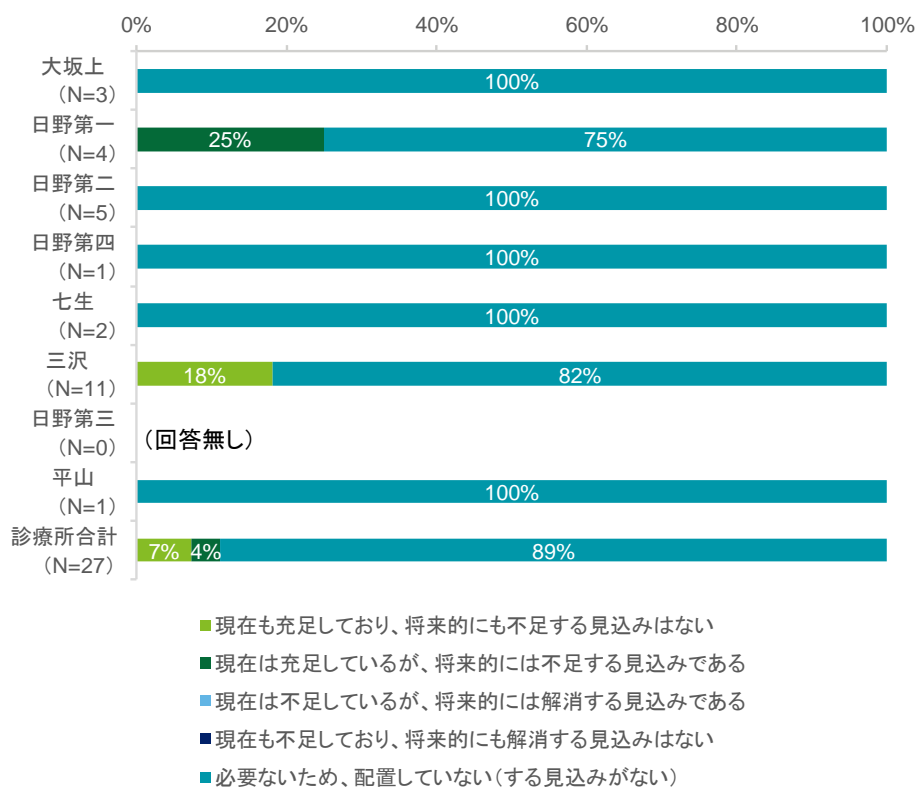
図表 3-50 歯科衛生士の過不足状況（診療所）



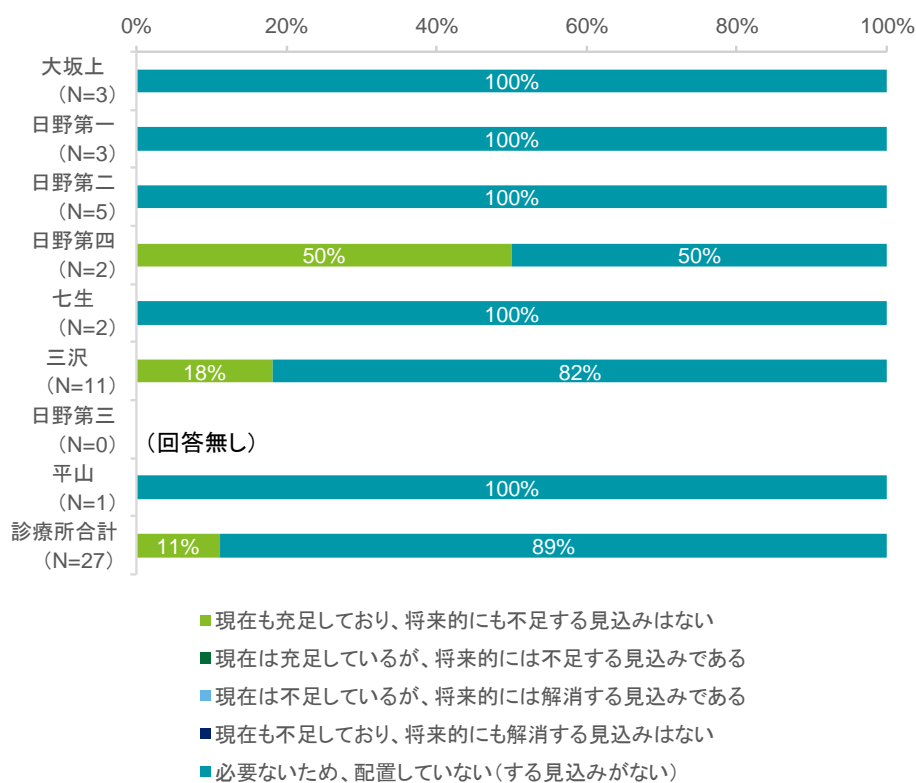
図表 3-51 リハ職の過不足状況（診療所）



図表 3-52 医療ソーシャルワーカーの過不足状況（診療所）

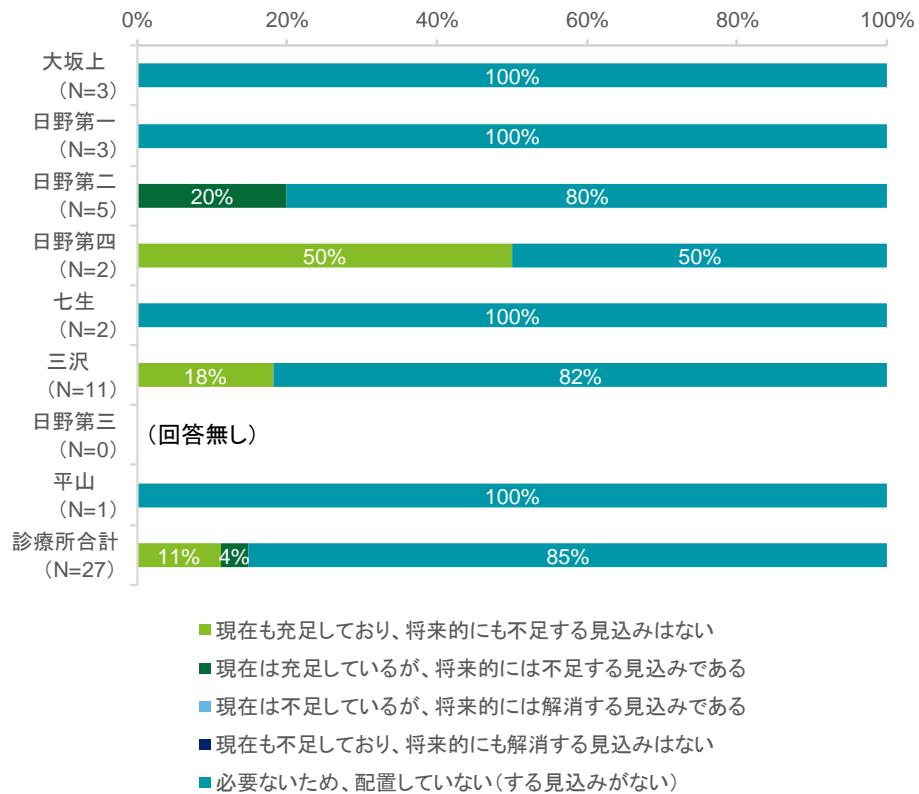


図表 3-53 介護職の過不足状況（診療所）





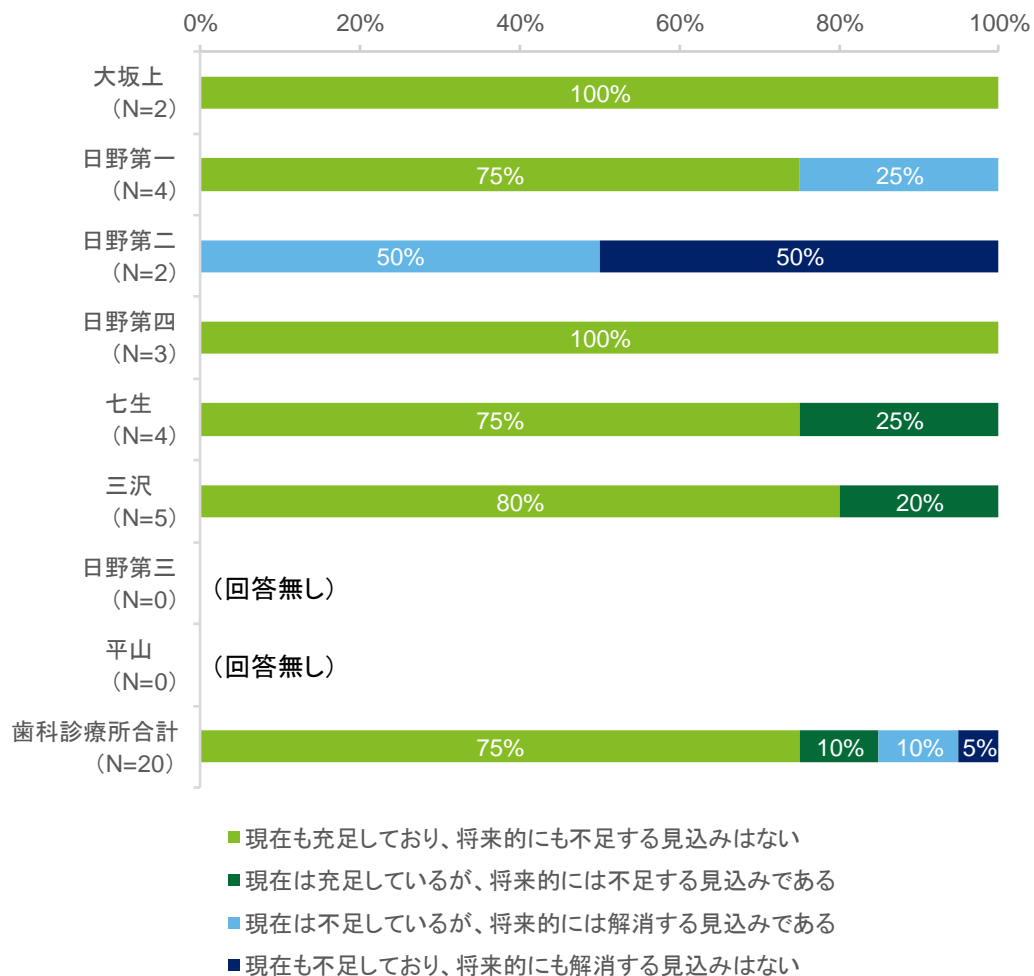
図表 3-54 ケアマネジャーの過不足状況（診療所）



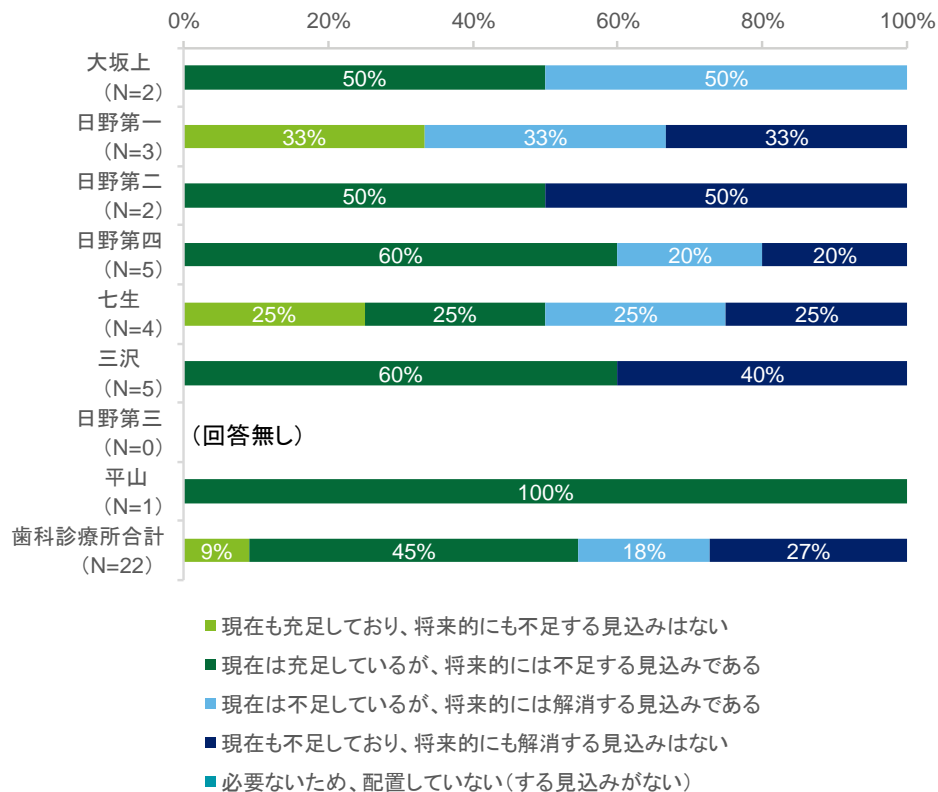
< 歯科診療所 >

- 歯科医師について、現時点で不足しているとの回答が多いのは、日野第二のみであり、将来的に不足するとの回答が見られるのも七生及び三沢のみとなっている。
- 歯科衛生士について、将来的に不足するという回答が半数近くを占めており、また現在不足していると感じている回答も半数近くあり、慢性的に不足していると想定される。
- 歯科助手について、現在は充足しているとの回答が7割を占めているが、将来的に不足するとの回答も3割程度ある。
- ケアマネジャーについて、現在充足しており将来的にも不足する見込みはないという回答か、必要ないため配置していないという回答のみとなっている。
- その他の医療従事者については、必要ないため配置していないという回答のみとなっている。

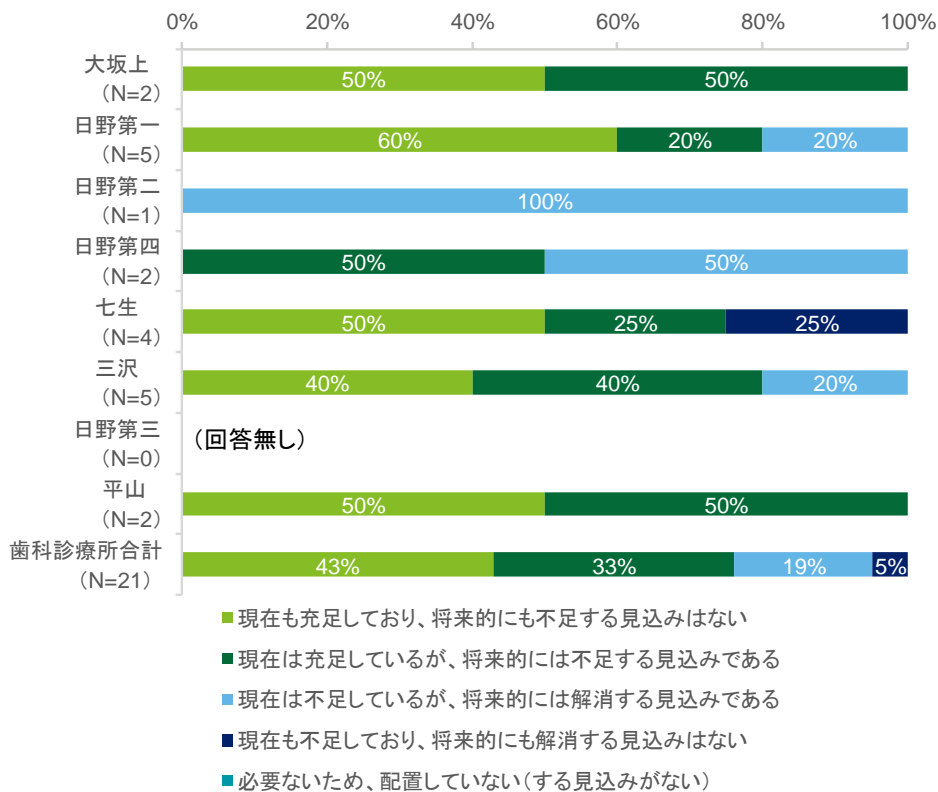
図表 3-55 歯科医師の過不足状況（歯科診療所）



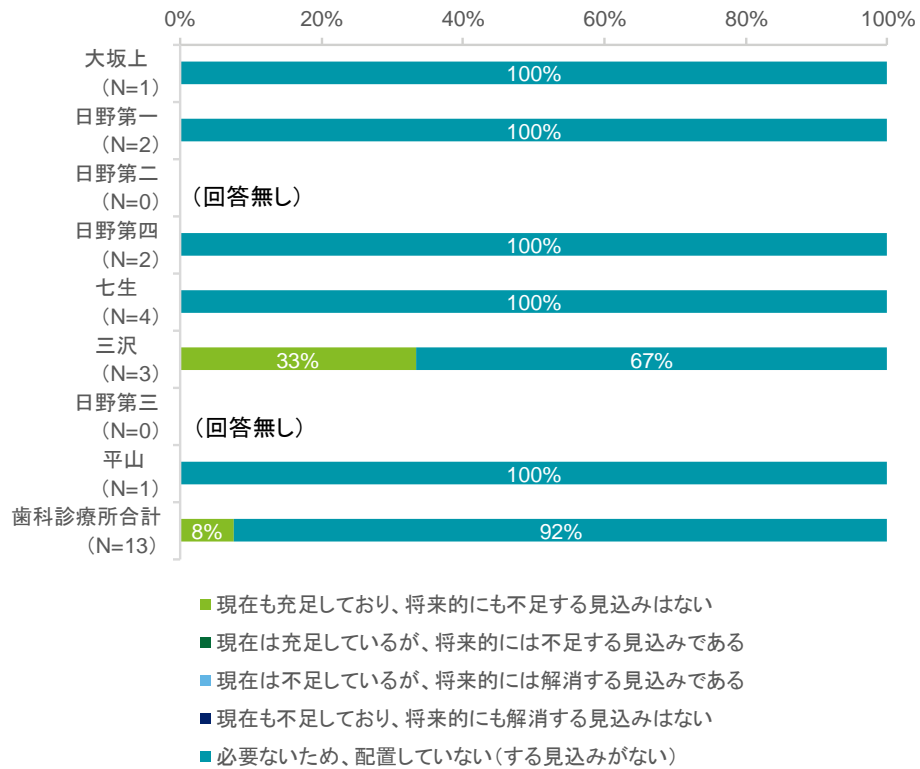
図表 3-56 歯科衛生士の過不足状況（歯科診療所）



図表 3-57 歯科助手の過不足状況（歯科診療所）



図表 3-58 ケアマネジャーの過不足状況（歯科診療所）



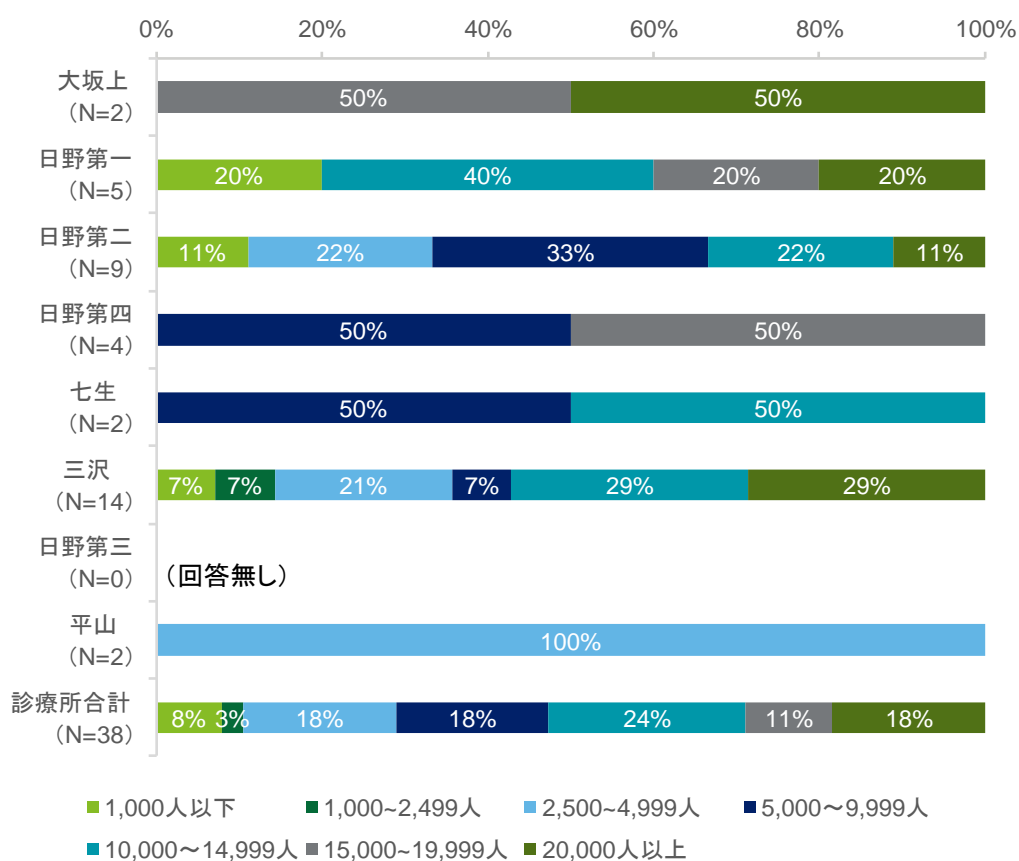
### 3.4 患者数等の状況について

問3-1 貴院の直近1年間の外来患者の総数を教えてください。  
(数字を記入)

<診療所>

- 1万人以上を診ている診療所が半数を占めているが、日野第二や三沢などは5千人未満の診療所が3割程度を占めており、小さな規模の診療所が多い地区と見受けられる。

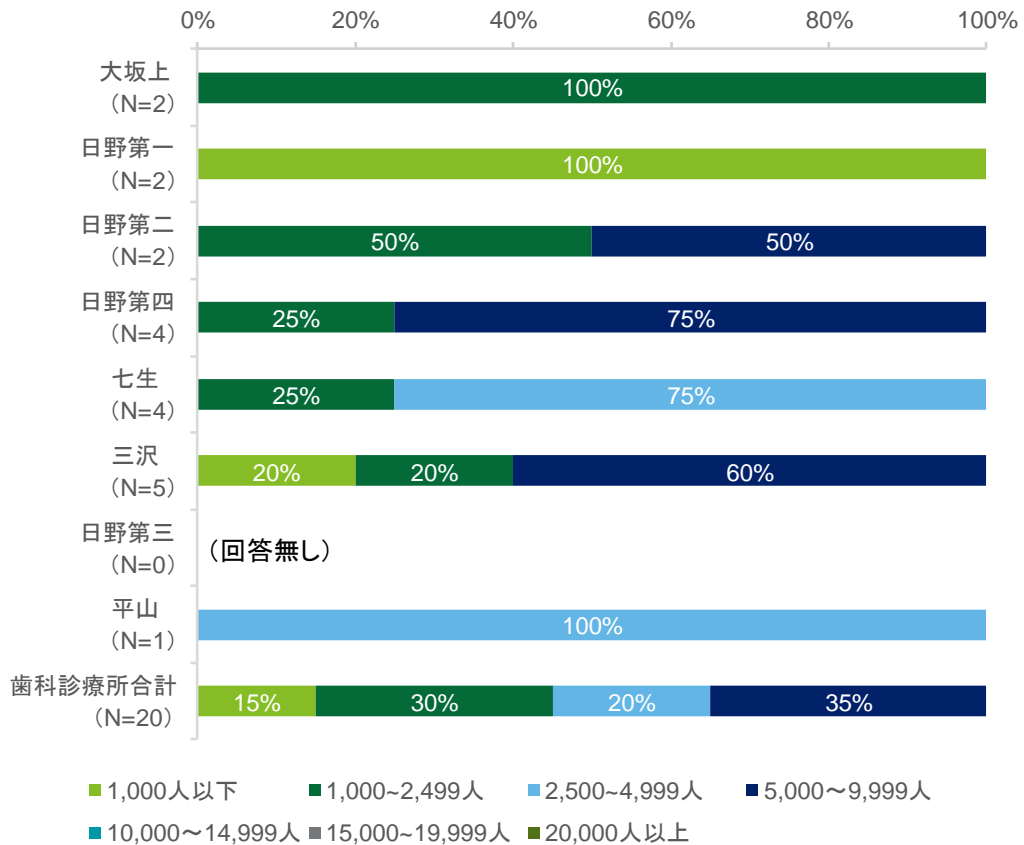
図表 3-59 直近1年間の外来患者数（診療所）



< 歯科診療所 >

- 日野第二、日野第四、三沢では 5 千人以上を診ている歯科診療所が半数以上を占めているが、大阪上、日野第一では全ての歯科診療所が 2,500 人未満であり、地域間で差が見られる。

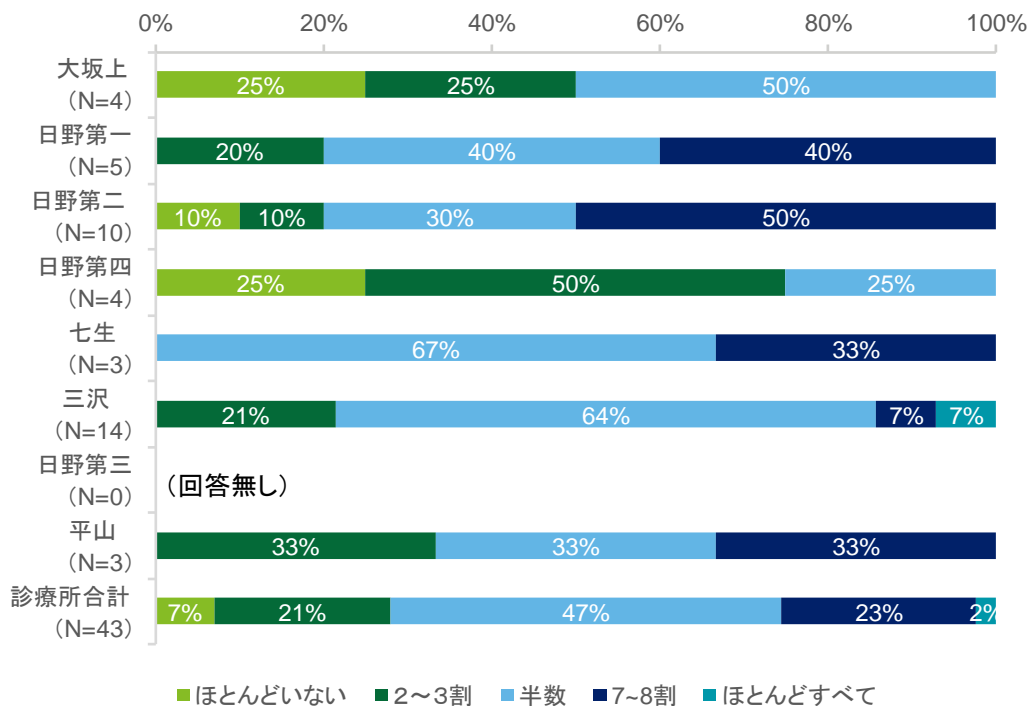
図表 3-60 直近 1 年間の外来患者数（歯科診療所）



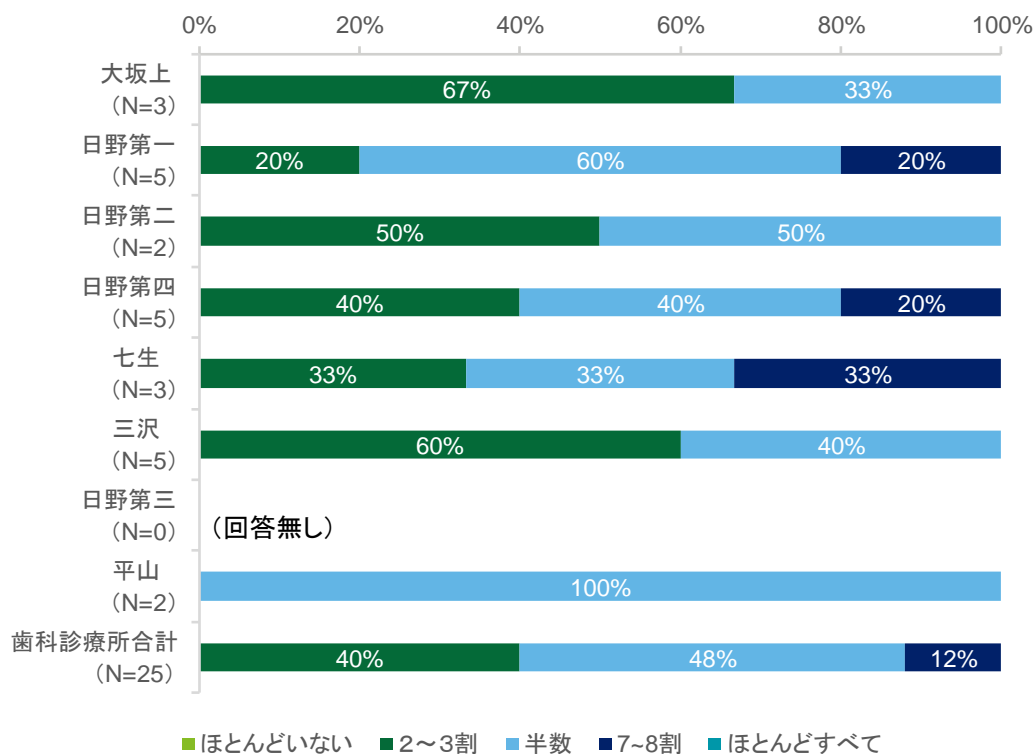
問3-2 貴院の外来患者に占める高齢者の割合を教えてください。  
(1つに○)

- 診療所について、全市的に見ると、高齢者が半数以上を占めていると回答した施設は約7割となっている。ほとんどの地域で半数以上の診療所が高齢者が半数以上を占めていると回答しているものの、地域差が大きく、最多の七生では全ての診療所、最少の日野第四では診療所の25%となっている。
- 歯科診療所について、全市的に見ると、高齢者が半数以上を占めていると回答した施設は約6割となっている。診療所ほどの地域差はないが、高齢者が半数以上を占める歯科診療所は、最多の平山で100%、最少の大坂上で33%となっている。

図表 3-61 外来患者に占める高齢者の割合（診療所）



図表 3-62 外来患者に占める高齢者の割合（歯科診療所）



問 3 - 3 貴院の直近 1 年間の入院患者の総数を教えてください。  
(数字を記入)

- 今回の調査では入院を受け入れている診療所（歯科診療所）の回答はなかった。

問 3 - 4 貴院の入院患者に占める高齢者の割合を教えてください。  
(1つに○)

- 今回の調査では入院を受け入れている診療所（歯科診療所）の回答はなかった。



問3-5 貴院での5年前と比較した患者数の動向（実績）を教えてください。（1つに○）

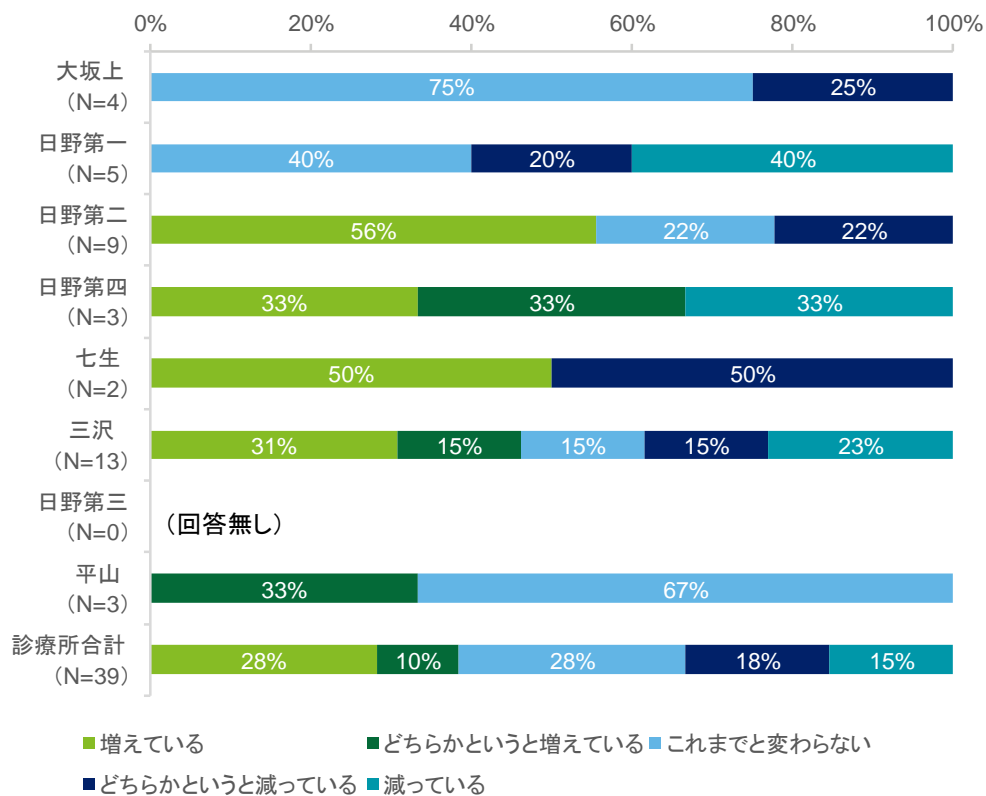
<診療所>

- 全市的に見ると、「増えている」、「どちらかというが増えている」とする回答が、「減っている」、「どちらかというが減っている」とする回答をやや上回っている。
- 中学校区別に見ると、大坂上、平山、日野第一では「これまでと変わらない」とする回答が多く、日野第二、日野第四、七生、三沢では「増えている」や「どちらかというが増えている」とする回答が多くなっている。

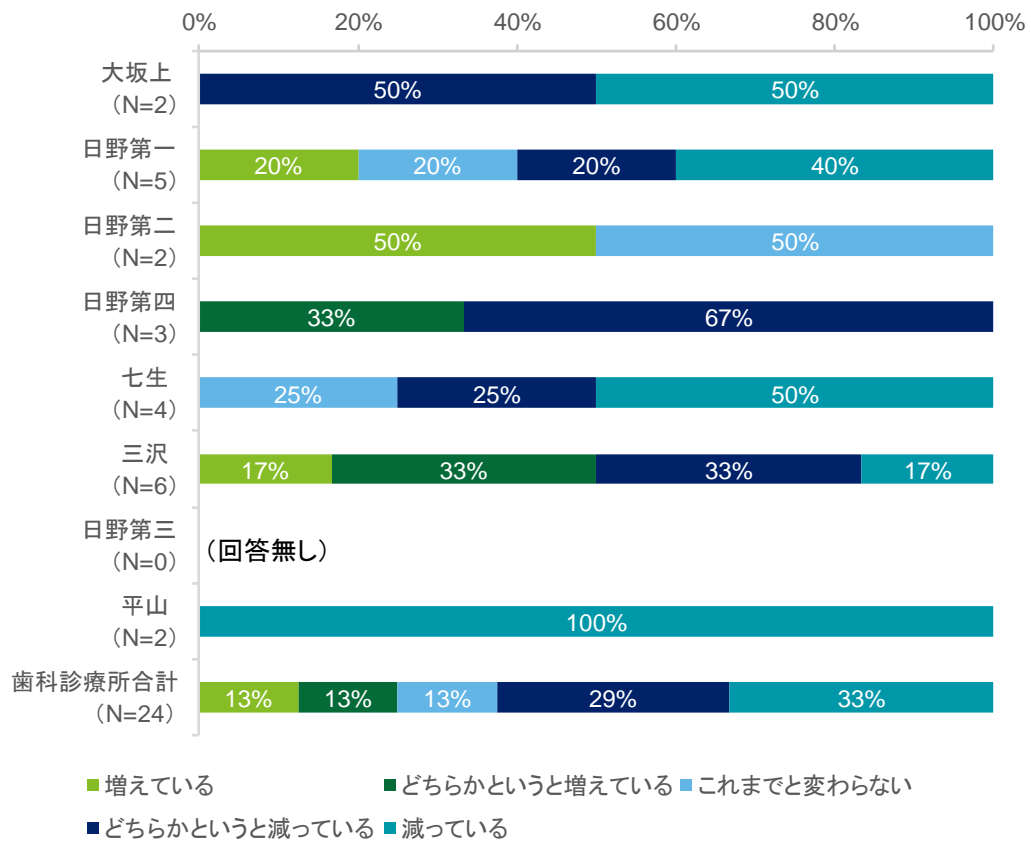
<歯科診療所>

- 全市的に見ると、「減っている」、「どちらかというが減っている」とする回答が約6割となっている。
- 中学校区別に見ると、平山、大坂上、七生、日野第四、日野第一で「減っている」や「どちらかというが減っている」とする回答が多く、日野第二と三沢では、「増えている」や「どちらかというが増えている」と「減っている」や「どちらかというが減っている」が同程度となっている。

図表 3-63 5年前と比較した患者数の動向（診療所）



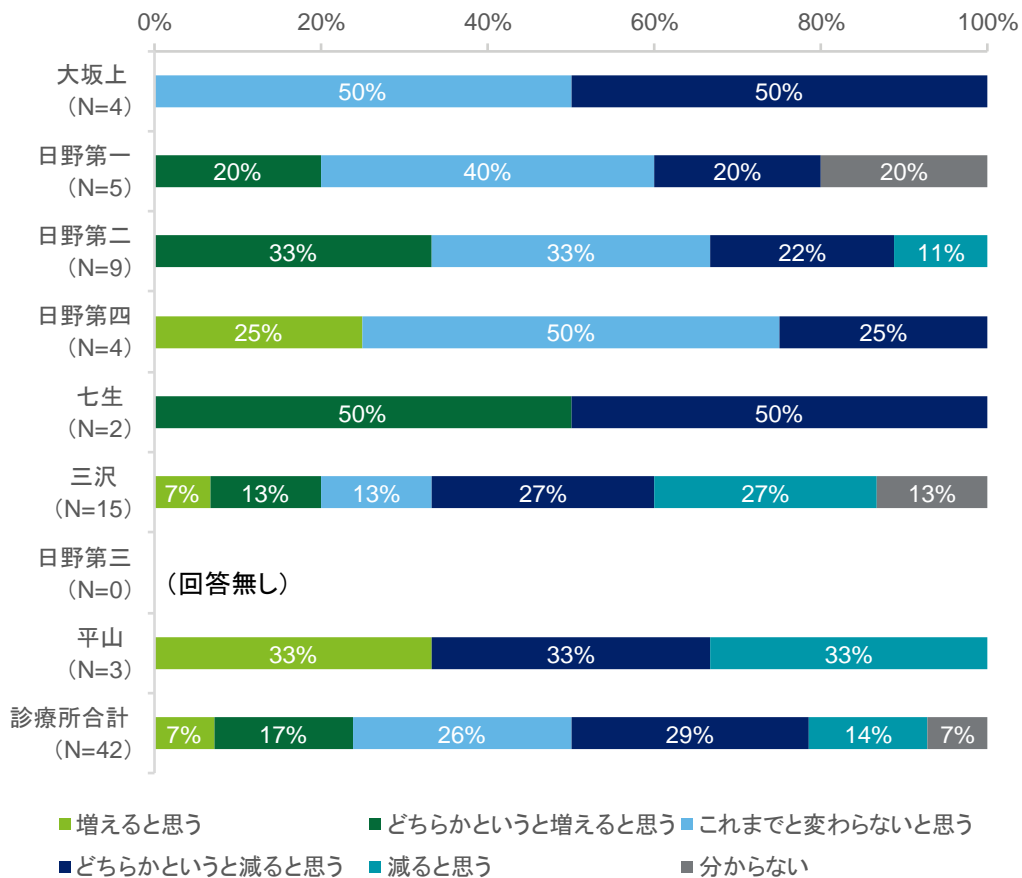
図表 3-64 5年前と比較した患者数の動向（歯科診療所）



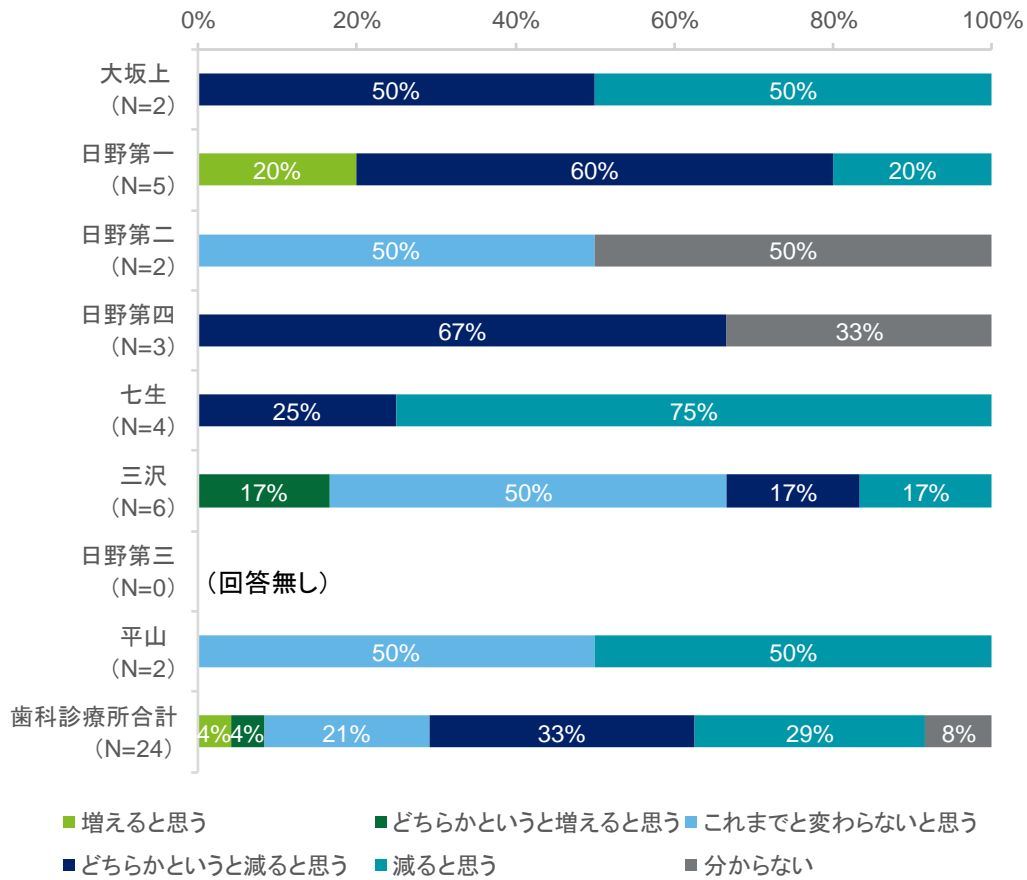
問3-6 貴院での5年後の患者数の動向（見込み）を教えてください。  
（1つに○）

- 診療所においては、「減ると思う」、「どちらかといえば減ると思う」とする回答が約4割となっており、「増えると思う」、「どちらかといえば増えると思う」を上回っている。特に大坂上、七生、三沢、平山において、減少寄りの予測が半数程度となっている。
- 歯科診療所においては、「減ると思う」、「どちらかといえば減ると思う」とする回答が約6割となっている。増加寄りの予測は、日野第一、三沢でのみ見られる。

図表 3-65 5年後の患者数の見込み（診療所）



図表 3-66 5年後の患者数の見込み（歯科診療所）

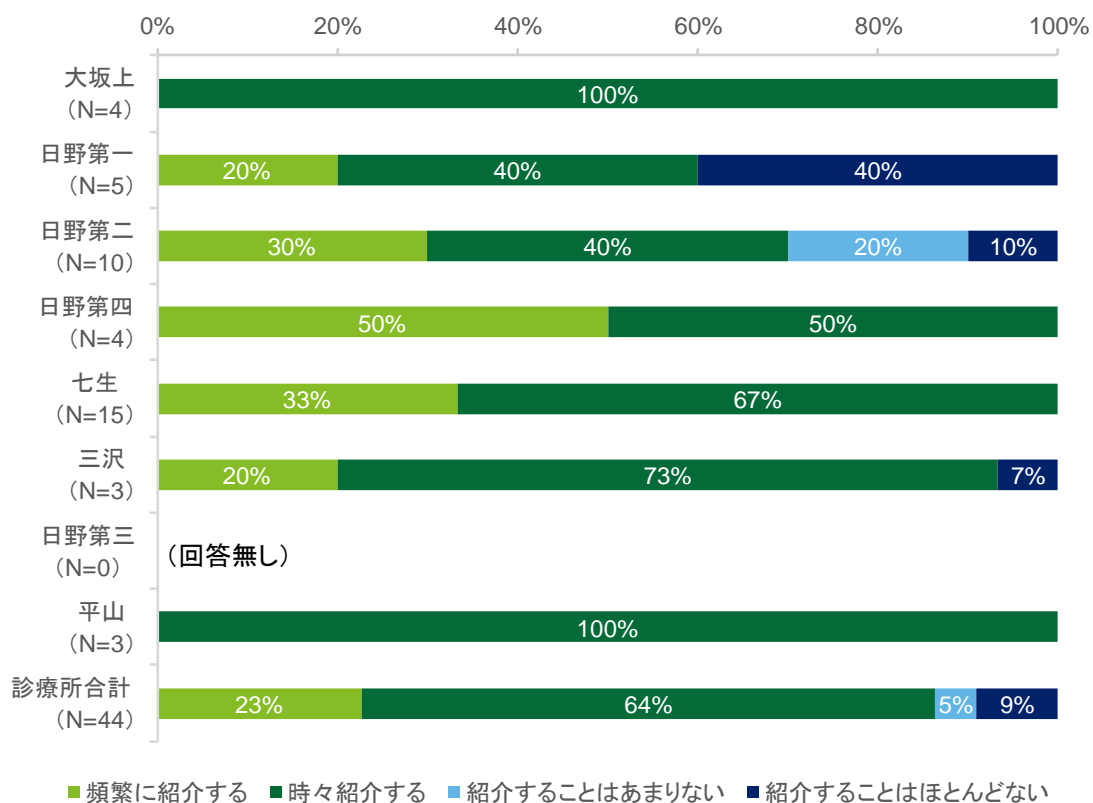


### 3.5 他の医療機関との連携状況について

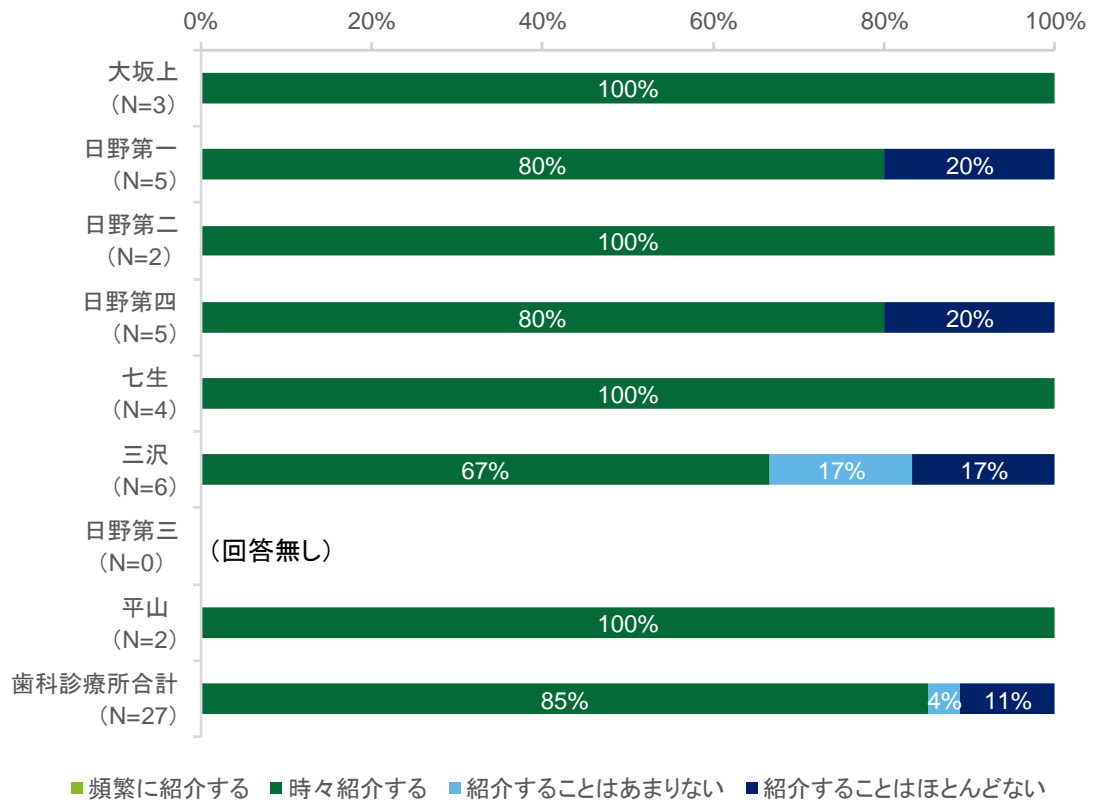
問4-1 貴院から他の診療所に患者を紹介する頻度を教えてください。  
(1つに○)

- 診療所では、「頻繁に紹介する」、「時々紹介する」という回答で9割程度を占めている一方で、日野第一及び日野第二では、「紹介することはあまりない」、「紹介することはほとんどない」という回答が一定割合見られる。
- 歯科診療所では、「時々紹介する」という回答が8割以上を占めているが、わずかではあるものの日野第一、日野第四及び三沢で「紹介することはあまりない」、「紹介することはほとんどない」という回答もある。

図表 3-67 他医療機関に患者を紹介する頻度（診療所）



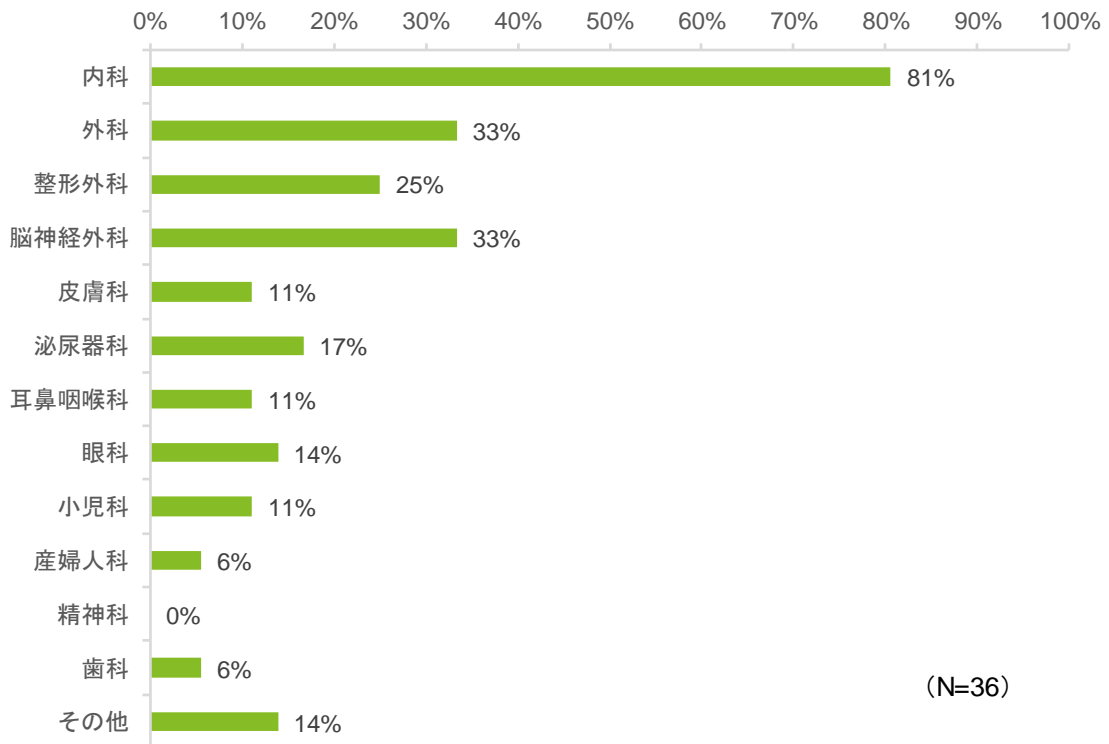
図表 3-68 他診療所に患者を紹介する頻度（歯科診療所）



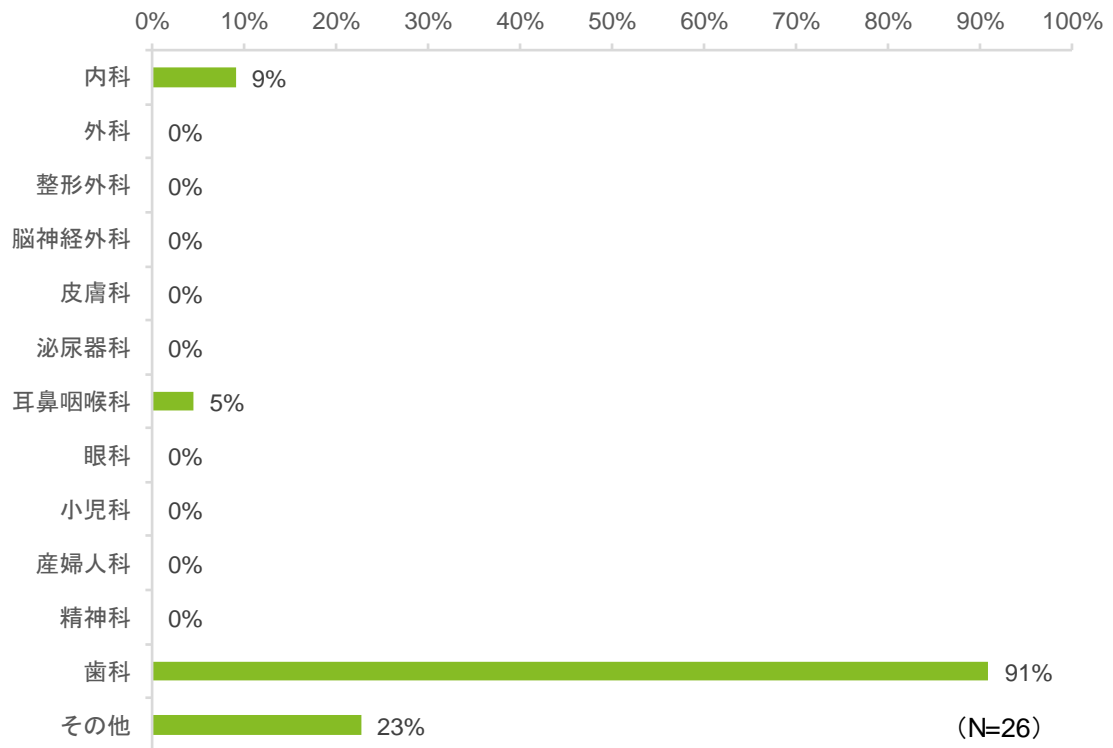
問4-2 どの診療科に紹介することが多いですか。(上位3つに○)

- 診療所では、内科への紹介が最も多く(81%)、次いで外科、脳神経外科(それぞれ33%)が多くなっている。
- 歯科診療所では、紹介の大半は歯科(91%)であるが、その他(23%)や内科(9%)耳鼻咽喉科(5%)にも紹介している。

図表 3-69 患者を紹介することが多い診療科(診療所)



図表 3-70 患者を紹介することが多い診療科（歯科診療所）



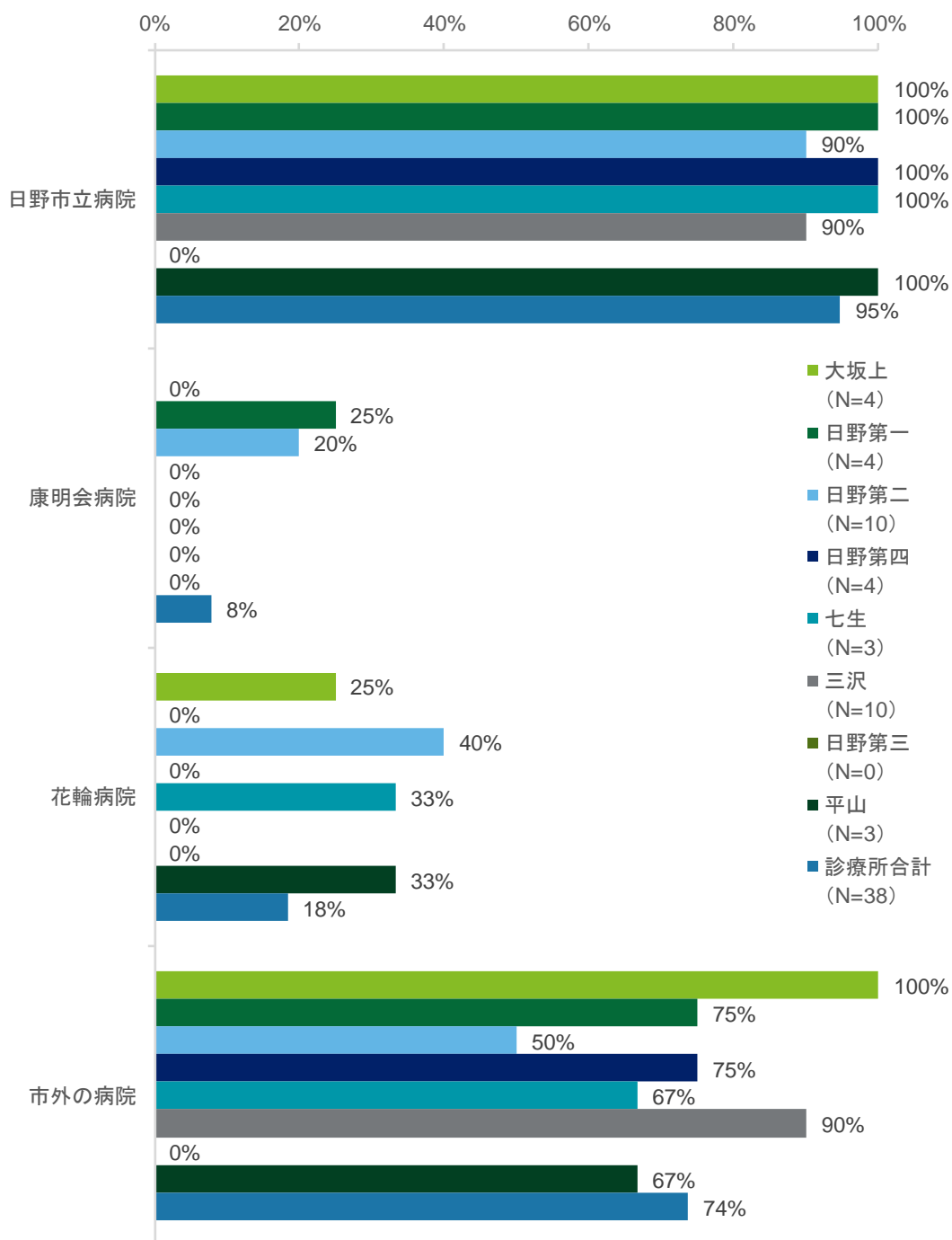


問4-3 患者をよく紹介する病院を教えてください。(上位3つに○)

<診療所>

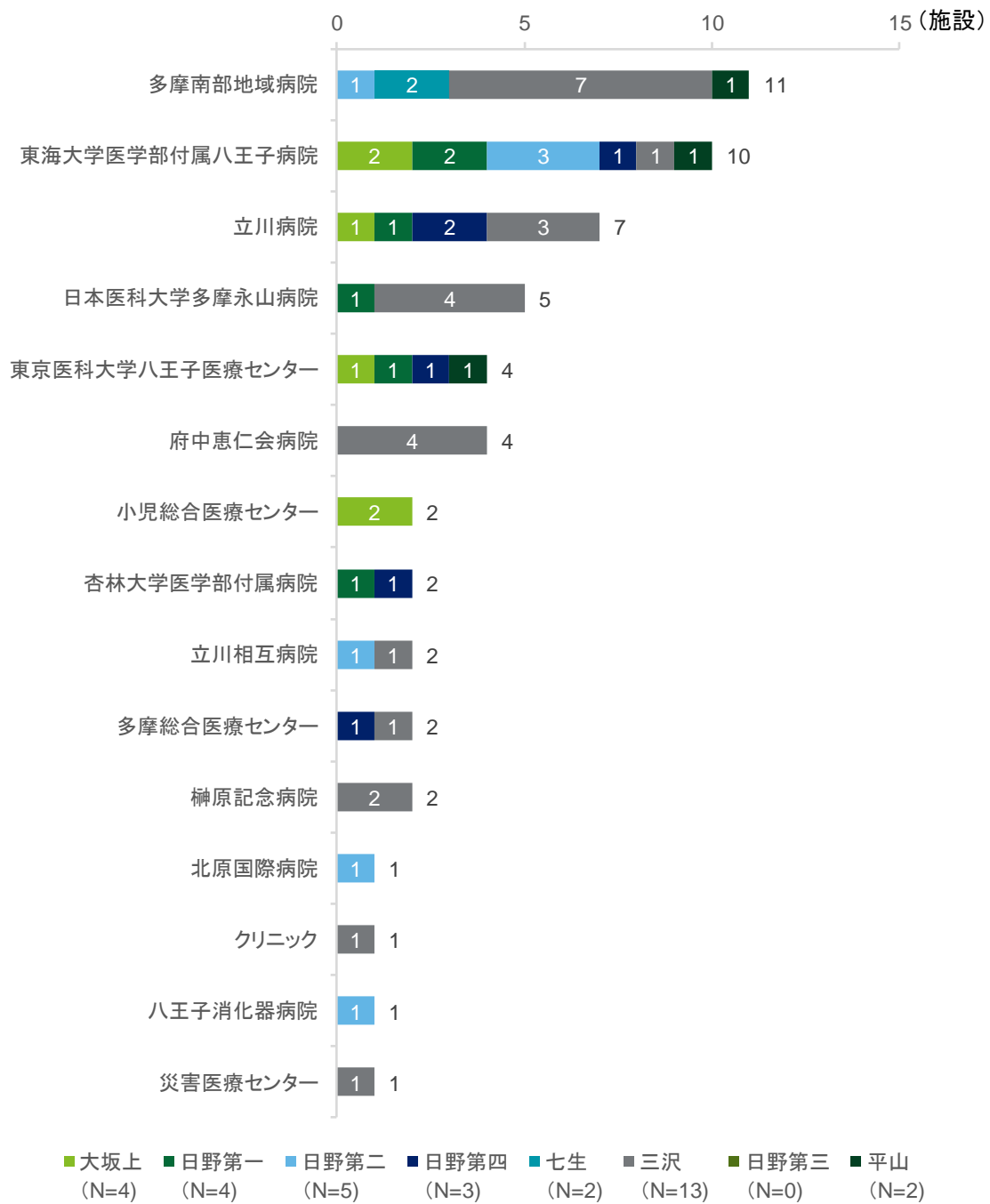
- 日野市立病院は回答のあった全ての地域のほぼ全ての診療所(95%)から紹介されている。
- 市内の病院では、次いで花輪病院(18%)、康明会病院(8%)に紹介されており、他の病院を挙げた回答はない。
- 市外の病院への紹介も、回答のあった全ての地域で見られているが、地域差が大きく、特に市外の病院に紹介しているのは、大坂上(100%)、三沢(90%)となっている。
- 市外の病院では多摩南部地域病院への紹介が最も多くなっており、特に三沢地域からの紹介が多い。2番目に多いのは東海大学医学部附属八王子病院であり、七生、日野第三を除く地域から同程度紹介されている。また、市外の病院に紹介する場合の診療科については、三沢地域から内科の紹介が最も多くなっている。

図表 3-71 患者の紹介先（診療所）

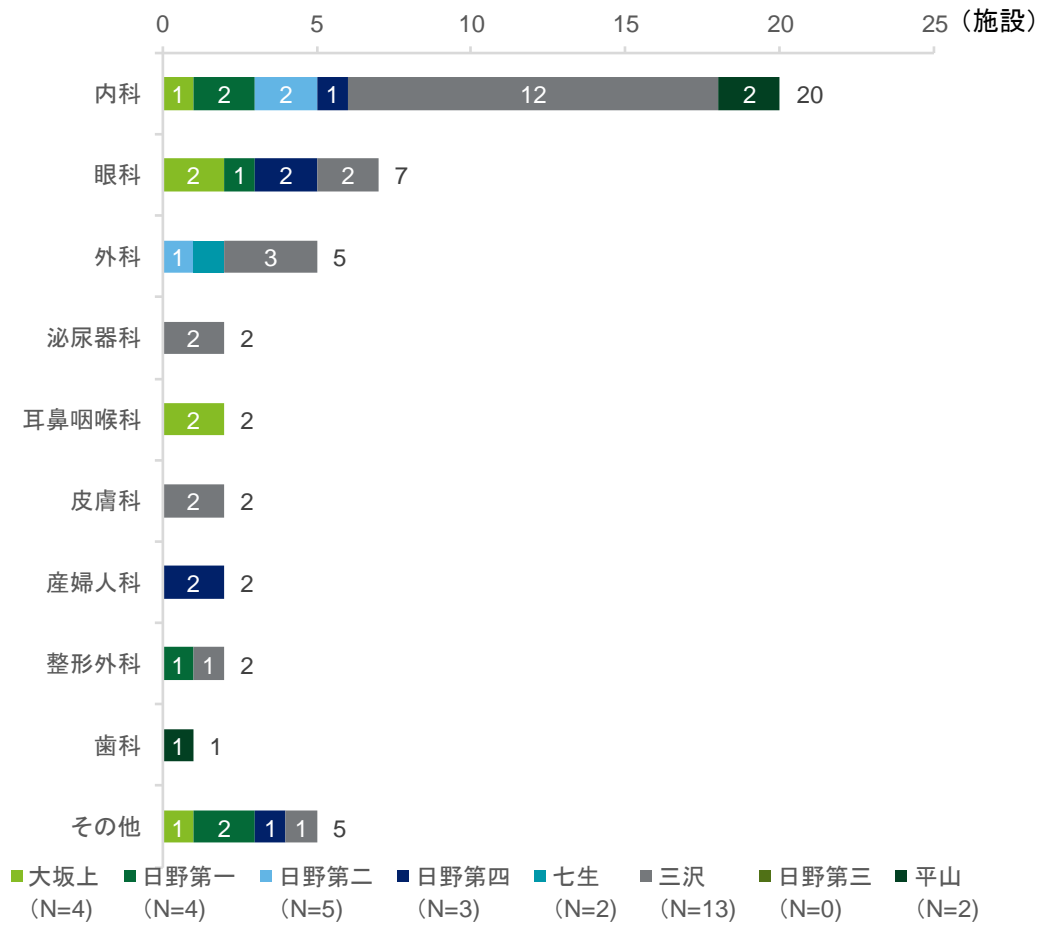


※市内病院のうち、患者の紹介先として挙げられていなかった病院は記載を省略している。

図表 3-72 患者の市外への紹介先（診療所）



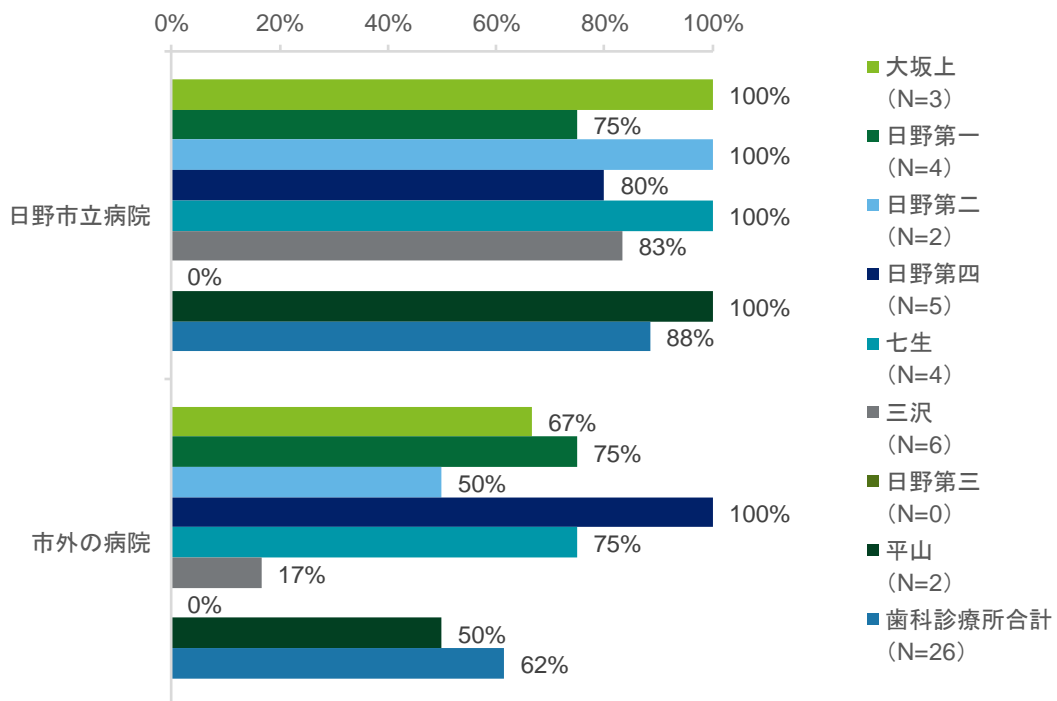
図表 3-73 患者を市外に紹介する診療科



< 歯科診療所 >

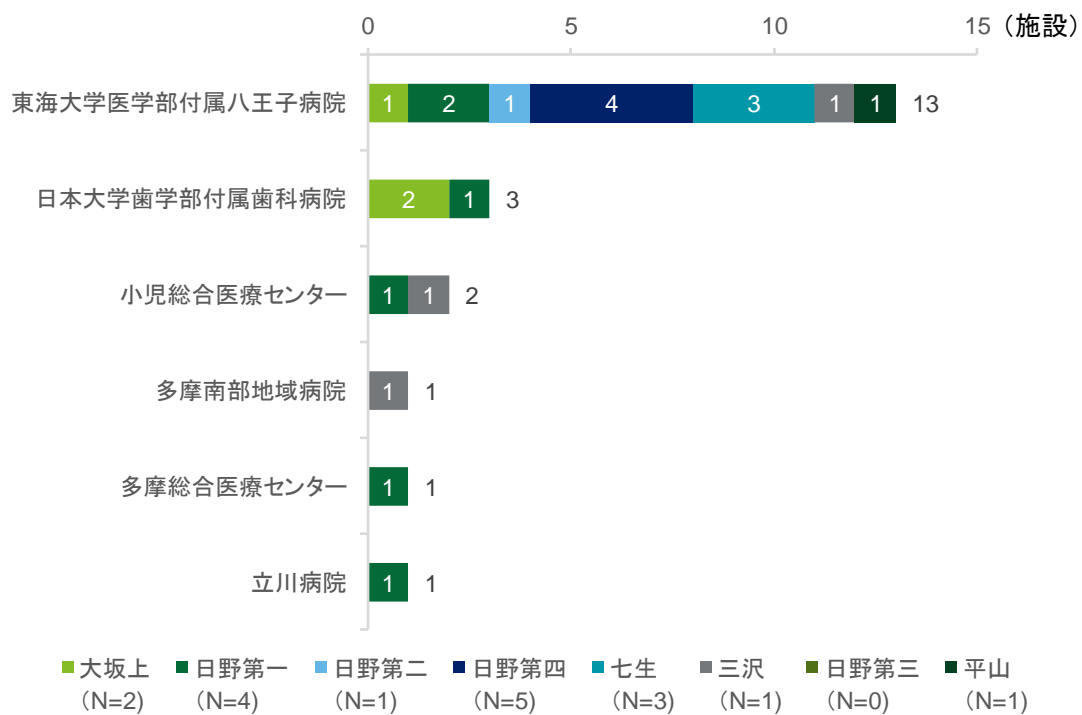
- 日野第三を除く全ての地域で日野市立病院に多く紹介（88%）されている。
- 日野市立病院以外の市内の病院には患者を紹介されておらず、市外の病院に紹介されている。
- 市外の病院への紹介は地域差が大きく、日野第四が最も多く（100%）、次いで七生、日野第一（それぞれ75%）が多くなっている。
- 市外への病院では、東海大学医学部附属八王子病院への紹介が特に多くなっており、回答の無かった日野第三を除く全ての地域の歯科診療所から紹介されている。紹介する診療科は全て歯科系であった。

図表 3-74 患者の紹介先（歯科診療所）



※市内病院のうち、患者の紹介先として挙げられていなかった病院は記載を省略している。

図表 3-75 患者の市外への紹介先（歯科診療所）



※患者の紹介先として挙げられていた市外医療機関のうち、クリニックに関しては記載を省略している。

問4-4 退院時における病院からの連携（逆紹介）がどの程度なされているか教えてください。（1つに○）

<診療所と日野市立病院>

- 日野市立病院へ紹介した患者はいずれの地域でも逆紹介を受けている診療所が多く（71%）、紹介していない患者についても逆紹介を受けている診療所が他病院と比較して多い（18%）。
- 中学校区別にみると、自院からの紹介の有無にかかわらず「逆紹介を受けている」との回答が日野第三、平山、三沢、大坂上（それぞれ100%）で高い一方、日野第一、七生では「日ごろ連携することはない」との回答が33%と高くなっている。

<診療所と康明会病院>

- 康明会病院は限られた地域で連携されており、「逆紹介を受けている」との回答が平山（100%）や日野第二（50%）が多い。

<診療所と花輪病院>

- 花輪病院から「逆紹介を受けている」診療所は半数程度と比較的多いものの、地域に偏りがある。
- 自院からの紹介の有無にかかわらず「逆紹介を受けている」との回答が日野第三（100%）や三沢（80%）と多い一方で、日野第一や日野第四では「日ごろ連携することはない」との回答が多い（それぞれ100%）。

<診療所と七生病院>

- 七生病院とは日野第二、日野第四、三沢と限られた地域でのみ「逆紹介を受けている」との回答がある。
- 一方で、日野第二では僅かではあるが「紹介した患者の退院を連携されないことが多い」との回答もある。

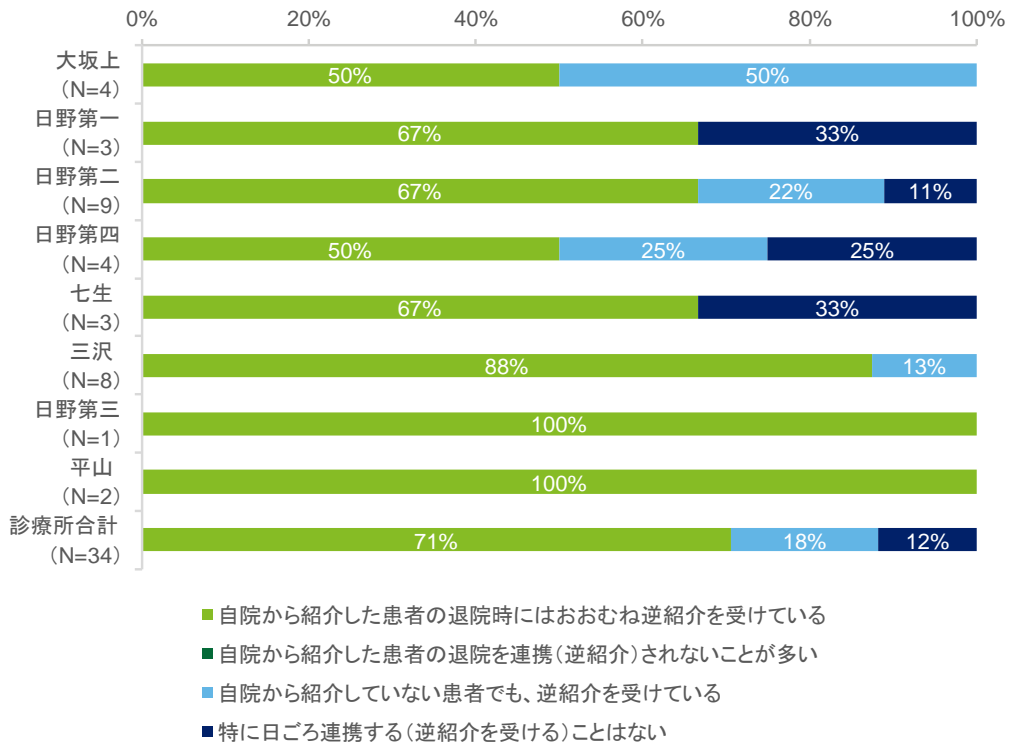
<診療所とその他の市内の病院>

- 回心堂第二病院、グレイス病院、多摩平の森の病院は、「日ごろ連携することはない」との回答が9割を超えている。
- 療養型の病院ではその役割から考えると、逆紹介をすることが少ない傾向にあると想定される。

<診療所と市外の病院>

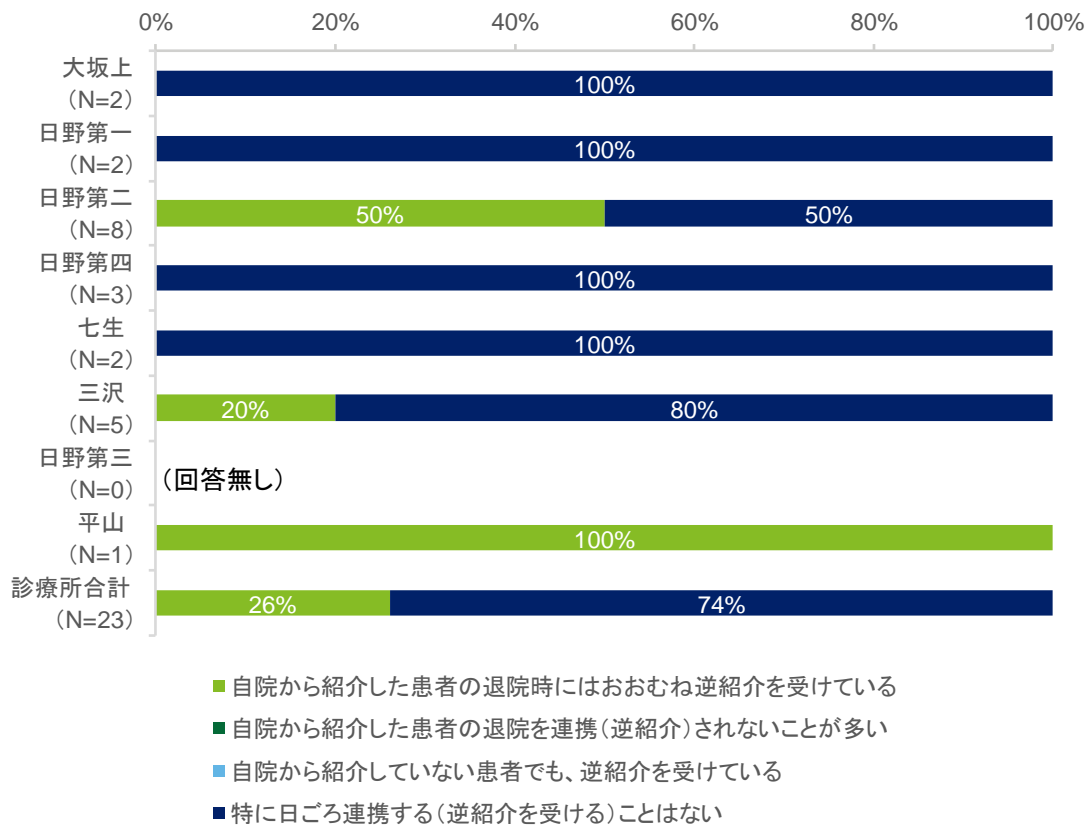
- 前問において、患者を良く紹介する市外の病院として最も多く挙げられていた東海大学医学部附属八王子病院に関しては、回答のあった地域のうち、日野第四を除く地域では「逆紹介を受けている」との回答が 90%を超えている。

図表 3-76 退院時における逆紹介の状況（日野市立病院から診療所）

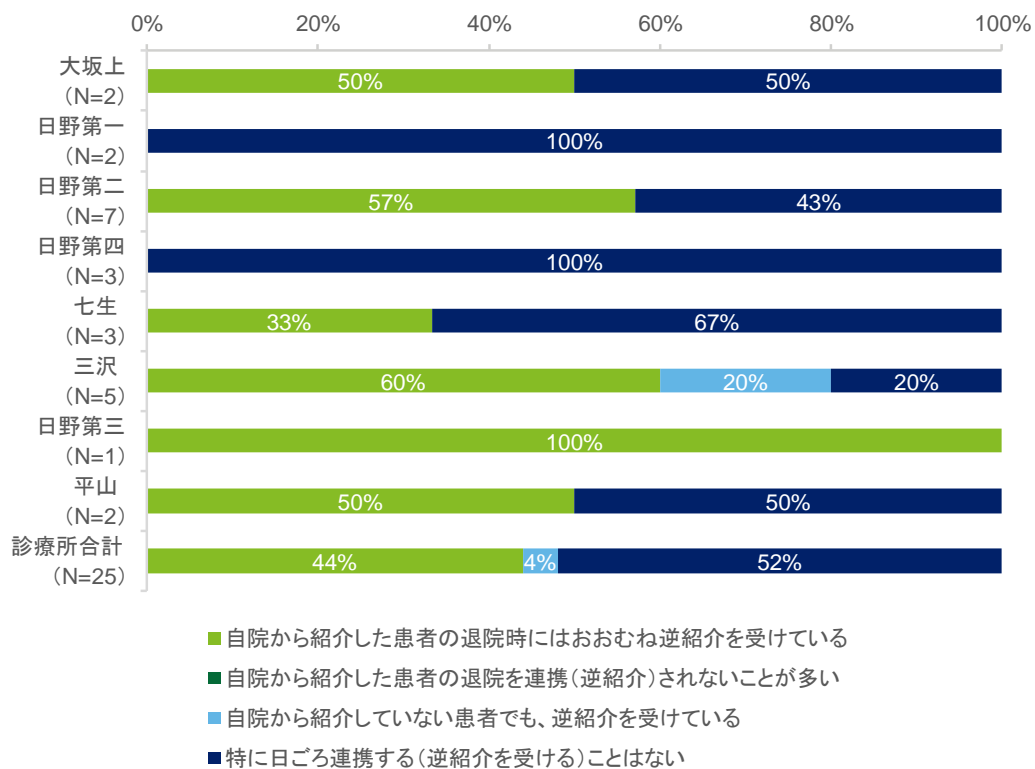




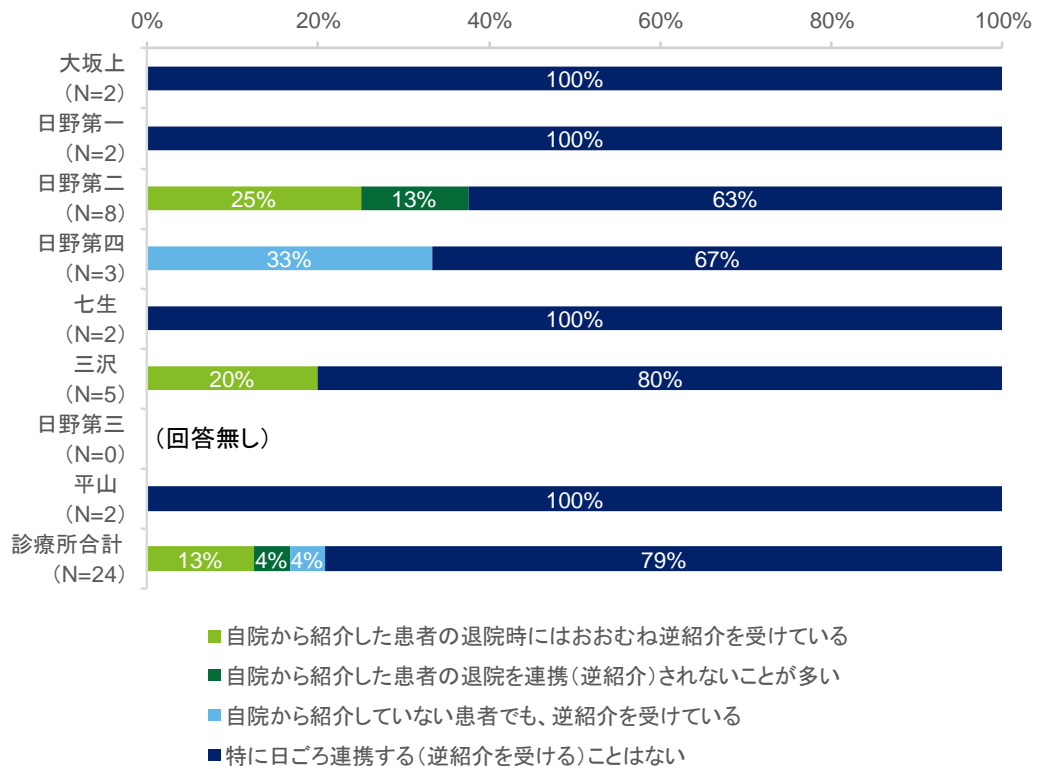
図表 3-77 退院時における逆紹介の状況（康明会病院から診療所）



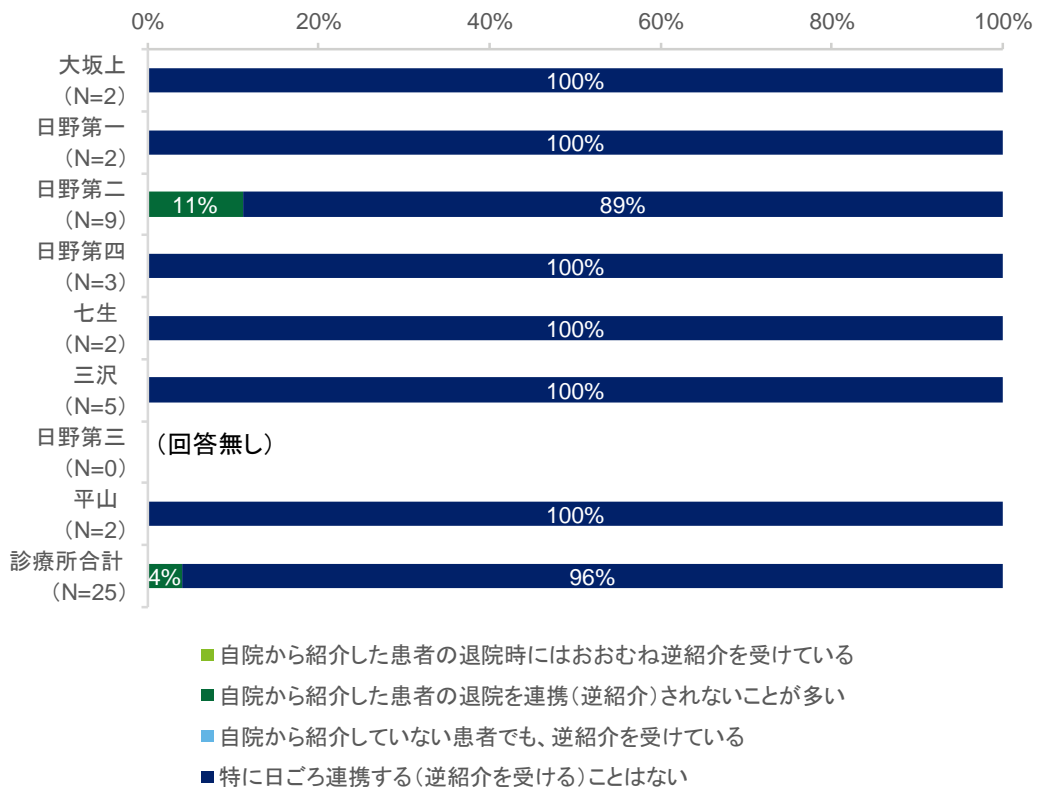
図表 3-78 退院時における逆紹介の状況（花輪病院から診療所）



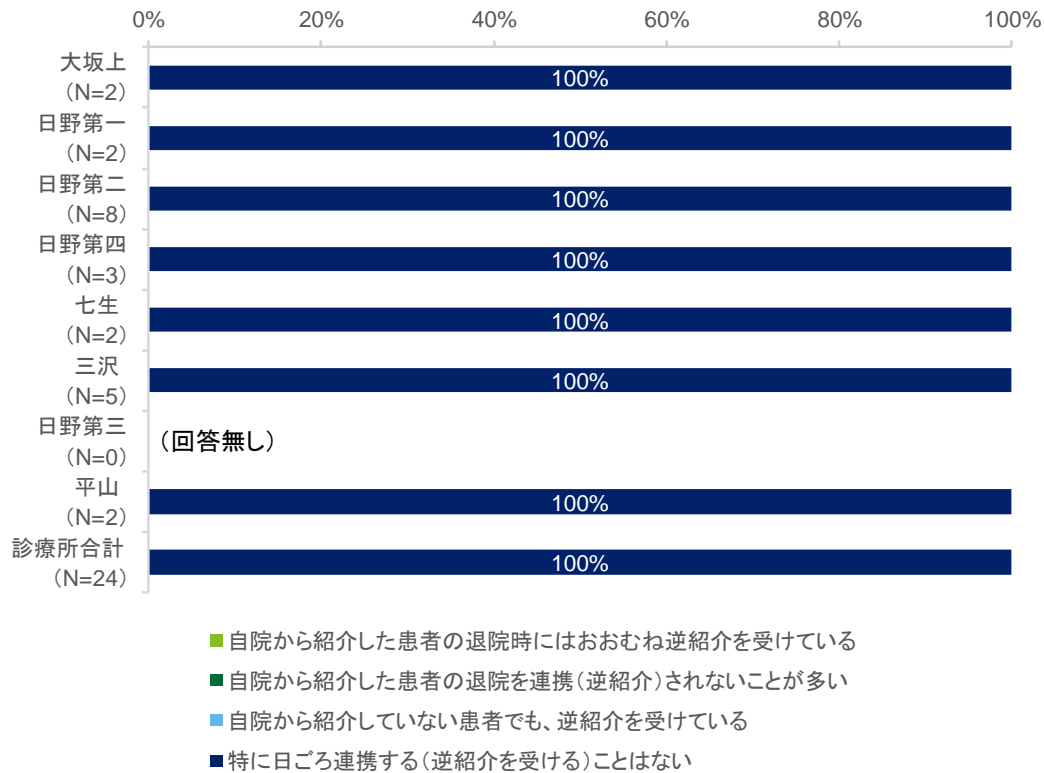
図表 3-79 退院時における逆紹介の状況（七生病院から診療所）



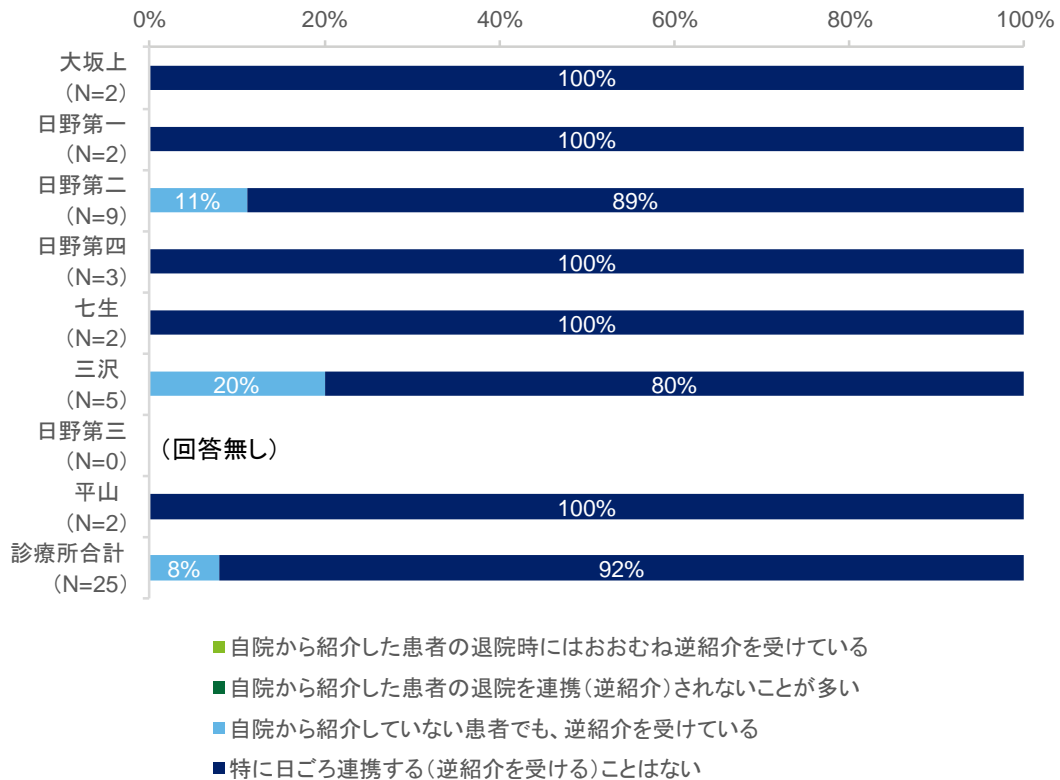
図表 3-80 退院時における逆紹介の状況（回心堂第二病院から診療所）



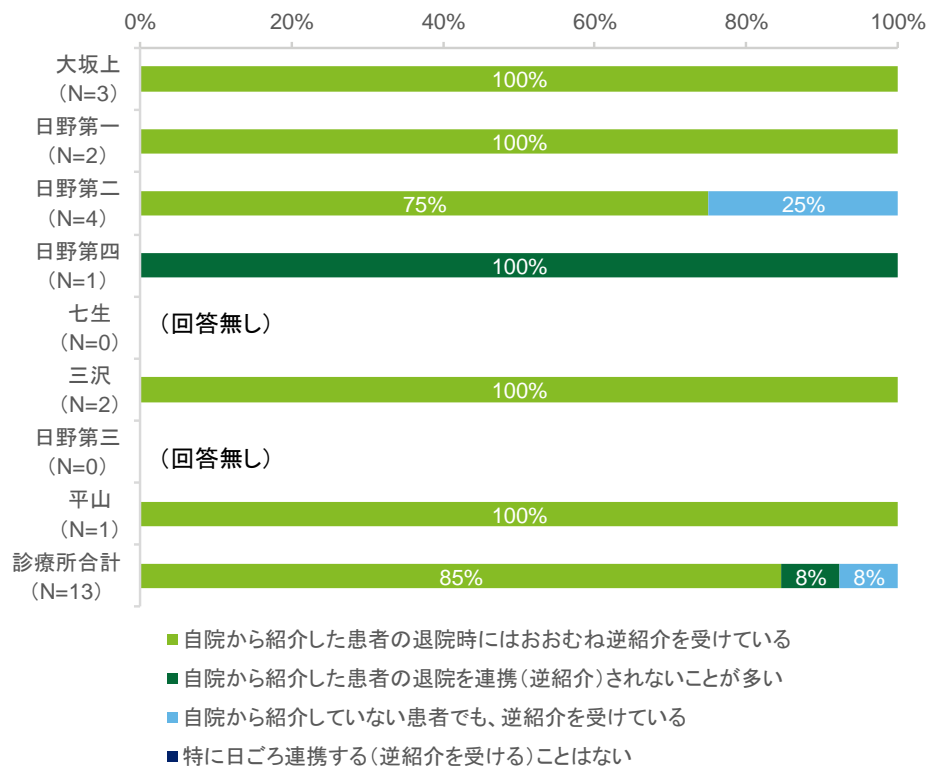
図表 3-81 退院時における逆紹介の状況（グレイス病院から診療所）



図表 3-82 退院時における逆紹介の状況（多摩平の森の病院から診療所）



図表 3-83 退院時における逆紹介の状況  
(東海大学医学部附属八王子病院から診療所)



< 歯科診療所と日野市立病院 >

- 日野市立病院へ紹介した患者はいずれの地域でも逆紹介を受けている診療所が多く（71%）、紹介していない患者についても逆紹介を受けている診療所が他病院と比較して多い（13%）。
- 中学校区別にみると、自院からの紹介の有無にかかわらず「逆紹介を受けている」との回答が大坂上、日野第二、七生、平山（それぞれ100%）で高い一方、日野第一では「日ごろ連携することはない」との回答が67%と高くなっている。

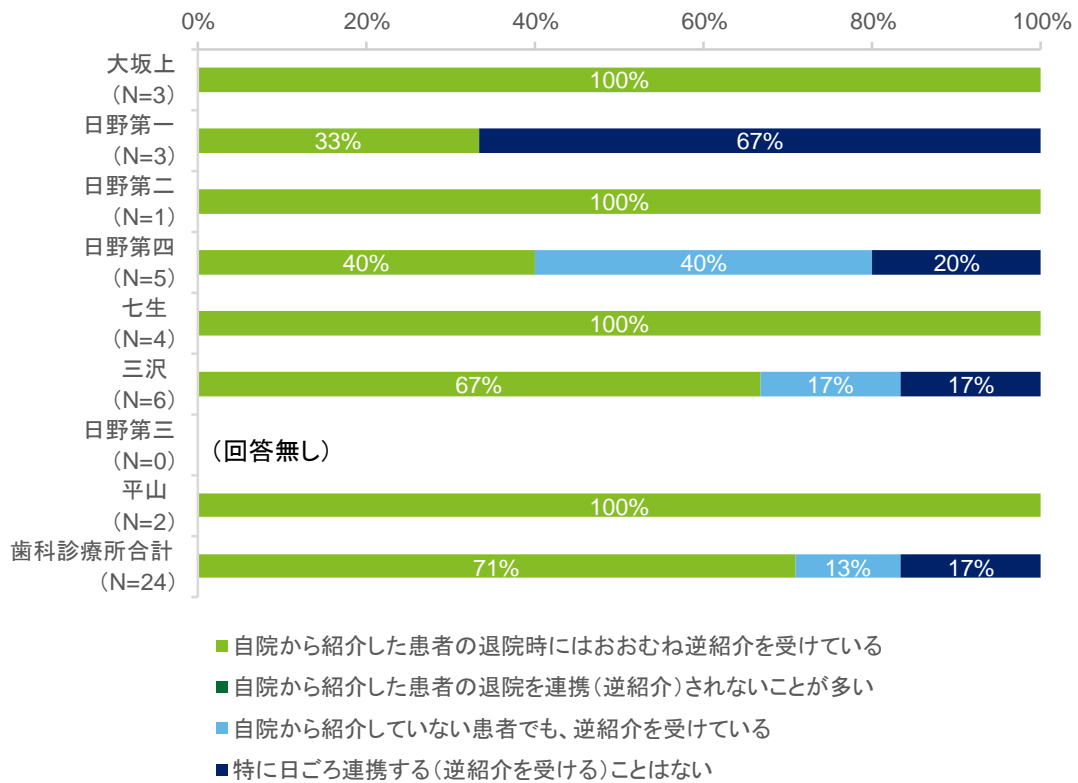
< 歯科診療所とその他の病院 >

- 日野市立病院以外の市内の病院とは、「日ごろ連携することはない」との回答のみであった。
- 日野市立病院以外の病院に歯科がないことが影響していると考えられる。

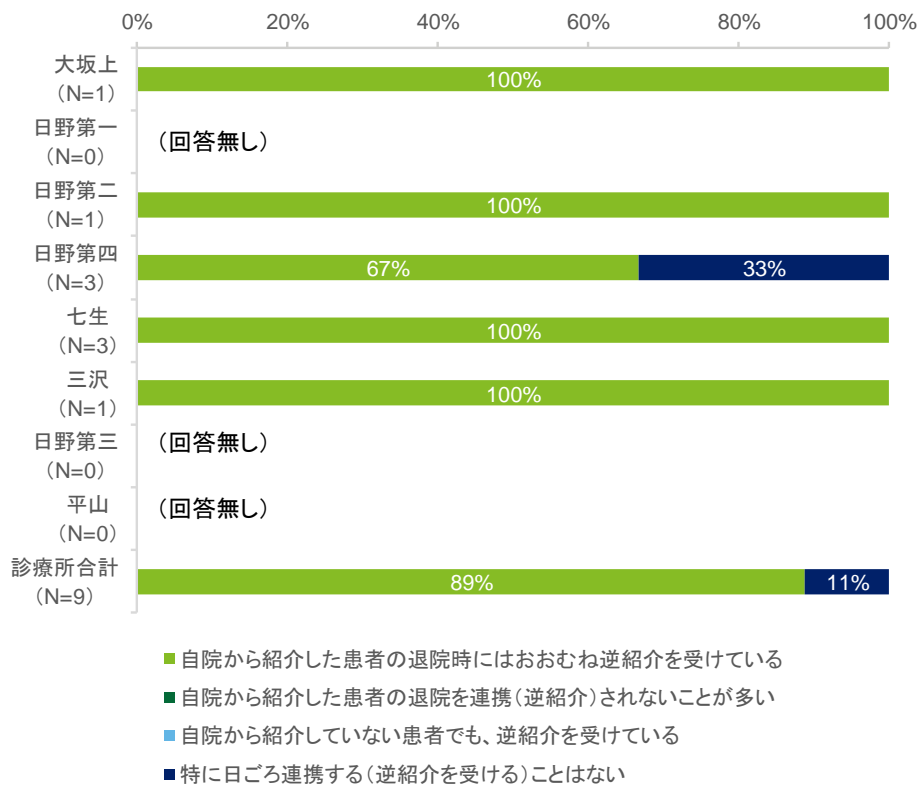
< 歯科診療所と市外の病院 >

- 前問において、患者を良く紹介する市外の病院として最も多く挙げられていた東海大学医学部附属八王子病院に関しては、回答のあった地域のうち、日野第四を除く地域では全ての歯科診療所が「逆紹介を受けている」と答えていた。日野第四においては、「逆紹介を受けている」という回答が67%、「日ごろ連携することはない」という回答が33%であった。

図表 3-84 退院時における逆紹介の状況（日野市立病院から歯科診療所）



図表 3-85 退院時における逆紹介の状況  
（東海大学医学部付属八王子病院から歯科診療所）



問4-5 貴院に紹介されてくる患者の紹介元の割合について教えてください。(数字を記入)

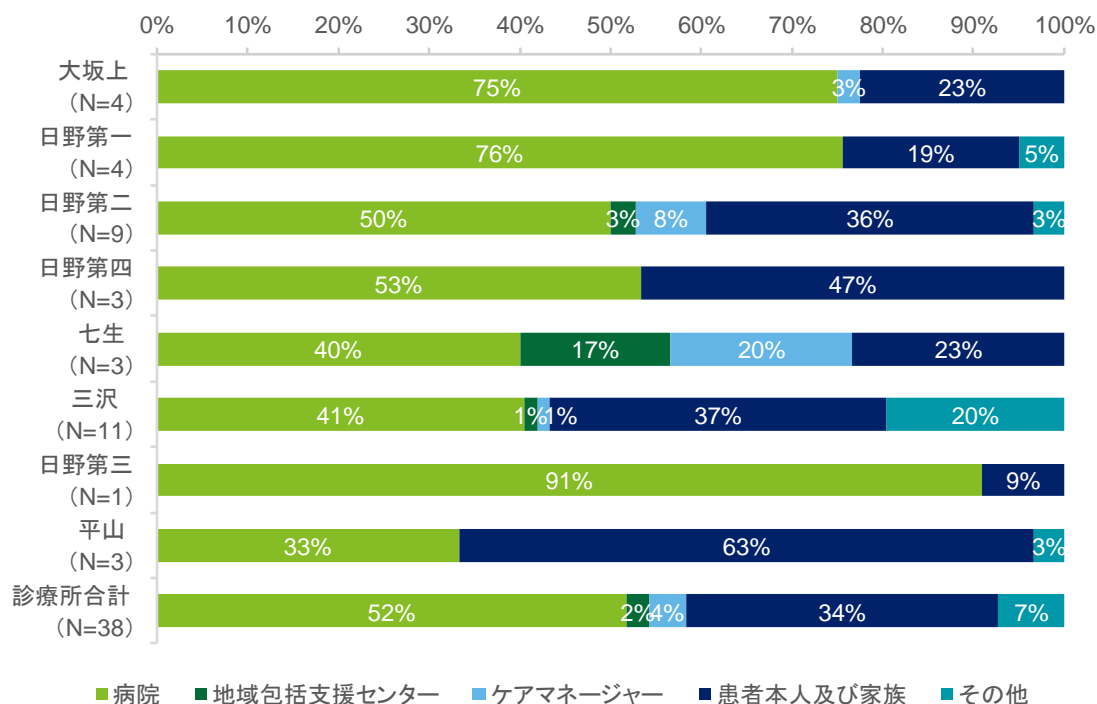
<診療所>

- 市域全体として「病院」との回答が多く、中学校区別に比較すると、「病院」との回答が特に多く大半を占めるのは、日野第三(91%)、日野第一(76%)、大坂上(75%)である。
- 「患者本人及び家族」との回答が多いのは、平山(63%)、日野第四(47%)である。
- 「病院」と「患者本人及び家族」との回答が同程度で多いのは、日野第二(50%、36%)、三沢(41%、37%)である。
- 「地域包括支援センター」や「ケアマネジャー」との回答が多いのは七生(17%、20%)である。

<歯科診療所>

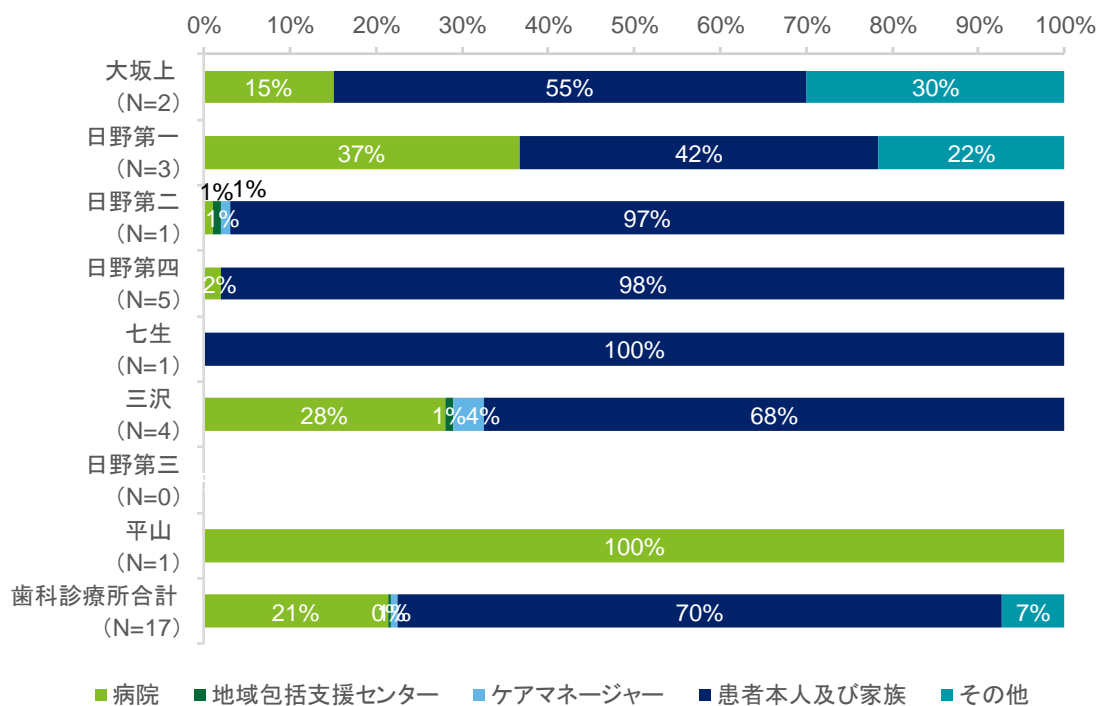
- 市域全体として「患者本人及び家族」との回答が多く、中学校区別に比較すると、「患者本人及び家族」との回答が特に多く大半を占めるのは、七生(100%)日野第四(98%)、日野第二(97%)である。
- 「患者本人及び家族」が半数程度を占めるものの「病院」との回答も多いのは、日野第一(42%、37%)、三沢(68%、28%)、大坂上(55%、15%)である。
- 「病院」との回答が多いのは、平山(100%)である。

図表 3-86 患者の紹介元（診療所）



※上記表は各診療所の回答の合計が 10 割となるよう修正後集計

図表 3-87 患者の紹介元（歯科診療所）



※上記表は各診療所の回答の合計が 10 割となるよう修正後集計

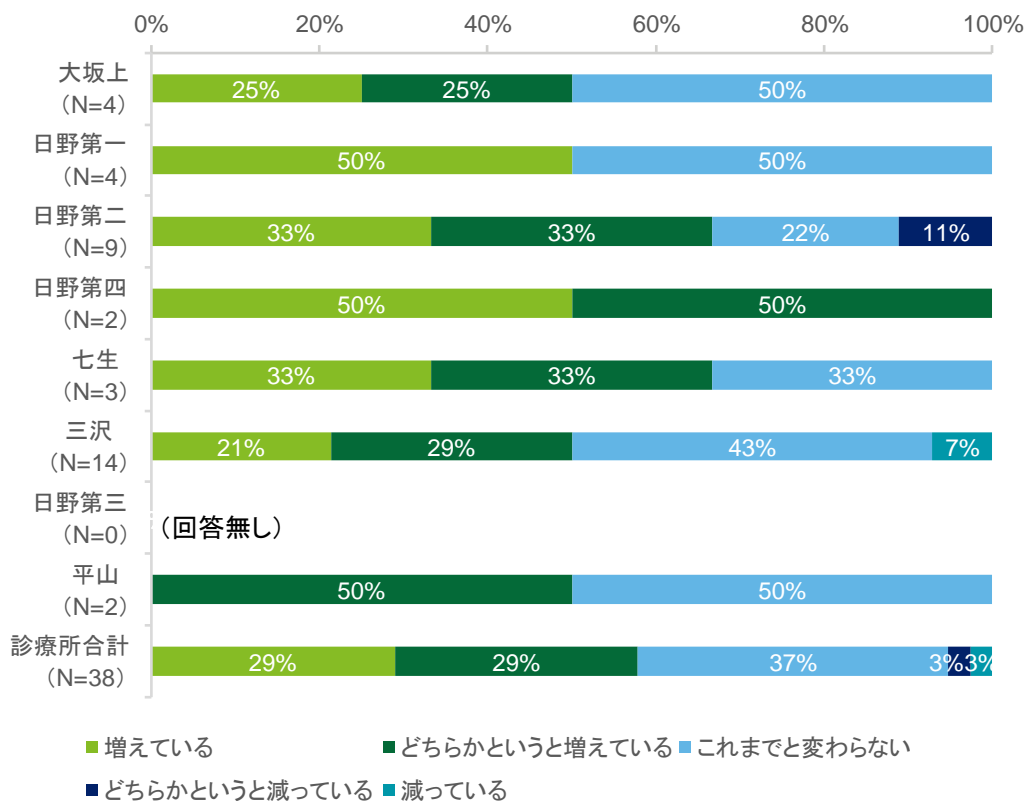


### 3.6 在宅療養の取組み状況

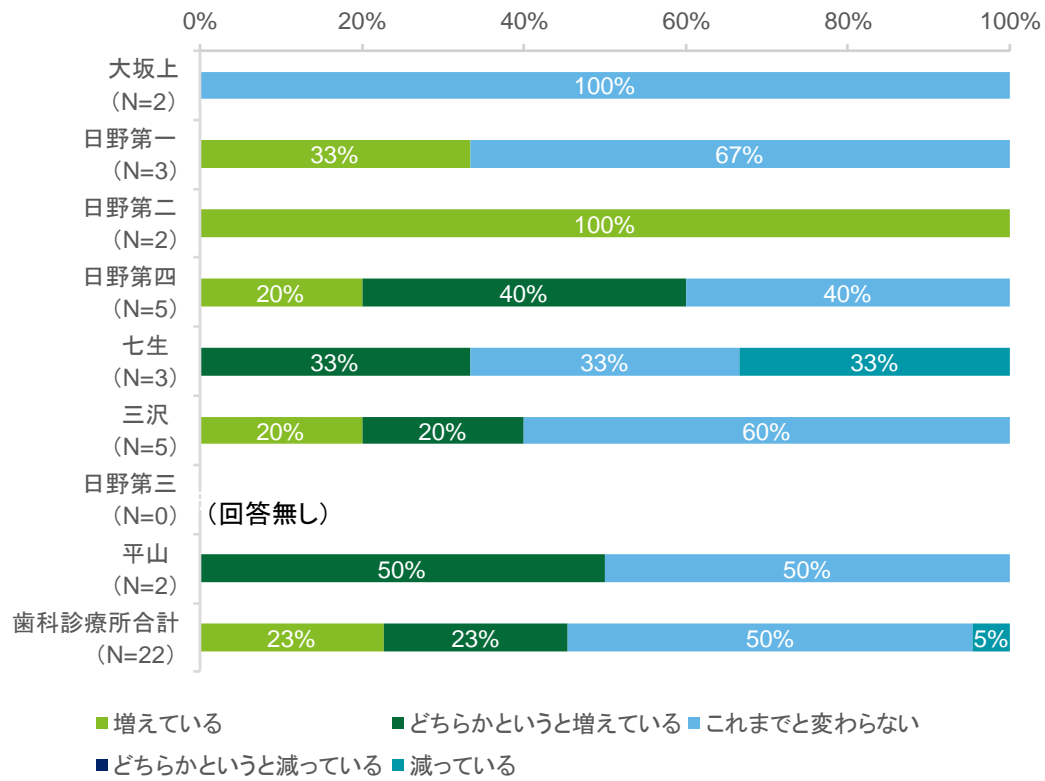
問5-1 5年前と比較して在宅療養のニーズをどのようにとらえていますか。(1つに○)

- 診療所、歯科診療所ともに「増えている」「どちらかという増えている」の回答がほぼ半数を占めており、「どちらかという減っている」「減っている」という回答は1割未満となっている。
- 診療所に関しては、いずれの地域においても「増えている」「どちらかという増えている」の回答が半数以上を占めている。
- 歯科診療所に関しては、日野第二、日野第四では「増えている」「どちらかという増えている」の回答が半数以上を占めているが、日野第一、三沢では「これまでと変わらない」の回答が半数以上を占めている。また、七生では「どちらかという増えている」「これまでと変わらない」「減っている」が33%ずつ、平山では「どちらかという増えている」「これまでと変わらない」が50%ずつとなっている。

図表 3-88 在宅療養のニーズの認識（診療所）



図表 3-89 在宅療養のニーズの認識（歯科診療所）

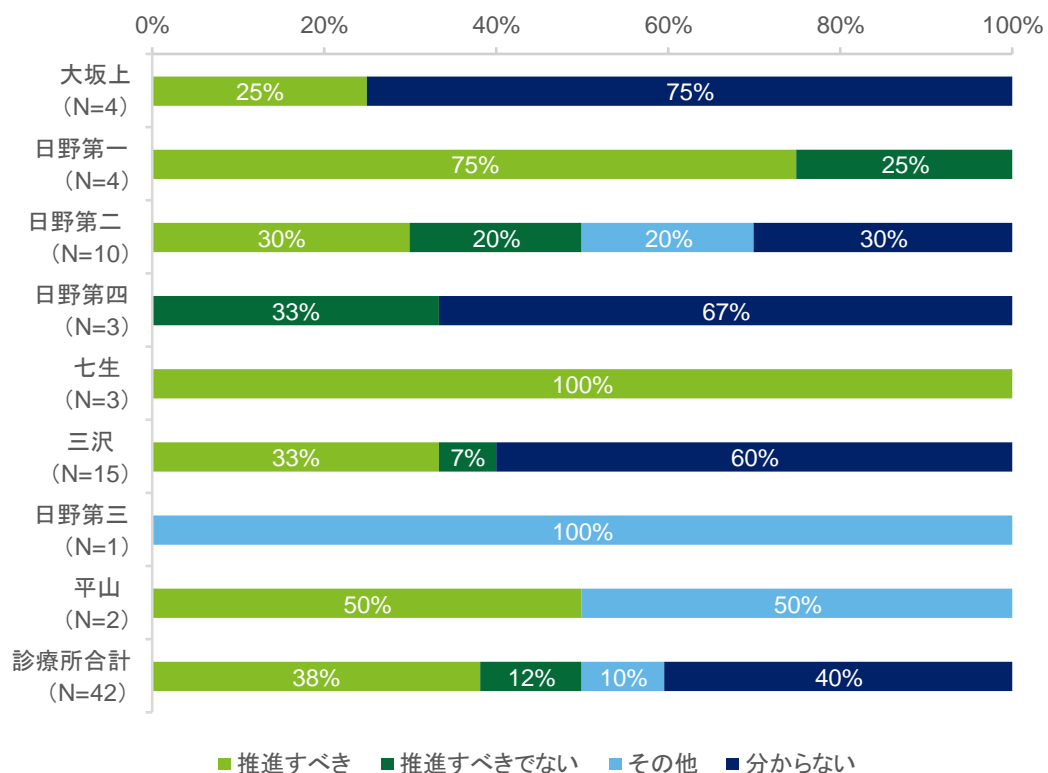


問5-2 貴院の在宅療養への取組みについて教えてください。(1つに○)

<診療所の考え方>

- 市全体として、「推進すべき」という回答が4割程度あるものの、「分からない」という回答も4割程度ある。
- 中学校区別にみると、「推進すべき」との回答が多いのは、七生(100%)、日野第一(75%)、平山(50%)であり、「分からない」との回答が多いのは、大坂上(75%)、日野第四(67%)、三沢(60%)である。
- 一方で、推進すべきでないという回答も、日野第四では3割程度、日野第一や日野第二では2割程度あり、地域で差が見られる。

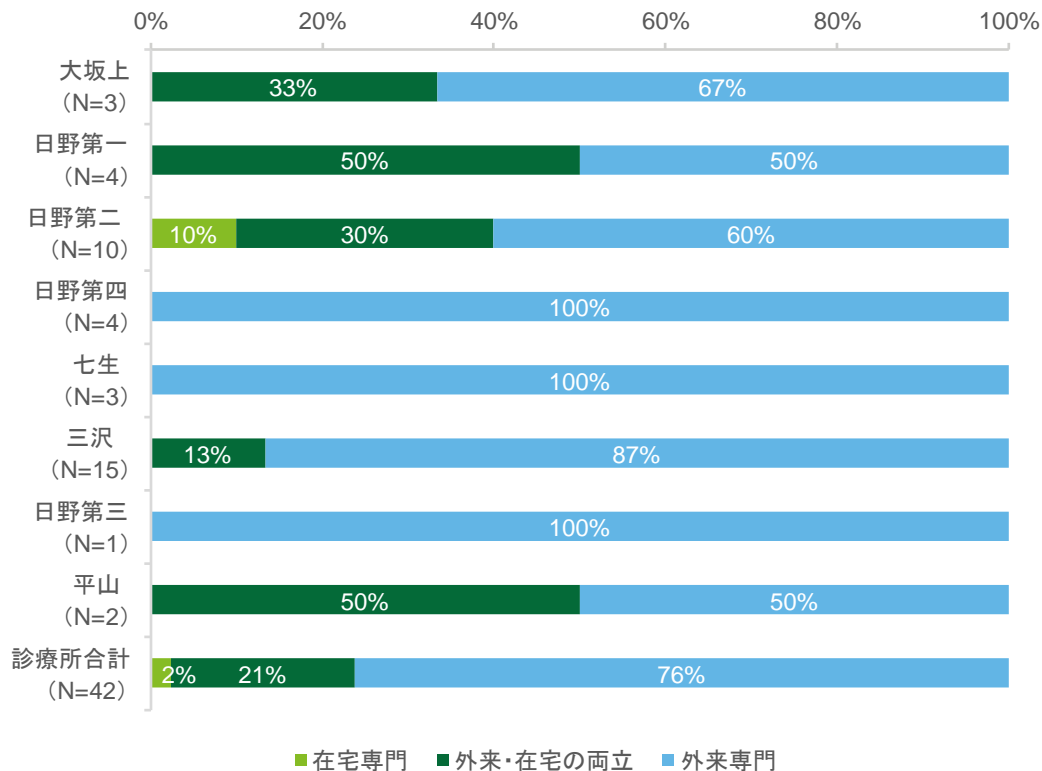
図表 3-90 在宅療養への考え方(診療所)



<診療所の取組み>

- 外来専門が大半を占めるが、日野第一や平山などは在宅と両立するとの回答が半数となっており、地域差が見られる。

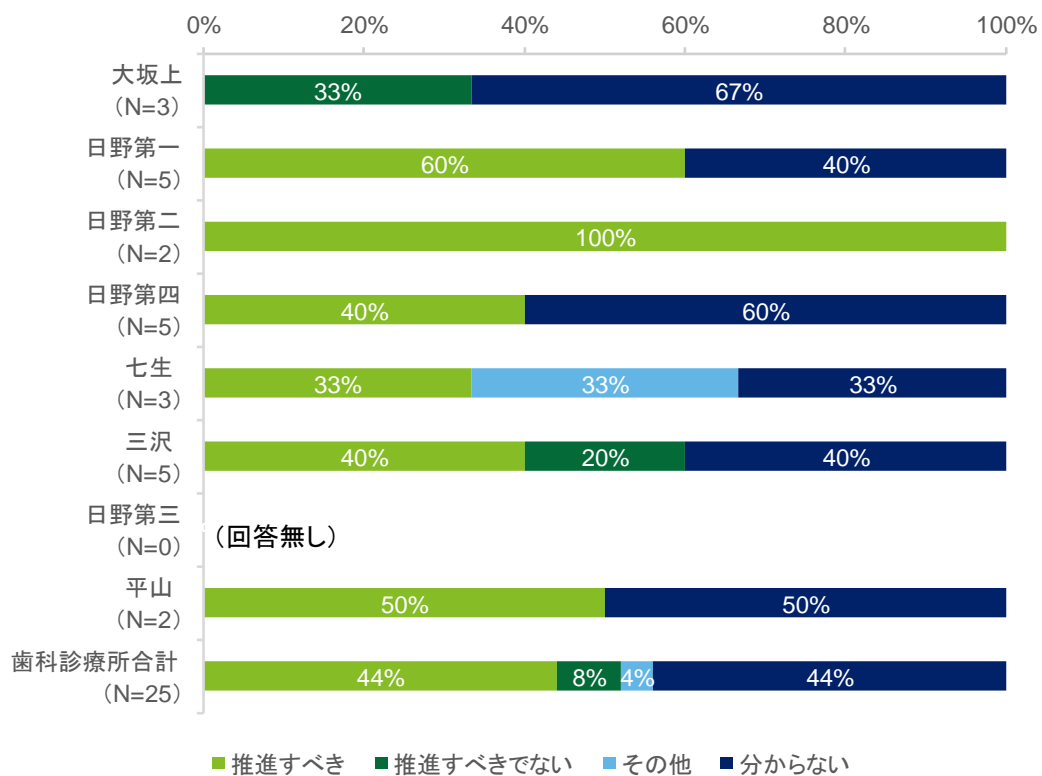
図表 3-91 在宅療養の取組み（診療所）



< 歯科診療所の考え方 >

- 市全体として、「推進すべき」という回答が 4 割程度あるものの、「分からない」という回答も 4 割程度ある。
- 中学校区別にみると、「推進すべき」との回答が多いのは、日野第二(100%)、日野第一(60%)、平山(50%)であり、「分からない」との回答が多いのは、大坂上(67%)、日野第四(60%)、平山(50%)である。
- 一方で、大坂上や三沢では推進すべきでないという回答も 2 割程度あり、地域で差が見られる。

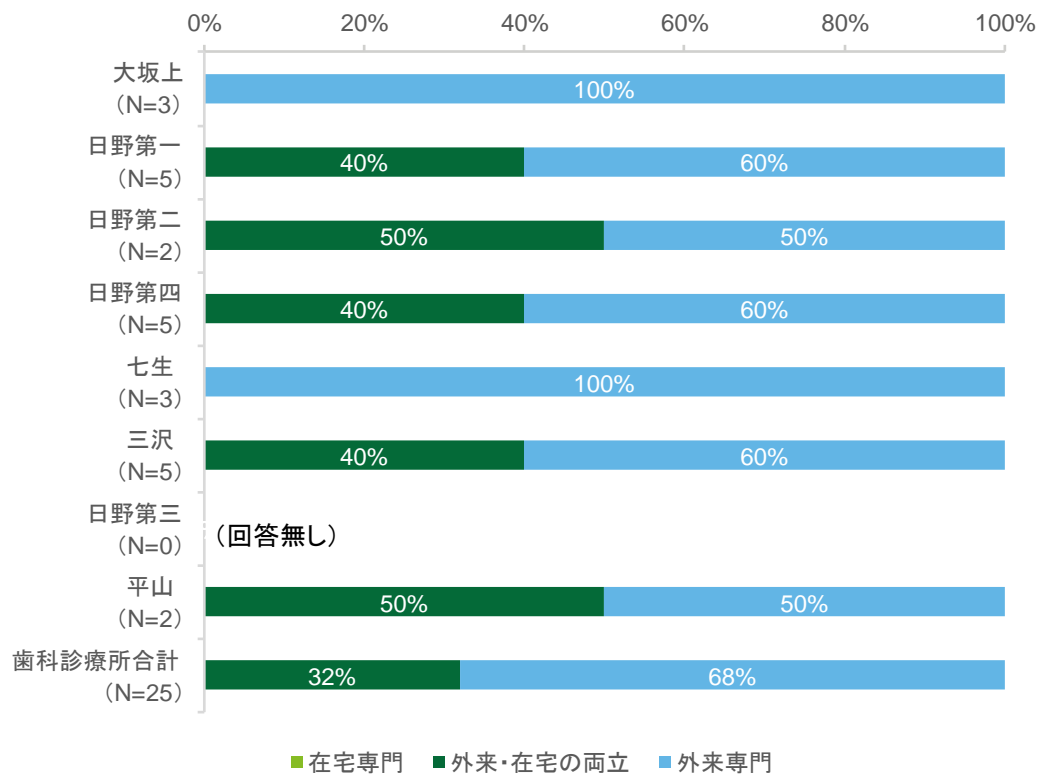
図表 3-92 在宅療養への考え方（歯科診療所）



< 歯科診療所の取組み >

- 外来専門が半数以上を占めており、特に大阪上と七生では回答のあった歯科診療所全てが外来専門である。

図表 3-93 在宅療養の取組み（歯科診療所）

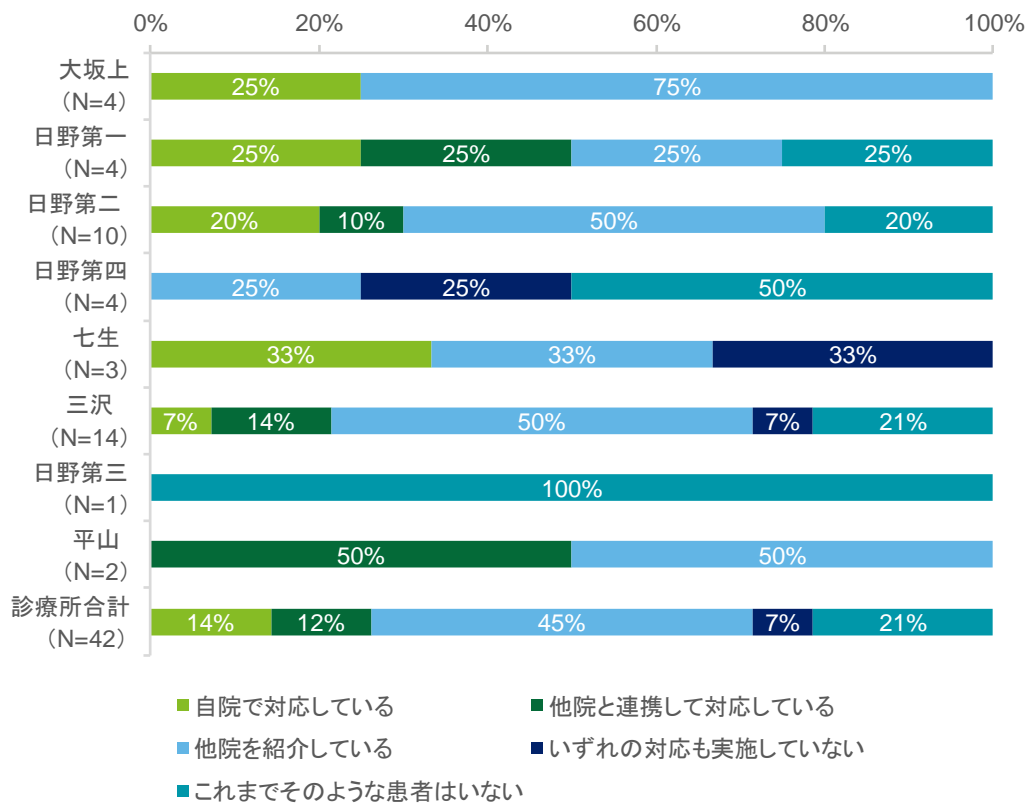


問5-3 在宅療養を希望する患者が発生した場合、どのように対応していますか。(1つに○)

<診療所>

- 他院を紹介するという回答が多いが、日野第一や平山では「自院で対応している」「他院と連携して対応している」が半数となっており、地域差が見られる。
- 「これまでそのような患者はいない」との回答も2割程度ある。

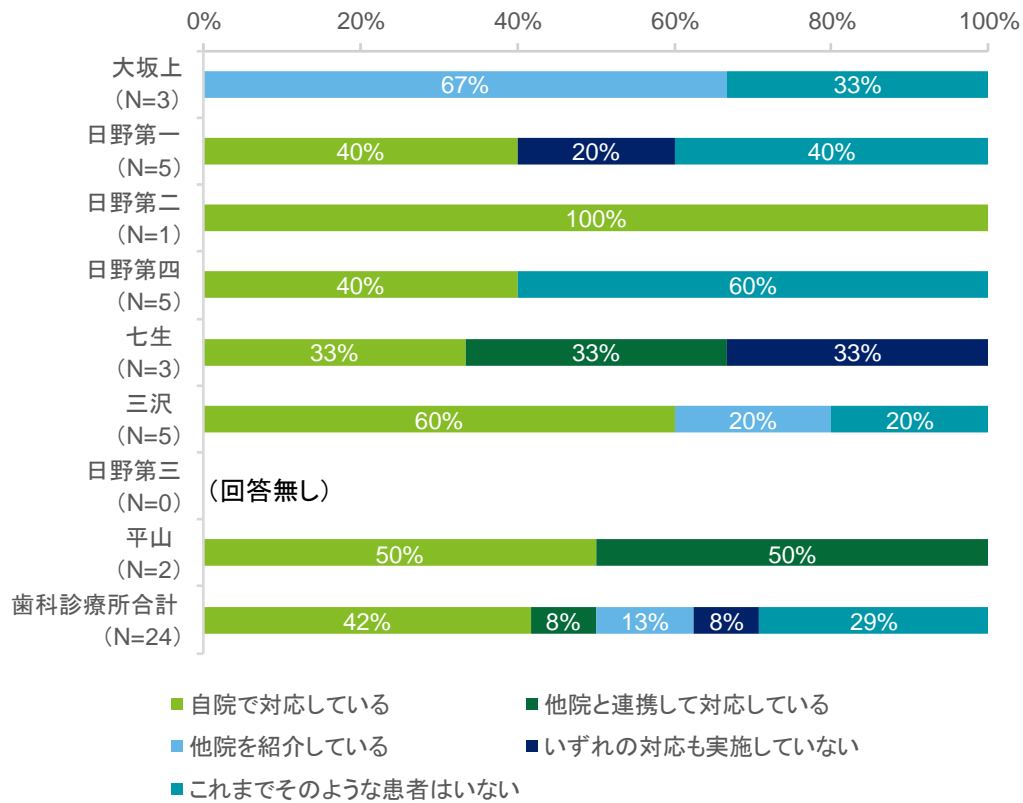
図表 3-94 在宅療養を希望する患者への対応（診療所）



< 歯科診療所 >

- 自院で対応するという回答が半数を占めているが、大坂上では他院を紹介している割合が高い。
- 「これまでそのような患者はいない」との回答が3割程度ある。

図表 3-95 在宅療養を希望する患者への対応（歯科診療所）



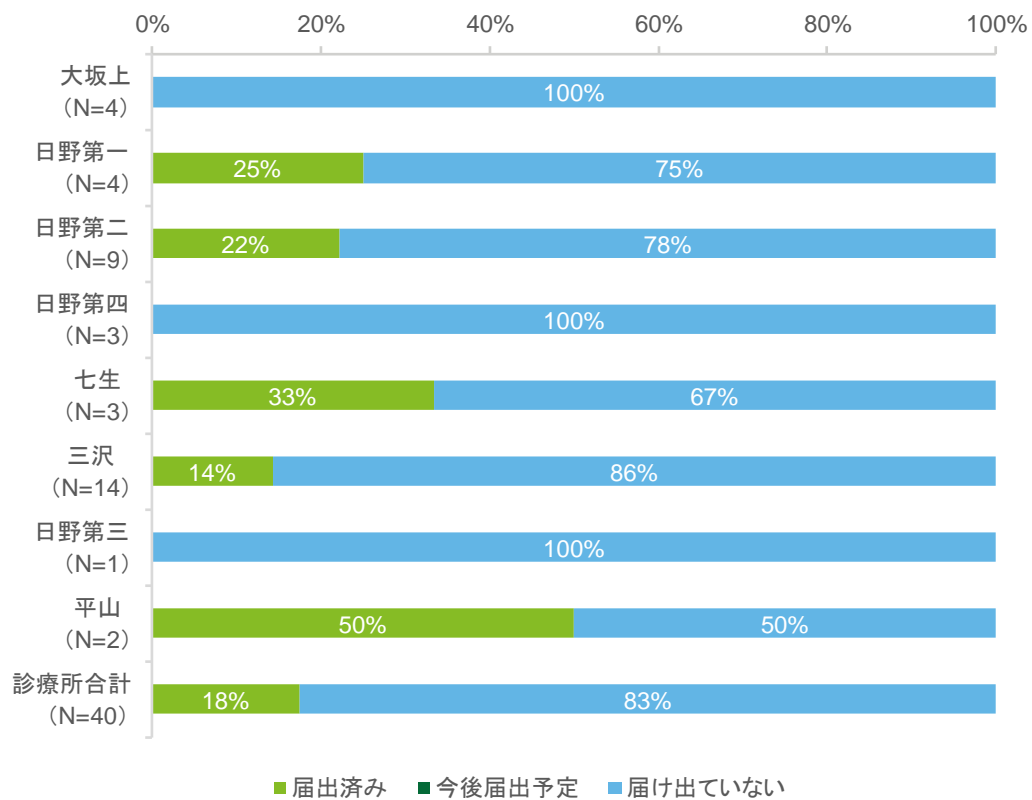


問5-4 在宅療養支援（歯科）診療所の届出状況を教えてください。  
（1つに○）

<診療所>

- 大坂上、日野第四及び日野第三で在宅療養支援診療所がない他は、概ね2割前後の割合で届け出ており、特に平山は回答した診療所の半数が届け出ている。

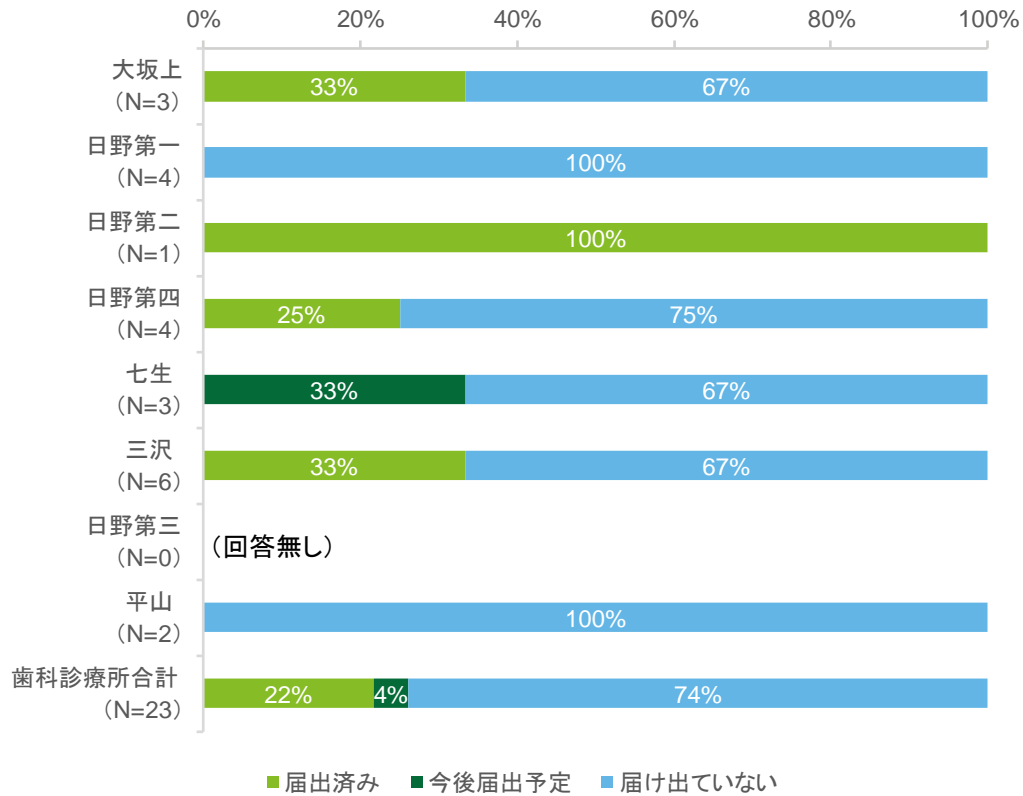
図表 3-96 在宅療養支援診療所への届出状況（診療所）



< 歯科診療所 >

- 日野第一及び平山で在宅療養支援診療所がない他は、概ね 2 割前後の割合で届け出ており、七生については 33%が今後届出予定となっている。
- 日野第二については、回答のあった 1 施設は届け出ている。

図表 3-97 在宅療養支援歯科診療所への届出状況（歯科診療所）

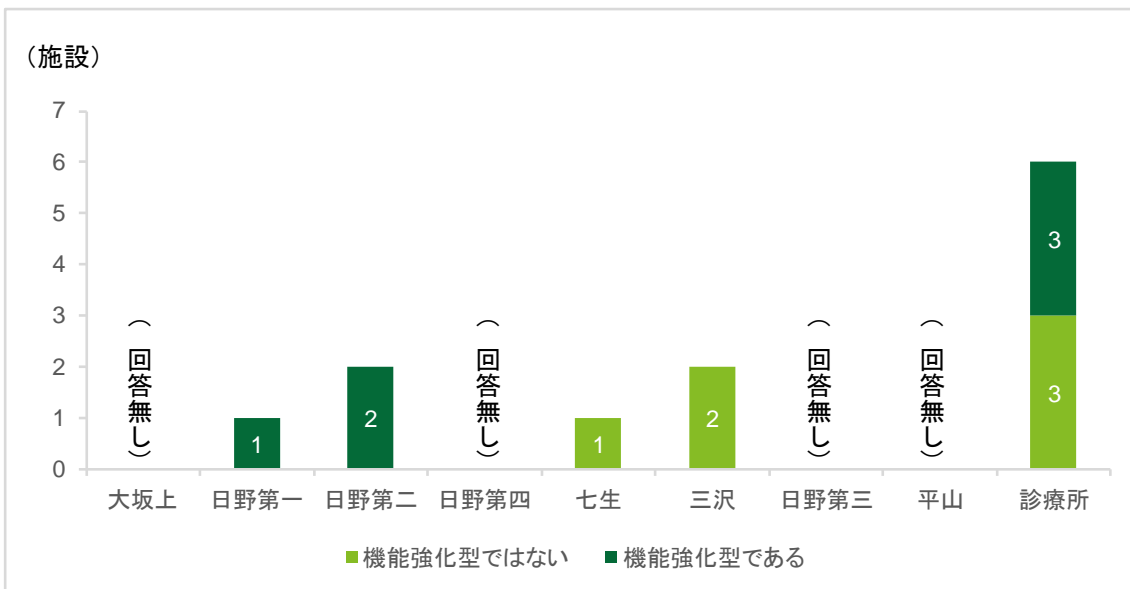


問5-5 貴院は機能強化型在宅療養支援診療所ですか。(1つに○)

<診療所>

- 半数の在宅療養支援診療所が機能強化型の指定となっている。
- 機能強化型であり複数の施設で連携している診療所に関しては、連携先としては、花輪病院、日野市立病院、もぐさの森ふれあいクリニック、あきしま相互病院、健生会診療所が挙げられており、連携内容としてはベッドの連携や緊急対応が挙げられていた。

図表 3-98 在宅療養支援診療所のうち機能強化型在宅療養支援診療所の数

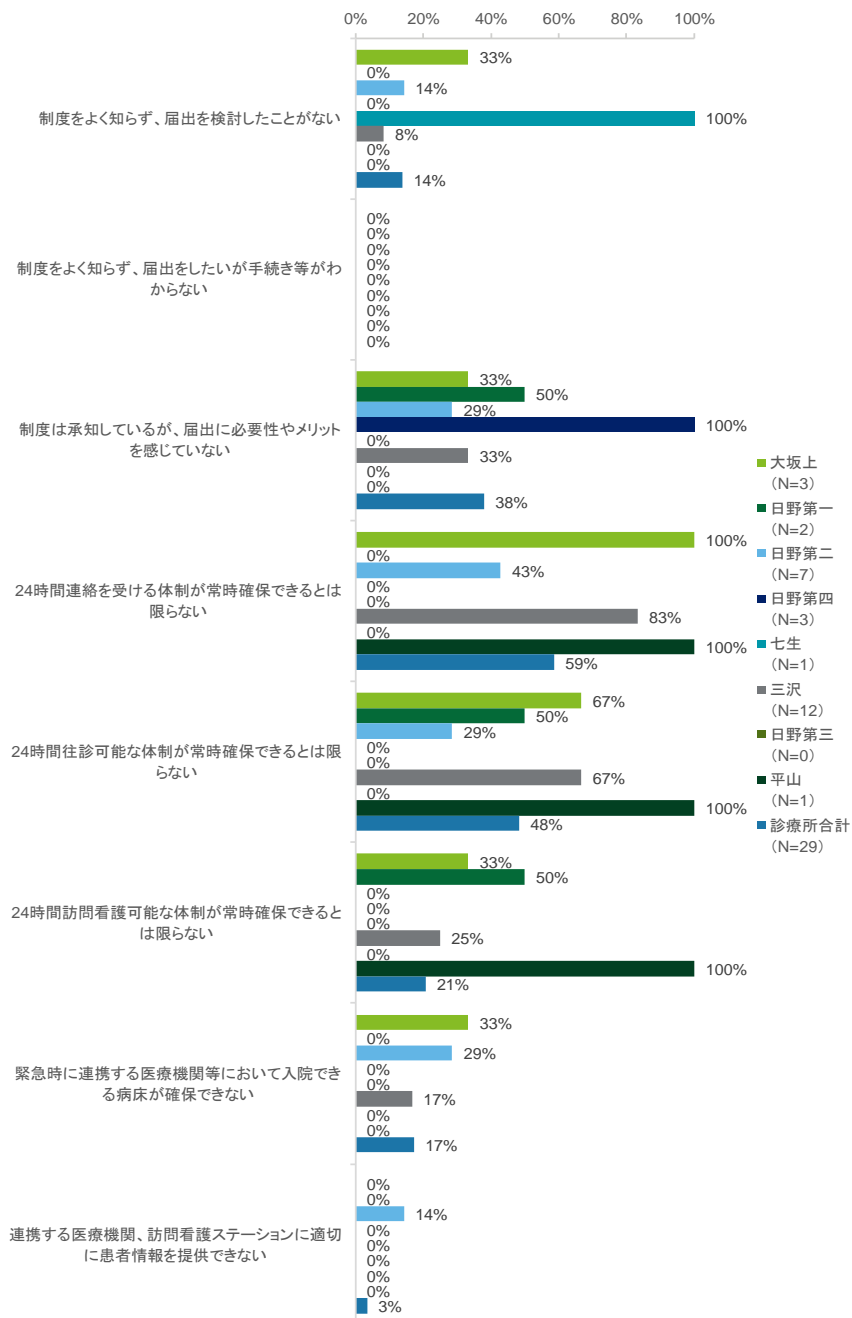


問5-6 在宅療養支援（歯科）診療所を届け出していない理由を教えてください。（3つまで○）

<診療所>

- 24時間対応への課題や届出の必要性メリットを感じていないことが多く挙げられている一方で、七生や大坂上は制度を知らないために、検討したことがないとの回答が多い。

図表 3-99 在宅療養支援診療所を届け出ない理由（診療所）



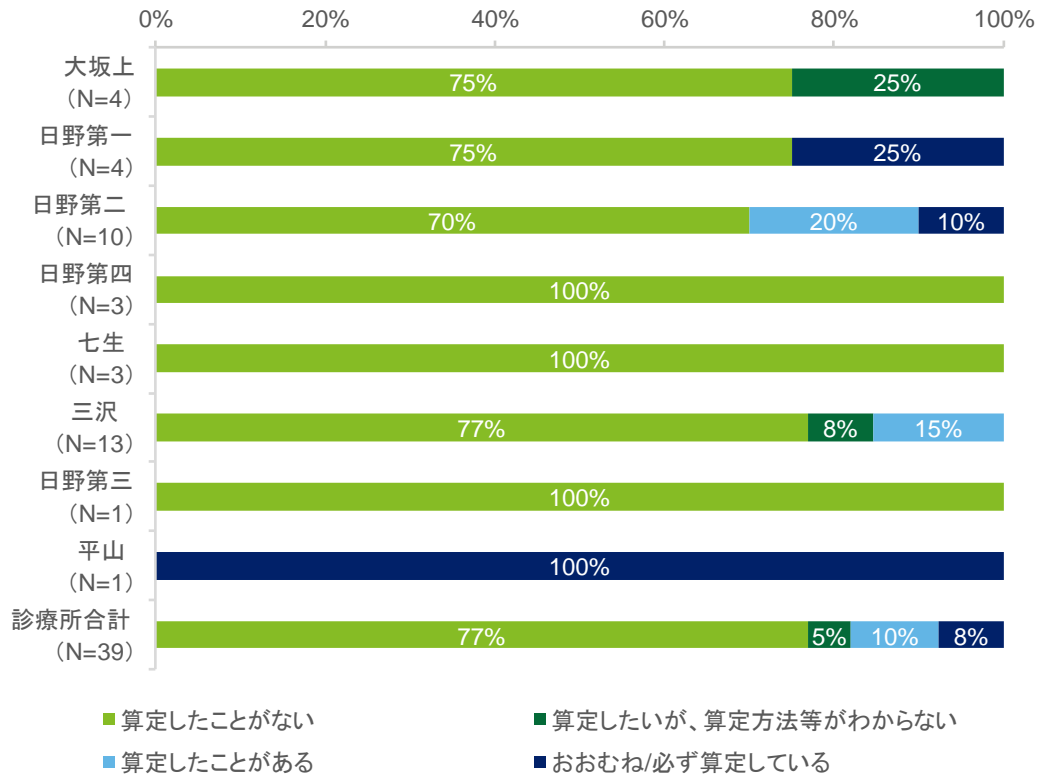


問5-7 居宅療養管理指導を算定されていますか。(1つに○)

<診療所>

- 算定したことがないとの回答が大半を占めており、平山のみが算定しているとの回答が多い。

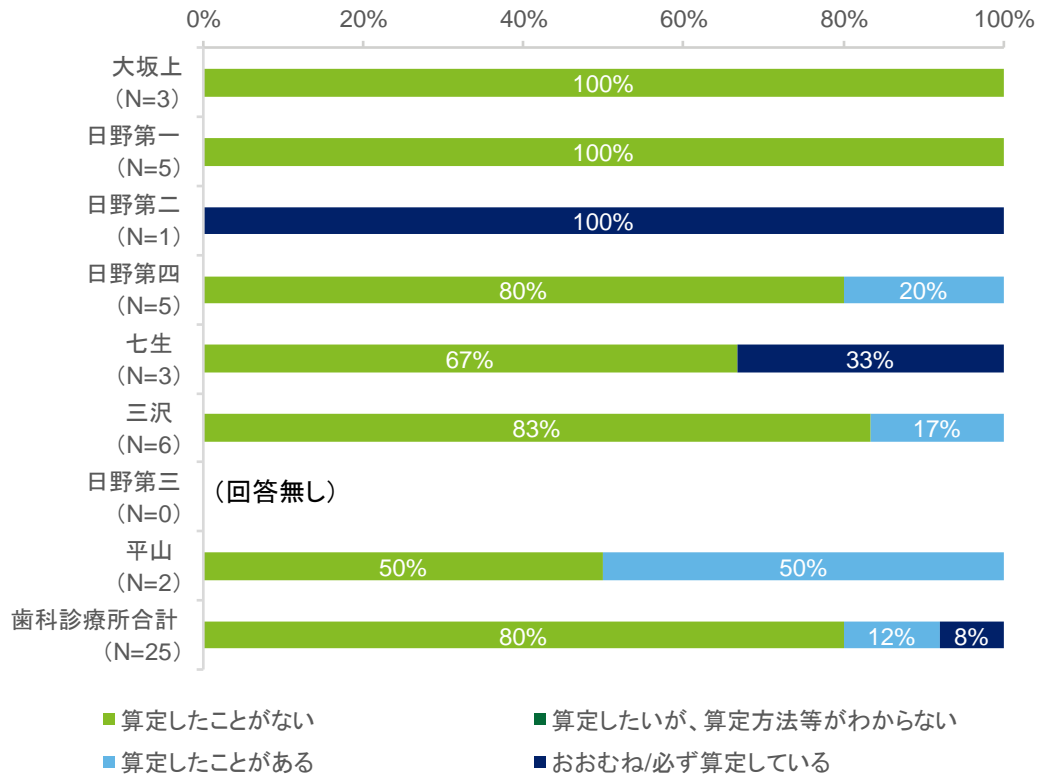
図表 3-101 居宅療養管理指導の算定状況（診療所）



< 歯科診療所 >

- 算定したことがないとの回答が大半を占めており、日野第二及び平山のみが算定しているとの回答が多い。

図表 3-102 居宅療養管理指導の算定状況（歯科診療所）



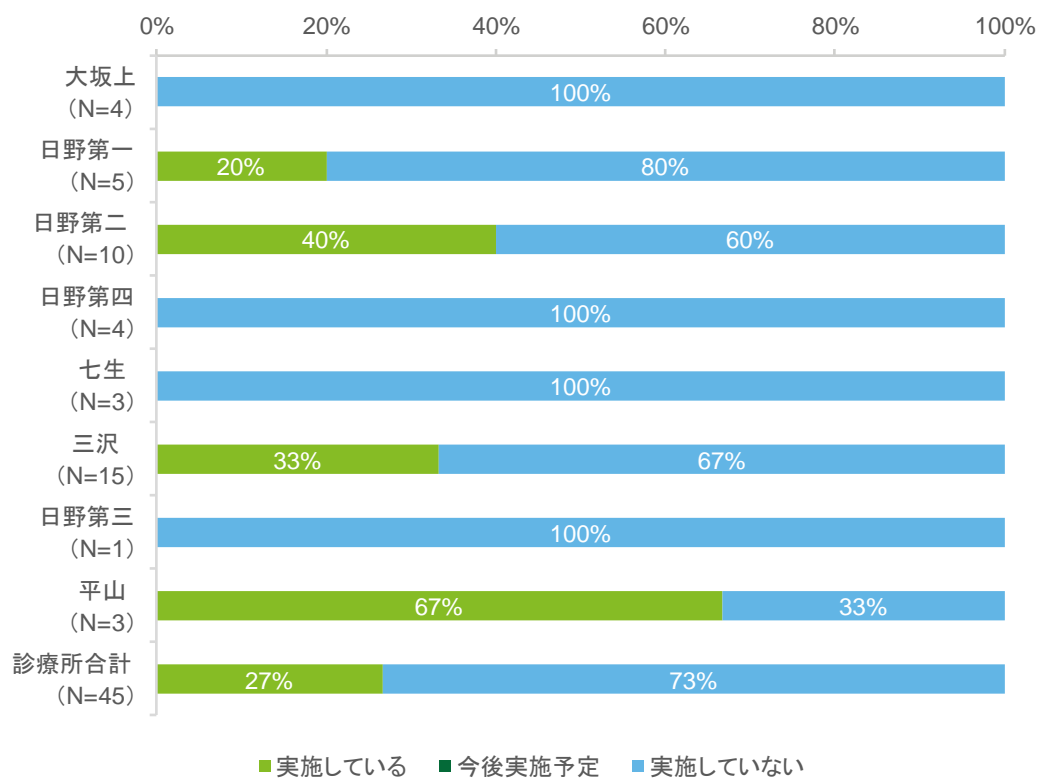
### 3.7 訪問診療の取組み状況

問6-1 貴院では訪問診療を実施していますか。(1つに○)

<診療所>

- 市全体として、訪問診療を実施している診療所は3割程度である。
- 中学校区別にみると、「実施している」との回答が多いのは平山(67%)、日野第二(40%)である。
- 一方で、大坂上、日野第四、七生、日野第三は、回答した診療所の全てが「実施していない」との回答であった。

図表 3-103 訪問診療の実施状況(診療所)

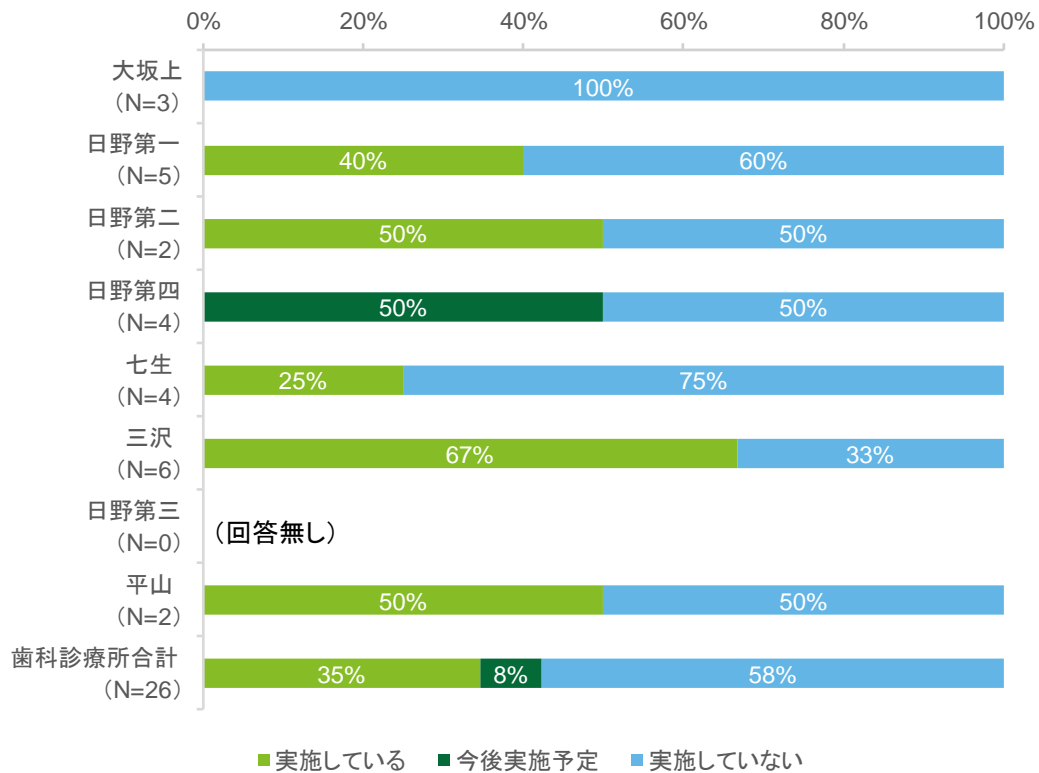




< 歯科診療所 >

- 市全体として、訪問診療を実施している又は今後実施予定の診療所は4割程度である。
- 中学校区別にみると、「実施している」との回答が多いのは三沢（67%）、日野第二（50%）、平山（50%）である。
- 今後実施予定も含めれば、大坂上以外は訪問診療を実施している歯科診療所があり、診療所と比較して地域差が小さい。

図表 3-104 訪問診療の実施状況（歯科診療所）

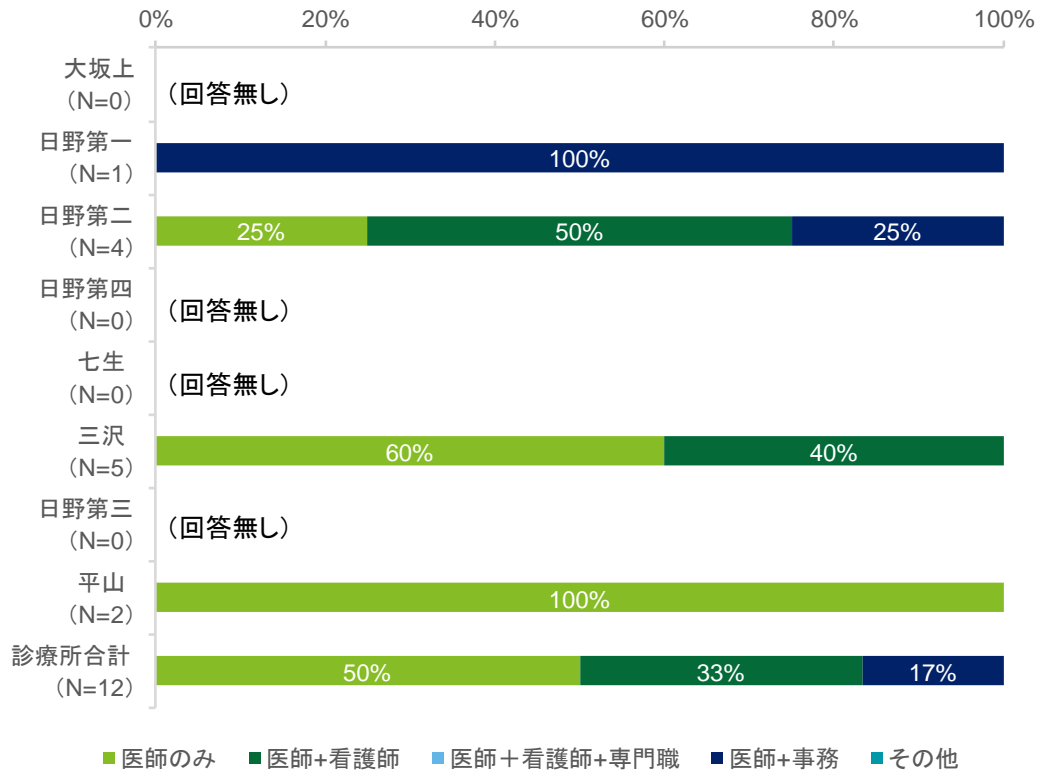


問6-2 訪問時のスタッフの体制を教えてください。(1つに○)

<診療所>

- 医師のみで訪問している診療所と、看護師等と連携を取り実施している診療所が半数ずつとなっている。

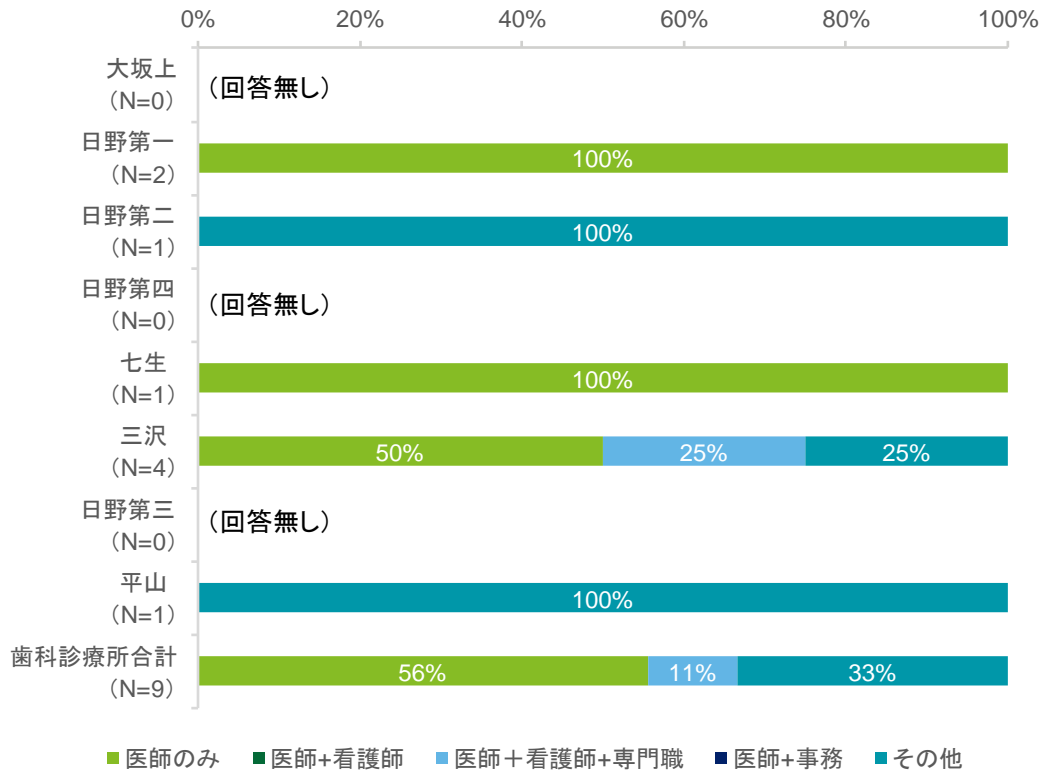
図表 3-105 訪問診療時のスタッフの体制 (診療所)



< 歯科診療所 >

- 医師のみで訪問している例が半数となっている。3割程度は「その他」として歯科衛生士と連携して実施していると回答していた。

図表 3-106 訪問診療時のスタッフの体制（歯科診療所）

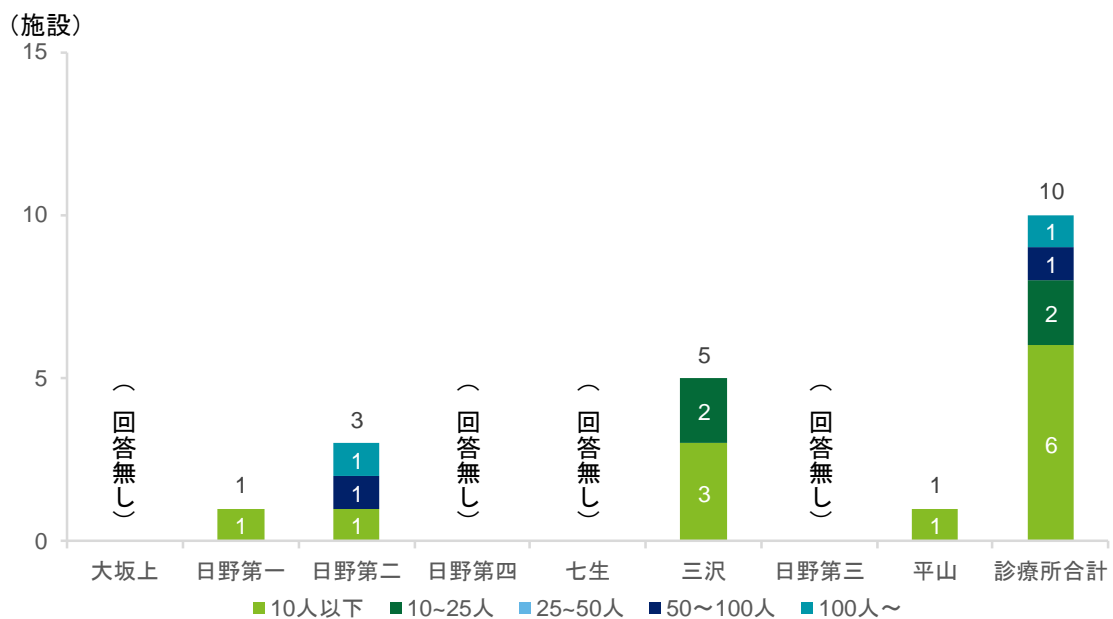


問6-3 貴院の訪問診療の受持ち患者数、施設数を教えてください。  
(数字を記入)

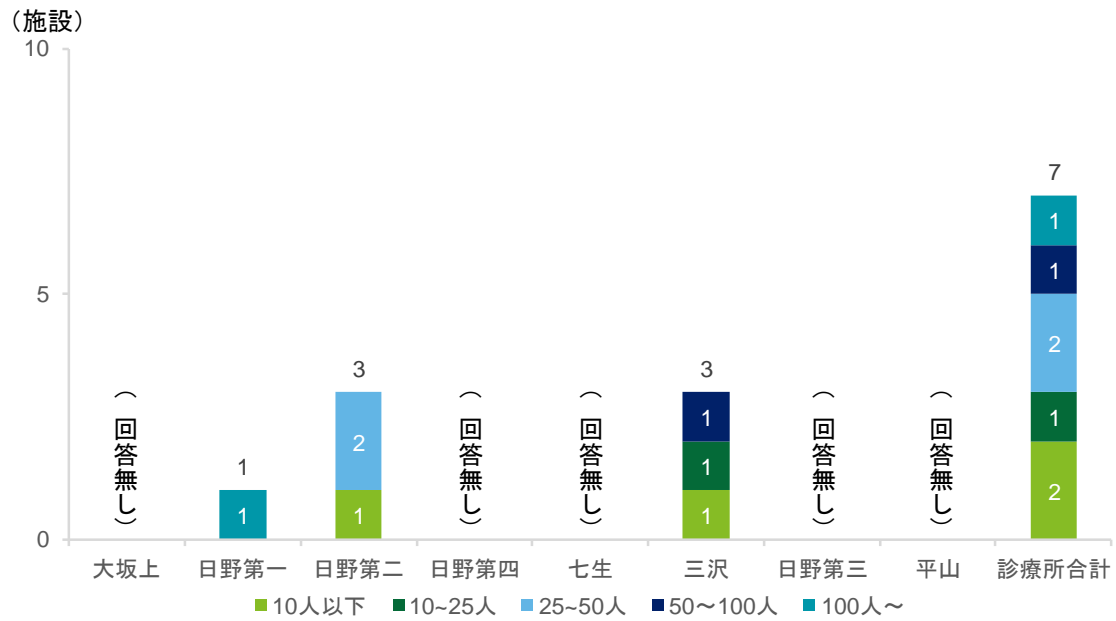
<診療所>

- 自宅訪問の受持ち患者数については、一部の診療所において50名以上、100名以上となっているが、多くは25人未満となっている。
- 施設訪問の受持ち患者数については、多くは25人以上となっている。受持ち施設数については、多くは5施設未満となっている。

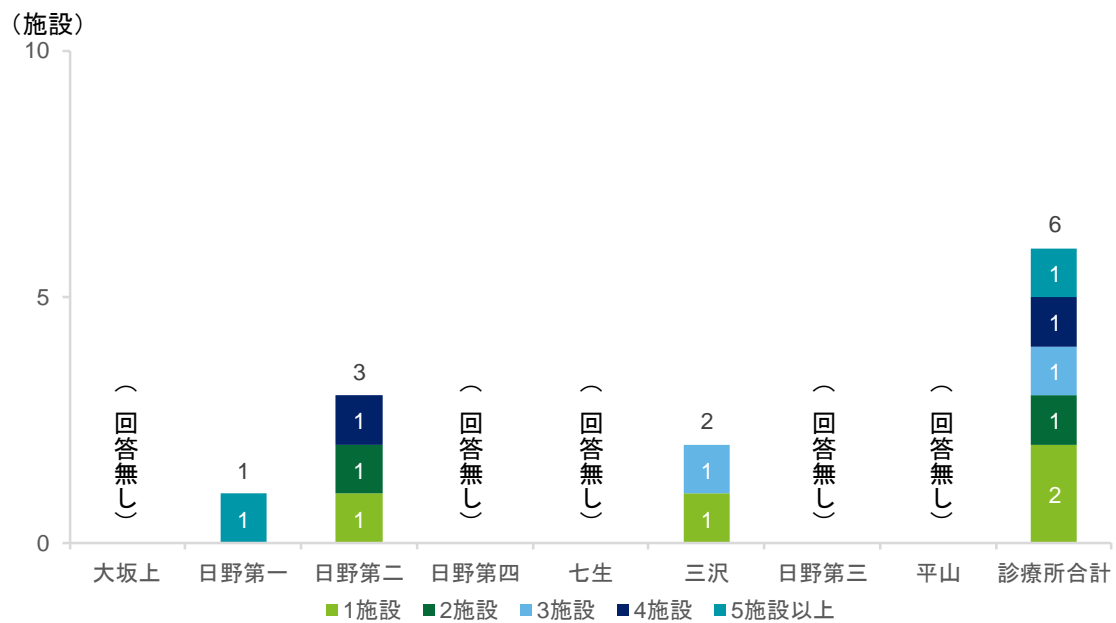
図表 3-107 1か月当たりの自宅訪問診療の受持ち患者数（診療所）



図表 3-108 1 か月当たりの施設訪問診療の受持ち患者数（診療所）



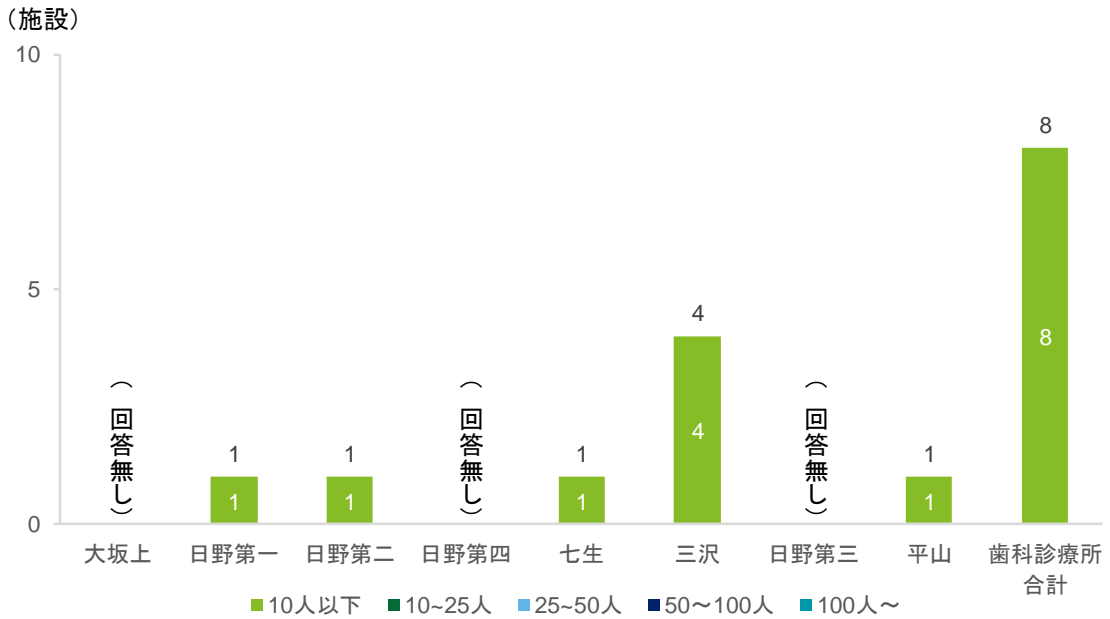
図表 3-109 1 か月当たりの施設訪問診療の受持ち施設数（診療所）



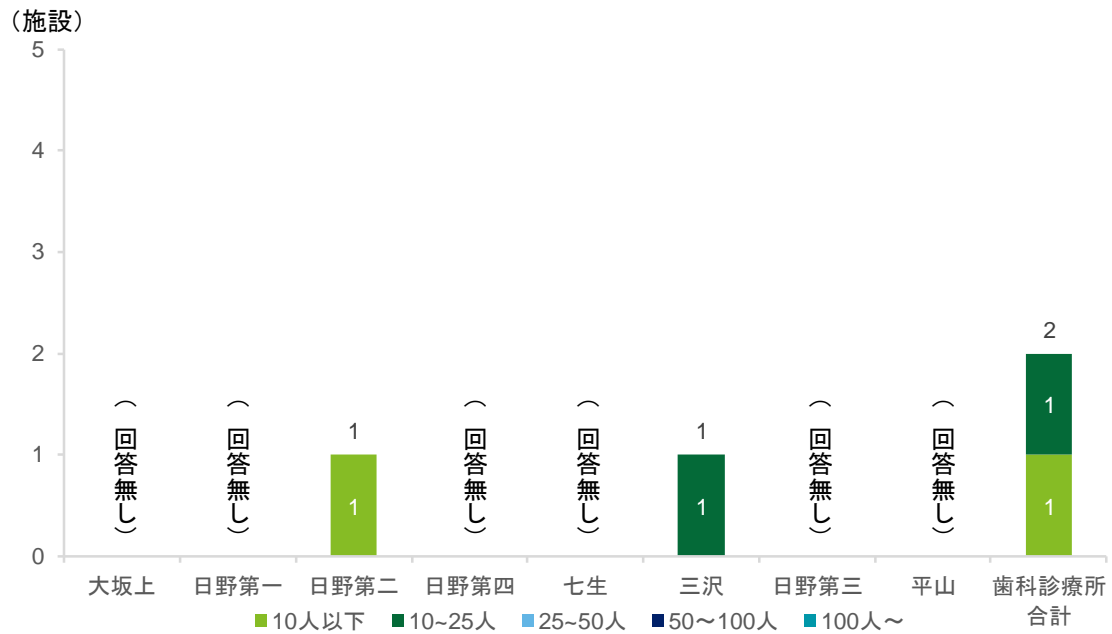
< 歯科診療所 >

- 自宅訪問の受持ち患者数については、いずれの歯科診療所においても 10 人以下となっている。
- 施設訪問については、実施している歯科診療所は 2 か所のみであり、いずれも患者数 25 人以下、施設数 3 施設以下となっている。

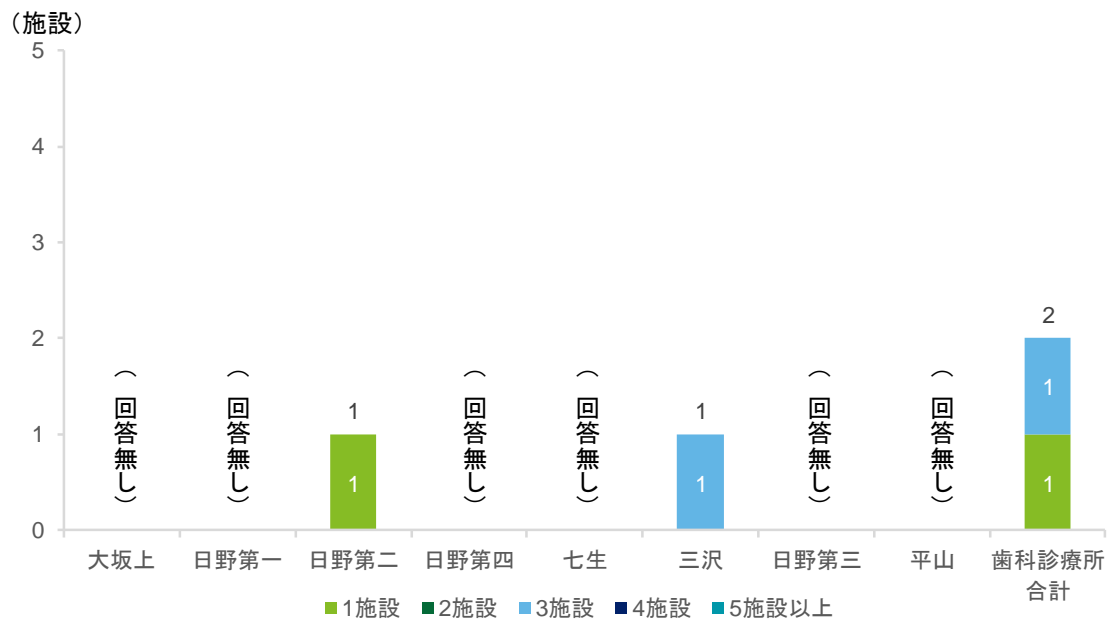
図表 3-110 1 か月当たりの自宅訪問診療の受持ち患者数（歯科診療所）



図表 3-111 1 か月当たりの施設訪問診療の受持ち患者数（歯科診療所）



図表 3-112 1 か月あたりの施設訪問診療の受持ち施設数（歯科診療所）

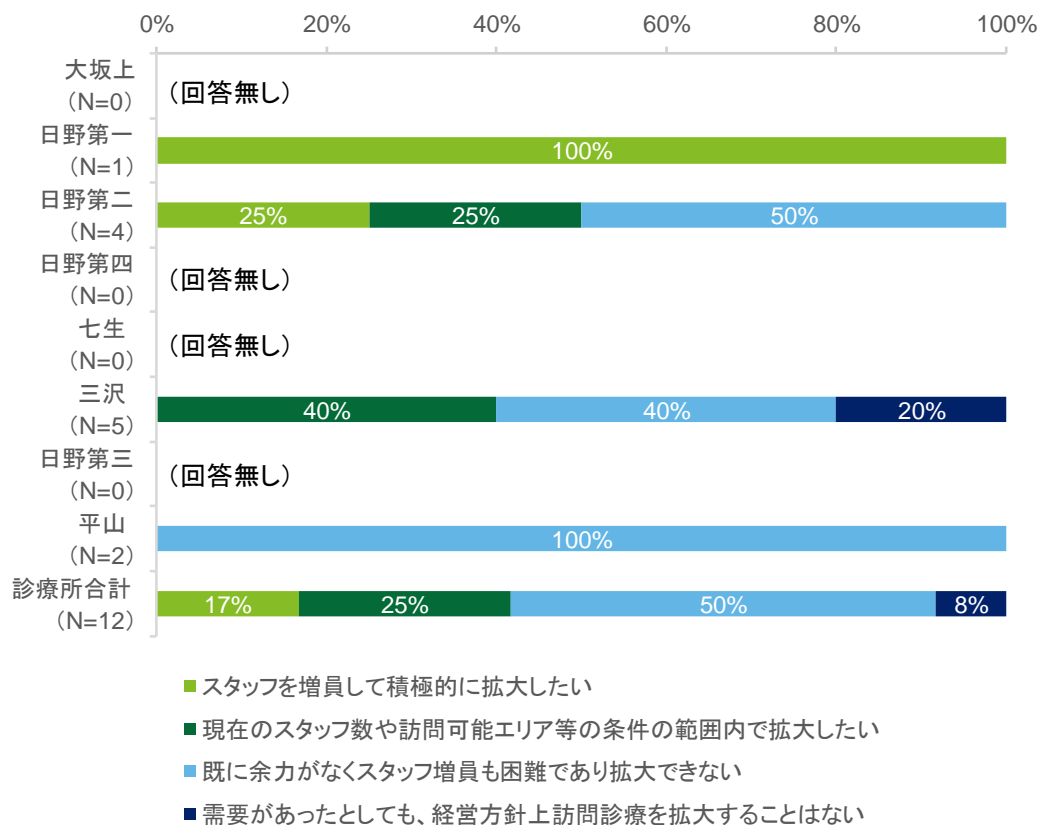


問6-4 今後需要があれば、貴院での訪問診療を拡大することは可能ですか。(1つに○)

<診療所>

- 市全体としては、「既に余力がなくスタッフ増員も困難であり拡大できない」との回答が半数を占めている。
- 中学校区別にみると、「スタッフを増員して積極的に拡大したい」との回答があるのが、日野第一（100%）、日野第二（25%）であり、「現在のスタッフ数や訪問可能エリア等の条件の範囲内で拡大したい」との回答があるのが、三沢（40%）日野第二（25%）である。

図表 3-113 訪問診療を拡大することへの意向（診療所）

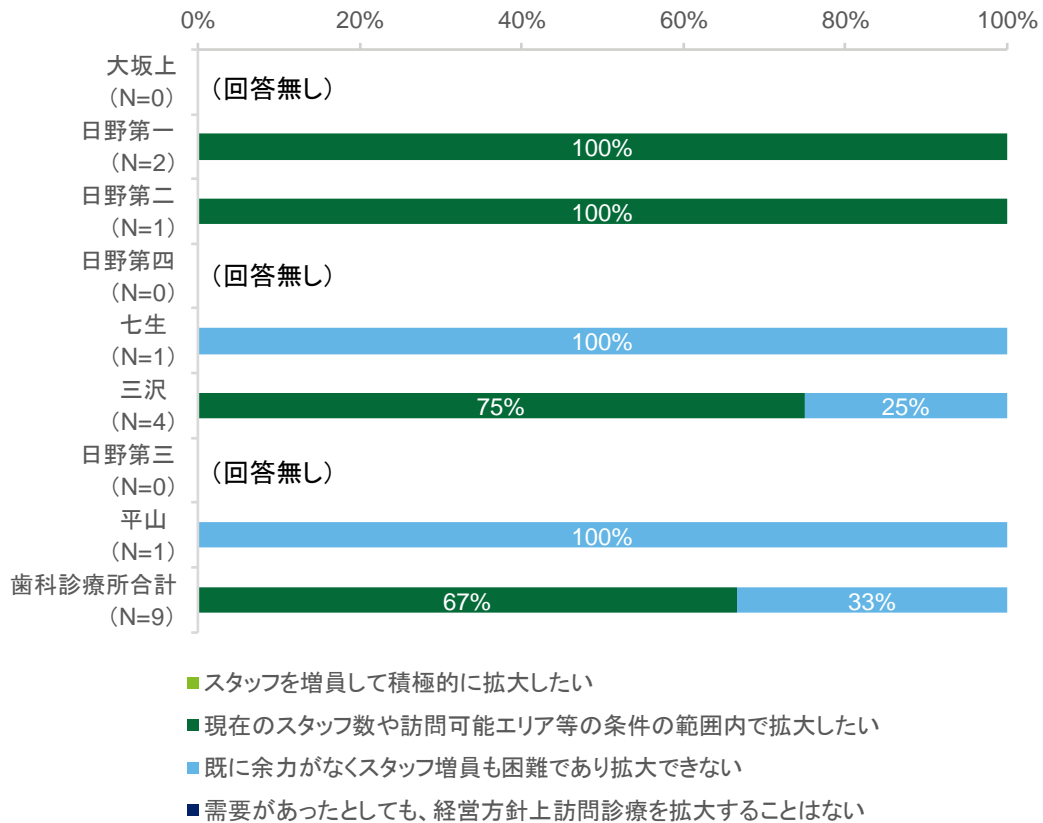




< 歯科診療所 >

- 市全体として、「現在のスタッフ数や訪問可能エリア等の条件の範囲内で拡大したい」が67%、「既に余力がなくスタッフ増員も困難であり拡大できない」が33%となっており、スタッフを増員してまで積極的に行う意向のある歯科診療所はなかった。

図表 3-114 訪問診療を拡大することへの意向（歯科診療所）

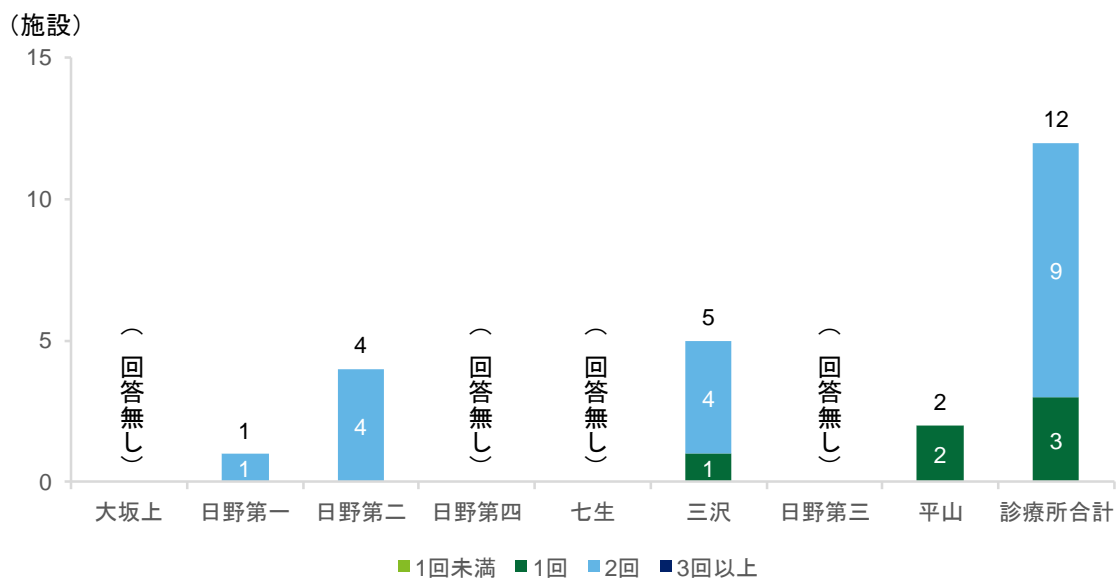


問6-5 貴院の患者1人当たりの平均的な訪問回数を教えてください。  
(数字を記入)

<診療所>

- 多くの診療所が1か月に2回以上訪問しているが、三沢の1診療所と平山の2診療所は1か月に1回の訪問と回答していた。

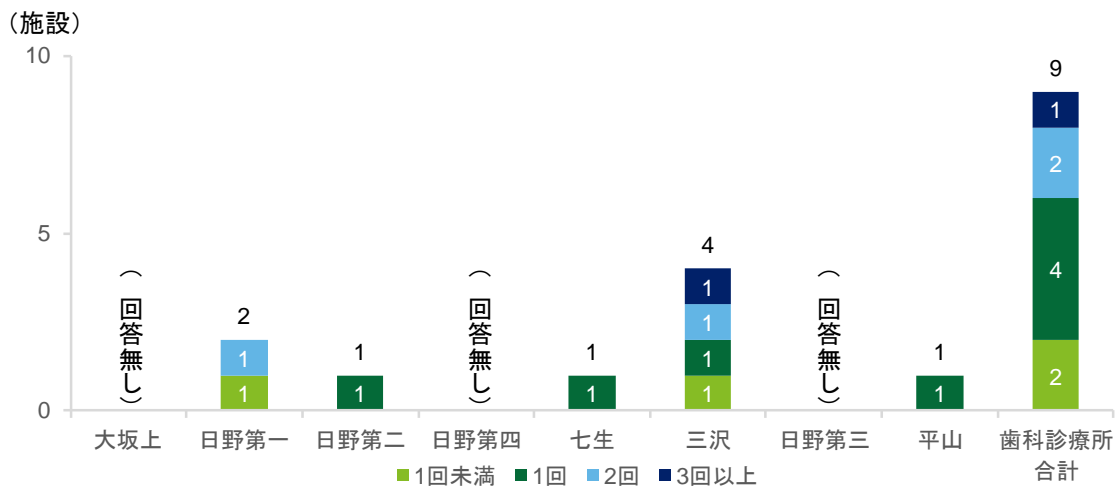
図表 3-115 1か月の患者1人当たりの平均訪問回数（診療所）



<歯科診療所>

- 多くの歯科診療所は1か月に2回未満の訪問である。

図表 3-116 1か月の患者1人当たりの平均訪問回数（歯科診療所）

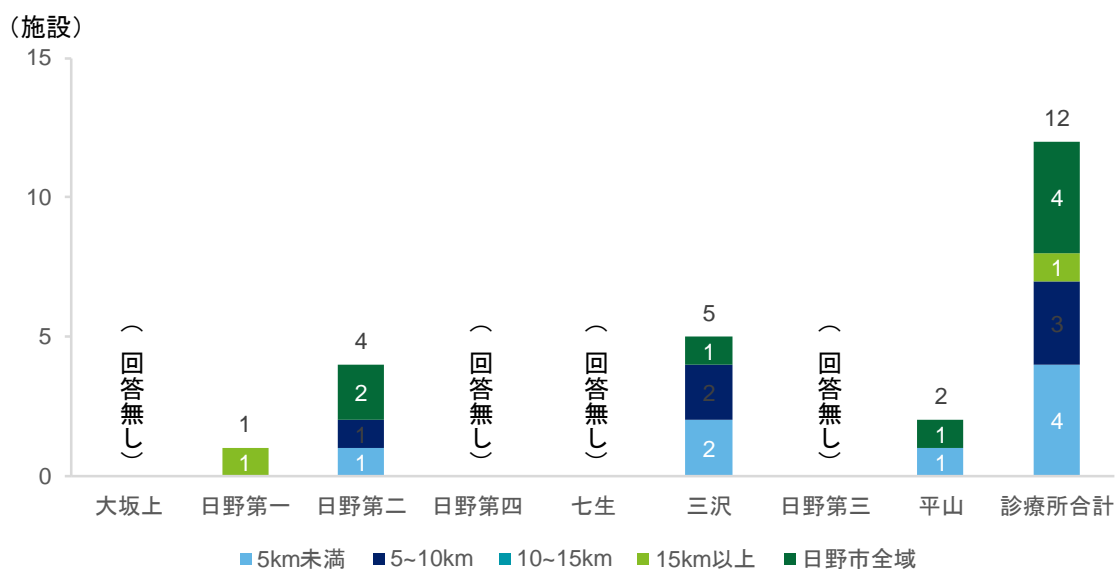


問6-6 貴院で訪問診療が提供可能な範囲を教えてください。  
(数字を記入)

<診療所>

- 「日野市全域」が提供可能と回答している診療所があるのは、日野第二（2診療所）、三沢（1診療所）、平山（1診療所）である。
- また、15km以上と回答していた診療所があるのは日野第一（1診療所）である。

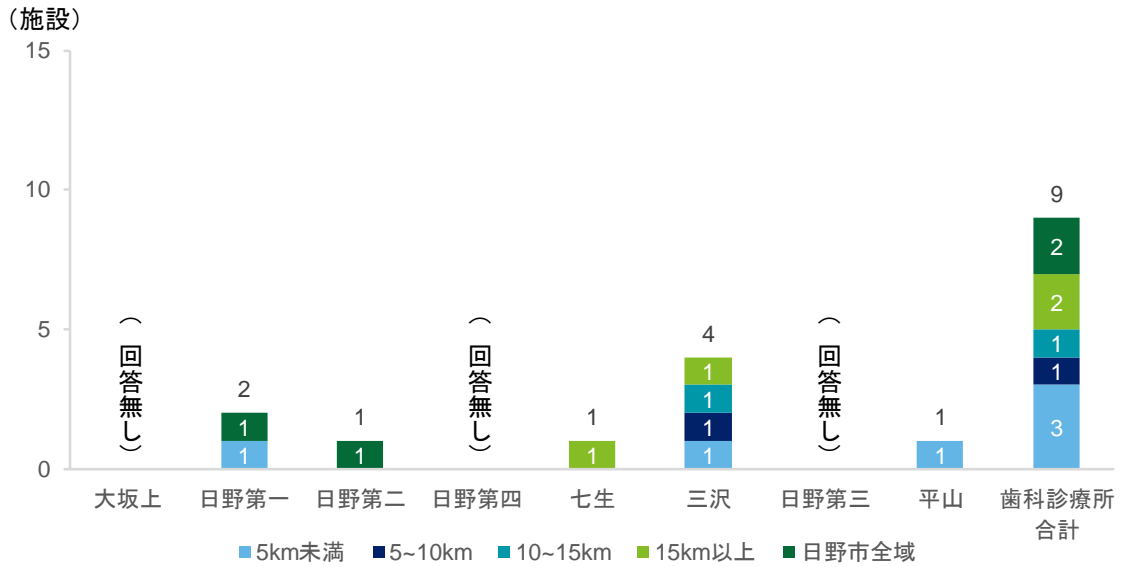
図表 3-117 訪問診療が提供可能な範囲（診療所）



< 歯科診療所 >

- 「日野市全域」が提供可能と回答している診療所があるのは、日野第一（1診療所）、日野第二（1診療所）である。
- また、15km以上と回答していた診療所があるのは七生（1診療所）、三沢（1診療所）である。

図表 3-118 訪問診療が提供可能な範囲（歯科診療所）



問6-7 訪問診療の実施上の困難・不安、または訪問診療を実施していない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

<診療所>

- 市全体して、「夜間や休日の対応が困難」との回答が多く(68%)、次いで「スタッフの確保が困難」(50%)、「容態急変時の対応が困難」(50%)との回答が多くなっている。
- 中学校区別にみると、大坂上では「専門外の疾患の管理が困難」(100%)が多く、日野第四では「肉体的な負担が大きい」(100%)が多く、七生では「診察や検査の内容が限られてしまう」(100%)が多かった。

図表 3-119 訪問診療実施上の困難・不安や、訪問診療を実施していない理由(診療所)

	1位												2位	
	夜間や休日の対応が困難	診察や検査の内容が限られてしまう	専門外の疾患の管理が困難	容態急変時の対応が困難	肉体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	スタッフの確保が困難	患者宅への移動が困難	訪問時に駐車する場所の確保が困難	他の関係者との連携が困難	採算が取れない	その他	特にない	
大坂上	75%	50%	100%	25%	25%	25%	75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
日野第一	75%	25%	0%	25%	0%	0%	50%	25%	0%	0%	50%	25%	0%	
日野第二	67%	22%	11%	56%	44%	22%	67%	0%	11%	0%	11%	11%	11%	
日野第四	67%	67%	33%	33%	100%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	
七生	67%	100%	33%	67%	33%	33%	67%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	
三沢	69%	23%	46%	54%	46%	23%	31%	8%	0%	8%	8%	23%	8%	
日野第三	100%	0%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
平山	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	
診療所合計	68%	34%	37%	50%	42%	21%	50%	8%	8%	3%	13%	16%	5%	

< 歯科診療所 >

- 市全体でみると「診察や検査の内容が限られてしまう」との回答が多く（60%）、次いで「夜間や休日の対応が困難」（52%）との回答が多い。
- 診療所と同様に「夜間や休日の対応が困難」、「スタッフの確保が困難」などの回答が多い一方で、「容態急変時の対応が困難」との回答は少ない（20%）。

図表 3-120 訪問診療実施上の困難・不安や、訪問診療を実施していない理由  
(歯科診療所)

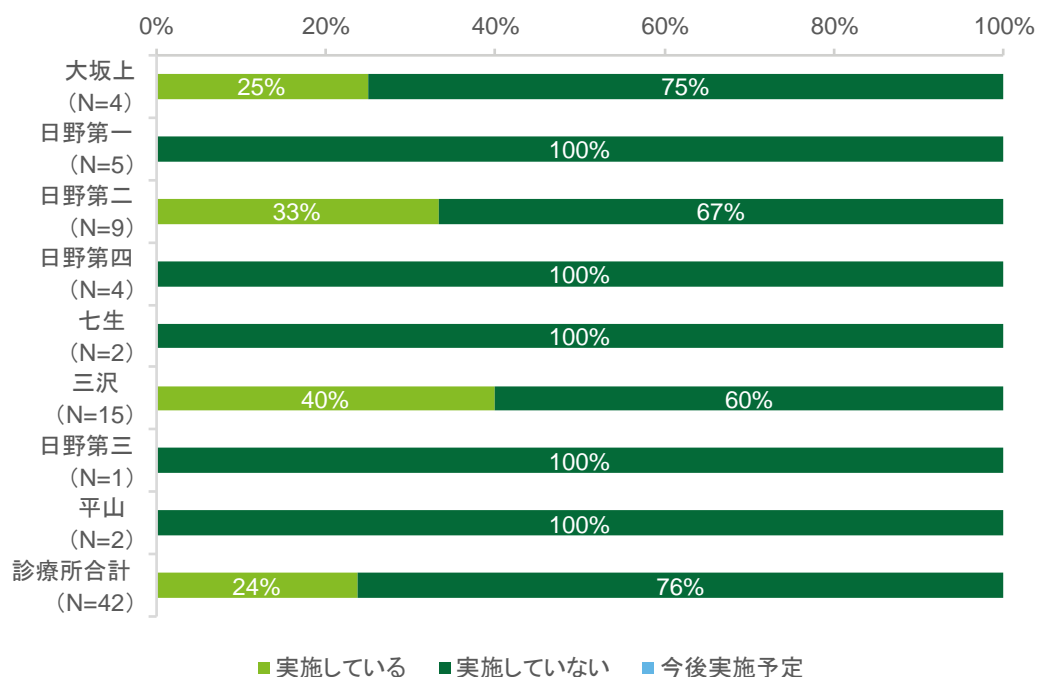
	1位												2位
	夜間や休日の対応が困難	診察や検査の内容が限られてしまう	専門外の疾患の管理が困難	容態急変時の対応が困難	肉体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	スタッフの確保が困難	患者宅への移動が困難	訪問時に駐車する場所の確保が困難	他の関係者との連携が困難	採算が取れない	その他	特になし
大坂上	67%	33%	67%	67%	67%	33%	67%	67%	33%	67%	33%	0%	0%
日野第一	80%	80%	20%	20%	40%	40%	40%	20%	0%	20%	40%	40%	0%
日野第二	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
日野第四	25%	75%	50%	25%	50%	50%	50%	25%	0%	0%	0%	0%	0%
七生	75%	50%	0%	25%	50%	25%	25%	25%	25%	25%	0%	0%	0%
三沢	17%	67%	17%	0%	50%	0%	17%	0%	33%	17%	17%	0%	0%
日野第三	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
平山	50%	50%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
歯科診療 所合計	52%	60%	24%	20%	48%	24%	40%	20%	16%	20%	16%	8%	0%

### 3.8 往診の取組み状況

問 7-1 貴院では往診を実施していますか。(1つに○)

- 市全体として、往診を実施している診療所は2割程度である。
- 日野第一、日野第四、七生、日野第三、平山は回答のあった診療所全てが往診を実施していない。
- 訪問診療と同様に、往診を実施している診療所がある校区とない校区が半数程度となっているが、訪問診療を実施していないが往診は実施している診療所や、訪問診療は実施しているが往診は実施していない診療所が存在する。

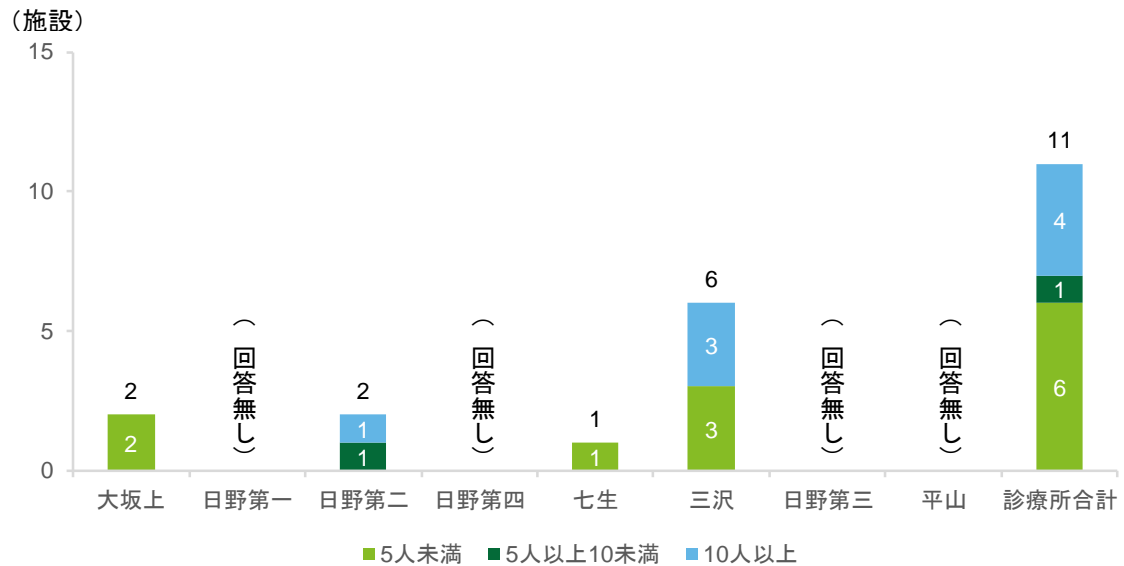
図表 3-121 往診の実施状況（診療所）



問7-2 貴院の往診患者数を教えてください。(数字を記入)

- 往診の患者数は5人未満が半数を占めるが、10人以上対応している診療所も多い。

図表 3-122 1か月の往診患者数 (診療所)

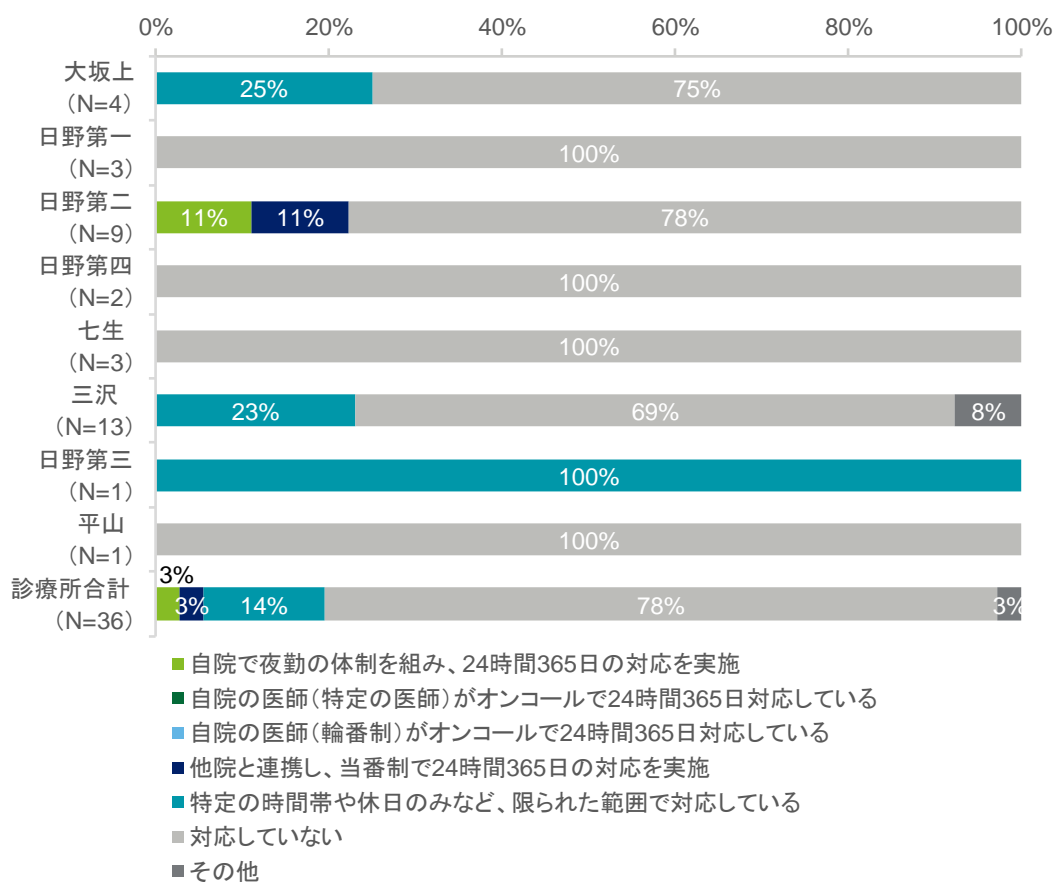




問 7 - 3 貴院では診療時間外に患者からの急な呼び出しに対応していますか。(1つに○)

- 市全体として、診療時間外に患者からの急な呼び出しに対応しているのは2割程度である。
- 対応していると回答した診療所のうち、24時間365日対応しているのは日野第二の1診療所のみであり、他は限られた範囲での対応となっている。

図表 3-123 診療時間外の患者からの急な呼び出しへの対応（診療所）



問7-4 往診の実施上の困難・不安、または往診を実施していない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 市全体として、「夜間や休日の対応が困難」が最も多く（74%）、次いで「診察や検査の内容が限られてしまう」が多い（53%）。
- 訪問診療よりも往診の方が「夜間や休日の対応が困難」「診察や検査の内容が限られてしまう」との回答が多い傾向にある。

図表 3-124 往診実施上の困難・不安や、往診を実施していない理由（診療所）

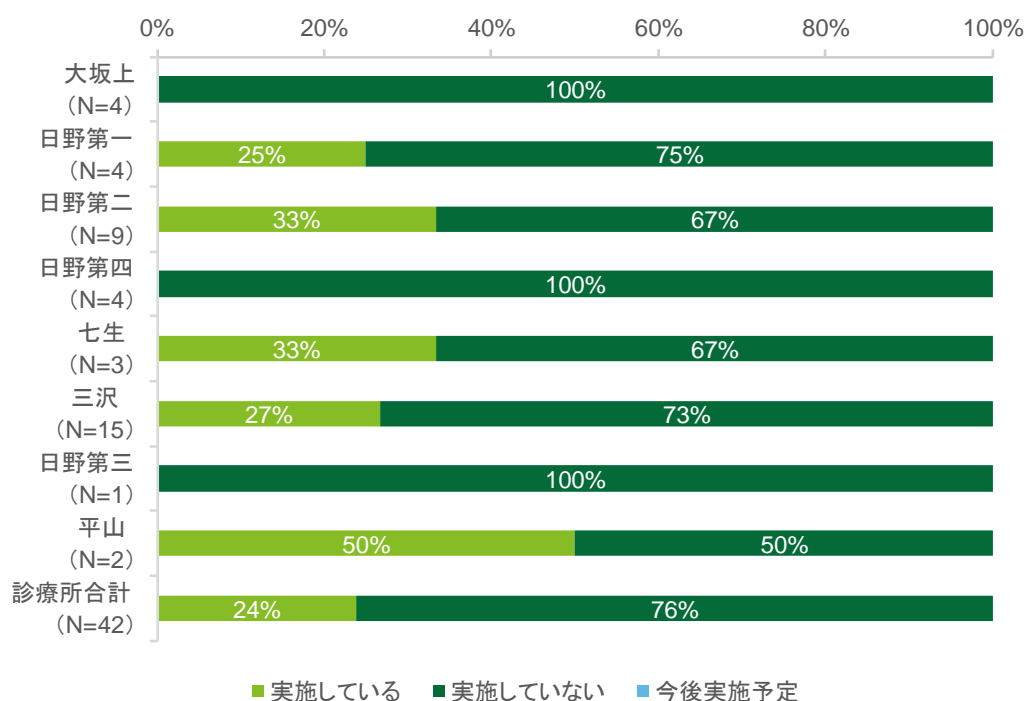
	1位												2位	特 に ない
	夜間や休日の対応が困難	診察や検査の内容が限られてしまう	専門外の疾患の管理が困難	容態急変時の対応が困難	肉体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	スタッフの確保が困難	患者宅への移動が困難	訪問時に駐車する場所の確保が困難	他の関係者との連携が困難	採算が取れない	その他		
大坂上	100%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	
日野第一	67%	33%	0%	33%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	33%	33%	0%	
日野第二	100%	44%	22%	56%	44%	22%	44%	11%	11%	0%	11%	11%	0%	
日野第四	33%	67%	33%	0%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	
七生	67%	100%	33%	67%	33%	33%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	
三沢	69%	46%	54%	54%	54%	31%	54%	8%	0%	15%	15%	15%	0%	
日野第三	100%	0%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
平山	0%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	
診療所 合計	74%	53%	38%	50%	44%	24%	47%	15%	9%	6%	15%	12%	0%	

### 3.9 看取りの取組み状況

問 8 - 1 貴院では在宅看取りを実施していますか。(1つに○)

- 市全体として、在宅看取りを実施している診療所は 24%である。
- 在宅看取りを実施している診療所のある校区の方が多いものの、大坂上、日野第四、日野第三では「実施していない」との回答のみである。

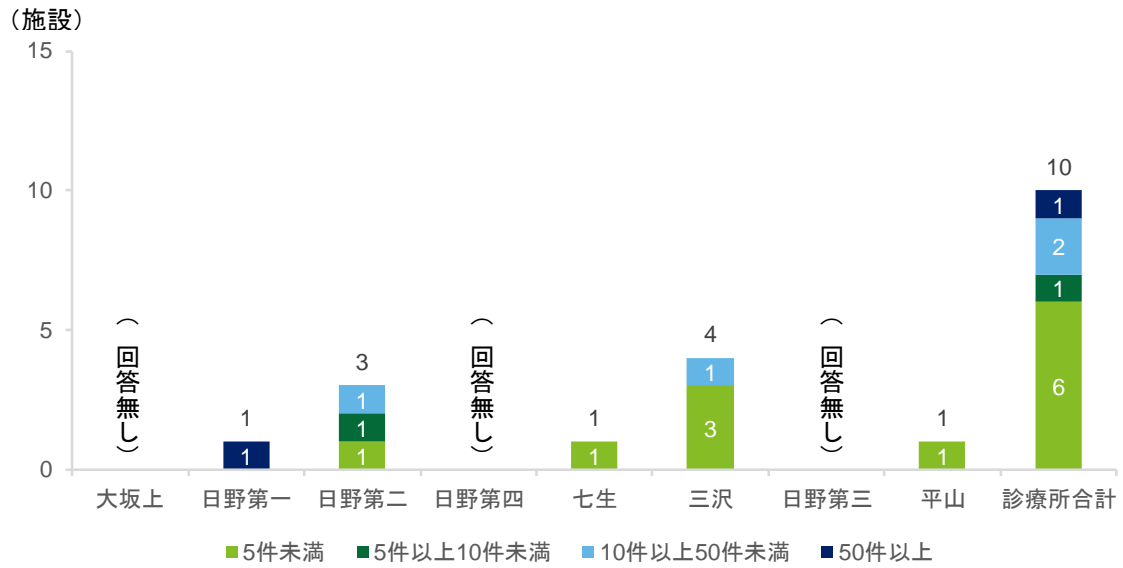
図表 3-125 在宅看取りの実施状況（診療所）



問 8 - 2 貴院での直近 1 年間の在宅看取り件数を教えてください。  
(数字を記入)

- 日野第一の診療所の在宅看取りの件数が 50 件を超えている以外は、概ね 10 件程度となっている。

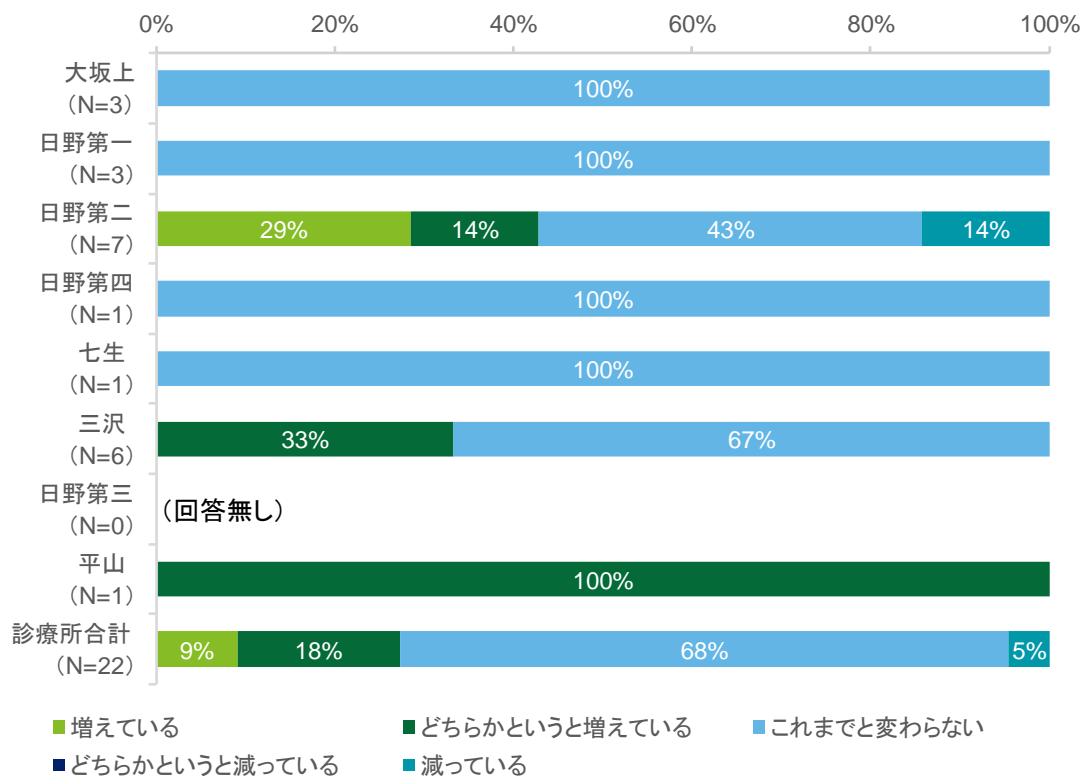
図表 3-126 1 年間の在宅看取り件数 (診療所)



問 8 - 3 5年前と比較した在宅看取り希望件数の傾向を教えてください。  
(1つに○)

- 市全体として、「これまでと変わらない」という回答が最も多い。
- 中学校区別にみると、「増えている」、「どちらかという増えている」との回答があったのは、平山（100%）、日野第二（43%）、三沢（33%）のみであり、「どちらかという減っている」、「減っている」との回答があったのは、日野第二（14%）のみである。

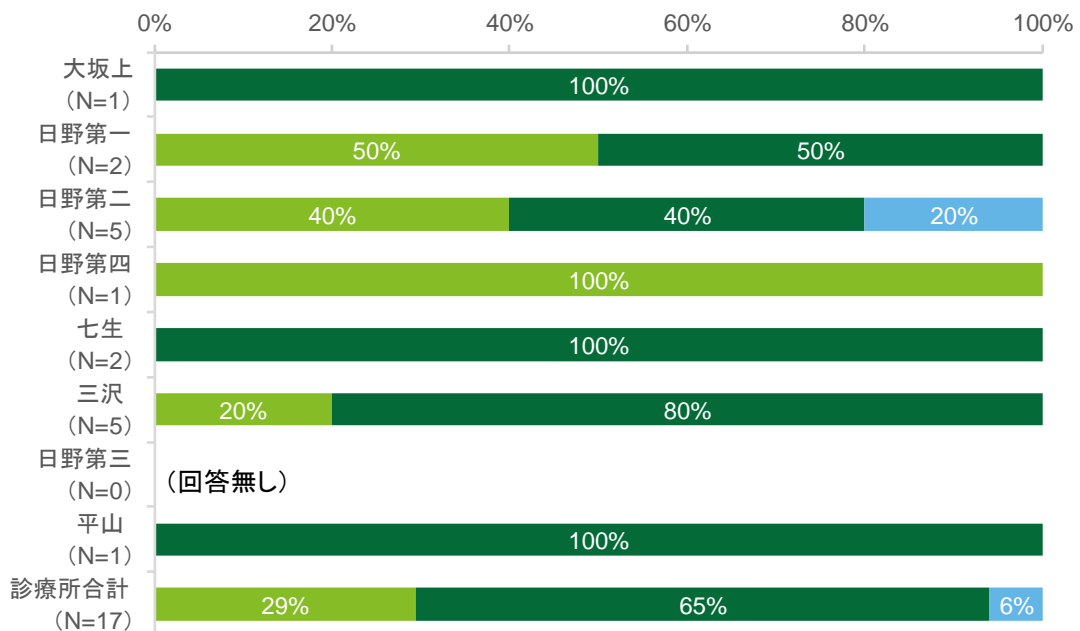
図表 3-127 在宅看取り件数の傾向（診療所）



問 8 - 4 貴院での在宅看取りに関する対応方針を教えてください。  
(1つに○)

- 市全体として、「本人や家族の明確な希望があれば対応している」という回答が最も多い。
- 中学校区別にみると、「積極的に推奨している」との回答が多かったのは、日野第四（100%）、日野第一（50%）、である。
- 一方で、「在宅等での看取りには反対である」との回答があったのは、日野第二（20%）のみである。

図表 3-128 在宅看取りに関する対応方針（診療所）



- 本人や家族の不安を踏まえた説明やサポートを行う等、積極的に推奨している
- 本人や家族の明確な希望があれば対応している
- 本人や家族の明確な希望があれば対応しているが、在宅等での看取りには反対である

問8-5 在宅看取りの実施上の困難・不安、または在宅看取りを実施していない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 訪問診療や往診と同様に「夜間や休日の対応が困難」との回答が多い(74%)。
- 次いで「スタッフの確保が困難」との回答が多くなっている(56%)。

図表 3-129 在宅看取り実施上の困難・不安や、在宅看取りを実施していない理由(診療所)

	1位									2位
	夜間や休日の対応が困難	肉体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	スタッフの確保が困難	患者宅への移動が困難	訪問時に駐車する場所の確保が困難	他の関係者との連携が困難	採算が取れない	訪問診療や往診を実施していないため、在宅看取りも対応していない	その他
大坂上	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
日野第一	100%	33%	0%	100%	33%	0%	0%	33%	0%	0%
日野第二	80%	30%	30%	60%	0%	10%	0%	10%	50%	20%
日野第四	33%	67%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	33%	33%
七生	100%	100%	100%	100%	50%	50%	50%	0%	50%	0%
三沢	77%	62%	46%	38%	15%	8%	15%	15%	38%	8%
日野第三	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
平山	0%	0%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	100%	0%
診療所合計	74%	50%	35%	56%	15%	9%	12%	12%	41%	15%

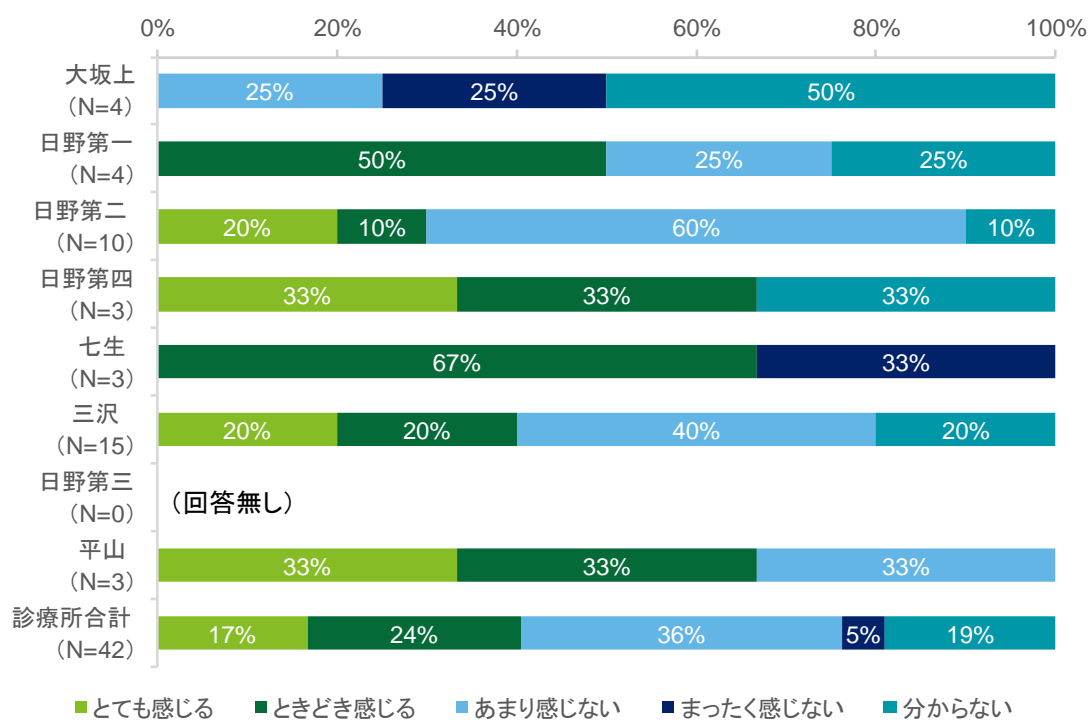
### 3.10在宅療養への意見

問9-1 この数年で、介護職との連携が取りやすくなったと感じますか。  
(1つに○)

<診療所>

- 介護職との連携については地域差が大きく、大坂上や日野第二では連携が進んでいると感じている診療所が少ない一方で、日野第四、七生、平山では連携が進んでいると感じる割合が高い。

図表 3-130 介護職との連携改善の認識（診療所）

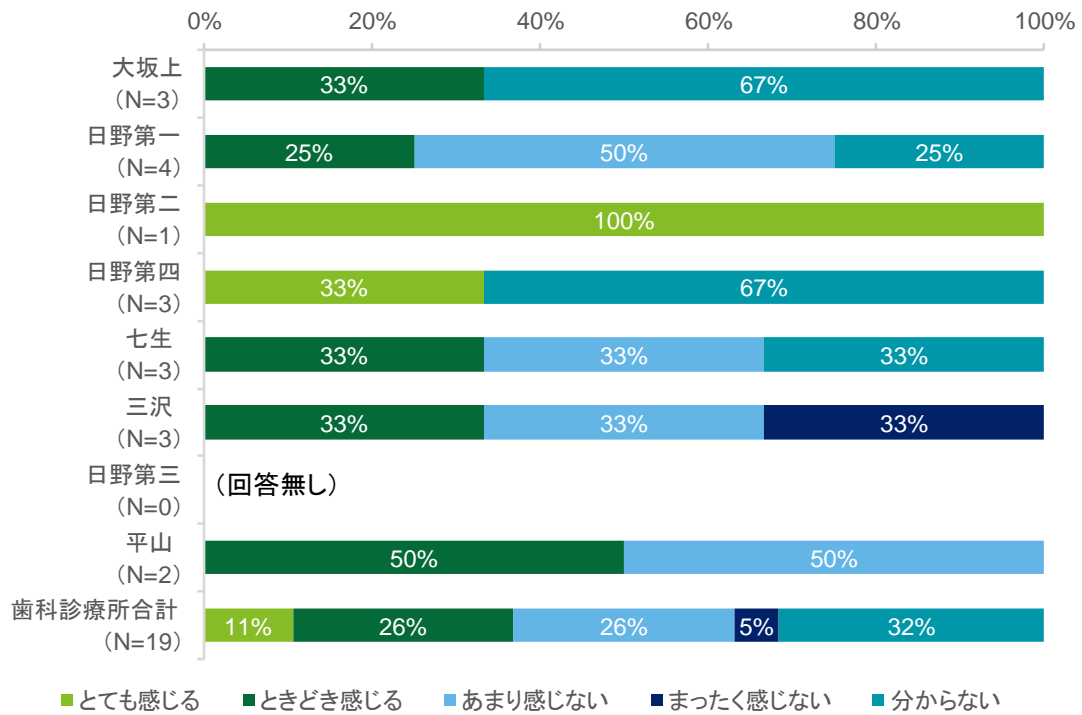




< 歯科診療所 >

- 診療所と同様に地域差がある一方で、一部地域では診療所と異なる傾向が見られる。日野第二については、診療所では「あまり感じない」との回答が多かったが、歯科診療所では「とても感じる」という回答のみであった。

図表 3-131 介護職との連携改善の認識（歯科診療所）



問9-2 在宅療養関係者（病院、診療所、地域包括支援センター、ケアマネ、介護職、訪問看護、薬局など）との連携について、困難に感じていること、貴院の取組みや改善に向けたご意見を教えてください。（自由記述）

<困難に感じていることについて>

- 診療所4施設、歯科診療所3施設から回答があった。具体的な内容は以下のとおりである。

<取組みや改善に向けた意見について>

- 診療所3施設、歯科診療所4施設から回答があった。具体的な内容は以下のとおりである。

図表 3-132 在宅療養関係者との連携において困難に感じていること

種別	所在地域	回答内容
診療所	日野第二	介護申請等、包括支援センター、ケアマネ等が先んじて行ってしまい、突然意見書が送られて来たり、患者家族が申請の目的を理解していないケースが多い。又、意見書のコピーを持っていて、担当医師が変わると「前の先生はこの様に書いていました」と、例として見せるケアマネ等も存在し、あつてはならないと思っています。
診療所	日野第二	忙しい
診療所	日野第四	担当者が変わると、これまでの情報共有ができなくなる。つまり、申し送りが困難。
診療所	三沢	以前は困ることがあったが現在は円滑です
歯科診療所	日野第一	意思疎通が困難であったり、開口がきびしい場合は処置も困難であるため、連携が難しい。また、移動の際の車が無い場合は範囲も限られるため、同様に連携は難しい。
歯科診療所	日野第二	まだまだ口腔ケアの大切さ、機能維持のための情報が伝わっていないと感じる。
歯科診療所	七生	歯科治療に関して、在宅で行なう治療に制限があることを介護関係者に理解されていない。出張診療（訪問専門）とは考え方・体制が違う。

図表 3-133 在宅療養関係者との連携における取組みや改善に向けた意見

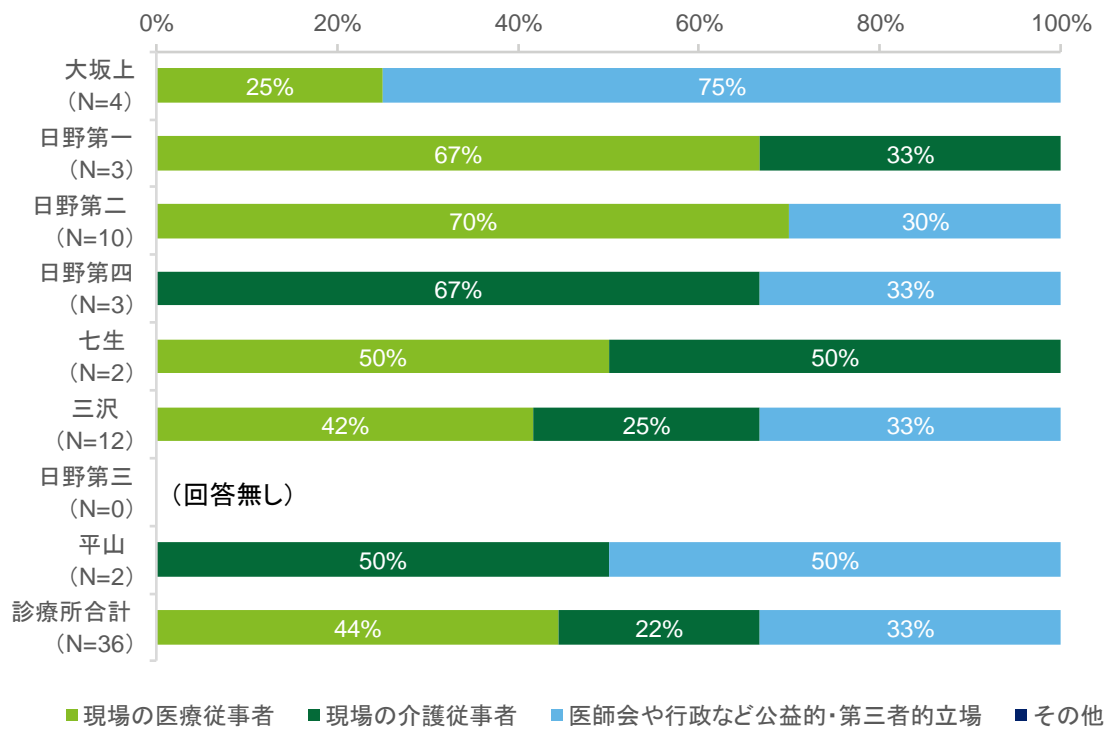
種別	所在地域	回答内容
診療所	日野第二	診療所内にケアマネがいるので、とても助かっている。
診療所	日野第二	上記の様な事（※）が起こった場合、当事者へ説明したり、市への報告をしたりの対応を取っています。 （※）前表の1番目の回答を指している。
診療所	日野第二	急性期病院からの逆紹介、地域連携が多くなり、外来が忙しくなっている。在宅に出る余裕がない。相談に応じるのがやっつである。
歯科診療所	日野第一	大学病院の口腔リハビリテーション科や往診車完備の施設との連携が必要と思われる。
歯科診療所	日野第二	ご高齢者が多いので、オーラルディアドコキネシス等利用し、口腔機能維持のための知識を与える努力をしている。また勉強会を（オーラルディアドコキネシスの数値の低い方に声かけをして）休診日に行い、じっくりお話している。
歯科診療所	日野第四	外来診療があるので、積極的に取組めないが、患者からの依頼には対応していく考えである。
歯科診療所	七生	在宅では、できる範囲内での診療をしている。それ以上の診療は搬送を考えてもらう。できるだけ診療所に来院して欲しい。

問9-3 今後、日野市内の在宅療養支援体制の充実にに向けた取組みを推進していくに当たり、どのような立場の関係者に全体のコーディネートを期待したいですか。(1つに○)

<診療所>

- 全体として、現場の医療従事者に全体のコーディネートを期待する回答が多く、次いで医師会や行政など公益的・第三者的立場に期待している回答が多かった。
- 一方、日野第四では、現場の介護従事者が担うことを期待する回答が多かった。

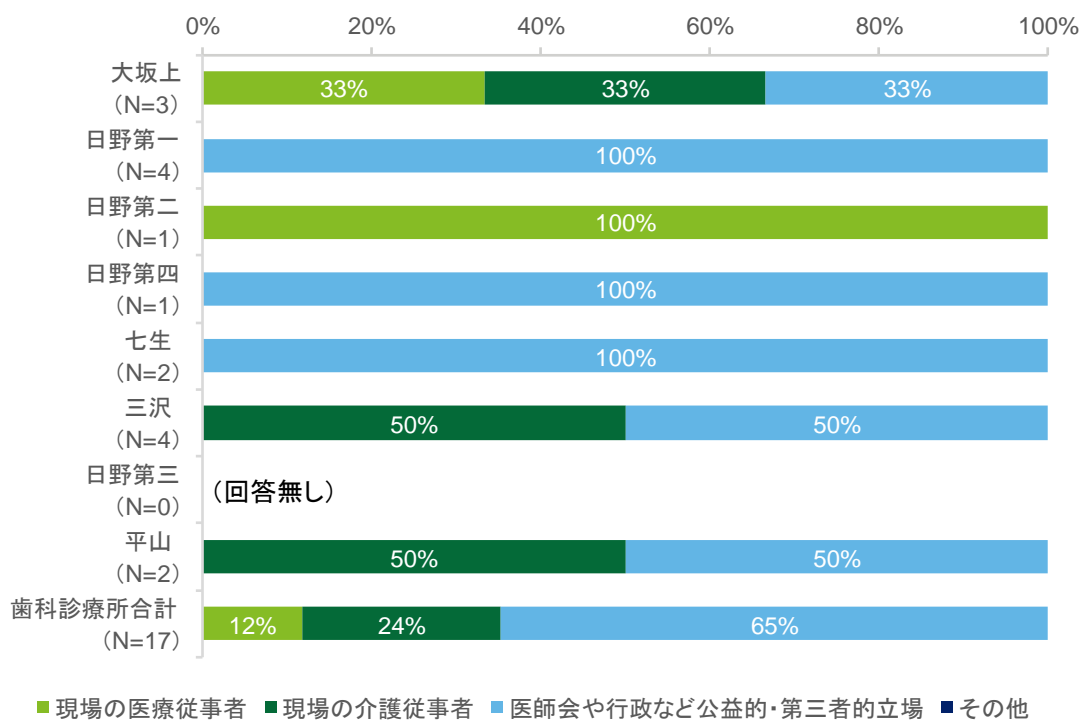
図表 3-134 在宅療養支援体制の充実にに向けた取組みのコーディネートを期待したい関係者（診療所）



< 歯科診療所 >

- 全体として、医師会や行政など公益的第三者的立場に全体のコーディネートを期待する回答が多く、次いで現場の介護従事者に期待している回答が多かった。
- 一方、日野第二では、現場の医療従事者が担うことを期待する回答のみであった。

図表 3-135 在宅療養支援体制の充実にに向けた取組みのコーディネートを期待したい関係者（歯科診療所）



問9-4 日野市方針「在宅療養の支援体制の充実」に対するご意見等がございましたら、お聞かせください。(自由記述)

- 診療所3施設、歯科診療所2施設から回答があった。具体的な内容は以下のとおりである。

図表 3-136 「在宅療養の支援体制の充実」に対する自由意見

種別	所在地域	回答内容
診療所	日野第二	介護認定審査会でも、座長は医師である事を考えれば、やはり中心は医師となり医師からの指示で動くべきではないでしょうか。介護従事者が先回りして動いている現在、主治医は意見書を書いてくれる人という印象が強いです。まず、患者さんが一番困っている病態を診ている医師が、その場合主治医であるという理解が必要で、その主治医の指示のもと動くのが本来の姿と思います。例えば高血圧で内科にかかっている、転んで圧迫骨折を患ってしまい動けなくなってしまったそんな時、一番困っていることは骨折による痛みであり、それを診ているのは新たにかかる整形外科の医師であり、その医師が在宅療養については主治医と思います。その骨折がおこっている事を知らされず、平素通院中の内科に意見書等が送られても何も意味をなさないと考えます。これらの理解は少なくとも必要です。
診療所	日野第三	医療従事者と介護従事者の相互の理解と協力と話し合いが大変困難に思えます。(患者に対して)
診療所	三沢	公平性や透明性を担保するために行政などに連携の拠点を設けて欲しいと考えています。
歯科診療所	日野第二	高齢者の患者さんは多いが、歯科医師会に未入会のため情報が入ってこないように思います。地域の医師、歯科医師、ケアマネ等もっと介助者に対し情報交換が必要です。数人のケアマネとお付き合いしましたが、情報交換を密にしてくれる方は3人だけでした。在宅生活の方は、基礎疾患をもっている方がほとんどでコーディネートするには医科の知識が必要と思います。
歯科診療所	七生	患者搬送のシステムを作り、できるだけ診療所での治療が可能となる様にして欲しい。在宅での訪問歯科治療は義歯関係が主となるべき。

## 4 医療機関アンケート調査（病院）

### 4.1 調査結果の概要

#### <回答者の属性について>

- 日野第二の2病院、日野第一の1病院、日野第四の1病院の合計4病院から回答が得られた。
- 開業年数については、5年未満が1病院、10～20年未満が2病院、30年以上が1病院となっている。
- 診療所における標榜診療科は、多い順に、内科、小児科、精神科となっている。
- 連携している施設について、1病院は特になし、その他の3病院は他施設と一定の連携を実施している。
- レセプト電算化、電子カルテの導入について、4病院全てが対応している。
- 遠隔診療の実施状況については、実施しているという回答は得られていない。
- ICTを活用した診療支援等のツールについては、1病院で訪問診療関係の支援ツールを活用している。

#### <診療体制について>

- 病院により差があるものの、曜日により診察時間や医師の体制が限定される場合が見られる。
- 訪問診療、往診に対応する病院は1施設となっている。
- 医師の年齢構成については、50代、40代、30代の順に多いが、概ね同程度となっている。
- 医療従事者は日野第二に集中しているが、介護職やリハ職は日野第一にも多く配置されている。
- 常勤医師の半数以上は市外から通勤している。
- 医師の過不足状況については、回答のあった3病院はいずれも現時点において不足しているとしているが、うち2病院については将来的に解消する見込みとしている。

#### <患者数等の状況について>

- 外来患者数は、1千人以下の病院、1万人以下の病院、2万人以上の病院となっており、病院間の差が大きくなっている。

- 外来患者に占める高齢者の割合については、3病院で7割以上だが、1病院でほとんどいないという回答となっている。
- 1年間の入院受入れ患者数は、5,000人以上の病院、500人以下の病院、250人以下の病院となっており、病院間の差が大きくなっている。
- 入院患者に占める高齢者の割合については、3病院でほとんど全てだが、1病院で半数となっている。
- 過去5年の患者数の動向については、3病院で増えているとの回答となっており、1病院でこれまでと変わらないとの回答となっている。

### <退院支援の取組み状況について>

- 他院からの紹介率については、3病院で80%、1病院で50~64%となっている。
- 他院への逆紹介率については、2病院で40~69%、2病院で39%以下となっている。
- 地域別の病診連携の傾向については、一部の地域については、当該地域の診療所とよく連携しているという回答となっている。
- 退院時カンファレンスの実施状況については、ほぼ全員に対して実施している病院から、ほとんど実施していない病院まで様々となっている。

### <在宅療養の取組み状況について>

- 5年前と比較した在宅療養のニーズ動向については、「どちらかというが増えていく」が3病院、「これまでと変わらない」が1病院となっている。
- 在宅療養への取組みについては、病院によって対応内容が様々となっている。
- 在宅療養を希望する患者が発生した場合の対応については、3病院が他院と連携して対応していると回答している。
- 在宅療養支援病院となっている病院は、1つのみとなっている。

### <訪問診療の取組み状況について>

- 訪問診療の実施状況については、1病院のみ実施している。
- 実施していない病院については、2病院がスタッフの確保が困難と回答している。



### <往診の取組み状況について>

- 往診の実施状況については、1病院のみ実施している。
- 実施していない病院については、2病院がスタッフの確保が困難と回答している。

### <看取りの実施状況について>

- 在宅看取りの実施状況については、1病院のみ実施している。
- 実施していない病院については、2病院がスタッフの確保が困難と回答している。

### <在宅療養への意見について>

- この数年での介護職との連携の取りやすさの変化については、2病院が「ときどき感じる」、1病院が「あまり感じない」、1病院が「わからない」としている。
- 在宅療養支援体制の充実にに向けた取組みを推進していくコーディネーターとして期待する者については、2病院が現場の医療関係者と回答しており、1病院が医師会や行政など公益的第三者的立場と回答している。

## 4.2 回答者の属性

問1-1 貴院の所在地域（中学校区）を教えてください。（1つに○）

- 日野第二で2病院、日野第一及び日野第四でそれぞれ1病院回答があった。

問1-2 貴院の所在地域（日常生活圏域）を教えてください。（1つに○）

- とよだ圏域で3病院、ひの圏域で1病院回答があった。

問1-3 貴院の病床数を教えてください。（それぞれ1つに○）

- 一般病床については、日野第一で「20～100床」との回答が1病院、日野第二で「100床以上」との回答が1病院であった。
- 療養病床については、日野第一、日野第二、日野第四で「20～100床」との回答がそれぞれ1病院ずつであった。
- 精神病床については、日野第四で「20～100床」との回答が1病院であった。

問1-4 現在地で開業している年数を教えてください（1つに○）

- 10～20年未満との回答が2病院あり、5年未満が1病院、30年以上が1病院ある。



問 1 - 6 併設施設はありますか。(該当するもの全てに○)

- 回答のあった病院については、日野第四の 1 病院は「デイケア」を併設しており、日野第一と日野第二のそれぞれ 1 病院は「併設施設はない」との回答であった。

問 1 - 7 連携している施設はありますか(併設施設を除く)。  
(該当するもの全てに○)

- 日野第一の 1 病院は特に連携していない。
- 日野第二の 1 病院は、同じ法人内で連携しており、もう 1 つの病院は訪問看護ステーション、調剤薬局、介護施設など複数の施設と連携している。
- 日野第四の 1 病院は、MRI 検査で連携している。

問 1 - 8 貴院のレセプト電算化の状況を教えてください。(1 つに○)

- 回答のあった 4 病院全てがレセプトの電算化を進めている。

問 1 - 9 貴院の電子カルテの導入状況を教えてください。(1 つに○)

- 回答のあった 4 病院全てが電子レセプトを導入している。

問 1 - 10 電子カルテを活用した情報連携の状況を教えてください。  
(1 つに○)

- 回答のあった 4 病院のいずれにおいても電子カルテの活用は、院内での活用にとどまっている。

問 1 - 11 貴院では遠隔診療を実施していますか。(1 つに○)

- 回答のあった 4 病院のいずれにおいても遠隔診療は実施していない。

問 1 - 1 2 貴院では ICT を活用した診療支援等のツールを利用していますか。(1つに○)

- 日野第二の 1 病院が ICT を活用した診療支援ツール（訪問診療時にノート PC で電子カルテをリモート操作）を活用している。

### 4.3 診療体制について

問 2 - 1 貴院の診療体制・時間を教えてください。  
(数字を記入/それぞれ1つに○)

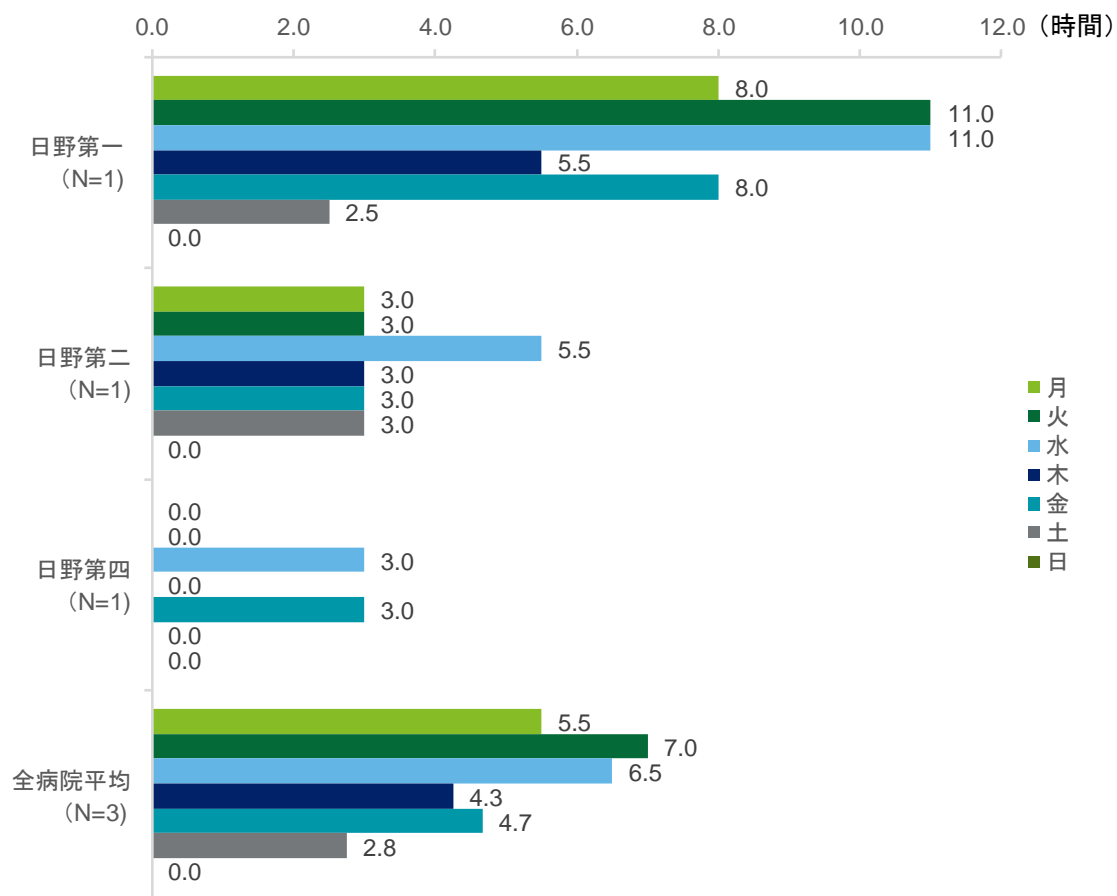
#### <外来の診療体制について>

- 日野第一の1病院は平日の全ての曜日及び土曜日に外来を実施しており、木曜日と土曜日が1人体制になるがそれ以外の曜日は2人体制で実施している。
- 日野第二の1病院は平日の全ての曜日及び土曜日に外来を実施しており、金曜日が1人体制になるがそれ以外の曜日は2人体制で実施している。
- 日野第四の1病院は水曜日と金曜日のみ外来を実施している。

#### <外来の診療時間について>

- 日野第一の1病院については、月曜日から水曜日まで及び金曜日については診療時間が長くなっているが、回答が医師2人分の延べ診療時間となっている可能性がある。実際の診察時間が回答の半数だと仮定すると、平日については4時間または5.5時間、土曜日については2.5時間の診察時間である。
- 日野第二の1病院については、水曜日のみ外来の診療時間が5.5時間となっているほかは、3時間の診察時間である。
- 日野第四の1病院については、診察を行う曜日については3時間の診察時間である。

図表 4-2 曜日別平均診療時間



※病院からの回答が得られなかった地域に関しては記載を省略している。

<訪問診療>

- 日野第二の1病院が平日に概ね2名体制（月曜日は3名、金曜日は1名）で実施している。
- 対応時間は月曜日が12時間と長く、金曜日が5時間と短くなっている他は10時間前後である。

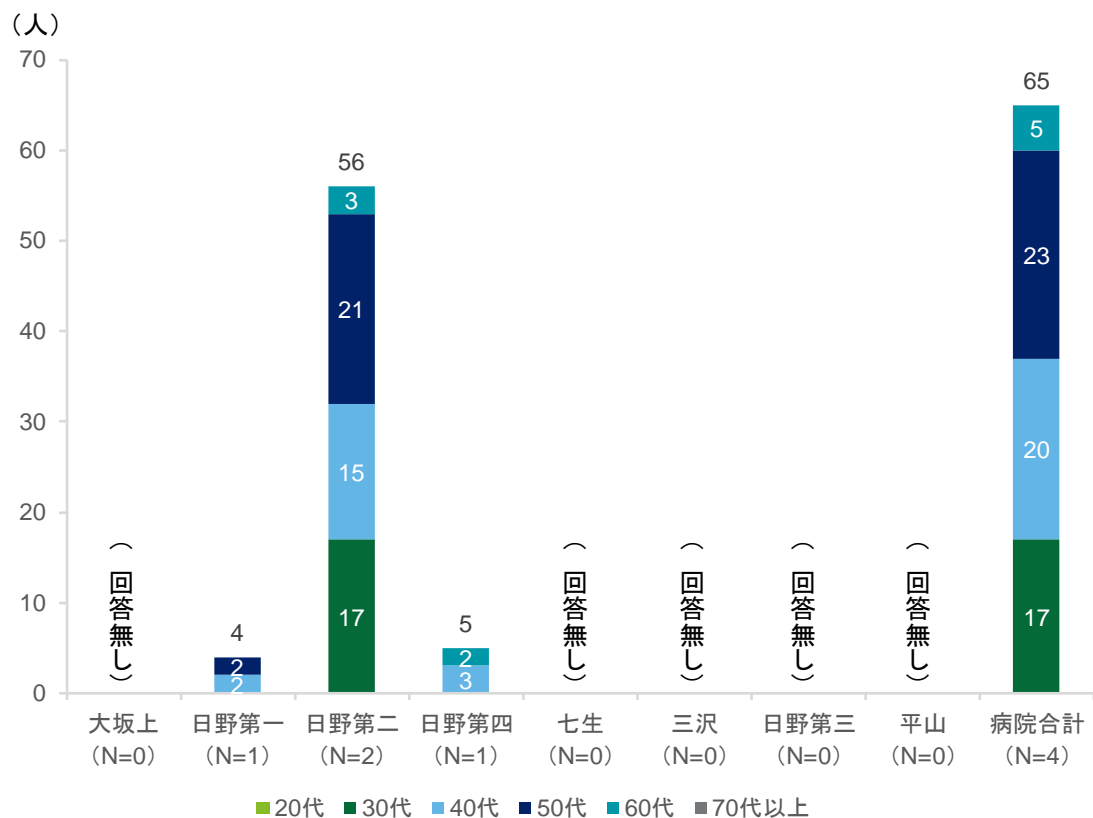
<往診>

- 日野第二の1病院が平日及び土曜日に1名体制で実施している。
- 24時間対応ではなく、一部対応となっている。

問 2 - 2 貴院の医師（歯科医師）の人数を年代別に教えてください。  
 （数字を記入）

- 回答のあった病院で比較すると、日野第二の病院は常勤医師が多く勤務している。
- 常勤では、日野第二は約 3 割が 30 代の医師だが、日野第一や日野第四は 40 代～60 代の医師のみとなっている。
- 非常勤についても、20 代及び 30 代は日野第二に多く勤務している（常勤換算 22.9 人）が、日野第一に 20 代（常勤換算 0.6 人）、日野第四に 20 代及び 30 代（常勤換算 2.3 人）の医師が勤務している。
- 40 代以降の非常勤については、日野第二（常勤換算で 8.6 人）が多い傾向は一致しているが、日野第一（常勤換算 2.4 人）、日野第四（常勤換算 0.5 人）との差は小さくなっている。

図表 4-3 中学校区別・年代別医師数（常勤）

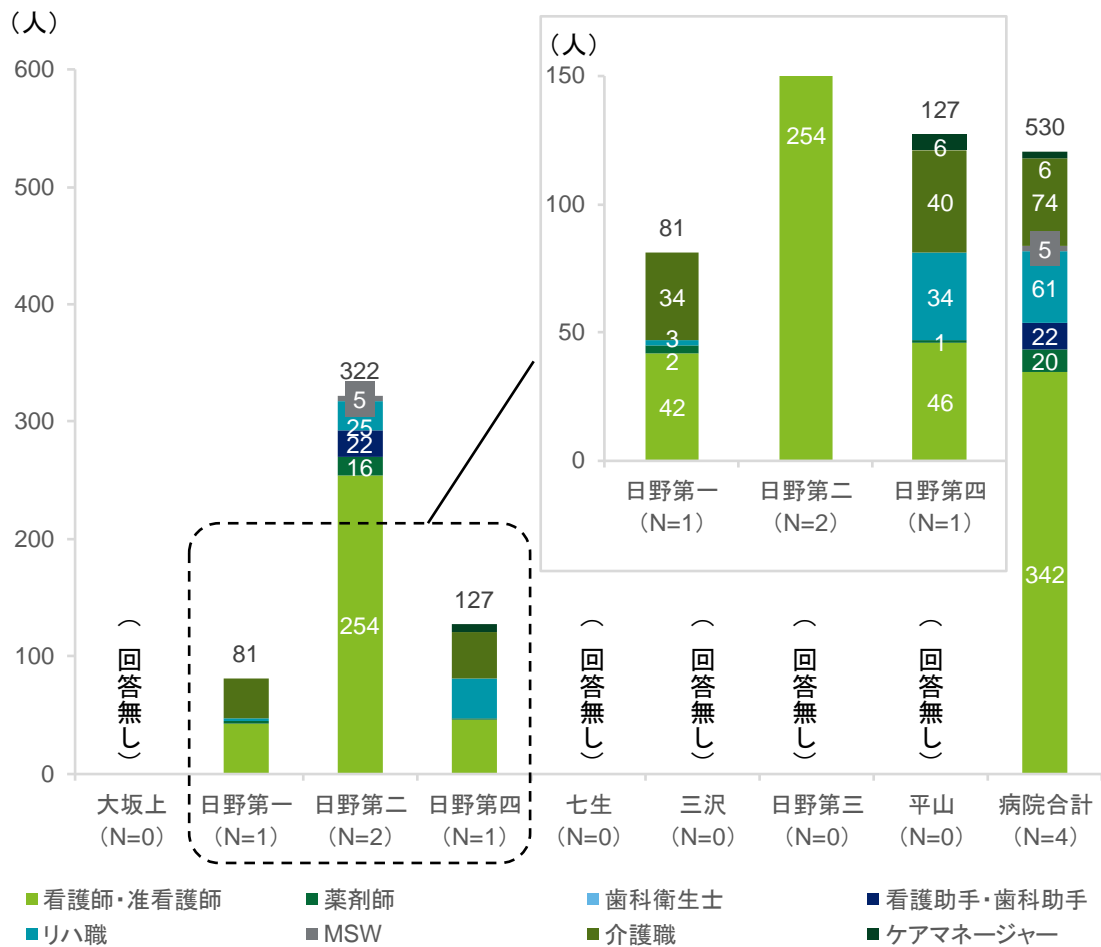




問 2 - 3 貴院の医療従事者の人数を職種別に教えてください。  
(数字を記入)

- 日野第二の2病院に医療従事者が集中しているが、介護職やリハ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）は日野第四の1病院にも多く配置されている。

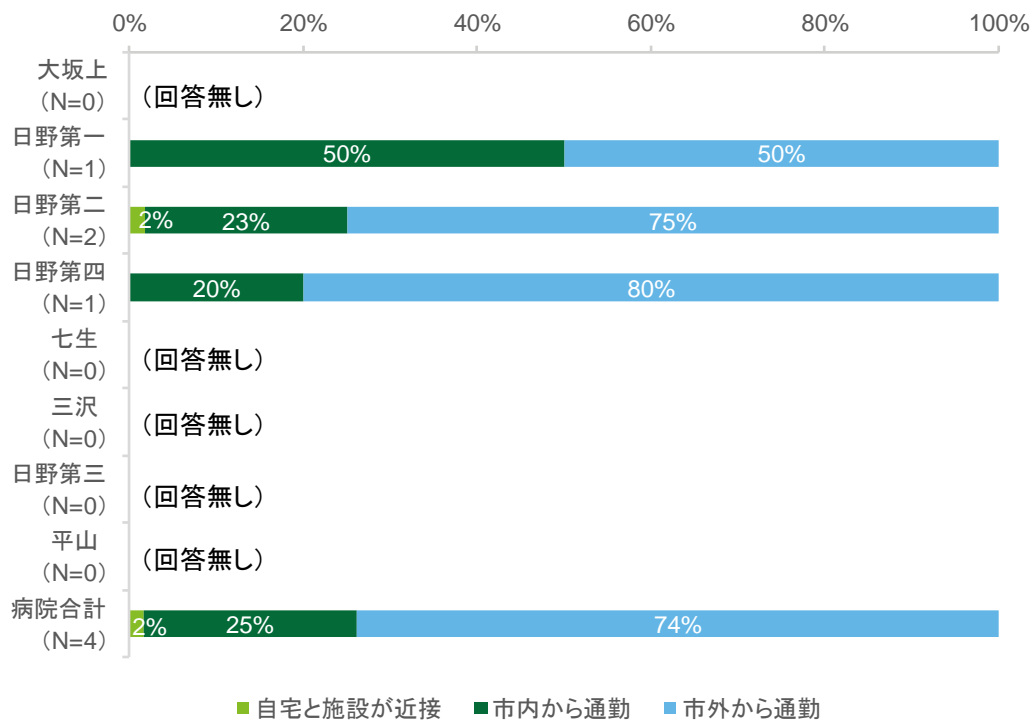
図表 4-4 常勤医療従事者数



問 2-4 常勤医師（歯科医師）の居住地について教えてください。  
（数字を記入）

- いずれの病院においても、常勤の職員の半数以上は市外から通勤している。
- 市全体で見ると、自宅と施設が近接しているのは 2%、市内からの通勤者が 25%、市外からの通勤者が 74%である。

図表 4-5 常勤医師の居住地



問 2 - 5 貴院の医師（歯科医師）や医療従事者の人数について、現在及び将来の過不足状況を職種別に教えてください。  
(それぞれ1つに○)

<医師数>

- 日野第四の1病院は、現在の医師数は充足していても将来的には不足すると見込んでいる。
- 日野第一及び日野第二のそれぞれ1病院は、現在は不足していても、将来的には解消すると見込んでいる。

<看護師数>

- 日野第四の1病院は、現在の看護師数は充足しており、将来的にも不足しないと見込んでいる。
- 日野第一の1病院は、現在不足していても、将来的には解消すると見込んでいる。
- 日野第二の1病院は、現在不足していても、将来的にも解消しないと見込んでいる。

<薬剤師数>

- 日野第一の1病院は、現在の薬剤師数は充足しており、将来的にも不足しないと見込んでいる。
- 日野第四の1病院は、現在充足していても、将来的には不足すると見込んでいる。
- 日野第二の1病院は、現在不足していても、将来的にも解消しないと見込んでいる。

<看護助手数>

- 日野第四の1病院は、現在充足していても、将来的には不足すると見込んでいる。
- 日野第二の1病院は、現在不足していても、将来的にも解消しないと見込んでいる。

<リハ職数>

- 日野第一の1病院は、現在のリハ職数は充足しており、将来的にも不足しないと見込んでいる。
- 日野第四及び日野第二のそれぞれ1病院は、現在不足していても、将来的には解消すると見込んでいる。

<医療ソーシャルワーカー数>

- 日野第四の1病院は、現在の医療ソーシャルワーカー数は充足しており、将来的にも不足しないと見込んでいる。
- 日野第二の1病院は、現在不足していて、将来的にも解消しないと見込んでいる。

<介護職数>

- 日野第二及び日野第四のそれぞれ1病院は、現在の介護職数は充足しているが、将来的には不足すると見込んでいる、。
- 日野第二の1病院は、現在不足していて、将来的にも解消しないと見込んでいる。

<ケアマネジャー数>

- 日野第四の1病院は、現在のケアマネジャー数は充足しており、将来的にも不足しないと見込んでいる。
- 日野第二の1病院は、必要ないため配置していないとしている。

#### 4.4 患者数等の状況について

問3-1 貴院の直近1年間の外来患者の総数を教えてください。  
(概算で可・数字を記入)

- 外来患者数は、日野第一及び日野第二のそれぞれ1病院が、1万人以下であるのに対し、日野第四の病院は1千人以下、日野第二の病院は2万人以上と回答しており、病院間で差が生じている。

問3-2 貴院の外来患者に占める高齢者の割合を教えてください。  
(概算で可・1つに○)

- 日野第一の1病院は「ほとんどいない」、日野第二の2病院は「7~8割」、日野第四の1病院は、「ほとんどすべて」といった回答であった。

問3-3 貴院の直近1年間の入院受入れ患者の総数を教えてください。  
(概算で可・数字を記入)

- 入院患者数は、日野第一及び日野第四のそれぞれ1病院が、250人以下であるのに対し、日野第二の1病院は500人以下、日野第二の1病院は5千人以上と回答しており、病院間で差が生じている。

問3-4 貴院の入院患者に占める高齢者の割合を教えてください。  
(1つに○)

- 日野第二の1病院は「半数」、日野第一、日野第二及び日野第四のそれぞれ1病院は、「ほとんどすべて」といった回答であった。

問3-5 貴院での5年前と比較した患者数の動向（実績）を教えてください。（1つに○）

- 日野第一の1病院は「これまでと変わらない」との回答であったが、他の日野第二の2病院及び日野第四の1病院は、「増えている」との回答であった。

問3-6 貴院での5年後の患者数の動向（見込み）を教えてください。（1つに○）

- 日野第一及び日野第四のそれぞれ1病院は「これまでと変わらないと思う」との回答であったが、日野第二の1病院は、「増えると思う」との回答であった。

## 4.5 退院支援の取組み状況について

問4-1 貴院の他院からの紹介率を教えてください。(1つに○)

- 日野第二の1病院の紹介率は「50～64%」であったが、その他3病院は「80%」と高い紹介率であった。

問4-2 貴院の他院への逆紹介率を教えてください。(1つに○)

- 日野第一及び日野第二のそれぞれ1病院の逆紹介率は「39%以下」であり、日野第二及び日野第四のそれぞれ1病院は「40～69%」であった。

問4-3 貴院の地域別の病診連携の傾向について教えてください。  
(地域ごとに1つに○)

<大坂上・七生・日野第三・平山>

- 回答のあった日野第二の2病院及び日野第四の1病院の中で、よく連携している又はあまり連携していないと回答した病院は無く、全ての病院が「どちらでもない」と回答した。

<日野第一・日野第二>

- 日野第二の2病院は「当該地域の診療所とよく連携している」との回答であったのに対し、日野第四の1病院は「どちらでもない」との回答であった。

<日野第四>

- 日野第二の1病院は「当該地域の診療所とよく連携している」との回答であったのに対し、日野第二及び日野第四のそれぞれ1病院は「どちらでもない」との回答であった。

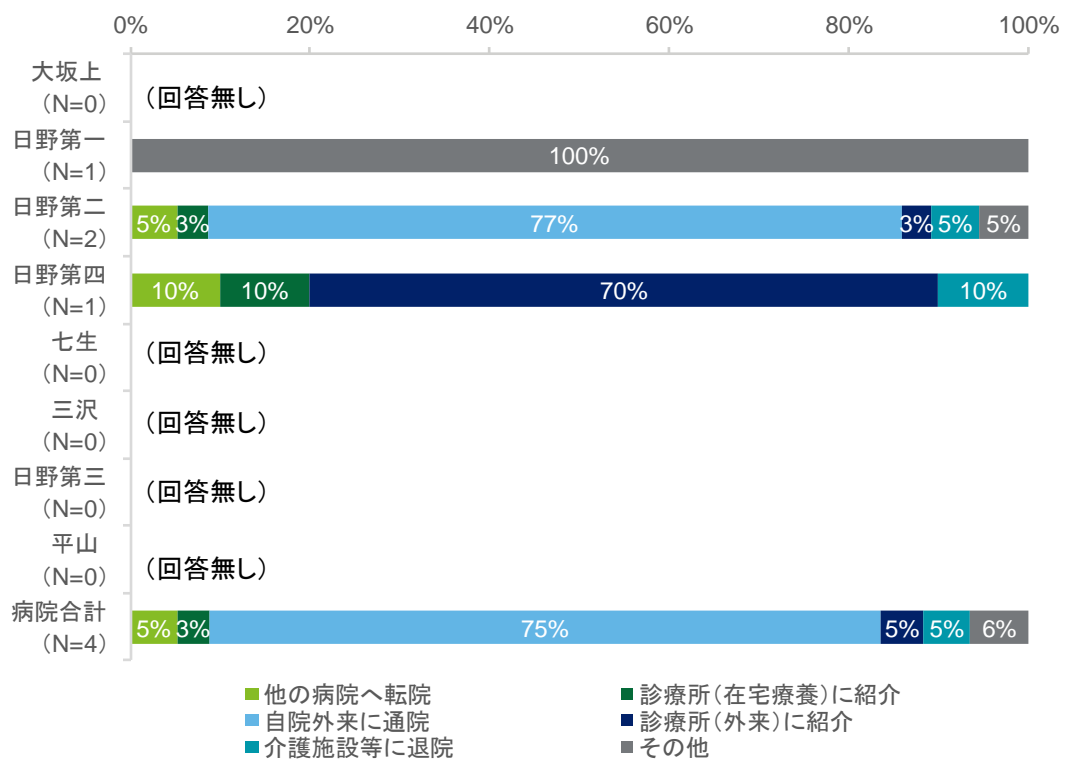
<三沢>

- 日野第二の1病院は「当該地域の診療所とよく連携している」との回答であったのに対し、日野第二の1病院は「どちらでもない」、日野第四の1病院は「当該地域の診療所とはあまり連携していない」との回答であった。

問4-4 直近1年間の退院患者の総数、退院先の構成を教えてください。  
(概算で可・数字を記入)

- 日野第一の1病院は退院患者数が100人以下であり、日野第二及び日野第四のそれぞれ1病院が500以下であり、日野第二の1病院は5千人を超えており、病院間にも差がある。
- 日野第二では自院外来への逆紹介が多く、日野第四では診療所の外来に逆紹介している割合が高い。

図表 4-6 直近1年間の退院患者の退院先



問4-5 貴院で退院時カンファレンスを実施した患者割合を教えてください。(1つに○)

- 日野第一の1病院はほとんど実施していないという状況で、日野第二の1病院が2~3割に実施しており、日野第二の1病院が7~8割実施しており、日野第四の1病院はほぼ全員に対して実施している。



問4-6 貴院で退院時カンファレンスに参加するスタッフの範囲を教えてください。(職種ごとに1つに○)

<主治医>

- 「必ず参加」と回答した病院が2病院、「患者の状態によって参加」と回答した病院が2病院であった。

<担当看護師>

- 「必ず参加」と回答した病院が2病院、「患者の状態によって参加」と回答した病院が1病院であった。

<薬剤師>

- 「患者の状態によって参加」と回答した病院が3病院、「参加を求めている」と回答した病院が1病院であった。

<医療ソーシャルワーカー>

- 「必ず参加」と回答した病院が1病院、「概ね参加」と回答した病院が1病院であった。

<リハ職>

- 「必ず参加」と回答した病院が1病院、「概ね参加」と回答した病院が1病院、「患者の状態によって参加」と回答した病院が2病院であった。

<ケアマネジャー>

- 「概ね参加」と回答した病院が2病院、「患者の状態によって参加」と回答した病院が2病院であった。

<受け入れ側の医師>

- 「患者の状態によって参加」と回答した病院が1病院、「参加を求めている」と回答した病院が2病院であった。

<受け入れ側の看護師>

- 「患者の状態によって参加」と回答した病院が2病院、「参加を求めている」と回答した病院が1病院であった。

<CWなどの福祉職員>

- 3病院が「患者の状態によって参加」と回答した。

問 4－7 貴院の退院支援担当者の配置人数を教えてください。  
(数字を記入)

- 日野第一の1病院及び、日野第二の1病院は担当者が3人前後となっており、日野第四の1病院が5人程度であり、日野第二が7人程度となっている。

問 4－8 貴院での退院支援担当者の人数の過不足感を教えてください。  
(1つに○)

- 日野第一の1病院は「どちらかと言えば充足している」という回答であったが、他の3病院は「どちらかと言えば不足している」と回答されていた。

## 4.6 在宅療養の取組み状況

問5-1 5年前と比較して在宅療養のニーズをどのようにとらえていますか。(1つに○)

- 日野第二及び日野第四では、3病院とも「どちらかというとも増えている」の回答であり、日野第一の1病院は「これまでと変わらない」との回答であった。

問5-2 貴院の在宅療養への取組みについて教えてください。(それぞれ1つに○)

- 日野第二の2病院が在宅療養は「推進すべき」と回答している一方、日野第四の1病院は「分からない」との回答であった。
- 日野第二では、1病院は在宅療養と急変時の受け入れの両方を行っており、他の1病院は急変時の受け入れのみを行っている。
- 日野第四の1病院では、在宅療養のみを行っている。

問5-3 在宅療養を希望する患者が発生した場合、どのように対応していますか。(1つに○)

- 基本的には他院と連携している例が多いものの、日野第二の1病院は自院で対応しているとの回答であった。

問5-4 在宅療養支援病院の届出状況を教えてください。(1つに○)

- 在宅療養支援病院となっているのは、日野第二の1病院であり、他の病院は届け出ていない。

問5-5 在宅療養支援病院を届け出していない理由を教えてください。  
(3つまで○)

- 日野第一の1病院は、「24時間連絡を受ける体制が常時確保できるとは限らない」「24時間往診可能な体制が常時確保できるとは限らない」「24時間訪問看護可能な体制が常時確保できるとは限らない」と回答していた。
- 日野第二の1病院と日野第四の1病院は、「24時間往診可能な体制が常時確保できるとは限らない」と回答していた。

問5-6 居宅療養管理指導を算定されていますか(1つに○)

- 居宅療養管理指導を日野第二の1病院が概ね算定している以外は、算定したことがないとしている。

## 4.7 訪問診療の取組み状況

問6-1 貴院では訪問診療を実施していますか。(1つに○)

- 訪問診療を実施しているのは、日野第二の1病院のみである

問6-2 訪問時のスタッフの体制を教えてください。(1つに○)

- 日野第二の1病院の訪問時の体制は、医師+看護師の体制で実施している。

問6-3 貴院の訪問診療の受持ち患者数、施設数を教えてください。  
(数字を記入)

- 現在、訪問診療を実施している日野第二の1病院は、月当たり142人の受け持ちとなっており、診療所と比較しても多い水準となっている。
- また、施設等への訪問でも月当たり4施設70人を診察している。

問6-4 今後需要があれば、貴院の訪問診療を拡大することは可能ですか。  
(1つに○)

- 訪問診療を実施している日野第二の1病院は、余力がないため拡大できない意向を示している。

問6-5 貴院の患者1人当たりの平均的な訪問回数を教えてください。  
(数字を記入)

- 日野第二の1病院では、平均訪問回数は月当たり2回である。

問6－6 貴院で訪問診療が提供可能な範囲を教えてください。  
(1つに○・数字を記入)

- 日野第二の1病院は、半径15kmまで訪問診療を実施できるとしている。

問6－7 訪問診療の実施上の困難・不安、または訪問診療を実施していない  
理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 日野第二の1病院、日野第四の1病院が「スタッフの確保が困難」との回答であった。
- また、その他の回答として、「病院運営にあたり具体的な話が出ていない」との回答があった。

## 4.8 往診の取組み状況

問 7 - 1 貴院では往診を実施していますか。(1つに○)

- 往診を実施しているのは、日野第二の1病院のみである。

問 7 - 2 貴院の往診患者数を教えてください。(数字を記入)

- 日野第二の1病院の往診患者数は、月当たり27人との回答であった。

問 7 - 3 貴院では診療時間外に患者からの急な呼び出しに対応していますか。(1つに○)

- 日野第二の1病院は、他院と連携し当番制で365日体制をとっている。

問 7 - 4 往診の実施上の困難・不安、または往診を実施していない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 日野第二の1病院、日野第四の1病院が「スタッフの確保が困難」との回答であった。
- また、その他の回答として、「病院運営にあたり具体的な話が出ていない」との回答があった。

## 4.9 看取りの取組み状況

問 8 - 1 貴院では在宅看取りを実施していますか。(1つに○)

- 日野第二の1病院のみが在宅での看取りを対応している。

問 8 - 2 貴院での直近1年間の在宅看取り件数を教えてください。  
(数字を記入)

- 日野第二の1病院では、在宅の看取りを年間44件実施している。

問 8 - 3 5年前と比較した在宅看取り希望の傾向を教えてください。  
(1つに○)

- 日野第二の1病院は在宅看取りの希望は「増えている」と回答している。

問 8 - 4 貴院での在宅看取りに関する対応方針を教えてください。  
(1つに○)

- 日野第二の1病院は「本人や家族の不安を踏まえた説明やサポートを行う等、積極的に推奨している」と回答している。

問 8 - 5 在宅看取りの実施上の困難・不安、または在宅看取りを実施していない理由を教えてください。(該当するもの全てに○)

- 「スタッフの確保が困難」と日野第四の1病院と日野第二の1病院が回答している。
- 「訪問診療や往診を実施していないため在宅看取りにも対応していない」と日野第一の1病院と日野第二の1病院が回答している。
- また、日野第二の1病院は「患者宅への移動が困難」とも回答している。



## 4.10 在宅療養への意見

問9-1 この数年で、介護職との連携が取りやすくなったと感じますか。  
(1つに○)

- 日野第二の2病院については、「ときどき感じる」と回答している。
- 日野第四の1病院については、「あまり感じない」と回答している。
- 日野第一の1病院については、「分からない」と回答している。

問9-2 在宅療養関係者（病院、診療所、地域包括支援センター、ケアマネ、介護職、訪問看護、薬局など）との連携について、困難に感じていること、貴院の取り組みや改善に向けたご意見を教えてください。

<困難に感じていることについて>

- 1施設から回答があった。具体的な内容は以下のとおりである。

<取り組みや改善に向けた意見について>

- 1施設から回答があった。具体的な内容は以下のとおりである。

図表 4-7 在宅療養関係者との連携において困難に感じていること

所在地域	回答内容
日野第二	個人情報（特に診療情報）の共有

図表 4-8 在宅療養関係者との連携における取り組みや改善に向けた意見

所在地域	回答内容
日野第二	退院前カンファレンスを必要時に開催するようにしている。会議や研修会に積極的に参加し、顔の見える連携を心がけている

問 9 - 3 今後、日野市内の在宅療養支援体制の充実に向けた取組みを推進していくに当たり、どのような立場の関係者に全体のコーディネートを期待したいですか。(1つに○)

- 日野第二の1病院と日野第四の1病院は「現場の医療従事者」に期待しているとの回答であった。
- もう一つの日野第二の1病院については、「医師会・行政などの第三者的立場」に期待したいとの回答であった。

問 9 - 4 日野市方針「在宅療養の支援体制の充実」に対するご意見等がございましたらお聞かせください。(自由記述)

- 本設問においては、回答は得られなかった。